

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | PCグラフィック応用実習 | | | | | | |
| 担当教員 | 西川 良子 | | | | | 科目ナンバ- | F71190 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 水曜4~5 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | PCソフトを使用したビジュアル・コミュニケーション・デザイン | | | | | | |
| 授業の概要 | PCグラフィック基礎実習に続き、Illustrator、Photoshopの機能・操作法と共に、ビジュアル・コミュニケーション・デザインの基礎的な知識と技術を学ぶ。実際の用途、伝達対象、使用環境などを想定した大判ポスター、リーフレットなどのデザインを通じて、人に視覚情報を効果的に伝えるための基本的技能を養成します。見た目に簡潔で意図がわかりやすく、かつバランスのとれたビジュアル媒体をデザインできることを目標とします。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・タイポグラフィ、レイアウトデザインの要点を理解している。【知識・理解】 ・多様なメディアに応じたコンテンツを制作できる。【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション - 基礎実習の振り返り 2. ショップツール①Illustratorでシンボルマークを作る【VI制作】 3. ショップツール②写真加工・タイポグラフィ【ポスター制作】 4. ショップツール③タイポグラフィ【ポスター制作】 5. ショップツール④写真キリヌキ・書式【リーフレット/メニュー制作】 6. ショップツール⑤書式【リーフレット/メニュー制作】 7. ショップツール⑥レイアウト仕上げ【リーフレット/メニュー制作】 8. 学外コンペティション①コンセプト設定・先行作品調査【学外公募作品応募】 9. 学外コンペティション②ラフ制作【学外公募作品応募】 10. 学外コンペティション③仕上げ・応募【学外公募作品応募】 11. 学内コンペティション①ラフ制作【学内公募作品応募】 12. 学内コンペティション②仕上げ【学内公募作品応募】 13. これまでの作品でWebページ作成①作品整理・Webページ作成【ポートフォリオ制作】 14. これまでの作品でWebページ作成②仕上げ【ポートフォリオ制作】 15. 発表・提出・評価 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 日常的に目にするビジュアルデザインに関心を持つ。 | | | | | | |
| 授業方法 | 実習 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 平常点（40％）は各回の課題提出状況、スキルの理解度、最終課題の完成度（60％）を併せて評価します。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 制作プロセスは各段階での操作や技法の理解を段階的に踏まえる必要があるため、常に出席を心がけ、欠席した場合は次回までに必ず授業内容を自習すること。 教科書を必ず購入し、毎回の授業に持参すること。 USBメモリを購入し、制作課題を保存すること。 | | | | | | |
| 教科書 | 「Illustrator & Photoshop 操作とデザインの教科書」ピクセルハウス著/技術評論社 ISBN978-4-297-11890-7 | | | | | | |
| 参考書 | 授業中に紹介します。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | PCグラフィック応用実習 | | | | | | |
| 担当教員 | 西川 良子 | | | | | 科目ナンバ- | F71190 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 金曜4~5 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | PCソフトを使用したビジュアル・コミュニケーション・デザイン | | | | | | |
| 授業の概要 | PCグラフィック基礎実習に続き、Illustrator、Photoshopの機能・操作法と共に、ビジュアル・コミュニケーション・デザインの基礎的な知識と技術を学ぶ。実際の用途、伝達対象、使用環境などを想定した大判ポスター、リーフレットなどのデザインを通じて、人に視覚情報を効果的に伝えるための基本的技能を養成します。見た目に簡潔で意図がわかりやすく、かつバランスのとれたビジュアル媒体をデザインできることを目標とします。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・タイポグラフィ、レイアウトデザインの要点を理解している。【知識・理解】 ・多様なメディアに応じたコンテンツを制作できる。【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション -基礎実習の振り返り- 2. ショップツール①Illustratorでシンボルマークを作る【VI制作】 3. ショップツール②写真加工・タイポグラフィ【ポスター制作】 4. ショップツール③タイポグラフィ【ポスター制作】 5. ショップツール④写真キリヌキ・書式【リーフレット/メニュー制作】 6. ショップツール⑤書式【リーフレット/メニュー制作】 7. ショップツール⑥レイアウト仕上げ【リーフレット/メニュー制作】 8. 学外コンペティション①コンセプト設定・先行作品調査【学外公募作品応募】 9. 学外コンペティション②ラフ制作【学外公募作品応募】 10. 学外コンペティション③仕上げ・応募【学外公募作品応募】 11. 学内コンペティション①ラフ制作【学内公募作品応募】 12. 学内コンペティション②仕上げ【学内公募作品応募】 13. これまでの作品でWebページ作成①作品整理・Webページ作成【ポートフォリオ制作】 14. これまでの作品でWebページ作成②仕上げ【ポートフォリオ制作】 15. 発表・提出・評価 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 日常的に目にするビジュアルデザインに関心を持つ。 | | | | | | |
| 授業方法 | 実習 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 平常点（40％）は各回の課題提出状況、スキルの理解度、最終課題の完成度（60％）を併せて評価します。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 制作プロセスは各段階での操作や技法の理解を段階的に踏まえる必要があるため、常に出席を心がけ、欠席した場合は次回までに必ず授業内容を自習すること。 教科書を必ず購入し、毎回の授業に持参すること。 USBメモリを購入し、制作課題を保存すること。 | | | | | | |
| 教科書 | 「Illustrator & Photoshop 操作とデザインの教科書」ピクセルハウス著/技術評論社 ISBN978-4-297-11890-7 | | | | | | |
| 参考書 | 授業中に紹介します。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | PCグラフィック応用実習 | | | | | | |
| 担当教員 | 山本 浩司 | | | | | 科目ナンバー | F71190 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 月曜1~2 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | PCソフトを使用したビジュアル・コミュニケーション・デザイン | | | | | | |
| 授業の概要 | PCグラフィック基礎実習に続き、Illustrator、Photoshopの機能・操作法と共に、ビジュアル・コミュニケーション・デザインの基礎的な知識と技術を学ぶ。実際の用途、伝達対象、使用環境などを想定した大判ポスター、リーフレットなどのデザインを通じて、人に視覚情報を効果的に伝えるための基本的技能を養成します。見た目に簡潔で意図がわかりやすく、かつバランスのとれたビジュアル媒体をデザインできることを目標とします。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・タイポグラフィ、レイアウトデザインの要点を理解している。【知識・理解】 ・多様なメディアに応じたコンテンツを制作できる。【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション - 基礎実習の振り返り 2. ショップツール①Illustratorでシンボルマークを作る【VI制作】 3. ショップツール②写真加工・タイポグラフィ【ポスター制作】 4. ショップツール③タイポグラフィ【ポスター制作】 5. ショップツール④写真キリヌキ・書式【リーフレット/メニュー制作】 6. ショップツール⑤書式【リーフレット/メニュー制作】 7. ショップツール⑥レイアウト仕上げ【リーフレット/メニュー制作】 8. 学外コンペティション①コンセプト設定・先行作品調査【学外公募作品応募】 9. 学外コンペティション②ラフ制作【学外公募作品応募】 10. 学外コンペティション③仕上げ・応募【学外公募作品応募】 11. 学内コンペティション①ラフ制作【学内公募作品応募】 12. 学内コンペティション②仕上げ【学内公募作品応募】 13. これまでの作品でWebページ作成①作品整理・Webページ作成【ポートフォリオ制作】 14. これまでの作品でWebページ作成②仕上げ【ポートフォリオ制作】 15. 発表・提出・評価 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 日常的に目にするビジュアルデザインに関心を持つ。 | | | | | | |
| 授業方法 | 実習 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 平常点（40%）は各回の課題提出状況、スキルの理解度、最終課題の完成度（60%）を併せて評価します。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 制作プロセスは各段階での操作や技法の理解を段階的に踏まえる必要があるため、常に出席を心がけ、欠席した場合は次回までに必ず授業内容を自習すること。 教科書を必ず購入し、毎回の授業に持参すること。 USBメモリを購入し、制作課題を保存すること。 | | | | | | |
| 教科書 | 「Illustrator & Photoshop 操作とデザインの教科書」ピクセルハウス著/技術評論社 ISBN978-4-297-11890-7 | | | | | | |
| 参考書 | 授業中に紹介します。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | PCグラフィック応用実習 | | | | | | |
| 担当教員 | 山本 浩司 | | | | | 科目ナンバ- | F71190 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 月曜4~5 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | PCソフトを使用したビジュアル・コミュニケーション・デザイン | | | | | | |
| 授業の概要 | PCグラフィック基礎実習に続き、Illustrator、Photoshopの機能・操作法と共に、ビジュアル・コミュニケーション・デザインの基礎的な知識と技術を学ぶ。実際の用途、伝達対象、使用環境などを想定した大判ポスター、リーフレットなどのデザインを通じて、人に視覚情報を効果的に伝えるための基本的技能を養成します。見た目に簡潔で意図がわかりやすく、かつバランスのとれたビジュアル媒体をデザインできることを目標とします。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・タイポグラフィ、レイアウトデザインの要点を理解している。【知識・理解】 ・多様なメディアに応じたコンテンツを制作できる。【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション - 基礎実習の振り返り 2. ショップツール①Illustratorでシンボルマークを作る【VI制作】 3. ショップツール②写真加工・タイポグラフィ【ポスター制作】 4. ショップツール③タイポグラフィ【ポスター制作】 5. ショップツール④写真キリヌキ・書式【リーフレット/メニュー制作】 6. ショップツール⑤書式【リーフレット/メニュー制作】 7. ショップツール⑥レイアウト仕上げ【リーフレット/メニュー制作】 8. 学外コンペティション①コンセプト設定・先行作品調査【学外公募作品応募】 9. 学外コンペティション②ラフ制作【学外公募作品応募】 10. 学外コンペティション③仕上げ・応募【学外公募作品応募】 11. 学内コンペティション①ラフ制作【学内公募作品応募】 12. 学内コンペティション②仕上げ【学内公募作品応募】 13. これまでの作品でWebページ作成①作品整理・Webページ作成【ポートフォリオ制作】 14. これまでの作品でWebページ作成②仕上げ【ポートフォリオ制作】 15. 発表・提出・評価 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 日常的に目にするビジュアルデザインに関心を持つ。 | | | | | | |
| 授業方法 | 実習 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 平常点（40％）は各回の課題提出状況、スキルの理解度、最終課題の完成度（60％）を併せて評価します。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 制作プロセスは各段階での操作や技法の理解を段階的に踏まえる必要があるため、常に出席を心がけ、欠席した場合は次回までに必ず授業内容を自習すること。 教科書を必ず購入し、毎回の授業に持参すること。 USBメモリを購入し、制作課題を保存すること。 | | | | | | |
| 教科書 | 「Illustrator & Photoshop 操作とデザインの教科書」ピクセルハウス著/技術評論社 ISBN978-4-297-11890-7 | | | | | | |
| 参考書 | 授業中に紹介します。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | PCグラフィック基礎実習 | | | | | | |
| 担当教員 | 西川 良子 | | | | | 科目ナンバ- | F71180 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 水曜4~5 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | PCソフトを使用したグラフィックデザイン制作 | | | | | | |
| 授業の概要 | Adobe Illustrator、Photoshopの入門として、基本図形や文字、画像などのオブジェクト作成、アピランスなどの視覚効果のための操作、図形作成・変換、カラー操作などの基本操作を習得するとともに、素材集を活用したデザイン方法を習得する。グラフィックソフトの基本操作を習得した上で、簡単なグラフィックアート作品および文章組版作品の制作を目標とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・文字や画像を適切にレイアウトできるグラフィックデザインの基本を理解している。【知識・理解】 ・グラフィックソフトの基本操作に関して <ul style="list-style-type: none"> ①オブジェクトの作成と変形 ②カラー設定の操作 ③文章のレイアウトなどを習得し、簡単なグラフィックアート作品を制作できる。【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション —教室、システム、サーバの使い方、教科書について— 2. IllustratorとPhotoshopの機能と保存形式について 3. Photoshop ①キリヌキ、レタッチなど 4. Photoshop ②色相、明度、彩度、変形など 【コラージュ作品】 5. Photoshop ③レイヤー効果【コラージュ作品】 6. Illustrator ①基本図形とツール 【色彩構成】 7. Illustrator ②ペンツール、パスファインダー 【スウォッチ・パターン作成】 8. Illustrator ③曲線、フリーハンド描画【キャラクター制作】 9. Illustrator ④書式、文字 【テキスト作品】 10. Illustrator ⑤書式、文字 【名刺】 11. 画像構成とテキスト構成 【カレンダー】 12. タイポグラフィや画像を構成したポスター ①テーマ決定・マインドマップ 13. タイポグラフィや画像を構成したポスター ②コピーワーク・素材作成 14. タイポグラフィや画像を構成したポスター ③レイアウト・プレゼンテーション 15. タイポグラフィや画像を構成したポスター ④評価 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 日常的に関心を持ってグラフィックアート作品のデザインについて、視覚効果やバランスなどを分析し、作品に反映させることを習慣づける。 | | | | | | |
| 授業方法 | 実習 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 最終課題作品60%、平常点40%で評価します。 平常点は毎回の課題の提出状況、スキルの上達度を評価します。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 制作プロセスは各段階での操作や技法の理解を段階的に踏まえる必要があるため、常に出席を心がけ、欠席した場合は次回までに必ず授業内容を自習すること。 教科書を必ず購入し、毎回の授業に持参すること。 USBメモリを購入し、制作課題を保存すること。 | | | | | | |
| 教科書 | 「Illustrator & Photoshop 操作とデザインの教科書」ピクセルハウス著／技術評論社 ISBN978-4-297-11890-7 | | | | | | |
| 参考書 | 授業中に紹介します。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | PCグラフィック基礎実習 | | | | | | |
| 担当教員 | 西川 良子 | | | | | 科目ナンバ- | F71180 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 金曜4~5 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | PCソフトを使用したグラフィックデザイン制作 | | | | | | |
| 授業の概要 | Adobe Illustrator、Photoshopの入門として、基本図形や文字、画像などのオブジェクト作成、アピランスなどの視覚効果のための操作、図形作成・変換、カラー操作などの基本操作を習得するとともに、素材集を活用したデザイン方法を習得する。グラフィックソフトの基本操作を習得した上で、簡単なグラフィックアート作品および文章組版作品の制作を目標とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・文字や画像を適切にレイアウトできるグラフィックデザインの基本を理解している。【知識・理解】 ・グラフィックソフトの基本操作に関して <ul style="list-style-type: none"> ①オブジェクトの作成と変形 ②カラー設定の操作 ③文章のレイアウトなどを習得し、簡単なグラフィックアート作品を制作できる。【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション -教室、システム、サーバの使い方、教科書について- 2. IllustratorとPhotoshopの機能と保存形式について 3. Photoshop ①キリヌキ、レタッチなど 4. Photoshop ②色相、明度、彩度、変形など 【コラージュ作品】 5. Photoshop ③レイヤー効果【コラージュ作品】 6. Illustrator ①基本図形とツール 【色彩構成】 7. Illustrator ②ペンツール、パスファインダー 【スウォッチ・パターン作成】 8. Illustrator ③曲線、フリーハンド描画【キャラクター制作】 9. Illustrator ④書式、文字 【テキスト作品】 10. Illustrator ⑤書式、文字 【名刺】 11. 画像構成とテキスト構成 【カレンダー】 12. タイポグラフィや画像を構成したポスター ①テーマ決定・マインドマップ 13. タイポグラフィや画像を構成したポスター ②コピーワーク・素材作成 14. タイポグラフィや画像を構成したポスター ③レイアウト・プレゼンテーション 15. タイポグラフィや画像を構成したポスター ④評価 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 日常的に関心を持ってグラフィックアート作品のデザインについて、視覚効果やバランスなどを分析し、作品に反映させることを習慣づける。 | | | | | | |
| 授業方法 | 実習 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 最終課題作品60%、平常点40%で評価します。 平常点は毎回の課題の提出状況、スキルの上達度を評価します。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 制作プロセスは各段階での操作や技法の理解を段階的に踏まえる必要があるため、常に出席を心がけ、欠席した場合は次回までに必ず授業内容を自習すること。 教科書を必ず購入し、毎回の授業に持参すること。 USBメモリを購入し、制作課題を保存すること。 | | | | | | |
| 教科書 | 「Illustrator & Photoshop 操作とデザインの教科書」ピクセルハウス著／技術評論社 ISBN978-4-297-11890-7 | | | | | | |
| 参考書 | 授業中に紹介します。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | PCグラフィック基礎実習 | | | | | | |
| 担当教員 | 山本 浩司 | | | | | 科目ナンバ- | F71180 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 月曜1~2 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | PCソフトを使用したグラフィックデザイン制作 | | | | | | |
| 授業の概要 | Adobe Illustrator、Photoshopの入門として、基本図形や文字、画像などのオブジェクト作成、アピランスなどの視覚効果のための操作、図形作成・変換、カラー操作などの基本操作を習得するとともに、素材集を活用したデザイン方法を習得する。グラフィックソフトの基本操作を習得した上で、簡単なグラフィックアート作品および文章組版作品の制作を目標とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・文字や画像を適切にレイアウトできるグラフィックデザインの基本を理解している。【知識・理解】 ・グラフィックソフトの基本操作に関して <ul style="list-style-type: none"> ①オブジェクトの作成と変形 ②カラー設定の操作 ③文章のレイアウトなどを習得し、簡単なグラフィックアート作品を制作できる。【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション -教室、システム、サーバの使い方、教科書について- 2. IllustratorとPhotoshopの機能と保存形式について 3. Photoshop ①キリヌキ、レタッチなど 4. Photoshop ②色相、明度、彩度、変形など 【コラージュ作品】 5. Photoshop ③レイヤー効果【コラージュ作品】 6. Illustrator ①基本図形とツール 【色彩構成】 7. Illustrator ②ペンツール、パスファインダー 【スウォッチ・パターン作成】 8. Illustrator ③曲線、フリーハンド描画【キャラクター制作】 9. Illustrator ④書式、文字 【テキスト作品】 10. Illustrator ⑤書式、文字 【名刺】 11. 画像構成とテキスト構成 【カレンダー】 12. タイポグラフィや画像を構成したポスター ①テーマ決定・マインドマップ 13. タイポグラフィや画像を構成したポスター ②コピーワーク・素材作成 14. タイポグラフィや画像を構成したポスター ③レイアウト・プレゼンテーション 15. タイポグラフィや画像を構成したポスター ④評価 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 日常的に関心を持ってグラフィックアート作品のデザインについて、視覚効果やバランスなどを分析し、作品に反映させることを習慣づける。 | | | | | | |
| 授業方法 | 実習 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 最終課題作品60%、平常点40%で評価します。 平常点は毎回の課題の提出状況、スキルの上達度を評価します。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 制作プロセスは各段階での操作や技法の理解を段階的に踏まえる必要があるため、常に出席を心がけ、欠席した場合は次回までに必ず授業内容を自習すること。 教科書を必ず購入し、毎回の授業に持参すること。 USBメモリを購入し、制作課題を保存すること。 | | | | | | |
| 教科書 | 「Illustrator & Photoshop 操作とデザインの教科書」ピクセルハウス著／技術評論社 ISBN978-4-297-11890-7 | | | | | | |
| 参考書 | 授業中に紹介します。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | PCグラフィック基礎実習 | | | | | | |
| 担当教員 | 山本 浩司 | | | | | 科目ナンバ- | F71180 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 月曜4~5 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | PCソフトを使用したグラフィックデザイン制作 | | | | | | |
| 授業の概要 | Adobe Illustrator、Photoshopの入門として、基本図形や文字、画像などのオブジェクト作成、アピランスなどの視覚効果のための操作、図形作成・変換、カラー操作などの基本操作を習得するとともに、素材集を活用したデザイン方法を習得する。グラフィックソフトの基本操作を習得した上で、簡単なグラフィックアート作品および文章組版作品の制作を目標とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・文字や画像を適切にレイアウトできるグラフィックデザインの基本を理解している。【知識・理解】 ・グラフィックソフトの基本操作に関して <ul style="list-style-type: none"> ①オブジェクトの作成と変形 ②カラー設定の操作 ③文章のレイアウトなどを習得し、簡単なグラフィックアート作品を制作できる。【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション -教室、システム、サーバの使い方、教科書について- 2. IllustratorとPhotoshopの機能と保存形式について 3. Photoshop ①キリヌキ、レタッチなど 4. Photoshop ②色相、明度、彩度、変形など 【コラージュ作品】 5. Photoshop ③レイヤー効果【コラージュ作品】 6. Illustrator ①基本図形とツール 【色彩構成】 7. Illustrator ②ペンツール、パスファインダー 【スウォッチ・パターン作成】 8. Illustrator ③曲線、フリーハンド描画【キャラクター制作】 9. Illustrator ④書式、文字 【テキスト作品】 10. Illustrator ⑤書式、文字 【名刺】 11. 画像構成とテキスト構成 【カレンダー】 12. タイポグラフィや画像を構成したポスター ①テーマ決定・マインドマップ 13. タイポグラフィや画像を構成したポスター ②コピーワーク・素材作成 14. タイポグラフィや画像を構成したポスター ③レイアウト・プレゼンテーション 15. タイポグラフィや画像を構成したポスター ④評価 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 日常的に関心を持ってグラフィックアート作品のデザインについて、視覚効果やバランスなどを分析し、作品に反映させることを習慣づける。 | | | | | | |
| 授業方法 | 実習 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 最終課題作品60%、平常点40%で評価します。 平常点は毎回の課題の提出状況、スキルの上達度を評価します。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 制作プロセスは各段階での操作や技法の理解を段階的に踏まえる必要があるため、常に出席を心がけ、欠席した場合は次回までに必ず授業内容を自習すること。 教科書を必ず購入し、毎回の授業に持参すること。 USBメモリを購入し、制作課題を保存すること。 | | | | | | |
| 教科書 | 「Illustrator & Photoshop 操作とデザインの教科書」ピクセルハウス著／技術評論社 ISBN978-4-297-11890-7 | | | | | | |
| 参考書 | 授業中に紹介します。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | アパレル科学（管理・衛生）／アパレル科学III（管理・衛生） | | | | | | |
| 担当教員 | 武内 俊次 | | | | | 科目ナンバ- | F73220 |
| 学期 | 前期／1st semester | 曜日・時限 | 金曜1 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | アパレル製品の快適性、劣化、管理について理解する。 | | | | | | |
| 授業の概要 | アパレル製品は高い快適性と耐久性が求められ、これらを満足する衣服設計が必要である。また良好な衛生状態を保つための日常のメンテナンスも重要である。そこで、快適性、耐久性、衛生について、科学的基礎知識を学び、適切な衣服設計が考案できる能力と日常のメンテナンス知識の取得を目指す。また近年顕在化したアパレル製品に関する社会問題概要を理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 衣服の快適性、耐久性、衛生についてわかりやすく説明できる。（知識・理解） 2. 洗濯と管理の必要性について学び、衣服管理を実施できる。（汎用的技能） 3. 衣服の快適性、耐久性、衛生を意識して、衣服設計を工夫できる。（汎用的技能） | | | | | | |
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション 第2回 衣服の素材と製造工程 第3回 衣服の快適性に関わる要素 第4回 衣服の快適性向上技術 第5回 衣服の快適性の評価方法 第6回 衣服の劣化（1）汚れ、色変化など 第7回 衣服の劣化（2）ほつれ、破れ、摩耗など 第8回 衣服の劣化（3）衣服製造時の品質管理 第9回 授業の復習・質疑応答と小試験(1) 第10回 家庭での衣服管理 第11回 洗濯（1）汚れが落ちるしくみ 第12回 洗濯（2）洗濯方式、洗剤、漂白剤・柔軟剤 第13回 衣服とごみ問題 第14回 衣服とSDGs 第15回 まとめと小試験(2) | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前学習：授業内容を確認し、必要となる情報を収集しておく。＜2時間＞ 授業後学習：授業内で指示したテーマ、課題についてレポートを作成し、松陰manabaコースコンテンツに投稿する。＜2時間＞ | | | | | | |
| 授業方法 | スライドや配布資料などを用いて、解説・講義する。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 小試験（2回）20% 提出物30% 期末試験50% | | | | | | |
| 履修上の注意 | 授業回数の1/3以上欠席した場合、期末試験の受験資格を失うものとする。レポートは提出期限までに提出することが必須である。 | | | | | | |
| 教科書 | なし | | | | | | |
| 参考書 | 片山倫子 編著、衣の科学シリーズ「衣服管理の科学」、建帛社、ISBN 978-4-7679-1048-2 榎本雅穂、古濱裕樹（編）：新版 繊維材料にフォーカスした生活材料学、アイ・ケイコーポレーション、ISBN 978-4-87492-351-1 C3077 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | アパレル科学（材料）／アパレル科学II（材料） | | | | | | |
| 担当教員 | 登阪 雅聡 | | | | | 科目ナンバ- | F72210 |
| 学期 | 後期／2nd semester | 曜日・時限 | 月曜3 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 衣生活を支える被服材料がどのような性質を持つものかについて理解を深める | | | | | | |
| 授業の概要 | 繊維の性質と布の性質が被服材料としての要求性能に大きく影響を与えていることを理解する。具体的には、現代の衣生活を支える被服材料について、その歴史、多様な材料の種類と性質、被服の目的・用途に応じた最適な材料の選択、繊維製品の構造等について学ぶ。生活者として被服を選択する際の基準、使用や管理の場でこうした知識を生かした豊かな衣生活を営むこと、またファッション業界で役立つ知識の修得を目指す。 | | | | | | |
| 到達目標 | <p>(1) 多様なファッション素材の機能性や経済性、素材の構造や物性が与える造形性や審美性、素材の歴史などもふまえた関係性について説明できる。【知識・理解】</p> <p>(2) ファッション素材に関する専門の言葉を習得し、コミュニケーションすることができる。【汎用的技能】</p> <p>(3) 素材の知識をふまえたうえで、図、画像、文章、立体作品等を用いて、独自の発想や感性に基づく具体的なデザインを表現することができる。【汎用的技能】</p> | | | | | | |
| 授業計画 | <p>第1回：被服材料の科学を学ぶ意味、階層的な構造（繊維→糸→布→服）</p> <p>第2回：天然繊維；綿</p> <p>第3回：天然繊維；麻</p> <p>第4回：天然繊維；絹</p> <p>第5回：天然繊維；毛、毛皮、羽毛</p> <p>第6回：化学繊維の歴史、現状と今後 + 小テスト</p> <p>第7回：化学繊維；レーヨン、キュブラ、リヨセル</p> <p>第8回：化学繊維；アセテート、ナイロン</p> <p>第9回：化学繊維；ポリエステル</p> <p>第10回：化学繊維；アクリル、ポリウレタン、無機繊維</p> <p>第11回：糸；種類、構造と性質 + 小テスト</p> <p>第12回：布；織物</p> <p>第13回：布；編物、不織布</p> <p>第14回：その他；天然皮革、合成皮革、人工皮革</p> <p>第15回：期末試験と授業全体のまとめ</p> | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | <p>授業前学習：次回授業範囲に関連した予習用シートに記入して松蔭manabaで提出する。＜2時間＞</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容を確認、整理し、要点をまとめる。＜2時間＞</p> | | | | | | |
| 授業方法 | 講義：視聴覚教材（パワーポイント・動画）を活用した講義により、理解を深める。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 小テスト（2回） 30%、期末試験 30%、平常点（予習用シートの提出、授業態度など） 40% | | | | | | |
| 履修上の注意 | 予習用シートは授業開始までの提出とし、授業開始後は受け付けない。 | | | | | | |
| 教科書 | なし | | | | | | |
| 参考書 | 榎本雅穂、古濱裕樹（編）：新版 繊維材料にフォーカスした生活材料学、アイ・ケイコーポレーション | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | アパレル科学（被服構成）／アパレル科学I（被服構成） | | | | | | |
| 担当教員 | 戸田 賀志子 | | | | | 科目ナンバ- | F72200 |
| 学期 | 前期／1st semester | 曜日・時限 | 火曜3 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 快適な衣生活をめざして、人体の形態、運動機能性と衣服の関わりについて考え、衣服を造形するうえで必要な知識を習得する。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 私たちの最も身近な環境である衣服について、衣服を着る人体と衣服の構造や形との関連性を学び、生まれてから高齢となるまでの体型や機能の変化から、ライフスタイルと衣服について検討する。これらの知識を定着させるため、視聴覚教材や学習内容の実践を交えて理解を確実なものとする。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1)人体と衣服の関係性を科学的視点から捉え、考察することができる。【知識・理解】 (2)衣服の特性を素材や形態の知識を用いて他者にわかりやすく説明することができる。【知識・理解】 (3)学習内容を実践し、討議、発表することができる。【態度・志向性】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ペーパードレスの制作 グループワーク 新聞紙を使ったドレスを製作 3. 前回の内容を報告 4. 衣服の形式と形態 構造上から衣服の形を分類 民族服 5. 和服の歴史と構造 和服の歴史の変遷、素材と構成 6. 人体の構造 着衣する人体の構造 7. 人体の形の把握法 直接計測法と間接計測法 8. 人体形態の年齢的变化 9. 副素材の種類と構造 10. 衣服の素材と造形性能、動作適合性 11. 衣服の選択と購入 既成衣服の生産と流通、表示 12. 衣服の設計1 胸部原型の作成 基礎 13. 衣服の設計2 胸部原型の作成 前身頃 14. 衣服の設計3 胸部原型の作成 後身頃 15. まとめ | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前学習：授業内容を確認し、必要となる情報を収集しておく。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容を確認、整理し、要点をまとめる。（学習時間：2時間） | | | | | | |
| 授業方法 | 講義：事前に予習を済ませた内容の解説・講義を行う。学習内容によってはグループ・ワークやディスカッションを行う。視聴覚教材（パワーポイントやDVD）を活用し、理解を深める。 ペーパードレスの製作や衣服の設計など実習を伴う授業ではグループ討議を行ったり、各自でレポートを完成させる。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | <p>提出物40%、発表20%、レポート20%、授業への参加度20%</p> <p>提出物（締め切り厳守）：与えられた課題についての的確に対応できているか。制作物の完成度やアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問・事例提案）の内容などを評価する。到達目標(1)(3)の到達度の確認</p> <p>発表：報告すべき内容を把握し、自分の言葉で発表できているかを評価する。到達目標(2)(3)の到達度の確認。</p> <p>レポート（締め切り厳守）：学習内容を理解できているか。自らの興味の明確性・具体性を評価する。到達目標(1)(2)の到達度の確認。</p> <p>授業への参加度：積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるかを総合的に評価する。</p> <p>なお、提出物やレポートの評価後は、添削した提出物およびレポートを返却して各自にフィードバックする。</p> | | | | | | |
| 履修上の注意 | 授業回数の2/3以上の出席を必要とする。 レポート課題は提出期限までに提出することが必須である。 | | | | | | |
| 教科書 | 『新版 アパレル構成学』（朝倉書店、編著 富田明美）ISBN：978-4-254-60631-7 C3377 定価 3,080 円（本体 2,800 円＋税） | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて授業中に紹介する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------------------|--|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | インテリアCAD実習I | | | | | | |
| 担当教員 | 長瀬 りか | | | | | 科目ナンバ- | F72370 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 水曜4~5 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | インテリア・プレゼンテーション (CAD入門) | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>パソコンを用いたCADによる製図は、建築、インテリア、土木、機械、プロダクト、芸術など多様な分野で主力として使われる。製図は、本来立体のものを多方向から見たと想定して、紙の上に概念的に平面で描く。製図について各分野共通の事項も多数存在し、本実習では、インテリアデザイン製図における平面図、断面図、立面図、展開図など本分野に不可欠の図面の描き方を教える。</p> <p>授業の前半では、パソコン及びCADソフトVector Worksの基本操作をオリジナルのテキストを使って実習しながら、建築家、難波和彦設計の「箱の家」をオリジナルテキストを用い、各自がCADを駆使し写生しながら作図する。「箱の家」を通して木造住宅の建築計画と内部のインテリアの作図方法を学ぶ。木曜日の授業「インテリアデザイン実習I」と連動して、「マンション居室のインテリアデザイン」の課題を行うことを通じて、インテリアデザインの基本、考え方、表現法、CADによる作図、各種図面の描き方、模型、CADによるプレゼンテーション、パソコンやプリンターの使い方、各種道具の使い方を学ぶ。ここでは、RC造のマンションの内部を、各自が自由なインテリアデザインを発想し、各自のつくりたいものを平面図や展開図で描く方法を学ぶ。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・図、画像、文章、模型（立体作品）等を用いて、独自の発想や感性に基づく具体的なデザインを表現することができる。【汎用的技術】 ・インテリアの平面図、断面図、立面図、展開図を描く方法を理解し、自分で考えたインテリアデザインを図面に表現することができる。【汎用的技術】 ・パソコン及びCADソフトVector Worksの基本操作を身に付けると共に、操作を他者にも説明することができる。【汎用的技術】 ・インテリア製図やプレゼンテーションについてその方法を理解し、実践することができる。【汎用的技術】 ・身近な生活におけるインテリアデザインの役割（造形性、機能性、審美性、経済性、関係性）に関する幅広い知識を身につけている。【知識・理解】 ・実習を通して、様々なインテリアデザインの情報収集の必要性を理解し、書籍や店舗視察などからデザイン手法や素材の知識を身に付け、デザイン表現に応用することができる。【知識・理解】 | | | | | | |
| 授業計画 | <p>第1回 : ガイダンス ／CADの基本操作習得 配布資料「基本操作演習A」</p> <p>第2回 : CADの基本操作習得 配布資料「基本操作演習B」 ／「箱の家」の平面図作図及び課題説明 手順1~3</p> <p>第3回 : CADの基本操作習得 配布資料「基本操作演習C」「基本操作演習D」 ／配布資料「箱の家」の平面図作図 手順4~5</p> <p>第4回 : CADの基本操作習得 配布資料 ／配布資料「箱の家」の平面図作図、断面図作図、</p> <p>第5回 : 配布資料「箱の家」の平面図・断面図完成、レイアウト、プリントアウト、提出</p> <p>第6回 : 展開図の描き方と作図実習1 (基準線、通り芯、躯体表現など) 作図1</p> <p>第7回 : 展開図の描き方と作図実習2 (小物、添景表現など) 作図2、プリントアウト、提出</p> <p>第8回 : インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン①」 マンションの図面表現実習1 (準備課題: マンション躯体平面図作成)</p> <p>第9回 : インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン②」 マンションの図面表現実習2 (準備課題: マンション躯体展開図作成)</p> <p>第10回 : インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン③」 エスキス、コンセプトの考察、CAD図面 (平面図) 作成</p> <p>第11回 : インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン④」 エスキス、CAD図面 (展開図) 作成</p> <p>第12回 : インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン⑤」 CAD図面 (添景表現ほか) 作成</p> <p>第13回 : インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン⑥」 CAD図面 (マテリアル表現ほか) 作成</p> <p>第14回 : インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン⑦」 模型作成</p> <p>第15回 : インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン⑧」 模型、図面、プレゼンテーションレイアウト完成、大型サイズプリントアウト、提出</p> <p>第16回 : インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン⑨」 講評会 プレゼンテーション、口頭発表の実践</p> | | | | | | |
| 授業外における学習 (準備学習の内容・時間) | <p>授業外における学習では、良いインテリアデザインや製品、インテリアを美しくする素材や植物、照明などに関心を持ち、情報収集を行って下さい。また、各自の進捗状況によって、自主的に授業外の時間も制作に取り組むことが必要です。</p> <p>自分で案を考える授業後半の課題では、課題制作に必要な時間は、作業の丁寧さ、こだわり、速度によって異なります。</p> | | | | | | |
| 授業方法 | <p>前期の前半は、プロジェクター等を使用した操作説明と受講者各自のパソコン上での操作を交互に行います。(対面授業を基本として行いますが、大学のパソコン上でZoomを接続してCAD操作等の解説・指導を行います。)</p> <p>前期の後半では、個別テーマに沿った課題制作となるため、細かな時間配分は自身で管理する必要があります。</p> | | | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 授業方法 | 進捗状況に合わせて、エスキスチェックや課題制作に関する相談を受け付けます。デザインの見方や考え方、CAD作図や表現手法について、主として授業開始時に解説を行いますので、遅刻しないように注意して下さい。 授業後半では、模型制作も行うため、カッターやボンドも使用します。 |
| 評価基準と評価方法 | ①課題「基本操作演習A～D」5% ②課題「箱の家」15% ③課題「展開図」10% ④インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン」40% 最終提出物は、A2プレゼンボードと模型。そこに含まれる全てを考慮する。アイデア、デザイン、計画、図面、模型、写真、レイアウト、プレゼンテーション力、口頭発表力など。 ⑤授業態度30% |
| 履修上の注意 | 出席回数が10回に満たない場合、原則単位認定を行いません。 また、毎回新しいCAD操作の解説と実践を行います。授業の進度に遅れないよう、課題制作を進めること。欠席した場合は、次の週までに各自で対策をとるよう心がけて下さい。 manabaの「コースニュース」にて、各回のZoom接続URLなど授業で必要な事項をお知らせします。授業資料などの配信や随時の連絡などもmanabaを通して行いますので、「コースニュース」の内容に沿い、必要なページにアクセスして、常に最新情報をチェックして下さい。 (松蔭ポータルおよびmanabaのリマインダー設定を行っておくことを推奨します。設定方法等は各操作マニュアルを参照して下さい。) 毎回の授業にはUSBフラッシュメモリが必要です。 |
| 教科書 | 授業オリジナルのテキスト（プリント冊子）を配布します。 |
| 参考書 | 授業中に紹介します。 また、自宅のパソコンでCAD作業を行いたい場合、有料のVectorWorks（学生単年度版）の購入が必要となります。 |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | インテリアCAD実習II | | | | | | |
| 担当教員 | 長瀬 りか | | | | | 科目ナンバ- | F72380 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 木曜4~5 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | 住空間のインテリア計画とその表現 —ライフスタイルや美意識に応じたインテリアデザインを考える— | | | | | | |
| 授業の概要 | インテリアCAD実習Iで学んだCADによる作図表現を発展させ、3次元の図面表現を習得する。まず柱状体や回転体など、3Dの作図法の基本を学ぶ。次に簡単な家具などのモデリングを行い、シンボル図形等も利用しながら、練習課題としてマンション住戸のリノベーションに取り組む。次にテクスチャやライティングなど、質感や光の表現手法を習得し、よりリアルで詳細なレベルでの、インテリアの空間表現力を養う。またインテリアデザイン実習IIで制作する課題の図面表現にも応用する。 キーワード：インテリアデザイン、コーディネート、3D-CAD | | | | | | |
| 到達目標 | (1)インテリアデザインの基本となる知識と計画手法を身につける。【知識・理解】 (2)住空間のデザイン事例について情報収集し、機能要素・イメージを整理、分析することができる。【汎用的技能】 (3)ハウジングデザインを専門の言葉で表現し、コミュニケーションすることができる。【汎用的技能】 (4)CAD・3Dによる表現手法を用いて、独自の発想や感性に基づく具体的なインテリアデザインを表現することができる。【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | <p>第1回 ガイダンス、住宅のインテリアデザインの考え方と表現（全般の解説） CAD/3D基本操作解説、練習課題 簡易な3Dシンボルの作成</p> <p>第2回 旧山邑邸と課題敷地の見学</p> <p>第3回 第1課題「集合住宅のインテリア」課題説明、インテリア解説1、 3Dモデルの作成1</p> <p>第4回 第1課題 インテリア解説2、3Dモデルの作成2（3Dデータ調整）</p> <p>第5回 第1課題 3Dモデルの作成3（3Dデータの完成）3Dモデルから平面図の作成</p> <p>第6回 第1課題 3Dモデルから展開図の作成、3Dパースの作成</p> <p>第7回 第2課題 「店舗併用住宅のインテリアコーディネート」課題説明、 エスキースに基づく3Dモデルの作成。</p> <p>第8回 第2課題 インテリア計画（参考資料収集、エスキース）、 3Dモデルの修正、つくりこみ。</p> <p>第9回 第2課題 インテリアエレメントの選択、ライティングのポイント解説、 3Dシンボルの作成と配置。</p> <p>第10回 第2課題 仕上げ材の選択、レンダリングによるテクスチャとライティングの表現</p> <p>第11回 第2課題 3Dパースの作成、数面の取り出し</p> <p>第12回 第2課題 テクスチャ調整とレンダリング解説</p> <p>第13回 第2課題 ライティング調整、添景の作成</p> <p>第14回 第2課題 プレゼンテーションボード（平面図、展開図、パース、画像、説明文等）のレイアウト</p> <p>第15回 第2課題 最終チェック・手直し・追加事項のチェックおよび図面追加・修正、提出。</p> <p>第16回 第2課題 合同の発表講評会</p> | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 専門誌やインターネットの検索等、資料収集を各自行なうこと。 家具、建材のショールームなど、課題に関連する見学を各自積極的に行なうこと。 | | | | | | |
| 授業方法 | 実習：CADを用いた練習課題の作品制作を行う。各回、課題に関連した簡単な解説・講義を行う。 （※対面授業を基本として行いますが、大学のパソコン上でZoomに接続して、CAD操作等の解説・指導を行います。） | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 平常点30%、第1課題の成績30%、第2課題の成績40%とする。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | <p>課題に関連する見学1回あり（ヨドコウ迎賓館他、敷地、芦屋方面）。 見学に要する交通費、入館料は自己負担とする。（ただし、今後の状況変化に伴い、予定が変更になる可能性があります。） 受講希望者は「インテリアCAD実習I」と「インテリアデザイン実習I」を履修していることが望ましい。</p> <p>manabaの「コースニュース」にて、各回のZoom接続URLなど授業で必要な事項をお知らせします。授業資料などの配信や随時の連絡などもmanabaを通して行いますので、「コースニュース」の内容に沿って、必要なページにアクセスして、常に最新情報をチェックして下さい。 （松蔭ポータルおよびmanabaのリマインダー設定を行っておくことを推奨します。設定方法等は各操作マニュアルを参照して下さい。）</p> <p>毎回の授業にはUSBフラッシュメモリが必要です。</p> | | | | | | |

| | |
|-----|---|
| 教科書 | 図解 インテリア設計の実際 第1版 著者：小宮 容一 出版社：株式会社オーム社 ISBN：4-274-10095-2 その他、プリントを配布。 |
| 参考書 | インテリアデザイン・コース—インテリアデザインの基本から実践まで 著者：トムリス タンガズ 出版社：グラフィック社 ISBN-10: 4766117557 コンパクト建築設計資料集成「住居」 (日本建築学会編、丸善第2版) その他、授業中に紹介する。 |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | インテリアエレメント演習 | | | | | | |
| 担当教員 | 米原 慶子 | | | | | 科目ナンバ- | F73420 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 火曜2 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | インテリアを構成するさまざまなエレメントについて学ぶ | | | | | | |
| 授業の概要 | 住まいのインテリアを構成する様々なエレメント（家具、造作部品、ウィンドウトリートメント、カーペット、オーナメントやアートなど）の種類や機能、構造、材料について学び、住まい手の要望や状況に応じて、適切に選択し提案するための基礎知識を身につける。各エレメントについて、商品事例のサンプルや画像など、ビジュアルな資料を検索・収集するなどリサーチし、目的に応じてまとめる方法も身につける。またインテリアコーディネーター資格試験対策として過去問題に取り組み、問題解説も行う。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1)様々なインテリアエレメントについて、適切な方法で情報収集することができる（汎用的技能） (2)インテリアの機能やテイストに応じて、適切なエレメントを選ぶことができる（知識・理解） (3)インテリアエレメントの様々な情報を整理し、目的に応じてわかりやすくまとめることができる。（汎用的技能） | | | | | | |
| 授業計画 | 第1回 ガイダンス、インテリアエレメントとは・家具の分類 第2回 住宅用家具 LDK 第3回 住宅用家具 寝室・子供室・和室 第4回 いす、テーブル類の構造と材料 第5回 収納と家具材料 第6回 家具金物・家具の仕上げ・手入れ 第7回 家具に関する復習テスト・造作部品 第8回 インテリアショールーム見学・リサーチ（学外見学・研修実施予定） （土曜日に振替の予定） 第9回 ウィンドートリートメント1 第10回 ウィンドートリートメント2 第11回 カーペット 第12回 インテリアオーナメント・アート・グリーン（リサーチとまとめ） 第13回 テーブルウェア・寝装寝具 第14回 エクステリアエレメント・復習テスト② 第15回 まとめレポート・期末テスト | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前準備学習：各回の授業前にテキストの該当部分を読み、自主的に関連情報の収集を進めること。 （学習時間：2時間） 授業後学習：課題制作を進めるための文献・WEBによるエレメントのリサーチ、インテリアショップ等の事例見学など、自主的に行うこと（学習時間：2時間）。 | | | | | | |
| 授業方法 | 講義（ポイント解説）、リサーチ（雑誌やカタログ、ウェブサイトの検索やショールーム見学など）とレポートへのまとめ、問題解説（インテリアコーディネーター試験過去問題など）を組み合わせよう。リサーチとまとめについては、グループワークで行う場合もある。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | レポート 60% （平常点を含み、到達目標(1),(3)の到達度を評価する） 期末テスト 40% （到達目標(2)の到達度を評価する） | | | | | | |
| 履修上の注意 | 学外研修に必要な交通費、入場料等は学生各自の負担とする。 | | | | | | |
| 教科書 | 「インテリアコーディネーターハンドブック統合版上巻」 （他のインテリア科目とも共用する） 発行：公益社団法人 インテリア産業協会 発売：一般財団法人 経済調査会 | | | | | | |

| | |
|-----|--|
| 教科書 | ISBN978-4-86374-142-3 |
| 参考書 | 「インテリアコーディネーター1次試験 過去問題徹底研究 2022上巻」 発行：ハウジングエージェンシー その他、授業中に紹介する。 |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | インテリアデザイン基礎演習 | | | | | | |
| 担当教員 | 米原 慶子 | | | | | 科目ナンバ- | F71310 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 火曜3 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | インテリアデザイン入門（インテリア分野の魅力と学びを知る） | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>インテリアデザイン分野の導入科目として、次の3つのテーマに取り組む。</p> <p>①インテリアの学び方 インテリア分野を学ぶ意義や4年間のカリキュラム、文献検索や資料収集の方法を学ぶ。魅力的な事例に触れ、空間を評価し、写真や図、文章で表現する課題に取り組む。</p> <p>②インテリアコーディネーター資格対策入門 インテリア分野の社会的役割や、様々な仕事について学び、卒業後の進路や資格取得といった将来目標、学習目標を考える手掛りとする。インテリアコーディネーター試験の過去問題の一部にも取り組む。</p> <p>③インテリアコーディネート入門 インテリアショップなどを実際に見学し、エレメントについてリサーチする。リサーチした資料からコーディネートを考える課題に取り組み、実践的、体験的に学ぶ方法を身につける。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <p>(1) インテリアを学ぶ意義と4年間の学びの目標がイメージできる。（知識・理解）</p> <p>(2) インテリア空間を評価し、写真や図、文章で表現し、人に説明できる。（汎用的技能）</p> <p>(3) インテリアの様々な事例について、情報を収集し、写真や図、文章で説明できる。（汎用的技能）</p> | | | | | | |
| 授業計画 | <p>第1回 ガイダンス、「インテリアの役割と学び」スライド解説 第1課題「魅力ある住宅のデザイン」説明</p> <p>第2回 「住空間を楽しむ」スライドレクチャー</p> <p>第3回 第1課題「魅力ある住宅のデザイン」 雑誌、WEB検索によるリサーチとレポート作成の方法解説</p> <p>第4回 第1課題 リサーチ、レポート作成</p> <p>第5回 第1課題の発表と講評、第2課題の予告</p> <p>第6回 インテリアコーディネーターについて</p> <p>第7回 インテリアコーディネーターの仕事（前半）</p> <p>第8回 インテリアコーディネーターの仕事（後半）</p> <p>第9回 インテリアコーディネート入門ガイダンス</p> <p>第10回 第2課題「インテリアエレメント・ショップのリサーチ」説明と資料収集</p> <p>第11回 第2課題の資料収集、見学計画（グループごとに見学を行う）</p> <p>第12回 インテリアショップ等の見学・リサーチ（学外見学・研修実施予定） （時間振替えて引率+グループごとに計画した場所1ヶ所以上）</p> <p>第13回 第2課題のレポート作成、中間報告、追加・手直しの指示</p> <p>第14回 第2課題のレポート表紙-インテリアコーディネートのイメージ・コラージュ作成</p> <p>第15回 第2課題の発表・講評と提出</p> | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | <p>授業前準備学習：各回の授業前に配布資料の該当部分を読み、参考資料を下調べしておくこと。 （学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：課題制作を進めるための文献・WEBによるリサーチ、インテリアショップ等の事例見学など、自主的に行うこと（学習時間：2時間）。</p> | | | | | | |
| 授業方法 | <p>スライドレクチャーによる解説と関連テーマについての文献・WEB検索、見学によるリサーチを行い、実践的、体験的に学ぶ。レポートを作成し、発表、ディスカッションするといった双方向で学んでいく。中半では、インテリアコーディネーター試験の過去問第にも取り組み、小テストを行う。</p> | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | <p>レポート第1課題 25%：テーマに関する文献・WEB検索等資料収集の取り組み方や関心度を評価する。空間の読み取りの的確性や文章、画像、図等による空間表現の的確性を評価する。到達目標(2)、(3)の到達度の確認。</p> <p>レポート第2課題 25%：テーマに関する資料収集、見学による空間体験の取り組み方や関心度を評価する。空間の読み取りの的確性や文章、画像、図等による空間表現の的確性を評価する。到達目標(2)、(3)の到達度の確認。</p> <p>小テスト20%：インテリアコーディネーターの社会的役割や仕事に関する理解度を評価する。</p> | | | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 評価基準と評価方法 | 到達目標(1)の到達度の確認。 平常点 30% : スライド解説に対するミニレポート(コメントや質問等)により、理解度、関心度を評価する。 到達目標(1)に関する到達度の確認。 |
| 履修上の注意 | 学外見学・調査を行うが、その交通費などは学生の負担とする。 配布資料をまとめる専用のファイルを各自購入のこと。 詳細は授業中に説明する。 |
| 教科書 | 「インテリアコーディネーターハンドブック統合版上巻」 (他のインテリア科目とも共用する) 発行: 公益社団法人 インテリア産業協会 発売: 一般財団法人 経済調査会 ISBN978-4-86374-142-3 |
| 参考書 | 「超図解で全部わかるインテリアデザイン入門」 著者: Aiprah (アイブラフ) 監修: 河村容治 発行所: 株式会社エクスナレッジ ISBN978-4-7678-1876-4 |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | インテリア基礎実習A/インテリア基礎実習I | | | | | | |
| 担当教員 | 多賀 美佐 | | | | | 科目ナンバー | F71320 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 火曜4~5 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | コンセプトメイキングから始まる空間やモノのデザインを体感し、コミュニケーションを生み出すクリエイティブな感性を育てる | | | | | | |
| 授業の概要 | イメージやコンセプトを具体的なものとして実現するプロセスを習熟、空間を演出するアイテム制作を行なう。図、画像、文章、立体作品を用いて、独自の発想や感性に基づく具体的なデザインを表現することや、実際に制作することを通して“もの”や“素材”に対する想いを育むことを目的とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1)イメージを形にするプロセスを楽しむ感性を身につけることができる (汎用的技能) (2)伝えたいメッセージを明確にし、空間を創り上げる楽しさを体験することができる (汎用的技能) (3)想いを込めて制作することで、人が幸せに笑顔になる喜びを体感することができる (汎用的技能) | | | | | | |
| 授業計画 | <p>第1回 コミュニケーションが生まれる空間デザインとは クラフト制作①</p> <p>第2回 コンセプトメイキング・プランニングの仕方 クラフト制作②</p> <p>第3回 海外の事例から学ぶコンセプトメイキングと空間演出 クラフト制作③</p> <p>第4回 パーティー空間プランニング① コンセプトとテーマ</p> <p>第5回 パーティー空間プランニング② デザイン実習</p> <p>第6回 サプライズ計画</p> <p>第7回 世界のショーウィンドウ事例から学ぶ</p> <p>第8回 ショーウィンドウプランニング① コンセプトとテーマ</p> <p>第9回 ショーウィンドウプランニング② デザイン実習</p> <p>第10回 ショーウィンドウプランニング発表</p> <p>第11回 店舗装飾① 様々な視点から考える</p> <p>第12回 店舗装飾② プランニング</p> <p>第13回 フォトブースプランニング① コンセプトとテーマ</p> <p>第14回 フォトブースプランニング② デザイン決定</p> <p>第15回 フォトブース制作</p> | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 授業前学習：自分自身が興味のあるもの、好きなモノ・コトに常にアンテナを張り、情報収集しておくこと 授業後学習：各課題や実際の空間プロデュース実現に向けてイメージを膨らまし、固めていくこと | | | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業方法 | 講義とクラフト制作 |
| 評価基準と評価方法 | 平常点 50% (授業内での制作意欲や、取り組む姿勢、成果物、および到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認により評価する) レポート課題 30% 発表 20% |
| 履修上の注意 | 原則として授業回数の3分の2以上の出席に満たない者は単位取得できないものとする 空間デコレーションアイテム制作にあたり、学生がこだわりの材料を使用したい場合は、学生各自が費用を負担し用意するものとする |
| 教科書 | プリント、レジュメを配布 |
| 参考書 | 参考書は必要に応じて授業中に紹介します |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | インテリア基礎実習B/インテリア基礎実習II | | | | | | |
| 担当教員 | 米原 慶子 | | | | | 科目ナンバ- | F71330 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 火曜4~5 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | インテリアデザインの基礎的な表現図法とインテリアコーディネートの初歩的な考え方を学ぶ。 | | | | | | |
| 授業の概要 | インテリア空間をデザインするための基本的な考え方と基礎表現としての各種図法を学ぶ。練習課題を通して平面図・展開図といった二次元の図法や、アイソメトリック、アクソノメトリック、1消点パースなどのドローイングのスキルを身につける。そして最終的に、実践的なインテリアコーディネートの課題制作に取り組み、各自のイメージした空間を図面表現し、プレゼンテーションボードにまとめる。発表、講評する形式で授業をすすめる。 キーワード：インテリアデザイン、表現図法、作品制作 | | | | | | |
| 到達目標 | (1) 目的に応じたインテリアエレメントを選び、適切なレイアウトをすることができる。 (知識・理解+汎用的技能) (2) 手描きでインテリアの基礎的な図面（平面図、展開図、パース）を描くことができる。（汎用的技能） (3) プレゼンテーションボードにまとめ、トータルに空間表現ができるようになる。（汎用的技能） | | | | | | |
| 授業計画 | 第1回 ガイダンスおよび「インテリアの表現」スライド解説。製図道具の使い方説明。 練習課題1 -基本図形と家具の図面表現1（三面図） 第2回 練習課題1 -基本図形と家具の図面表現2（アイソメトリック） 第3回 練習課題2 -様々な家具を描く1（模型の実測とアイソメトリック） 第4回 練習課題2 -様々な家具を描く2（アイソメトリックの仕上げと着色） 第5回 家具レイアウトの考え方、描き方解説 練習課題3 -インテリア図面のトレースと着色1（平面図） 第6回 特別授業 「手描きパースの魅力と着色テクニック」（ゲストスピーカー招へい予定） 第7回 練習課題3 - インテリア図面のトレースと着色2（展開図・アイソメトリック） 第8回 練習課題4 - 1消点パースのトレースと着色 第9回 最終課題「9坪ハウスのライフスタイルとインテリア」課題説明 ライフスタイルと周辺環境のイメージ、インテリアの方向性の設定。 第10回 最終課題 レイアウト案エスキース、家具他インテリアエレメントの資料収集 第11回 最終課題 インテリア平面図作成 第12回 最終課題 インテリア断面展開図作成 第13回 最終課題 1消点パース作成。各図面の着色。 第14回 最終課題 各図面の仕上げ後、スキャナーで画像データ化 プレゼンテーションボードの作成（PCを使用）。 第15回 最終課題 プレゼンテーションボードの仕上げ 発表と講評および提出 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業の進度に遅れないよう、各課題を進め、授業中に完成しなかった場合は、次回までに完成させておくこと。 特に欠席した場合は、早めに遅れを取り戻すように、時間外に進めること。 家具、建材のショールームなどの課題に関連する見学および専門誌やインターネットの検索等、資料収集を各自積極的に行なうこと。 | | | | | | |
| 授業方法 | 実習（スライドを用いた解説、手描き図面およびパソコンを用いた作品制作） | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 練習課題 30%：図面表現の的確性や表現内容の工夫を評価する。到達目標(1),(2)の到達度の確認。 最終課題 40%：設定したライフスタイルに対するインテリアコーディネートの的確性や工夫および図面表現の的確性を評価する。到達目標(1),(2),(3)の到達度の確認。 平常点 30%：テーマに関する文献・WEB検索等資料収集や見学等の取り組み方や関心度を評価する。到達目標(1)の到達度の確認。 | | | | | | |

| | |
|--------|--|
| 履修上の注意 | ワークブックとして使用する専用のノートとファイル、製図用シャープペンシル、三角スケール、コンベックスを各自用意すること。サイズ等は授業中に指示する。 また各自の課題内容に応じたデザイン・リサーチのための見学を行うよう、授業中に指示する。 |
| 教科書 | プリントを配布する。 |
| 参考書 | 「はじめてのインテリア製図 合格する図面の描き方」第4版 著者： 星野智子 出版社： (株)ハウジングエージェンシー出版事業部 ISBNコード： 9784899902461 「スケッチパース着色編」 著者／編集： 宮後浩, 山本勇氣 出版社： 秀和システム ISBNコード： 9784798040530 その他推薦する本を授業中に紹介するので、各自参考にする本、住宅雑誌等を購入すること。 |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | インテリア計画学I | | | | | | |
| 担当教員 | 矢代 恵 | | | | | 科目ナンバ- | F72350 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 金曜3 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 住まいのインテリア空間の基礎知識と各室計画の基礎を修得する | | | | | | |
| 授業の概要 | 住まいのインテリア空間は、住まい手のライフスタイルに適応し、様々な生活行為を機能的に行い、美しく安全、快適な住生活を実現させるものでなければならない。空間各部を適切な寸法、形、材料、工法によって構成し、全体として調和のとれた合理的なものになるように計画するため、人間工学や機能的な空間構成、モジュール及び各部基準寸法、造形原理や色彩計画、安全性能などの基礎知識と住宅各室のプランニングの基本を学ぶ。インテリアコーディネーター資格試験対策として、問題解説も行う。 | | | | | | |
| 到達目標 | [1]目的と条件に見合ったインテリアを創造する為に必要な基礎知識を習得し計画に生かすことができる。【知識・理解】 [2]カラーや造形の専門用語を説明することができる。【知識・理解】 [3]インテリアコーディネーター資格試験対策問題を理解し解答できる。【知識・理解】 | | | | | | |
| 授業計画 | <p>第1回 ガイダンス、インテリアと人間1（ライフスタイルとライフステージ）・ライフスタイルワーク</p> <p>第2回 色彩1（色彩基礎）</p> <p>第3回 色彩2（空間と色）・色彩ミニワーク</p> <p>第4回 インテリアと人間2（人体寸法と動作寸法）・採寸ワーク</p> <p>第5回 インテリアと人間3（感覚・知覚・心理・行動）・ミニテスト1</p> <p>第6回 インテリアと人間4（家具・機器と人間工学）</p> <p>第7回 空間配置と規模・寸法</p> <p>第8回 造形原理の検討・文様レポート</p> <p>第9回 安全健康のための計画・ミニテスト2</p> <p>第10回 生活様式と生活場面（リビング・ダイニング・キッチン）</p> <p>第11回 高齢者・バリアフリーのための計画</p> <p>第12回 各室その他の計画</p> <p>第13回 リフォームの計画・ミニテスト3</p> <p>第14回 まとめと試験</p> <p>第15回 試験解説と質疑応答・桂離宮DVD</p> <p>*ミニテストは状況に合わせて実施回を変更することがある。</p> | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 【授業前準備学習】各回授業で行うテキストの該当部分に目を通し、資料の下調べ、授業内で指示したテーマについてプレゼンテーション資料やレポートでまとめる。（学習時間2時間） 【授業後学習】今後の参考資料となるよう、毎回授業の内容をまとめて整理しておく。関連する本・雑誌を読み、建築やインテリア空間やショールームに行き、授業で学んだことを体感し理解する。（学習時間2時間） | | | | | | |
| 授業方法 | 講義（スライドレクチャー）と小演習・ミニテスト、問題解説（インテリアコーディネーター資格試験対策問題など）を組み合わせて行う。ミニワークショップやプレゼンテーションを取り入れた双方向型授業とする。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 平常点、期末試験の総合評価とする。（平常点（ミニテスト・ミニワーク含む）70% 期末試験30%） 平常点には、講義内容へのコメントや質問、関心の具体性と取り組み態度を加え評価する。 提出期限を厳守すること（遅れた場合は減点）欠席の場合は減点。 総合点が59点以下の場合は単位を取得できない。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 教科書必携の事。 出席が9回以下の者には、原則として単位を認めない。2回遅刻で1回欠席、30分以上遅刻の場合欠席とする。欠席の場合、次回までに自己学習し遅れを取り戻し支障がないようにし、指示されている持参物を忘れないようにする。 | | | | | | |
| 教科書 | インテリアコーディネーターハンドブック統合版上巻 著：インテリア産業協会 発行：2013年 ISBN-10：4863741421 ISBN-13：978-4863741423 配布プリント、manabaでの配布資料 | | | | | | |
| 参考書 | インテリアコーディネーターハンドブック統合版下巻 著：インテリア産業協会 発行：2013年 ISBN-10：486374143X ISBN-13：978-4863741430 インテリアコーディネーター1次試験 過去問題徹底研究2021 上巻 編集：HIPS合格対策プロジェクト 出版社：ハウジングエージェンシー 発行：2021年 ISBN-10：4899904029 ISBN-13：978-4899904021 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | インテリア計画学II | | | | | | |
| 担当教員 | 村上 隆行 | | | | | 科目ナンバ- | F72360 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 金曜2 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 建築という構造物の中にインテリア空間をつくるための構造、工法と仕上げ、ならびに各種法規、制度等 | | | | | | |
| 授業の概要 | 建築の主な構造（木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造）、床・壁・天井の工法、造作や開口部、建具、階段等の構成、および各部の仕上げ材料、詳細等について学習する。 またインテリア関連の様々な法規、規格、制度についても要点を学習し、適切なインテリア計画を行えるようにする。 キーワード：構造、工法、仕上げ、法規 | | | | | | |
| 到達目標 | 建築構造や構法を学ぶ意義を理解し、自ら学ぶことができる。（知識・理解） 主要構造に関する基礎知識を身に付けている。（知識・理解） さまざまな工法・仕上げについての知識を有し、インテリア計画に活用することができる。（知識・理解） インテリアに関わる法規を順守する必要性を理解し、関連条文を正しく読み取ることが出来る。（知識・理解） | | | | | | |
| 授業計画 | 第1回 木構造 第2回 木材について 第3回 鉄骨造 第4回 鉄筋コンクリート造とコンクリート 第5回 小テスト①→グループワーク①、発表と講評 第6回 インテリアの構法～床・壁・天井 第7回 造作と造作材 第8回 機能材料と構法 第9回 建具・ガラス 第10回 仕上げ材と仕上げ 第11回 小テスト②→グループワーク②、発表と講評 第12回 インテリア関連の法規～建築基準法Ⅰ（用語の定義、形態の制限等） 第13回 インテリア関連の法規～建築基準法Ⅱ（環境衛生関連、避難、内装制限等） 第14回 インテリア関連の法規～その他の関連法、インテリア関連の制度 第15回 小テスト③→グループワーク③、発表と講評 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所を予習し、事前に指定するキーワードについて、指定された参考図書等で下調べをする。（学習時間2時間） 授業後学習：各回授業で扱った箇所に該当する、参考図書中の問題に取り組み、小テストに備えること。（学習時間2時間） | | | | | | |
| 授業方法 | 講義形式 図表や写真等の資料、実物材料サンプル等を適宜提示しながら、教科書にもとづいて進めて行く。 各分野（3つに区分）のまとめとして、与えられたテーマについてグループワークを行い、成果を発表し、それに対してディスカッション・講評を行う。 毎回、授業の終わりに、その日の講義要旨、疑問点等を記入・提出してもらうためのカードを配布する。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 平常点20%、小テスト40%、グループワークでの意見・発表内容40%の評価とする。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 授業の終わりに配布するカードへの記入内容は評価に影響しないが、未記入・未提出は減点とする。 | | | | | | |
| 教科書 | インテリアコーディネーターハンドブック総合版（下）（公社）インテリア産業協会発行 ISBN 978-4863741430 | | | | | | |
| 参考書 | インテリアコーディネーター1次試験 一問一答徹底研究 第5版（徹底研究シリーズ） HIPS合格対策プロジェクト 編集 ハウジングエージェンシー発行 ISBN 978-4899903680 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | インテリアコーディネート演習I | | | | | | |
| 担当教員 | 玉井 恵里子 | | | | | 科目ナンバ- | F73440 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 火曜3 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | インテリア業界でインテリアコーディネーターとして活躍するひとのための 職能論と論文対応策 | | | | | | |
| 授業の概要 | 一般的にインテリアコーディネーター試験合格に社会人実務経験者が有利な傾向と言われているが学生にも合格者は多数存在する。インテリアコーディネーター実務経験者である講師がインテリアコーディネーターの「職能」の観点から論文の課題に対応するために必要な知識や守るべきポイントについて講義やスライドを通じてわかりやすく習得出来るように導く。 | | | | | | |
| 到達目標 | インテリアコーディネーターに求められる職能について論じることができる。(知識・理解) 専門用語などの知識を深めることにより明快な文章で記述することが出来る。(汎用的技能) インテリアに対する興味をより具体的な職業として意識することが出来る。(態度・志向性) | | | | | | |
| 授業計画 | 授業プログラム 15回 1、オリエンテーション 2、インテリアコーディネーターとは？ 3、インテリアコーディネーターの資質 4、インテリアコーディネーターの仕事を知る。 5、インテリアコーディネーターに求められる役割 6、インテリアコーディネーターの活躍する場 7、インテリアコーディネータと暮らし 8、人生100年時代に備えるインテリア 9、日本におけるくらしのインテリア 10、海外におけるくらしのインテリア 11、少子高齢化のくらしとインテリア 12、環境を豊かにする家具と暮らし 13、地域性とインテリアライフスタイル 14、リノベーションと暮らし 15、まとめ | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 授業前学習：参考書の該当実験のページに目を通し、要点を整理しておく。(2時間) 授業後学習：実験、検査、調査のレポートをまとめ松陰manabaコースコンテンツに提出する。(2時間) | | | | | | |
| 授業方法 | テーマに沿ってスライドを交えた講義を行う。 講義を理解した上で演習問題に挑戦する。 論文テストの採点に必要な項目について解説を行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 演習問題(論文ショートテスト)を授業時間内に行う。 10回以上の提出で単位習得の基準とする 採点の点数および受講態度の総合点により評価を決定する。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | デザイン用語が用いられる授業のため理解能力が求められる。 最低限、デザイン、もしくはインテリアの授業の単位を1科目以上取得している学生の受講が望ましい。 | | | | | | |
| 教科書 | インテリアコーディネーター2次試験 一番わかりやすい合格論文入門 第12版(日本語)単行本 - HIPS合格対策プロジェクト(編集) ISBN: 978-4899903727 | | | | | | |
| 参考書 | インテリアコーディネーター2次試験 過去問題徹底研究2020(徹底研究シリーズ)(日本語)単行本 - 2020/5/4 HIPS合格対策プロジェクト(著) ISBN: 978-4899903949 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | インテリアコーディネート演習II | | | | | | |
| 担当教員 | 小山 明子 | | | | | 科目ナンバ- | F74450 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 金曜3 | 配当学年 | 4 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | サニタリー、キッチン・ダイニングの詳細デザインを考える | | | | | | |
| 授業の概要 | 住空間のインテリアについて、各部の様々なエレメントを具体的に選択し、コーディネートする方法を学び、課題作品を制作する。 様々な材料や工法、寸法や納まりについての理解を深めるため、建材・住宅設備関係のWEBカタログなどを使用し演習を進める。ドローイング（平面図、展開図、照明計画図、パースなど）およびサンプルボードを作成、プレゼンテーションボードにまとめる。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. インテリアの材料や工法、納まり等についての知識を身につけることができる【知識・理解】 2. サニタリー、キッチンに関する素材・機器の情報収集を行い、具体的に選択することができる【汎用的技能】 3. 図面、写真、素材などを用いてプレゼンテーションを作成し、イメージを伝えることができる【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、「サニタリーの設計」ポイント解説、参考作品事例紹介 2. クライアントプロフィールから考えるサニタリーレイアウト 3. サニタリー デザイン提案の作成 4. サニタリー 住設建材のリサーチ、サンプルボードの作成 5. サニタリー ドローイング、図面作成 6. インテリア建材ショールーム見学 7. 「キッチン・ダイニングの設計」ポイント解説、参考作品事例紹介 8. クライアントプロフィールから考えるキッチン・ダイニングレイアウト 9. キッチン・ダイニング デザイン提案の作成 10. キッチン・ダイニング 建材のリサーチ、図面作成 11. キッチン・ダイニング サンプルボードの作成 12. 「照明計画」ポイント解説、参考事例の紹介、デザイン提案の作成 13. 照明計画 図面作成、照明機器のリサーチ、プレゼンテーションボードのまとめ 14. プレゼンテーション発表、講評 15. プレゼンテーション手直し、提出 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | <p>授業前学習：各授業で扱ったキーワードについてWEB、カタログ、ショールーム等で下調べをする。（学習時間2時間）</p> <p>授業後学習：授業で配布するプリントの演習課題について、より内容を深め完成度を上げる。ドローイングについては次回授業までに各々作業を進めていく。（学習時間2時間）</p> <p>可能であればサニタリー、キッチン、照明、建材等のショールームの見学に行ってみる。 身近なサニタリーやキッチンについて、具体的な寸法や使用勝手を把握してみる。 （自宅の洗面の寸法を測る、キッチンにある物についてまとめるなど）</p> | | | | | | |
| 授業方法 | <p>演習：各テーマについてリサーチし提案内容を作成・作図する。 リサーチ内容の発表や知識の共有を行いながら、作成した提案をまとめプレゼンテーションを行う。</p> | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | <p>プレゼンテーションボード+発表50%、平常点+演習プリント50% 演習プリント以外の自主作成資料も評価対象とします。積極的に提出しましょう。</p> | | | | | | |
| 履修上の注意 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 履修の対象者 インテリアデザイン実習Ⅰ・Ⅱを履修済みのこと。 2. 履修上の注意 情報収集、データ保存のためのスマートフォン等の使用を認める。 授業に関係しない使用は不可とする。 3. 授業回数の1/3以上の欠席の場合は原則単位認定を行わない。 4. 学外見学について 金曜午後にはショールーム見学を行います。（現地集合・解散、交通費自費負担） 場所、時間については授業内で案内します。 参加人数、社会情勢により見学が行えない場合は、授業内にて「サニタリー プレゼンシートまとめ」を行います。 | | | | | | |
| 教科書 | <p>世界で一番やさしいインテリア ※購入が望ましいが、授業では5割程度の使用となる。 著者：和田浩一 発行所：株式会社エクスナレッジ ISBN978-4-7678-2877-0</p> | | | | | | |
| 参考書 | <p>最高の水廻りをデザインする方法 著者：連合設計社市谷建築事務所 発行所：株式会社エクスナレッジ ISBN978-4-7678-1203-8</p> | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | インテリア史 | | | | | | |
| 担当教員 | 米原 慶子 | | | | | 科目ナンバ- | F71340 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 火曜3 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | インテリアデザインの歴史 | | | | | | |
| 授業の概要 | 古代から近現代にいたる主要なインテリアデザインの歴史を、西洋と日本を対比しながら学ぶ。西洋古典と日本伝統の建築様式の変遷や、モダンデザインの黎明期からアール・ヌーヴォー、アール・デコの造形運動、1920～30年代のムーブメントを経て戦後から近年に至るまでに、欧米や日本で生み出された優れた空間デザインやインテリアエレメントの事例とその背景についての理解を深める。ヴィジュアルな資料を多用し、幅広いデザインの教養を身につけると共に、インテリアコーディネーター資格試験対策としての問題解説も行う。 キーワード：インテリア、デザイン史、デザイナー | | | | | | |
| 到達目標 | (1) インテリア史上、主要なデザイン様式の違いを見分けることができる。(知識・理解) (2) 著名ないくつかのインテリアエレメントについて、デザインの特徴や背景、デザイナーを説明できる。(知識・理解) (3) 各自の特に好きなデザイン作品とデザイナー名をいくつか挙げるができる。(知識・理解) | | | | | | |
| 授業計画 | 第1回 ガイダンス(授業の概要、進め方と学習目標など) 椅子とあかりの基礎知識 第2回 西洋古典の空間とインテリアエレメントー古代・中世 第3回 西洋古典の空間とインテリアエレメントー近世 第4回 問題解説①ー西洋古典のインテリア、 日本伝統の空間とインテリアエレメントー古代 第5回 日本伝統の空間とインテリアエレメントー中世・近世 第6回 身近にある西洋古典と日本伝統の空間の事例見学(学外見学・研修実施予定) (旧ハンター住宅と竹中大工道具館、土曜日に振替で行う) 第7回 日本とヨーロッパの民家・町家 問題解説②ー日本伝統の空間とインテリアエレメント 第8回 モダンデザインの黎明ージャポニズム/万国博覧会・明治の日本 第9回 アール・ヌーヴォー(新しい芸術)のデザイン 第10回 初期近代建築と1910-30年代のデザイン・ムーブメント 第11回 バウハウスと巨匠達の時代とデザイン 第12回 北欧のモダンデザイン 問題解説③ー近代のインテリア 第13回 ミッド・センチュリーのアメリカー・イタリア 日本の近代化 第14回 ポスト・モダニズムの時代 問題解説④ー日本の近代化 第15回 期末試験、補足とミニレポートのまとめ | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 授業前準備学習：各回の授業前にテキストの該当部分を読み、参考資料を下調べしておくこと。 (学習時間：2時間) 授業後学習：各回の授業で参考資料を紹介するので、興味のあるテーマについて、学習を深めること。 テーマ関連の建築やショールーム見学を積極的に行うのが望ましい(学習時間：2時間)。 | | | | | | |
| 授業方法 | 講義(スライドレクチャー)、問題解説(インテリアコーディネーター試験過去問題など)を組み合わせて行う。毎回のミニレポートをチェックバックすることで、双方向型の授業とする。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 毎回のミニレポート60%：講義内容についてのコメント・質問等、内容記述の的確性や関心の具体性を評価する。 (見学レポートも含む)、到達目標(1),(2),(3)の到達度の確認。 期末試験40%：講義内容についての理解度を評価する。到達目標(1),(2)に関する到達度の確認。 | | | | | | |

| | |
|--------|---|
| 履修上の注意 | 配布資料をまとめる専用のファイルを各自購入のこと。 詳細は授業中に説明する。 学外研修に必要な入場料、交通費は学生各自の負担とする。 |
| 教科書 | 「インテリアコーディネーターハンドブック統合版上巻」 (他のインテリア科目と共用あり) 発行：公益社団法人 インテリア産業協会 発売：一般財団法人 経済調査会 ISBN978-4-86374-142-3 |
| 参考書 | 「インテリアコーディネーター1次試験 過去問題徹底研究 2022上巻」 発行：ハウジングエージェンシー 「増補新装 カラー版 世界デザイン史」 監修：阿部公正 出版社：美術出版社 ISBN-10：4568400848 その他、授業中に紹介する。 |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | インテリアデザイン実習I | | | | | | |
| 担当教員 | 山隈 直人 | | | | | 科目ナンバ- | F72390 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 木曜4~5 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | インテリアデザイン、住宅設計の基礎知識の習得 | | | | | | |
| 授業の概要 | 小住宅ならびに集合住宅・住戸について、2~3の課題を設定し、企画から基本設計および一部の詳細設計までを行う。 一年次に学習した住居の基礎知識をベースに、建築図面やインテリア図面の基礎や模型製作を習得する。 その上で最終課題では、住まい手を想定し立地環境も踏まえながら、一住戸の設計を行う。またクラス全員の参加で講評会を行い、自ら考えたことを他者に伝えるプレゼンテーション能力も会得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1)インテリアデザインに必要な図面の基礎を学ぶことができる【知識・理解】 (2)図面トレース、模型製作、パース作成など、インテリアデザインの基礎技術を修得することができる【知識・理解】 (3)住戸リノベーションの実習課題を通して、設計コンセプトから図面、パース作成、プレゼンテーションまでの流れを学ぶことができる【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | 第1回 : 設計製図の基礎 第2回 : 実習課題1 「小住宅(平屋)のトレース」の課題発表 第3回 : 実習課題1 平面図のトレース 第4回 : 実習課題1 断面図のトレース 第5回 : 実習課題1 立面図のトレース、及び提出 第6回 : 実習課題2 「小住宅(2階建)の模型制作」の課題発表 第7回 : 実習課題2 模型制作 その1 (模型の作り方) 第8回 : 実習課題2 模型制作 その2 (小住宅の模型づくり) 第9回 : 実習課題2 模型完成、及び提出 第10回 : 実習課題3 「団地住戸のリノベーション設計」の課題発表 第11回 : 実習課題3 エスキス 第12回 : 実習課題3 CAD図面制作 第13回 : 実習課題3 模型制作 第14回 : 実習課題3 模型、及びプレゼンテーション図面完成 第15回 : 実習課題3 プレゼンテーション、及び講評会 | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 授業内容が高度なため、なるべく授業時間内に課題を完了させるための十分な準備が必要。 授業前学習: 授業計画に従い、授業までに教科書の該当箇所を読んできてください。 授業後学習: 学んだことを整理し、ノートにまとめておきましょう。次々に新しい知識を習得しなければならないため、1回1回十分に知識を習得しましょう。 | | | | | | |
| 授業方法 | 実習 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 平常点15%、第1課題の成績10%、第2課題の成績15%、第3課題の成績20%、最終課題の成績40%とする。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 建築設計の初めての実践的な授業であり、建築製図の基礎を学ぶ実習です。限られた授業時間の中での課題制作は時間との戦いです。毎回出席し時間厳守で授業に望んでください。 また、課題制作上必要なものとして以下の道具を購入する必要があります。大学での実習では、教室備え付けの備品がある程度利用できますが、自宅での制作や他のハウジング系実習授業、更には卒業後の二級建築士受験の際にも必要です。詳細については授業中に説明します。 ■製図に必要な道具 平行定規簡易式A2版 or T定規、三角定規30cm型、勾配定規22cm型、三角スケール(15cm及び30cm)、 テンプレート(建築士受験用)、製図用シャープペンシル0.5・0.3各1本、字消板、消しゴム、 製図用ブラシ、ドラフティングテープ、ケント紙A2版、トレーシングペーパー、 キャリングケース(A3ノビサイズ)、コンベックス等 ■模型制作に必要な道具と材料 カッターナイフ、カッティングボード、スチール定規、スチール曲尺、ヒートカッター、 スチレンボード、両面ケント1mm、バルサ、スプレーのり、 貼ってはがせるスプレーのり、スチのり、木工用ボンド、軟粘着両面テープ、マスキングテープ等 ■授業内容に関する質問を受けるための連絡先 info[at]setsuko-sakakibara.com 「メールをする場合は[at]を@に置き換えること」 | | | | | | |

| | |
|-----|--|
| 教科書 | 新しい建築の製図（出版：株式会社 学芸出版社） ISBN 978-4-7615-2375-6 |
| 参考書 | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | インテリアデザイン実習II | | | | | | |
| 担当教員 | 荒谷 省午 | | | | | 科目ナンバ- | F72400 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 火曜1~2 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | 住まいや商業空間のインテリアデザインを考え、そのプレゼンテーション術を学ぶ | | | | | | |
| 授業の概要 | 「店舗併用住宅のインテリアコーディネート」を課題とする。 具体的な計画地を設定し、場所を設定したのちにコンセプト計画・プランニングを行い図面表現（平面・立面・断面）及びCADによるパースなどを作成してA1サイズ2枚程度にまとめて完成させる。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・インテリアデザインについてコンセプト計画やプランニングの力をつけることができる。【知識・理解】 ・インテリアデザインについてCADによるパース作成などのプレゼンテーション手法等を用いて、独自の発想や感性に基づく具体的なデザインを表現することができる。【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | 第01回 オリエンテーション（課題説明とすすめ方） 第02回 現場見学会（敷地の見方、読み方、計画地の選定） 第03回 プランニング（エスキース：現状スケルトンの読み込み） 第04回 プランニング（エスキース：躯体とインテリア） 第05回 プランニング（プランニングの発想・動線のチェック） 第06回 プランニング（詳細計画） 第07回 課題作成（図面作成） 第08回 課題作成（3DCADデータの立ち上げ） 第09回 課題作成（開口部の検討） 第10回 課題作成（パースの視点の検討） 第11回 課題作成（ディテールの検討） 第12回 プレゼンテーション（最終チェック・パネル作成） 第13回 プレゼンテーション（3Dデータ CADを利用した手描きの手法） 第14回 プレゼンテーション（3Dデータ テクスチャ・添景の作成） 第15回 発表（提出） | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 課題作成の為に各自で専門誌やインターネット検索など、調査や資料収集を行うこと。 家具、建材のショールームなど、課題に関連する見学を各自積極的に行うこと。 | | | | | | |
| 授業方法 | PPT（パワーポイント）でプロジェクターを使用した講義および実習（CAD使用） | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 作品の完成度の総合評価とする。 作品提出期限も厳守すること（減点対象） 総合点が59点以下の場合には単位を取得できない。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 遅刻は2回を1回の欠席とし、1時間以上の遅刻は欠席とする。出席が9回以下の者は原則として単位は認めない。 欠席した場合は次回までに遅れを取り戻し、実習に支障のないようにすること。 見学1回あり（ヨドコウ迎賓館他、敷地、芦屋方面）。 見学に要する交通費、入館料は自己負担とする。 受講希望者は「インテリアCAD実習I」と「インテリアデザイン実習I」を履修していることが望ましい。 | | | | | | |
| 教科書 | 授業中に資料配布 | | | | | | |
| 参考書 | 授業中に紹介 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | インテリアデザイン実習III | | | | | | |
| 担当教員 | 小山 明子 | | | | | 科目ナンバ- | F73410 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 金曜1~2 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | 様々な要望や空間条件からスペースレイアウトを構成し、手描きのインテリア図面を作成する | | | | | | |
| 授業の概要 | 複数の空間課題に取り組み、課題文を読み解きながら要望のイメージにふさわしいスペースレイアウトを構成する。インテリアエレメントの選択、手描きの平面図やインテリア立・断面図、家具図、およびパースを作成する。インテリアコーディネーター資格2次試験(実技)のうち、「プレゼンテーション」に対応した課題とし、設定された時間内において、着色を施した図面等により視覚的にわかりやすいプレゼンテーションを作成する能力を養う。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1. 要件要望にかなったインテリアエレメントを選択するための知識を身につけることができる【知識・理解】 2. 様々な要望や空間条件を読み解き、ふさわしいスペースレイアウトをまとめることができる【汎用的技能】 3. 短時間で手描きによるインテリア図面の表現ができるようになる【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> ガイダンス、インテリア製図の基礎表現と着色 インテリア図面のポイントと作図プロセス、平面図トレース 課題1 課題文の読み込みとゾーニング解説、インテリア立・断面図トレース 課題1 平面図、インテリア立・断面図作成 課題2 課題文の読み込みとゾーニング、家具図トレース 課題2 図面作成、透視図の作図プロセスとトレース 課題2 1 消点パース作成、着色 課題3 課題文の読み込み、ゾーニング、解説、平面図作成 課題3 平面図、家具図レイアウト・図面作成 課題3 立・断面図作成、着色 過去問①-1 課題文の読み込み、ゾーニング、アイソメ図のプロセス 過去問①-2 プランニング、図面作成 過去問①-3 図面作成、解説、手直し 過去問②-1 課題文の読み込み、プランニング、図面作成 過去問②-2 図面作成、解説、手直し | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 実習科目のため、原則として授業時間内でプランニング・図面作成等を行う。 課題文の中に出てくるインテリアエレメント等について情報収集し、実物や写真などにより確認すること。 | | | | | | |
| 授業方法 | 実習形式でおこなう。 基礎の作図練習を踏まえ、課題文の読み込み、ゾーニング、作図、解説を行う。 目標時間を設定し、計測をしながら進める。 授業時間内で完成できなかった場合は、次の回までに完成させておくこと。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 授業態度：40% 実習への取り組み姿勢、課題内容の理解度により総合的に評価する。 課題提出：60% 的確なスペースレイアウト、インテリアエレメントの選択、図面の完成度により評価する。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | <ul style="list-style-type: none"> ・実習に必要な用具を持参すること。作図用紙は授業で配布する。 ・製図用筆記用具、直定規、三角定規、円定規、字消し板、三角スケール、刷毛、色鉛筆等 ・授業回数の1/3以上欠席の場合は原則単位認定を行わない。 ・課題進度により授業計画から作成内容が前後する場合がある。 ・携帯電話を机に出すことを禁止する。 | | | | | | |
| 教科書 | <ul style="list-style-type: none"> ・やさしく学ぶインテリア製図 エクスマレッジ ISBN978-4767826998 | | | | | | |
| 参考書 | <ul style="list-style-type: none"> ・インテリアコーディネーター2次試験過去問題徹底研究2020 ハウジングエージェンシー ISBN978-4899903949 ・インテリアコーディネーター資格試験 はじめてのインテリア製図 合格する図面の描き方 ハウジングエージェンシー ISBN978-4899902461 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | おもてなし演習 | | | | | | |
| 担当教員 | 徳山 孝子・西橋 悦・山内 利果 | | | | | 科目ナンバ- | F73060 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 金曜4 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | おもてなしの心を知る | | | | | | |
| 授業の概要 | おもてなしは、昔から日本人の日常生活のなかに根づいてきた言葉であり心のありようである。人にとってはあまりに当たり前すぎて気づかない「おもてなし」を生活文化から説明し、「地域らしさ、その人らしさ、ならで」を考え、快適な暮らし方や地域の取り組みにおもてなしの心を取り入れる方法を解説する。おもてなしの心として、相手の立場に立って考え、行動できる能力を養い、民族、言語、文化、宗教の異なる人たちと相互理解にいたる能力を身につけるよう演習を通じて学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | <p>①山内【知識・理解】：花と緑のある食空間が人間に与える効果や効能を知り、おもてなしする人のイメージやオケーションに合わせたマテリアルのセレクト力を養うことができる。</p> <p>②山内【汎用的技能】：日常の空間におもてなしの演出ができるようになる。</p> <p>③山内【態度・志向】：より多くの人におもてなし空間を演出できるようになる。</p> <p>④西橋【知識・理解】：おもてなしの語源、歴史について人に伝えることができ、おもてなしの大切さを理解している。</p> <p>⑤西橋【汎用的技能】：おもてなしの為の準備、しつらいを演出しおもてなしの場をつくることができる。</p> <p>⑥西橋【態度・志向】：生活の中のあらゆる場面でおもてなしの心を発揮することができる。</p> | | | | | | |
| 授業計画 | <p>○シラバス（授業計画）</p> <p>①4月8日（徳山）：オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）</p> <p>②4月15日（西橋）：「おもてなし」とは。語源や歴史を知り、「おもてなし」と「しつらい」について考える。</p> <p>③4月22日（山内）：花と緑のおもてなし。花と緑が人間に与える効果や効能をおもてなしの観点から過去事例を紹介しながら解説する。</p> <p>④5月6日（西橋）：おもてなしのワークショップ。ワークショップやディスカッションを通じておもてなしの心とは何かを考える。</p> <p>⑤5月13日（山内）：【学外研修】花と緑の基礎知識の習得。実際に花や緑の素材をみて触れながら、環境に配慮したおもてなしの生け方を習得する。（花材費 3,000円）</p> <p>⑥5月20日（山内）：イメージスケールの理解とマテリアルセレクション。おもてなし空間イメージにふさわしいマテリアルをセレクトできるように知識を学ぶ。</p> <p>⑦5月27日（西橋）：ローカルな魅力で世界をもてなす～神戸ベイシェラトンホテル フードセレクトショップ「シェラトンマルシェ」の取組み。</p> <p>⑧6月3日（山内）：海外のおもてなし空間と歴史。現在の海外おもてなしトレンドを知る。</p> <p>⑨6月10日（西橋）：「粋」の文化</p> <p>⑩6月17日（山内）：日本の春夏秋冬と暦の知識。季節の枝物のあしらいを知る。</p> <p>⑪6月24日（西橋）：日本に見るおもてなしの空間、演出。和の機能性とおもてなし。</p> <p>⑫7月1日（山内）：おもてなしテーブルコーディネート（2名セッティング）①机上プレゼンテーション。提案書によるテーブルコーディネートの発表と再考。</p> <p>⑬7月8日（西橋）：もてなし力、もてなされ力</p> <p>⑭7月9日（土）（西橋）：【学外研修】テーブルマナー講習（於：神戸ベイシェラトンホテル&タワーズ）食事を食べながらテーブルマナーを学ぶ。（食事代 5,000円）</p> <p>⑮7月15日（山内）：おもてなしテーブルコーディネート（2名セッティング）②実物プレゼンテーション。（コーディネート内容は実費）</p> | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | <p>○授業外における学習（準備学習の内容）</p> <p>山内：日常生活の中で花や緑を積極的に取り入れてみる。</p> <p>西橋：日常生活の中でのおもてなしの場面を意識する。</p> <p><2時間></p> <p>授業後学習：</p> <p>山内：実際のワークについては各自携帯で撮影し、コーディネートバランスを確認する。</p> <p>西橋：学んだ内容を理解し要点をまとめる。理解できなかった内容は次の授業で質問する。学んだ内容を実践してみる。</p> <p><2時間></p> | | | | | | |
| 授業方法 | <p>①演習</p> <p>山内：スライドと実際の花材をみせながら五感で感じる講義およびディスカッション。</p> <p>西橋：講義とディスカッション。</p> <p>②実技</p> <p>山内：花や緑を実際に生ける。簡単なテーブルコーディネートおよびセッティング。</p> <p>西橋：テーブルマナー演習。身だしなみ、マナー演習。</p> | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | <p>授業内の提出物50%：各回提出のリアクションペーパー。到達目標①および⑥に関する到達度の確認。</p> <p>各回の積極的な授業参加50%：各回設定のテーマの課題を評価する。到達目標①および⑥に関する到達度の確認。</p> | | | | | | |

| | |
|--------|--|
| 履修上の注意 | ①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②遅刻は欠席扱いとする。 ③山内：学外講習あり（花ばさみ・花材費3,000円、交通費は実費） ④西橋：学外講習あり（食事代5,000円、交通費は実費） ⑤③+④の演習費8,000円の入金は、授業内で説明する。 |
| 教科書 | 山内：配布資料あり 西橋：なし |
| 参考書 | 山内、西橋：なし |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 香りの美学 | | | | | | |
| 担当教員 | 国枝 里美 | | | | | 科目ナンバ- | F73110 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 水曜4 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 香りによるQOLの向上 | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>香りは人の生活の中に常に存在するものである。私たちは香水、洗剤、石けん、アロマ等様々な香りを身に纏っているが、香りは自律神経や免疫系など人間に対する様々な作用をもち、他者に自分を魅力的に印象つける手法としても用いられる。本科目ではそうした香りの歴史や生理学的な知識を学び、実際に香りを用いてその有効的な活用方法を修得することにより、日々のストレスの緩和や心身の健康や美容を増進する手法を身につけていく。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <p>(1) 生活における香りの役割について説明できる。【知識・理解】 (2) 身の周りの香りに興味を持ち、能動的に学習することができる。【汎用的技能】 (3) 自分のライフスタイルに香りを取り入れることができる。【態度・志向性】</p> | | | | | | |
| 授業計画 | <p>第1回 暮らしの中の香り1 社会と香り、香りの歴史 第2回 暮らしの中の香り2 ケミカルコミュニケーション 第3回 暮らしの中の香り3 身近な匂い 第4回 香りとファッション1 香水、ファッション、香りによる演出 第5回 香りとファッション2 TPOと香り、嗜好性、機能性、地域性 第6回 フレーバーと美味しさ 食品の風味、美味しさ 第7回 嗜好品 香水、茶、コーヒー、酒 第8回 天然の香り ハーブ、スパイス、香料植物 第9回 匂いの特性 化学的性質、嗅覚特性 第10回 香りの表現 官能評価、嗜好調査、生理計測 第11回 感覚 感覚間相互作用、情動、行動改善 第12回 香りが人にもたらす効果 心理作用、生理作用 第13回 匂いと身体 嗅覚障害、体臭 第14回 香りの仕事 調香師、臭気判定士、アロマセラピストなど 第15回 環境と匂い 洗剤、芳香剤、香りの教育</p> | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | <p>授業前：授業のテーマ・キーワードに関連する論文や資料を調べ、メモにまとめる<2時間> 授業後：レポート課題を行い、課題は必ず提出する<2時間以上></p> | | | | | | |
| 授業方法 | <p>遠隔形式（オンデマンド）と対面形式とを併用する ※対面授業回は授業で事前にアナウンスする</p> | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | <p>授業内での提出物 30%：各回提出の講義内容についてのコメント・質問など 到達目標（1）および（2）に関する達成度の確認 授業後の提出物 70%：レポートなどの課題から講義内容の理解度、関心度を評価する。 到達目標（1）および（3）に関する達成度の確認</p> | | | | | | |
| 履修上の注意 | 精油や香水の香りを嗅ぐことがある。 | | | | | | |
| 教科書 | 授業資料を配布する | | | | | | |
| 参考書 | なし | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 家族社会学 | | | | | | |
| 担当教員 | 稲見 直子 | | | | | 科目ナンバ- | F72040 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 火曜4 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 現代家族をめぐる様々な現象や問題について、家族社会学の観点からその要因や成り立ちを考察する。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 少子高齢化や未婚化・晩婚化など、現代の日本社会では家族をめぐる様々な現象や問題が生じ、家族のあり方の再編が求められている。授業では家族を多角的に捉え「家族とは何か」を問い直し、現代家族の諸現象・諸問題の現状や要因を家族社会学の観点から考察する。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1) 家族をめぐる諸現象・諸問題に関するグラフや表を読み解くことができる。【知識・理解】 (2) 家族をめぐる諸現象・諸問題の要因について、専門用語を用いて説明できる。【知識・理解】 (3) 家族関係に関するトピックについて調べ、レポートを書くことができる。【態度・志向、汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | 第1回 イントロダクション 第2回 家族と文化 第3回 少子化 第4回 未婚化・晩婚化 第5回 青年期の自立と家族 第6回 近代家族の成立(1) 映画「クレイマー、クレイマー」から考える家族 第7回 近代家族の成立(2) 家族のあり方の歴史の変容 第8回 ジェンダーと子どもの社会化 第9回 家族と労働 第10回 育児と夫婦の役割 第11回 ひとり親家庭と貧困 第12回 家族と暴力 第13回 家族と介護 第14回 家族と住まい 第15回 新しい<家族>の可能性—コレクティブハウジング | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 授業前準備学習：授業で扱うテーマの箇所を教科書を読んで予習し、指定した用語について下調べをしておく。<2時間> 授業後学習：授業で習ったテーマに関連する新聞記事を探して読んでおく。<2時間> | | | | | | |
| 授業方法 | 基本的に講義形式をとるが、授業内ではリアクション・ペーパーの記入やグループ・ディスカッションなども積極的に取り入れ、学生の主体的な参加を促す。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 授業態度・授業内のリアクション・ペーパー(30%)：与えられた質問に関して分析的にコメントを書く。到達目標(1)(2)の確認。 小レポート(20%)：授業内で扱ったテーマに関連するレポート。到達目標(1)(2)(3)の確認。 期末テスト(50%)：家族に関するグラフ・表の読み解き、家族社会学の専門用語の理解を評価。到達目標(1)(2)(3)の確認。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 出席回数が全体の3分の2に満たない者は原則単位認定は行わない。 20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とする。 授業中のスマホ操作・私語・居眠り禁止。注意しても改善されない場合は減点対象とする。 授業中は適宜メモ・ノートを取り、授業内容の理解に努める。 欠席者については、事前連絡者のみ翌週にレジメを渡す。 | | | | | | |
| 教科書 | 適宜レジメと資料を配布する。 | | | | | | |
| 参考書 | 『問いからはじめる家族社会学——多様化する家族の包摂に向けて』、岩間暁子・大和礼子・田間泰子、有斐閣 ストゥディア、2018、ISBN9784641150164 『入門家族社会学』、永田夏来・松木洋人編、新泉社、2019、ISBN9784787717047 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | カラーデザイン論 / (色彩検定3級対応) | | | | | | |
| 担当教員 | 戸田 賀志子 | | | | | 科目ナンバ- | F11050 |
| 学期 | 前期 / 1st semester | 曜日・時限 | 木曜3 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | カラーの基礎を学びデザインに活用できる応用力を学ぶ。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 人が得る情報の多くは視覚を入口とする。効果的で説得力のあるウェブページを作成するため、カラーの本質を理解するとともに、積極的にカラーをコーディネート、コントロールできるよう基礎的な知識を学ぶ。主な内容は、色とは何か、色の見え方、眼のしくみ、色の測定方法、照明、色の混合、色の表示、色彩心理、色彩調和、色彩計画などについて理解を深め、ウェブをデザインする上の基礎的知識を習得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1) 色彩検定3級の過去問題を解くことができる【知識・理解】 2) 眼のしくみについての説明ができる【知識・理解】 3) 色彩調和を理解し、デザインに活用できる【汎用的技能】 4) ウェブ上において色の見え方を操作できる【汎用的技能】 5) ファッションやインテリアにカラーの表現ができる【態度・志向性】 | | | | | | |
| 授業計画 | 1. オリエンテーション (課題テーマ、方針・進め方の説明) 2. 色はなぜ見えるのか。眼のしくみ 3. 色の混色 4. 色の測定方法や照明と色の見え方 5. 色の表示 (日本色研配色体系 (P.C.C.S.)) 6. 色の心理的効果 7. 色彩調和1: 色相を手がかりにして配色を考える 8. 色彩調和2: トーンを手がかりにして配色を考える 9. 色彩調和3: 配色の基本的な技法 10. ファッションと色彩 11. インテリアと色彩 12. 色彩検定 過去問題 13. 色のイメージと連想 14. 色彩効果: 色彩と構成 15. 色彩計画、最後に試験 | | | | | | |
| 授業外における学習 (準備学習の内容・時間) | 授業前準備学習: 授業内に説明を行う。(学習時間2時間) 授業後学習: 学修内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。(学習時間2時間) | | | | | | |
| 授業方法 | 講義: ①教科書を中心に進める。 ②各回授業の内容に沿った練習問題や課題に取り組む。 ③色彩検定3級の過去問題に挑戦する。 ④テーマの導入を図る練習問題について、グループまたはペアによるディスカッションを行う。 ⑤松蔭manabaの小テストを使い、理解度を確認する。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 試験80%: 色彩検定3級のレベルの理解度を評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 提出物20%: 色のイメージデザインやウェブデザインの課題を評価する。到達目標(3)(4)(5)に関する到達度の確認。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | ①10回以上の出席がないと受講資格を失う。 ②遅刻は欠席扱いとする ③色彩検定3級を受験することが望ましい。 ④毎時間、練習問題を解くため、パソコンを持参する。 ⑤指定する課題は、締切までに必ず提出する。 ⑥購入した教科書は、「ライフカラーコーディネート演習」にも使用する。 ⑦ファッションデザイン概論で『新配色カード199b』を購入した学生は、同じものを使用する。 | | | | | | |
| 教科書 | 『文部科学省後援 色彩検定 公式テキスト3級編』、内閣府認定 公益社団法人色彩検定協会 ISBN978-4-90928-03-0 定価 (本体2,200円+税) | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて、授業内で紹介する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | からだの文化史 | | | | | | |
| 担当教員 | 森 治子 | | | | | 科目ナンバ- | F12080 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 木曜3 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | からはどのように見られてきたか/見せられてきたかということを、芸術表現や文化的な事象から考察する。 | | | | | | |
| 授業の概要 | からだに対するあつかいや美的感覚は時代、民族、性別、年齢などによっておおきく異なる。芸術や芸能のなかでからはどのように描かれ、表現されてきたか、からはどのように飾られてきたかということを取り上げ、検討する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1. からだに関する美意識について、多様性を理解することができる。【知識・理解】 2. ひとのからだがかどのようにあつかわれてきたか、歴史的な背景を理解し、文化的な特徴について考えることができる。【知識・理解】 3. 美意識とからだに関する専門用語を理解し、説明することができる。【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | 1. イントロダクションーからだと文化についてー 2. うつくしいからだープロポーションと美意識 (1) 欧米ー 3. うつくしいからだープロポーションと美意識 (2) 日本ー 4. 化粧 5. 髪型 6. からだを誇張するための服飾 7. からだを変形させるための服飾 8. からだをいじる装飾 9. 解放されるからだ (1) 下着の歴史 10. 解放されるからだ (2) 女性の社会進出とパンツスタイル 11. 解放されるからだ (3) ジェンダーとファッション 12. からだと芸術 (1) 描かれたからだ 13. からだと芸術 (2) 身体表現と美意識 14. 「かわいい」からだ 15. まとめ | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 【授業前準備学習】授業内で翌週の授業の準備学習について説明する<2時間>。 【授業後学習】授業で学んだ内容を確認し、わからない語句等は調べてノートを整理する<2時間>。 授業中に関連する小説や映画、美術の展覧会等を紹介するので、新しい文化や芸術に触れる機会があれば、積極的に参加できるように、日常的に未知の文化に対するアンテナをはりめぐらせてください。 | | | | | | |
| 授業方法 | 講義 必要に応じて映画や絵画などの視覚資料を用いる。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 平常点：50% 期末レポート：50% 平常点のうち、授業中に提出するコメントカードが20%、小レポートが30% | | | | | | |
| 履修上の注意 | 途中退出や途中入室は講義の進行上の妨げとなるので控えること。やむを得ない場合は、教員に事前に知らせること。映像資料を観ることが多いので、私語は控えること。 | | | | | | |
| 教科書 | なし | | | | | | |
| 参考書 | 授業時に適宜紹介する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 基礎演習A/FHD基礎演習A | | | | | | |
| 担当教員 | 戸田・西川・米原・山本 | | | | | 科目ナンバ- | F0101A |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 水曜1 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | コミュニケーション・リテラシー入門 | | | | | | |
| 授業の概要 | 基礎演習Aでは4クラスに分かれ、大学4年間の学習の基盤となり、かつ2年次の地域貢献デザイン演習において必要となるコミュニケーション・リテラシーの入門編について学ぶ。前期は4人の担当教員によるオムニバス形式で4回ずつ教室も交代しながら進行する。内容は、身近な生活空間である本学キャンパスの観察を通じた資料収集とグループによるまとめ、チームで話し合うことによる多様な意見、考え方の共有、デザインやプロジェクトの発想源となるイメージの表現スキルなどの習得が目的となる。詳細に関しては、新入生ガイダンス時にオリエンテーションを実施する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学の授業を受講するための基礎的な作法を身に着け、自らの考えを発表できるようになる。 【汎用的技能、態度・志向性】 2. キャンパスを観察し、テーマに沿って資料収集や空間評価を行い、話し合いまとめられる。 【汎用的技能】 3. マインドマップを利用してアイデア探索、デザイン発想、プロジェクトを計画できる。 【汎用的技能】 4. 話す・聞くの基本的なスキルを用い、話し合いの中で問題を分析し、解決を図ることができる。 【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. データ・コレクション【戸田 賀志子】 2. 調べる：テーマについて調べてみよう【戸田 賀志子】 3. 資料を集める：情報を編集し、発表の資料をつくってみよう【戸田 賀志子】 4. 言葉で伝える：発表してみよう【戸田 賀志子】 5. Campus Watching：松蔭キャンパスについて学ぶ、調査計画【米原 慶子】 6. グルーピングとキャンパス調査【米原 慶子】 7. 調査内容のまとめ【米原 慶子】 8. テーマごとに発表。コメントの提出【米原 慶子】 9. マインドマップとは、作成ルール、応用例【山本 浩司】 10. 今日の私のファッション：色彩やイラストの活用法【山本 浩司】 11. 旅行計画：マインドマップの再構成とソフトの利用【山本 浩司】 12. 旅行計画：プレゼンテーション【山本 浩司】 13. ノート・テイキング：講義映像を見ながら実際にノートをとる【西川 良子】 14. 図表を読む：いろいろな立場から図表を読み込むグループワークを行う【西川 良子】 15. ビブリオバトル：自分のお気に入りの本を伝える【西川 良子】 16. ビブリオバトル：発表し評価する【西川 良子】 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前準備学習：授業内で説明する。＜学習時間2時間＞ 授業後学習：次の授業までに課題を提出すること。＜学習時間2時間＞ | | | | | | |
| 授業方法 | 演習：資料収集などのグループワークや相互理解のためのディスカッション、イメージ表現のプレゼンテーションなどを行う。＜BYOD対象科目＞ | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 授業時の態度、積極性、小レポートなどの平常点（50%）、各4回の担当教員による主要課題の平均（50%）を合わせて評価する。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 単位取得のためには10回以上の出席を必要とする。 授業後学習、伝達事項などにmanabaを活用する。 授業に必要な用具・素材などの指示に注意すること。 | | | | | | |
| 教科書 | 特に指定しない。 | | | | | | |
| 参考書 | 授業時に指示する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 基礎演習A/FHD基礎演習A | | | | | | |
| 担当教員 | 戸田・西川・米原・山本 | | | | | 科目ナンバ- | F0101A |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 水曜1 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | コミュニケーション・リテラシー入門 | | | | | | |
| 授業の概要 | 基礎演習Aでは4クラスに分かれ、大学4年間の学習の基盤となり、かつ2年次の地域貢献デザイン演習において必要となるコミュニケーション・リテラシーの入門編について学ぶ。前期は4人の担当教員によるオムニバス形式で4回ずつ教室も交代しながら進行する。内容は、身近な生活空間である本学キャンパスの観察を通じた資料収集とグループによるまとめ、チームで話し合うことによる多様な意見、考え方の共有、デザインやプロジェクトの発想源となるイメージの表現スキルなどの習得が目的となる。詳細に関しては、新入生ガイダンス時にオリエンテーションを実施する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学の授業を受講するための基礎的な作法を身に着け、自らの考えを発表できるようになる。 【汎用的技能、態度・志向性】 2. キャンパスを観察し、テーマに沿って資料収集や空間評価を行い、話し合いまとめられる。 【汎用的技能】 3. マインドマップを利用してアイデア探索、デザイン発想、プロジェクトを計画できる。 【汎用的技能】 4. 話す・聞くの基本的なスキルを用い、話し合いの中で問題を分析し、解決を図ることができる。 【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. データ・コレクション【戸田 賀志子】 2. 調べる：テーマについて調べてみよう【戸田 賀志子】 3. 資料を集める：情報を編集し、発表の資料をつくってみよう【戸田 賀志子】 4. 言葉で伝える：発表してみよう【戸田 賀志子】 5. Campus Watching：松蔭キャンパスについて学ぶ、調査計画【米原 慶子】 6. グルーピングとキャンパス調査【米原 慶子】 7. 調査内容のまとめ【米原 慶子】 8. テーマごとに発表。コメントの提出【米原 慶子】 9. マインドマップとは、作成ルール、応用例【山本 浩司】 10. 今日の私のファッション：色彩やイラストの活用法【山本 浩司】 11. 旅行計画：マインドマップの再構成とソフトの利用【山本 浩司】 12. 旅行計画：プレゼンテーション【山本 浩司】 13. ノート・テイキング：講義映像を見ながら実際にノートをとる【西川 良子】 14. 図表を読む：いろいろな立場から図表を読み込むグループワークを行う【西川 良子】 15. ビブリオバトル：自分のお気に入りの本を伝える【西川 良子】 16. ビブリオバトル：発表し評価する【西川 良子】 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前準備学習：授業内で説明する。＜学習時間2時間＞ 授業後学習：次の授業までに課題を提出すること。＜学習時間2時間＞ | | | | | | |
| 授業方法 | 演習：資料収集などのグループワークや相互理解のためのディスカッション、イメージ表現のプレゼンテーションなどを行う。＜BYOD対象科目＞ | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 授業時の態度、積極性、小レポートなどの平常点（50%）、各4回の担当教員による主要課題の平均（50%）を合わせて評価する。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 単位取得のためには10回以上の出席を必要とする。 授業後学習、伝達事項などにmanabaを活用する。 授業に必要な用具・素材などの指示に注意すること。 | | | | | | |
| 教科書 | 特に指定しない。 | | | | | | |
| 参考書 | 授業時に指示する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 基礎演習A/FHD基礎演習A | | | | | | |
| 担当教員 | 戸田・西川・米原・山本 | | | | | 科目ナンバ- | F0101A |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 水曜1 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | コミュニケーション・リテラシー入門 | | | | | | |
| 授業の概要 | 基礎演習Aでは4クラスに分かれ、大学4年間の学習の基盤となり、かつ2年次の地域貢献デザイン演習において必要となるコミュニケーション・リテラシーの入門編について学ぶ。前期は4人の担当教員によるオムニバス形式で4回ずつ教室も交代しながら進行する。内容は、身近な生活空間である本学キャンパスの観察を通じた資料収集とグループによるまとめ、チームで話し合うことによる多様な意見、考え方の共有、デザインやプロジェクトの発想源となるイメージの表現スキルなどの習得が目的となる。詳細に関しては、新入生ガイダンス時にオリエンテーションを実施する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学の授業を受講するための基礎的な作法を身に着け、自らの考えを発表できるようになる。 【汎用的技能、態度・志向性】 2. キャンパスを観察し、テーマに沿って資料収集や空間評価を行い、話し合いまとめられる。 【汎用的技能】 3. マインドマップを利用してアイデア探索、デザイン発想、プロジェクトを計画できる。 【汎用的技能】 4. 話す・聞くの基本的なスキルを用い、話し合いの中で問題を分析し、解決を図ることができる。 【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. データ・コレクション【戸田 賀志子】 2. 調べる：テーマについて調べてみよう【戸田 賀志子】 3. 資料を集める：情報を編集し、発表の資料をつくってみよう【戸田 賀志子】 4. 言葉で伝える：発表してみよう【戸田 賀志子】 5. Campus Watching：松蔭キャンパスについて学ぶ、調査計画【米原 慶子】 6. グルーピングとキャンパス調査【米原 慶子】 7. 調査内容のまとめ【米原 慶子】 8. テーマごとに発表。コメントの提出【米原 慶子】 9. マインドマップとは、作成ルール、応用例【山本 浩司】 10. 今日の私のファッション：色彩やイラストの活用法【山本 浩司】 11. 旅行計画：マインドマップの再構成とソフトの利用【山本 浩司】 12. 旅行計画：プレゼンテーション【山本 浩司】 13. ノート・テイキング：講義映像を見ながら実際にノートをとる【西川 良子】 14. 図表を読む：いろいろな立場から図表を読み込むグループワークを行う【西川 良子】 15. ビブリオバトル：自分のお気に入りの本を伝える【西川 良子】 16. ビブリオバトル：発表し評価する【西川 良子】 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前準備学習：授業内で説明する。＜学習時間2時間＞ 授業後学習：次の授業までに課題を提出すること。＜学習時間2時間＞ | | | | | | |
| 授業方法 | 演習：資料収集などのグループワークや相互理解のためのディスカッション、イメージ表現のプレゼンテーションなどを行う。＜BYOD対象科目＞ | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 授業時の態度、積極性、小レポートなどの平常点（50%）、各4回の担当教員による主要課題の平均（50%）を合わせて評価する。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 単位取得のためには10回以上の出席を必要とする。 授業後学習、伝達事項などにmanabaを活用する。 授業に必要な用具・素材などの指示に注意すること。 | | | | | | |
| 教科書 | 特に指定しない。 | | | | | | |
| 参考書 | 授業時に指示する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 基礎演習A/FHD基礎演習A | | | | | | |
| 担当教員 | 戸田・西川・米原・山本 | | | | | 科目ナンバ- | F0101A |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 水曜1 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | コミュニケーション・リテラシー入門 | | | | | | |
| 授業の概要 | 基礎演習Aでは4クラスに分かれ、大学4年間の学習の基盤となり、かつ2年次の地域貢献デザイン演習において必要となるコミュニケーション・リテラシーの入門編について学ぶ。前期は4人の担当教員によるオムニバス形式で4回ずつ教室も交代しながら進行する。内容は、身近な生活空間である本学キャンパスの観察を通じた資料収集とグループによるまとめ、チームで話し合うことによる多様な意見、考え方の共有、デザインやプロジェクトの発想源となるイメージの表現スキルなどの習得が目的となる。詳細に関しては、新入生ガイダンス時にオリエンテーションを実施する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学の授業を受講するための基礎的な作法を身に着け、自らの考えを発表できるようになる。 【汎用的技能、態度・志向性】 2. キャンパスを観察し、テーマに沿って資料収集や空間評価を行い、話し合いまとめられる。 【汎用的技能】 3. マインドマップを利用してアイデア探索、デザイン発想、プロジェクトを計画できる。 【汎用的技能】 4. 話す・聞くの基本的なスキルを用い、話し合いの中で問題を分析し、解決を図ることができる。 【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. データ・コレクション【戸田 賀志子】 2. 調べる：テーマについて調べてみよう【戸田 賀志子】 3. 資料を集める：情報を編集し、発表の資料をつくってみよう【戸田 賀志子】 4. 言葉で伝える：発表してみよう【戸田 賀志子】 5. Campus Watching：松蔭キャンパスについて学ぶ、調査計画【米原 慶子】 6. グルーピングとキャンパス調査【米原 慶子】 7. 調査内容のまとめ【米原 慶子】 8. テーマごとに発表。コメントの提出【米原 慶子】 9. マインドマップとは、作成ルール、応用例【山本 浩司】 10. 今日の私のファッション：色彩やイラストの活用法【山本 浩司】 11. 旅行計画：マインドマップの再構成とソフトの利用【山本 浩司】 12. 旅行計画：プレゼンテーション【山本 浩司】 13. ノート・テイキング：講義映像を見ながら実際にノートをとる【西川 良子】 14. 図表を読む：いろいろな立場から図表を読み込むグループワークを行う【西川 良子】 15. ビブリオバトル：自分のお気に入りの本を伝える【西川 良子】 16. ビブリオバトル：発表し評価する【西川 良子】 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前準備学習：授業内で説明する。＜学習時間2時間＞ 授業後学習：次の授業までに課題を提出すること。＜学習時間2時間＞ | | | | | | |
| 授業方法 | 演習：資料収集などのグループワークや相互理解のためのディスカッション、イメージ表現のプレゼンテーションなどを行う。＜BYOD対象科目＞ | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 授業時の態度、積極性、小レポートなどの平常点（50%）、各4回の担当教員による主要課題の平均（50%）を合わせて評価する。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 単位取得のためには10回以上の出席を必要とする。 授業後学習、伝達事項などにmanabaを活用する。 授業に必要な用具・素材などの指示に注意すること。 | | | | | | |
| 教科書 | 特に指定しない。 | | | | | | |
| 参考書 | 授業時に指示する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 基礎演習B/FHD基礎演習B | | | | | | |
| 担当教員 | 戸田・西川・米原・山本 | | | | | 科目ナンバ- | F0101B |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 水曜1 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | コミュニケーション・リテラシー基礎 | | | | | | |
| 授業の概要 | 基礎演習 Bでは4クラスに分かれ、大学4年間の学習の基盤となり、かつ2年次の地域貢献デザイン演習において必要となるコミュニケーション・リテラシーの基礎編について学ぶ。後期も4人の担当教員によるオムニバス形式で4回ずつ教室も交代しながら進行する。内容は、前期の入門編を踏まえ、本学キャンパスから身近な地域社会に拡げた観察結果の写真や絵による活用法、話し合いから双方向コミュニケーションを可能にする情報編集とプレゼンテーション、文章によるコミュニケーションの基礎となる表現スキルやWebを利用した表現方法などの習得が目的となる。詳細に関しては、新入生ガイダンス時にオリエンテーションを実施する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 聞く、読む、書く、伝えるなどの力が身に付き、レポートが書ける。 【汎用的技術】 2. 周辺空間を観察し、評価、改善提案できる。 【汎用的技術】 3. PCソフトの基本操作を理解し、情報をまとめることができる。 【知識・理解、汎用的技術】 4. 情報を他者に伝わりやすいよう編集し、プレゼンテーションすることができる。 【知識・理解、汎用的技術】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. バーバルシンキング 【戸田 賀志子】 2. 読む・まとめる：要約して書こう 【戸田 賀志子】 3. 考える、整理する：考えるシートを使って書こう 【戸田 賀志子】 4. 文章で伝える：レポートを書こう 【戸田 賀志子】 5. Town Watching：空間提案事例の紹介、課題説明 【米原 慶子】 6. 周辺空間と参考事例のリサーチ 【米原 慶子】 7. 提案のまとめ 【米原 慶子】 8. プレゼンテーション 【米原 慶子】 9. PCスキル：基本操作を学ぼう 【山本 浩司】 10. データ化：Excelを使ってみよう 【山本 浩司】 11. プログラミング：Webページの基本構造を学ぼう 【山本 浩司】 12. Webで伝えよう：Webページをつくらう 【山本 浩司】 13. 図表による情報の見える化とは：表の作成 【西川 良子】 14. マップ：要素の関係を平面的配置で表現する 【西川 良子】 15. チャート：プロセスの流れや組織構造を表現する 【西川 良子】 16. 作成したデータをプレゼンテーションする 【西川 良子】 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前準備学習：授業内で説明する。＜学習時間2時間＞ 授業後学習：次の授業までに課題を提出すること。＜学習時間2時間＞ | | | | | | |
| 授業方法 | 演習：資料収集などのグループワークや相互理解のためのディスカッション、イメージ表現のプレゼンテーションなどを行う。＜BYOD対象科目＞ | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 授業時の態度、積極性、小レポートなどの平常点（50%）、各4回の担当教員による主要課題の平均（50%）を合わせて評価する。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 単位取得のためには10回以上の出席を必要とする。授業後学習、伝達事項などにmanabaを活用する。授業に必要な用具・素材などの指示に注意すること。 | | | | | | |
| 教科書 | 特に指定しない | | | | | | |
| 参考書 | 授業時に指定する | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 基礎演習B/FHD基礎演習B | | | | | | |
| 担当教員 | 戸田・西川・米原・山本 | | | | | 科目ナンバ- | F0101B |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 水曜1 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | コミュニケーション・リテラシー基礎 | | | | | | |
| 授業の概要 | 基礎演習 Bでは4クラスに分かれ、大学4年間の学習の基盤となり、かつ2年次の地域貢献デザイン演習において必要となるコミュニケーション・リテラシーの基礎編について学ぶ。後期も4人の担当教員によるオムニバス形式で4回ずつ教室も交代しながら進行する。内容は、前期の入門編を踏まえ、本学キャンパスから身近な地域社会に拡げた観察結果の写真や絵による活用法、話し合いから双方向コミュニケーションを可能にする情報編集とプレゼンテーション、文章によるコミュニケーションの基礎となる表現スキルやWebを利用した表現方法などの習得が目的となる。詳細に関しては、新入生ガイダンス時にオリエンテーションを実施する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 聞く、読む、書く、伝えるなどの力が身に付き、レポートが書ける。 【汎用的技術】 2. 周辺空間を観察し、評価、改善提案できる。 【汎用的技術】 3. PCソフトの基本操作を理解し、情報をまとめることができる。 【知識・理解、汎用的技術】 4. 情報を他者に伝わりやすいよう編集し、プレゼンテーションすることができる。 【知識・理解、汎用的技術】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. バーバルシンキング 【戸田 賀志子】 2. 読む・まとめる：要約して書こう 【戸田 賀志子】 3. 考える、整理する：考えるシートを使って書こう 【戸田 賀志子】 4. 文章で伝える：レポートを書こう 【戸田 賀志子】 5. Town Watching：空間提案事例の紹介、課題説明 【米原 慶子】 6. 周辺空間と参考事例のリサーチ 【米原 慶子】 7. 提案のまとめ 【米原 慶子】 8. プレゼンテーション 【米原 慶子】 9. PCスキル：基本操作を学ぼう 【山本 浩司】 10. データ化：Excelを使ってみよう 【山本 浩司】 11. プログラミング：Webページの基本構造を学ぼう 【山本 浩司】 12. Webで伝えよう：Webページをつくらう 【山本 浩司】 13. 図表による情報の見える化とは：表の作成 【西川 良子】 14. マップ：要素の関係を平面的配置で表現する 【西川 良子】 15. チャート：プロセスの流れや組織構造を表現する 【西川 良子】 16. 作成したデータをプレゼンテーションする 【西川 良子】 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前準備学習：授業内で説明する。＜学習時間2時間＞ 授業後学習：次の授業までに課題を提出すること。＜学習時間2時間＞ | | | | | | |
| 授業方法 | 演習：資料収集などのグループワークや相互理解のためのディスカッション、イメージ表現のプレゼンテーションなどを行う。＜BYOD対象科目＞ | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 授業時の態度、積極性、小レポートなどの平常点（50%）、各4回の担当教員による主要課題の平均（50%）を合わせて評価する。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 単位取得のためには10回以上の出席を必要とする。授業後学習、伝達事項などにmanabaを活用する。授業に必要な用具・素材などの指示に注意すること。 | | | | | | |
| 教科書 | 特に指定しない | | | | | | |
| 参考書 | 授業時に指定する | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 基礎演習B/FHD基礎演習B | | | | | | |
| 担当教員 | 戸田・西川・米原・山本 | | | | | 科目ナンバ- | F0101B |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 水曜1 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | コミュニケーション・リテラシー基礎 | | | | | | |
| 授業の概要 | 基礎演習 Bでは4クラスに分かれ、大学4年間の学習の基盤となり、かつ2年次の地域貢献デザイン演習において必要となるコミュニケーション・リテラシーの基礎編について学ぶ。後期も4人の担当教員によるオムニバス形式で4回ずつ教室も交代しながら進行する。内容は、前期の入門編を踏まえ、本学キャンパスから身近な地域社会に拡げた観察結果の写真や絵による活用法、話し合いから双方向コミュニケーションを可能にする情報編集とプレゼンテーション、文章によるコミュニケーションの基礎となる表現スキルやWebを利用した表現方法などの習得が目的となる。詳細に関しては、新入生ガイダンス時にオリエンテーションを実施する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 聞く、読む、書く、伝えるなどの力が身に付き、レポートが書ける。 【汎用的技術】 2. 周辺空間を観察し、評価、改善提案できる。 【汎用的技術】 3. PCソフトの基本操作を理解し、情報をまとめることができる。 【知識・理解、汎用的技術】 4. 情報を他者に伝わりやすいよう編集し、プレゼンテーションすることができる。 【知識・理解、汎用的技術】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. バーバルシンキング 【戸田 賀志子】 2. 読む・まとめる：要約して書こう 【戸田 賀志子】 3. 考える、整理する：考えるシートを使って書こう 【戸田 賀志子】 4. 文章で伝える：レポートを書こう 【戸田 賀志子】 5. Town Watching：空間提案事例の紹介、課題説明 【米原 慶子】 6. 周辺空間と参考事例のリサーチ 【米原 慶子】 7. 提案のまとめ 【米原 慶子】 8. プレゼンテーション 【米原 慶子】 9. PCスキル：基本操作を学ぼう 【山本 浩司】 10. データ化：Excelを使ってみよう 【山本 浩司】 11. プログラミング：Webページの基本構造を学ぼう 【山本 浩司】 12. Webで伝えよう：Webページをつくらう 【山本 浩司】 13. 図表による情報の見える化とは：表の作成 【西川 良子】 14. マップ：要素の関係を平面的配置で表現する 【西川 良子】 15. チャート：プロセスの流れや組織構造を表現する 【西川 良子】 16. 作成したデータをプレゼンテーションする 【西川 良子】 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前準備学習：授業内で説明する。＜学習時間2時間＞ 授業後学習：次の授業までに課題を提出すること。＜学習時間2時間＞ | | | | | | |
| 授業方法 | 演習：資料収集などのグループワークや相互理解のためのディスカッション、イメージ表現のプレゼンテーションなどを行う。＜BYOD対象科目＞ | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 授業時の態度、積極性、小レポートなどの平常点（50%）、各4回の担当教員による主要課題の平均（50%）を合わせて評価する。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 単位取得のためには10回以上の出席を必要とする。授業後学習、伝達事項などにmanabaを活用する。授業に必要な用具・素材などの指示に注意すること。 | | | | | | |
| 教科書 | 特に指定しない | | | | | | |
| 参考書 | 授業時に指定する | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 基礎演習B/FHD基礎演習B | | | | | | |
| 担当教員 | 戸田・西川・米原・山本 | | | | | 科目ナンバ- | F0101B |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 水曜1 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | コミュニケーション・リテラシー基礎 | | | | | | |
| 授業の概要 | 基礎演習 Bでは4クラスに分かれ、大学4年間の学習の基盤となり、かつ2年次の地域貢献デザイン演習において必要となるコミュニケーション・リテラシーの基礎編について学ぶ。後期も4人の担当教員によるオムニバス形式で4回ずつ教室も交代しながら進行する。内容は、前期の入門編を踏まえ、本学キャンパスから身近な地域社会に拡げた観察結果の写真や絵による活用法、話し合いから双方向コミュニケーションを可能にする情報編集とプレゼンテーション、文章によるコミュニケーションの基礎となる表現スキルやWebを利用した表現方法などの習得が目的となる。詳細に関しては、新入生ガイダンス時にオリエンテーションを実施する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 聞く、読む、書く、伝えるなどの力が身に付き、レポートが書ける。 【汎用的技術】 2. 周辺空間を観察し、評価、改善提案できる。 【汎用的技術】 3. PCソフトの基本操作を理解し、情報をまとめることができる。 【知識・理解、汎用的技術】 4. 情報を他者に伝わりやすいよう編集し、プレゼンテーションすることができる。 【知識・理解、汎用的技術】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. バーバルシンキング 【戸田 賀志子】 2. 読む・まとめる：要約して書こう 【戸田 賀志子】 3. 考える、整理する：考えるシートを使って書こう 【戸田 賀志子】 4. 文章で伝える：レポートを書こう 【戸田 賀志子】 5. Town Watching：空間提案事例の紹介、課題説明 【米原 慶子】 6. 周辺空間と参考事例のリサーチ 【米原 慶子】 7. 提案のまとめ 【米原 慶子】 8. プレゼンテーション 【米原 慶子】 9. PCスキル：基本操作を学ぼう 【山本 浩司】 10. データ化：Excelを使ってみよう 【山本 浩司】 11. プログラミング：Webページの基本構造を学ぼう 【山本 浩司】 12. Webで伝えよう：Webページをつくらう 【山本 浩司】 13. 図表による情報の見える化とは：表の作成 【西川 良子】 14. マップ：要素の関係を平面的配置で表現する 【西川 良子】 15. チャート：プロセスの流れや組織構造を表現する 【西川 良子】 16. 作成したデータをプレゼンテーションする 【西川 良子】 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前準備学習：授業内で説明する。＜学習時間2時間＞ 授業後学習：次の授業までに課題を提出すること。＜学習時間2時間＞ | | | | | | |
| 授業方法 | 演習：資料収集などのグループワークや相互理解のためのディスカッション、イメージ表現のプレゼンテーションなどを行う。＜BYOD対象科目＞ | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 授業時の態度、積極性、小レポートなどの平常点（50%）、各4回の担当教員による主要課題の平均（50%）を合わせて評価する。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 単位取得のためには10回以上の出席を必要とする。授業後学習、伝達事項などにmanabaを活用する。授業に必要な用具・素材などの指示に注意すること。 | | | | | | |
| 教科書 | 特に指定しない | | | | | | |
| 参考書 | 授業時に指定する | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 化粧品演習 | | | | | | |
| 担当教員 | 森元 亜希子 | | | | | 科目ナンバ- | F72100 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 金曜2 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | メイクアップテクニックの基礎を学ぶ。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 相モデルで基本的なメイクの姿勢、接し方、テクニックを学び、メイクを通してコミュニケーション能力を身につける。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①顔型による印象の違い、メイクの仕方によって変わる印象の違いなどを学ぶ。【知識・理解】 ②一人ひとりの顔の特徴を理解し、正しい姿勢でメイクアップができる。【汎用的技能】 ③実技を通じて、メイクへの興味をより具体的なものとして意識することが出来る。【態度・志向性】 | | | | | | |
| 授業計画 | 第1回 メイクの姿勢、立ち位置、道具の並べ方 第2回 スキンケア、マッサージ 第3回 ベースメイク、ローライト、ハイライト 第4回 アイブロウの形、描き方 第5回 アイメイクの種類、しかた 第6回 チーク、リップ 第7回 ナチュラルメイク 第8回 イメージメイクSOFT 第9回 イメージメイクSHARP 第10回 カウンセリングの仕方 第11回 カウンセリングメイク 第12回 課題作成 第13回 課題作成 第14回 課題作成 第15回 まとめ、復習、実技テスト | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前準備学習：各回授業の事前に指定するキーワードについて、指定された参考図書などで下調べをする。（学習時間2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。（学習時間2時間） | | | | | | |
| 授業方法 | ペアごとに所定の実習を行い、ペアで仕上がりについてディスカッションを行う。ペアワークの結果を踏まえて、各回設定のテーマについて、解説を行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 授業態度40%：基本実技科目のため、実習への姿勢を重視する 課題提出30%：1枚のレポートがあります 実技テスト30%：フルメイクのテストを一回行う | | | | | | |
| 履修上の注意 | 美容健康演習の履修者が望ましい 相モデルでの実習のためけが防止のため爪は短く切る。 5回以上欠席で原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 相モデルでの実習に参加しない人は、放棄とみなし欠席とする。 | | | | | | |
| 教科書 | プリントを配布します。 | | | | | | |
| 参考書 | 日本化粧品検定2級、3級 主婦の友社 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 化粧品学演習 | | | | | | |
| 担当教員 | 森元 亜希子 | | | | | 科目ナンバ- | F72100 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 金曜3 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | メイクアップテクニックの基礎を学ぶ。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 相モデルで基本的なメイクの姿勢、接し方、テクニックを学び、メイクを通してコミュニケーション能力を身につける。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①顔型による印象の違い、メイクの仕方で変わる印象の違いなどを学ぶ。【知識・理解】 ②一人ひとりの顔の特徴を理解し、正しい姿勢でメイクアップができる。【汎用的技能】 ③実技を通じて、メイクへの興味をより具体的なものとして意識することが出来る。【態度・志向性】 | | | | | | |
| 授業計画 | 第1回 メイクの姿勢、立ち位置、道具の並べ方 第2回 スキンケア、マッサージ 第3回 ベースメイク、ローライト、ハイライト 第4回 アイブロウの形、描き方 第5回 アイメイクの種類、しかた 第6回 チーク、リップ 第7回 ナチュラルメイク 第8回 イメージメイクSOFT 第9回 イメージメイクSHARP 第10回 カウンセリングの仕方 第11回 カウンセリングメイク 第12回 課題作成 第13回 課題作成 第14回 課題作成 第15回 まとめ、復習、実技テスト | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前準備学習：各回授業の事前に指定するキーワードについて、指定された参考図書などで下調べをする。（学習時間2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。（学習時間2時間） | | | | | | |
| 授業方法 | ペアごとに所定の実習を行い、ペアで仕上がりについてディスカッションを行う。ペアワークの結果を踏まえて、各回設定のテーマについて、解説を行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 授業態度40%：基本実技科目のため、実習への姿勢を重視する 課題提出30%：1枚のレポートがあります 実技テスト30%：フルメイクのテストを一回行う | | | | | | |
| 履修上の注意 | 美容健康演習の履修者が望ましい 相モデルでの実習のためけが防止のため爪は短く切る。 5回以上欠席で原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 相モデルでの実習に参加しない人は、放棄とみなし欠席とする。 | | | | | | |
| 教科書 | プリントを配布します。 | | | | | | |
| 参考書 | 日本化粧品検定2級、3級 主婦の友社 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 化粧と心理 | | | | | | |
| 担当教員 | 牛田 好美 | | | | | 科目ナンバ- | F74160 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 火曜3 | 配当学年 | 4 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 化粧行動と人間のさまざまな関わりについて考えていきます。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 私たちは、自分の魅力を相手にアピールすることによって、期待する様々な関係を築いています。化粧により、自分らしさを強調したり、あえて隠したりすることにより、「顔」を中心とした印象管理を行っています。授業では、化粧の意味、化粧への態度や行動、心理的な効果について取り上げ、具体的な化粧に関する人々の行動より、化粧をコミュニケーションや社会的スキルの一環として化粧について考えていきます。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1)化粧の社会的・心理的機能を理解することができる【知識・理解】 (2)自己および他者の日常生活をより良くするために、化粧の社会的・心理的効果を考え、化粧に関する行動を行うことができる【汎用性技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | 第1回 化粧への社会心理学的アプローチ 第2回 化粧の歴史と意味 第3回 化粧心理学の動向 第4回 化粧による自己と感情の調整 第5回 化粧と文化 第6回 現代社会における化粧 第7回 化粧と社会的適応 第8回 化粧と情動活性 第9回 精神臨床場面への応用 第10回 高齢者と化粧 第11回 個人発表(1) テーマを設定しプレゼンテーションを行う グループ① 第12回 個人発表(2) テーマを設定しプレゼンテーションを行う グループ② 第13回 個人発表(3) テーマを設定しプレゼンテーションを行う グループ③ 第14回 前期授業の質疑応答 第15回 前期試験とまとめ | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 普段から、新聞や雑誌などをよみ、社会情勢に敏感になっておいてください。 授業前準備学習：各回授業で扱うテーマのキーワードについて下調べをする(学習時間2時間) 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する(学習時間2時間) | | | | | | |
| 授業方法 | 主に、講義形式でおこないますが、テーマに沿った個人発表(プレゼンテーション)もおこないます。必要に応じて資料を配布します。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 授業内での提出物(30%)、個人発表とレポート(40%)、試験(30%)により総合的に評価します。 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパーの内容・記述の的確さ等を評価します。 個人発表(プレゼンテーション)とレポート：授業内容から各自テーマを設定し、調べた内容を発表およびレポートにまとめ提出してもらいます。調べた内容の深さや広がりについて評価します。 試験：授業で扱ったテーマに対する理解度を評価します。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 座席を指定します。 | | | | | | |
| 教科書 | 化粧行動の社会心理学 21世紀の社会心理学シリーズ9 高木修(監修) 大坊郁夫(編) 北大路書房 ISBN4-7628-2226-1 | | | | | | |
| 参考書 | 授業内で紹介します。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 化粧の文化史 | | | | | | |
| 担当教員 | 戸田 賀志子 | | | | | 科目ナンバ- | F73140 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 水曜3 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 化粧の歴史の変遷をたどり、化粧と装い、美意識や化粧観を社会的、文化的諸相とからめてさぐる。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 化粧の起源は文化発祥の頃にまでさかのぼる。社会的背景や美意識の変遷にともなって、その意味や表現に変化をみせた化粧を装いとともに、歴史的流れに沿って時系列に整理し、文化的知識を身につける。そのうえで、化粧をめぐるひとつひとつの意識（化粧観）について考える。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1)化粧の多面性を他者にわかりやすく説明することができる。【知識・理解】 (2)化粧を通じて装いや社会背景、文化的諸相に対する興味をより具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 化粧のはじまり 3. 化粧と装い 中世 4. 化粧と装い 近世 5. 化粧と装い 近代 6. 発表 7. 美肌と洗顔 8. 眉化粧 9. 化粧にみる色 白 10. 化粧にみる色 紅 11. 化粧にみる色 黒 12. メディア戦略 13. 化粧とジェンダー 14. 発表 15. まとめ | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前学習：授業内容を確認し、必要となる情報を収集しておく。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容を確認、整理し、要点をまとめる。（学習時間：2時間） | | | | | | |
| 授業方法 | 講義：事前に予習を済ませた内容の解説・講義を行う。学習内容によっては、グループ・ワークやディスカッションを行い成果を発表する。視聴覚教材（パワーポイントやDVD）を積極的に活用し、理解を深める。今日的な話題については、授業中に最新情報を調査・検討する。結果をレポートにまとめ提出する。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 提出物50%、発表30%、授業への参加度20% 提出物：学習内容を理解できているか。リアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問・事例提案）の内容、自らの興味の明確性・具体性を評価する。到達目標(1)(2)の到達度の確認 発表：報告すべき内容を把握し、自分の言葉で発表できているかを評価する。到達目標(1)(2)の到達度の確認。 授業への参加度：積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるかを総合的に評価する。 なお、提出物やレポートの評価後は、添削した提出物およびレポートを返却して各自にフィードバックする。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 授業回数の2/3以上の出席を必要とする。 レポート課題は提出期限までに提出することが必須である。 | | | | | | |
| 教科書 | 特に定めない。 | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて紹介する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 化粧品論 | | | | | | |
| 担当教員 | 小池 謙造 | | | | | 科目ナンバ- | F73120 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 火曜4 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 化粧品の基礎を学ぶ。ここでいう化粧品とはヘアケア、スキンケア、メイクアップ等の化粧品である。実生活に用いる化粧品を学び、正しく使える知識を習得する。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 化粧品には、皮膚や毛髪を清潔にし健康を維持するものと、容貌や印象を演出するものがある。それらの役割、機能などを理解し、正しく使える知識を身につける。個々の化粧品（ヘアケア、スキンケア、メイクアップ等）の成分、能書、使い方、使用説明書などについて学び、知識を学習する。自己の生活に応用する。授業の形式は遠隔授業または対面形式として行う。（新型コロナの感染の状況による） | | | | | | |
| 到達目標 | 1. 化粧品全般について学び、理解する(知識・理解、汎用的技能、態度・志向性) 2. 成分と効果について学び、理解する(知識・理解、汎用的技能、態度・志向性) 3. 能書・説明書について学び、理解する(知識・理解、汎用的技能、態度・志向性) 4. 皮膚・毛髪などについて学び、理解する(知識・理解、汎用的技能、態度・志向性) | | | | | | |
| 授業計画 | 第1回 授業全体のガイダンス。化粧品知識に関する試問。 第2回 化粧品とはなにか？化粧品の効能・効果について考える 第3回 化粧品の使用説明書の読み方、化粧品の使い方 第4回 化粧品の成分・ナチュラル/オーガニック化粧品 第5回 歯磨きも化粧品？・化粧品の安全性とは 第6回 石鹸・洗浄剤を考える 第7回 UV 紫外線防御剤の使い方（このあたりで中間レポートの課題提出） 第8回 ヘアカラーの使い方 第9回 美白剤の使い方 第10回 アンチエイジングとはなにか？抗しわ剤 第11回 殺菌剤・防腐剤について 第12回 化粧品・医薬部外品・医薬品 第13回 化粧品のマーケティング 第14回 化粧品と法律、世界基準（ISO） 第15回 試験（ショートプレゼン） これまでの授業内容の理解度を計る。（遠隔授業の場合は、試験をレポートに変更する） | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 事前：教科書あるいはmanabaで配布する資料を読んで理解し、疑問点を把握する。＜2時間＞ 事後：授業の小レポートとして、リアクションペーパーを提出する。＜2時間＞ 事前あるいは事後：授業に関連する自分で使用している化粧品の能書・使用説明書をよく読む。実際に使用する。＜2時間＞ | | | | | | |
| 授業方法 | 教科書を読み、リアクションペーパーの質問に答える形で理解する。質問は授業中およびリアクションペーパーで受ける。授業のエッセンスはビデオ・スライド等で紹介する。 学生にとって身近な課題であるので、積極的に学生の意見・質問を聞くこととする。 もし、関心の高い化粧品があれば、新しい商品のコンセプトの提案や商品像の構築などにもトライする。 講義の理解度の確認のため、中間・最終の2回のレポート提出を求める。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 1. 平常点（出席）60%：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問・提案）などによる評価。 2. レポート2回（中間・最終） 40%：授業の全体の理解度を図る | | | | | | |
| 履修上の注意 | 授業回数の3分の1（通常5回）を超える欠席は、試験およびレポート提出不可とし、不合格となる。レポート提出については、教員の判断により、再提出を求める。再提出に応じなければ、未提出となる。化粧品に関するアンケートや調査なども実施しますので、協力してください。 | | | | | | |
| 教科書 | トコトンやさしい化粧品の本（第二版） 福井寛 日刊工業新聞社 2020 ISBN 9784526080340 注意：教科書は第2版です。初版とは内容が異なるので注意が必要です。 | | | | | | |
| 参考書 | コスメの教科書（2級3級対策テキスト） 日本化粧品検定協会 主婦の友社 2016 さまざまな化粧品の使用説明書 化粧品を正しく使えばあなたはもっとキレイになれる 川島真 幻冬舎 2014 PHP新書 皮膚に聴くからだとこころ 川島真 PHP研究所 2013 ビューティアドバイザーのガイドブック 安田利顕ほか 中央書院 1981 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------------------|---|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 身体表現実習 | | | | | | |
| 担当教員 | 松田 優 | | | | | 科目ナンバ- | F12070 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 火曜4~5 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | 舞台衣裳を通じて身体表現を学ぶ。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 舞台芸術における衣裳の視覚的要素は観客に多大な影響を与え、演者の役柄によって衣裳の色彩・素材・形状の表現方法が変わってきます。設定したテーマに基づき表現方法を学び具現化していきます。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1) 役柄に合わせた衣裳の色彩・素材・形状の表現方法を習得する事ができる (汎用的技能2) (2) 衣裳の特性・構造などの特性を理解する事ができる (汎用的技能1) (3) 衣服・衣裳の知識を理解する事ができる (知識・理解2) | | | | | | |
| 授業計画 | 第1回目 ガイダンス 授業内容、方針について説明 第2回目 衣服と衣裳の表現方法の比較 第3回目 デザイン画作成 第4回目 トルソーボディ製作 第5回目 トルソーボディ製作 仕上げ 第6回目 トアル製作 パターン製図作成 第7回目 トアル製作 パターン製図裁断 第8回目 トアル製作 生地裁断1 第9回目 トアル製作 生地裁断2 第10回目 トアル製作 縫製 (ロックミシン1) 第11回目 トアル製作 縫製 (ロックミシン2) 第12回目 トアル製作 縫製 (パーツ組み立て1) 第13回目 トアル製作 縫製 (パーツ組み立て2) 第14回目 トアル製作 仕上げ 第15回目 まとめ (合表) | | | | | | |
| 授業外における学習 (準備学習の内容・時間) | 授業内で完成しなかった課題について、自習時間を使って意欲的に製作に取り組み、次回の授業までに完成しておくこと。 | | | | | | |
| 授業方法 | 実習 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 授業への参加態度 (積極的に課題に取り組んでいるか) 50% 作品提出 50% | | | | | | |
| 履修上の注意 | 意欲的に授業に参加し、授業計画スケジュールを厳守し、衣裳製作に取り組むこと。 材料費は各自負担。 連続した内容の実習の為、原則として遅刻は認めない。 出席回数が12回に満たない場合は原則として単位認定を行わない。 | | | | | | |
| 教科書 | 必要に応じて適時指示します。 | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて適時指示します。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 身体論（健康） | | | | | | |
| 担当教員 | 田中 あゆ子 | | | | | 科目ナンバ- | F11040 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 木曜1 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 健康及び体力の概念、身体活動の体力要素、筋骨格系の機能とフィットネス | | | | | | |
| 授業の概要 | WHO憲章では、「健康とは、肉体的、精神的及び社会的に完全に良好な状態であり、単に疾病又は病弱でないことではない。」と定義している。本講義では、身体的健康に焦点を当て、健康及び体力の概念、身体活動の体力要素、解剖学的人体区分と筋骨格系の機能とフィットネスについて解説する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 健康の定義と指標、体力要素、筋と筋収縮の種類、エネルギー摂取・代謝を概説できる。【知識・理解】 人体区分と筋骨格系の機能を概説できる。【知識・理解】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康と体力の概念 2. 体力要素 3. 健康指標 4. 身体活動とエネルギー代謝 5. 健康と栄養、エネルギー摂取 6. 健康と加齢 7. 骨・関節・筋 8. 人体区分と機能(1)頭部:顔・首・肩 9. 人体区分と機能(2)体幹:胸部 10. 人体区分と機能(3)体幹:背部 11. 人体区分と機能(4)上肢:上腕・前腕・手 12. 人体区分と機能(5)下肢:大腿・下腿・足 13. 筋収縮の種類とトレーニング 14. 身体イメージと健康 15. まとめ 期末試験 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業後学習：学習時間 2<時間> 復習ドリル（授業開始時に行ったmanaba小テスト）を次回授業までに満点になるまで繰り返し実施する。 授業で学んだ人体区分と機能、トレーニング等を確認・実施する。 | | | | | | |
| 授業方法 | 主に講義形式で行う。 「人体区分と機能」等はペアになって演習を行う。 授業開始時に前回の講義内容の確認テスト（松蔭manaba/ PCまたはスマートフォンを使用）を行う。 解説及び提示する内容等をノートにとる。 随時質疑応答を行う。※松蔭manabaアンケートを含む。 遠隔授業になった場合も、zoom等のビデオ機能を使用して、対面授業と同様に受講する。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 平常点10% 小テスト50%（確認テスト40%、復習ドリル10%） ※復習ドリルは点数及び実施状況の評価する。 期末試験40% ※再試験は実施しない。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。 20分以上の遅刻は欠席、遅刻・早退3回で欠席1回とする。 交通機関の延着証明は学籍番号・氏名を記入して提出する。 授業ノートを準備する。 | | | | | | |
| 教科書 | 適宜資料を配布する。 | | | | | | |
| 参考書 | なし | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 身体論（美容） | | | | | | |
| 担当教員 | 小池 謙造 | | | | | 科目ナンバ- | F11030 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 火曜3 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 美容の基礎を学ぶ。ここでいう美容とはヘアケア、スキンケア、メイクアップ、化粧品学である。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 美容（ヘアケア、スキンケア、メイクアップ等）について学び、基本的知識を学習する。自己の生活に応用する技術を身に付ける。 授業は教科書を主体として、基本的に対面授業として行う。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1. ヘアケアについて学び、理解する(知識・理解、汎用的技能、態度・志向性) 2. スキンケアについて学び、理解する(知識・理解、汎用的技能、態度・志向性) 3. メイクアップについて学び、理解する(知識・理解、汎用的技能、態度・志向性) 4. 化粧品全般について学び、理解する(知識・理解、汎用的技能、態度・志向性) | | | | | | |
| 授業計画 | 第1回 授業全体のガイダンス。自己の振り返り。高校生までの意識・知識の確認。 第2回 ヘアケアの基礎1 ヘアケアの歴史、毛髪とは何か。 Q&A 第3回 ヘアケアの基礎2 シャンプーについて Q&A 第4回 ヘアケアの基礎3 スタイリングについて Q&A 第5回 ヘアケアの基礎4 カラーリングについて Q&A 第6回 ヘアケアの基礎5 髪のパターンについて Q&A 第7回 これまでの総括 自分のヘアケアについて考える。レポート提出1回目 中間レポートの課題についてショートプレゼンを行う。 第8回 化粧品のマーケティング1 CM作成などのおはなし 第9回 化粧品の開発とは？ どのように化粧品は作られるか 第10回 スキンケアの基礎1 皮膚の話 Q&A 第11回 スキンケアの基礎2 洗浄 Q&A 第12回 スキンケアの基礎3 ケア にきびなど Q&A 第13回 メイクアップの基礎1 メイクアップとは何か Q&A 第14回 メイクアップの基礎2 メイクアップ素材の話 Q&A レポート提出2回目 第15回 総括 自分のスキンケア・メイクアップについて考える。Q&A 最終レポートについてショートプレゼンを行う。 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 事前：manabaで配布する資料を読んで理解し、疑問点を把握する。<2時間> 事後：授業のレポートを作成し、リアクションペーパーとして提出する。<2時間> 事前あるいは事後：授業に関連する自分で使用している化粧品の能書・使用説明書をよく読む。実際に使用する。<2時間> | | | | | | |
| 授業方法 | 授業形式は、基本的に対面授業で行う。 教科書あるいは配布資料を読み、リアクションペーパーの課題にこたえる。 講義のエッセンスはビデオなどで一部紹介する。学生にとって身近な課題であるので、積極的に質問を受け、毎回Q&Aコーナーで学生の意見を聞く。講義の理解度の確認と意識・行動を知るため、随時アンケート等を行う。 対面授業が可能になれば、レポートをもとに各学生の理解度を図るためにショートプレゼンも行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 評価基準と評価方法 1. 平常点（出席）60%：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問・提案）などによる評価。 2. レポート2回の評価40%：授業の理解度、自己の気づき、提案など | | | | | | |
| 履修上の注意 | 授業回数の3分の1（通常5回）を超える欠席は、最終レポート提出不可とし、不合格となる。 レポートは提出して終わりではなく、教員の判断で再提出を求められる場合があり、再提出に応じなければ未提出と同じ扱いになる。 授業に関係するヘアケア、スキンケアに関するアンケート調査を実施するの協力してください。 | | | | | | |
| 教科書 | ヘアケアってなに？ 繊維応用技術研究会編 2019年版 ISBNコード：9784908111143 対面の場合は教科書を配布、遠隔の場合は必要ページをプリントして配布する。（教科書の購入は不要） | | | | | | |
| 参考書 | 化粧品を正しく使えばあなたはもっとキレイになれる 川島真 幻冬舎 2014 PHP新書 皮膚に聴くからだところろ 川島真 PHP研究所 2013 ビューティアドバイザーのガイドブック 安田利顕ほか 中央書院 1981 トコトンやさしい化粧品の本 福井寛 日刊工業新聞社 2009 コスメの教科書 2級3級対策テキスト 日本化粧品検定協会 2016 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ジェンダーとファッション／ファッションイメージ論 | | | | | | |
| 担当教員 | 戸田 賀志子 | | | | | 科目ナンバ- | F14110 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 金曜4 | 配当学年 | 4 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | ジェンダーの視点からみるファッション | | | | | | |
| 授業の概要 | ファッションはジェンダーとどのようにかかわってきたのか、日々更新され続けているテーマについてメディア（新聞・雑誌、映画、テレビ、写真、インターネットなど）をはじめ視覚資料を多用することによって歴史的に跡づけ、今日的な問題として捉えるための基本的な考え方への導入を図る。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1)ジェンダーの概要をファッションとのかかわりを通じて考え、他者にわかりやすく説明することができる。【知識・理解】 (2)ヒトと衣服の関係性をジェンダーの視点から捉え、具体的にわかりやすい文章で述べるができる【汎用性技能解】 (3)課題について討議、発表することができる。【態度・志向性】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ジェンダーとは 3. メディアにみるジェンダーファッション 4. 発表 5. 『ボイススカート』を読む 6. 発表 7. ジェンダーと表象 8. ジェンダーと色 9. ジェンダーと制服 10. 発表 11. スカートとズボンの表象 12. ディズニープリンセスにみるジェンダー 13. ファッションにみるジェンダー 14. ジェンダーフリーファッション 15. まとめ | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | <p>授業前学習：メディア（新聞、雑誌、映像、インターネット）などを通じ、ジェンダーやファッションイメージに意識的に触れ、日常にある「らしさ」を見つける。事前に指定されたキーワードに基づいて下調べを行う（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容を確認、整理する。要点をまとめる。（学習時間：2時間）</p> | | | | | | |
| 授業方法 | <p>講義：事前に予習を済ませた各回授業のキーワードに基づいた内容の解説・講義を行う。学習内容によっては、グループ・ワークやディスカッションを行う。視聴覚教材（パワーポイントやDVD）を活用し、理解を深める。今日的な話題については、授業中にPCを用いて、最新情報を調査・検討する。結果をレポートにまとめ提出する。</p> | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | <p>提出物50%、発表30%、授業への参加度20%</p> <p>提出物：学習内容を理解できているか。リアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問・事例提案）の内容、自らの興味の明確性・具体性を評価する。到達目標(1)(2)の到達度の確認</p> <p>発表：報告すべき内容を把握し、自分の言葉で発表できているかを評価する。到達目標(1)(3)の到達度の確認。</p> <p>授業への参加度：積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるかを総合的に評価する。</p> | | | | | | |
| 履修上の注意 | 出席が授業回数の3分の2に満たない場合は、受講資格を失う。 | | | | | | |
| 教科書 | とくに定めない。 | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて授業中に紹介する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 住環境と設備 | | | | | | |
| 担当教員 | 池田 久司 | | | | | 科目ナンバ- | F73430 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 金曜3 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 住環境の成り立ちと環境調整のための技術および設備 | | | | | | |
| 授業の概要 | 美しいこと、構造的に強いことに加え、人が快適に過ごすことができるということは建築にとって大切な要素です。住環境は光・熱・空気・音といった物理的要素から成り立っており、私たちは日々、これらからの影響を受け生活しています。これらの環境要素が室内においてどのような現象として現れ、それが人の身体や健康にどのように影響しているか、これらをどのようにコントロールすればより快適な環境を得られるか、また、環境調整の技術をどのように設計に組み込んでいくかを学びます。 | | | | | | |
| 到達目標 | 光や照明、熱と空気、湿気の振る舞い、騒音や遮音について、その仕組みを説明できる。(知識・理解) 身近な生活環境での現状を分析し、改善策について工夫できる。(汎用的技能) 環境設計や環境調整設備に関する考え方を説明できる。(知識・理解) | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 総論 室内環境の要素とその単位 2. 熱の性質、建物の熱性能 3. 建物の断熱化と気密化、日照環境 4. 湿気と結露 5. 体感温度 6. 換気と通風 7. 換気設備と空調設備 8. 音の性質・室内の音環境 9. 給水・給湯・排水 10. 水回りの住宅設備機器 11. 光の性質 12. 採光と照明計画概要 13. 照明計画 14. 電気設備、 15. 都市・地球環境、まとめ | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | <p>授業前学習：次回の授業内容に関して、前回授業で取り上げるキーワードについて下調べを行うこと(学習時間：2時間)</p> <p>授業後学習：講義内容を踏まえて、身の回りの環境を分析・評価し理解を深める。また授業内で行う小テストの問題を改めて解き直すこと(学習時間：2時間)</p> | | | | | | |
| 授業方法 | 講義、ディスカッション | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 授業内で行う小テスト：30%、 課題レポート：70% | | | | | | |
| 履修上の注意 | ほぼ毎回、授業の最後に小テストを行う。 | | | | | | |
| 教科書 | プリントを配布する | | | | | | |
| 参考書 | 『インテリアコーディネーターハンドブック 統合版 下』インテリア産業協会編、インテリア産業協会 ISBN 978-4-86374-143-0 『設計のための建築環境学』日本建築学会編、彰国社 ISBN978-4-395-00894-0 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 実践化粧実習 | | | | | | |
| 担当教員 | 森元 亜希子 | | | | | 科目ナンバー | F73150 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 火曜1~2 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | メイクアップテクニックの応用を学ぶ。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 相モデルで様々なメイクを知り、テクニックを学び、メイクを通してコミュニケーション能力を身に着ける。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①様々なメイクの違い、メイクの仕方で変わる印象の違いなどを学ぶ。【知識・理解】 ②いろいろなメイクの特徴を理解しメイクアップができる。【汎用的技能】 ③いろいろなメイクへの興味をより具体的なものとして意識することが出来る。【態度・志向性】 | | | | | | |
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション 第2回 就活メイク・ヘア 第3回 ブライダルメイク 第4回 ブライダルヘア 第5回 ブライダルヘアメイク 第6回 撮影メイク 第7回 撮影ヘア 第8回 撮影ヘアメイク 第9回 イメージメイク 第10回 クリエイティブメイク（ラインストーン） 第11回 クリエイティブメイク（アート） 第12回 課題作成 第13回 課題作成 第14回 課題作成 第15回 まとめ、復習、実技テスト | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前準備学習：各回授業の事前に指定するキーワードについて、指定された参考図書などで下調べをする。（学習時間2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要個所を確認・整理する。（学習時間2時間） | | | | | | |
| 授業方法 | ペアごとに所定の実習を行い、ペアで仕上がりについてディスカッションを行う。ペアワークの結果を踏まえて、各回設定のテーマについて、解説を行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 授業態度40%：基本実技科目のため、実習への姿勢を重視する 課題提出30%：1枚のレポートがあります 実技テスト30%：フルメイクのテストを一回行う | | | | | | |
| 履修上の注意 | 実習費として2000円徴収します。 相モデルでの実習のためけが防止のため爪は短く切る。 5回以上欠席で原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 相モデルでの実習に参加しない人は、放棄とみなし欠席とする。 | | | | | | |
| 教科書 | プリントを配布します。 | | | | | | |
| 参考書 | 日本化粧品検定2級、3級 主婦の友社 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 実践化粧実習 | | | | | | |
| 担当教員 | 森元 亜希子 | | | | | 科目ナンバー | F73150 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 火曜4~5 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | メイクアップテクニックの応用を学ぶ。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 相モデルで様々なメイクを知り、テクニックを学び、メイクを通してコミュニケーション能力を身に着ける。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①様々なメイクの違い、メイクの仕方で変わる印象の違いなどを学ぶ。【知識・理解】 ②いろいろなメイクの特徴を理解しメイクアップができる。【汎用的技能】 ③いろいろなメイクへの興味をより具体的なものとして意識することが出来る。【態度・志向性】 | | | | | | |
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション 第2回 就活メイク・ヘア 第3回 ブライダルメイク 第4回 ブライダルヘア 第5回 ブライダルヘアメイク 第6回 撮影メイク 第7回 撮影ヘア 第8回 撮影ヘアメイク 第9回 イメージメイク 第10回 クリエイティブメイク（ラインストーン） 第11回 クリエイティブメイク（アート） 第12回 課題作成 第13回 課題作成 第14回 課題作成 第15回 まとめ、復習、実技テスト | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前準備学習：各回授業の事前に指定するキーワードについて、指定された参考図書などで下調べをする。（学習時間2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。（学習時間2時間） | | | | | | |
| 授業方法 | ペアごとに所定の実習を行い、ペアで仕上がりについてディスカッションを行う。ペアワークの結果を踏まえて、各回設定のテーマについて、解説を行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 授業態度40%：基本実技科目のため、実習への姿勢を重視する 課題提出30%：1枚のレポートがあります 実技テスト30%：フルメイクのテストを一回行う | | | | | | |
| 履修上の注意 | 実習費として2000円徴収します。 相モデルでの実習のためけが防止のため爪は短く切る。 5回以上欠席で原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 相モデルでの実習に参加しない人は、放棄とみなし欠席とする。 | | | | | | |
| 教科書 | プリントを配布します。 | | | | | | |
| 参考書 | 日本化粧品検定2級、3級 主婦の友社 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | スタイリング演習 | | | | | | |
| 担当教員 | 徳山 孝子・五十嵐 かほる | | | | | 科目ナンバ- | F11010 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 月曜3 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | ワンランク上のコミュニケーションと上質な感性の磨き方 | | | | | | |
| 授業の概要 | 接客のための言語心理をはじめ、表現力も含めたコミュニケーション&プレゼンテーションスキルとコーディネート力の向上を図るプログラム。実践的なテキストを用い、論理的にコーディネートのメソッドを学ぶと共にファッションを通して教養を取得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <p>①お客様との信頼関係を築くためのマナーを身につけ、使いこなすことができる【態度・志向】</p> <p>②説得力を増すための知識や表現力を身につけ、使いこなすことができる【知識・理解】</p> <p>③お客様の骨格や肌の色などの個性を把握し、魅力を引き立てるアイテムの提案ができる【汎用的技能】</p> <p>④お客様のニーズを引き出し、立場や社会情勢を捉えることができる【態度・志向】</p> <p>⑤お客様の心を掴むための言語心理を用いたカウンセリング手法、パーソナルブランディング手法の知識を学ぶことで、ファッションの映える魅力的な人間力を磨くことができる【知識・理解】</p> | | | | | | |
| 授業計画 | <p>①オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）：五十嵐担当4/11 年間の授業内容について・ファッションのコンセプト発表の仕方・自己紹介など</p> <p>②顔型・骨格の分析：徳山担当4/18 デコルラインの分類・体型の分類と分析</p> <p>③リベラルアーツ（色にまつわる知識と色彩心理）Ⅰ 問題集&テキストを使って…：徳山担当4/25 素材と輝度・カラー分析とカラーマネジメント</p> <p>④リベラルアーツ（教養・文化・ファッション）Ⅱ 問題集&テキストを使って…：徳山担当5/9 シルエット・スタイリングの判断基準</p> <p>⑤お客様・先輩や同僚と信頼関係を気付くための言語心理・心理テクニック：五十嵐担当5/16 褒め上手・褒められ上手のコツ・クッション言葉 気を付けたい表現・好感度を上げる一言・音声心理・敬語</p> <p>⑥リベラルアーツ（教養・文化・ファッション）Ⅲ 問題集を使って…：徳山担当5/23 色のバランスと素材の組み合わせ方・ファッションマナー</p> <p>⑦表現力の鍛え方①：五十嵐担当5/30 良い声の出し方・ハキハキ話すための滑舌練習・わかりやすい話し方のコツ・文章の書き方 心を掴むプレゼンテーション方法 《行動心理》ファッションを生かすための立ち居振る舞い 姿勢・歩き方・おじぎ・しゃがみ方・座り方・物の受け渡し</p> <p>⑧《ホスピタリティ・おもてなしの心の育て方》：徳山担当6/6 接客の基本 席次と上座…他</p> <p>⑨リベラルアーツ（教養・文化・ファッション）Ⅲ 問題集を使って…：徳山担当6/13 「美容・心理・ファッションビジネス」問題集より</p> <p>⑩表現力の鍛え方②：五十嵐担当6/20 表現力トレーニング・インタビュー技能、プレゼンテーション、キャプション訓練・伝える力、聴く力（伝えたい気持ちを正確に伝える・言葉にならない思いを聞き出す）</p> <p>⑪《スタイリング訓練》基本①コーディネートは全体のバランスを考える：徳山担当6/27 アイテム同士のバランス・シルエットの作り方</p> <p>⑫表現力の鍛え方③：徳山担当7/4 表現力トレーニング・インタビュー技能、プレゼンテーション、キャプション訓練・伝える力、聴く力（伝えたい気持ちを正確に伝える・言葉にならない思いを聞き出す）・報告書の書き方</p> <p>⑬《スタイリング訓練》基本②：徳山担当7/11 コーディネートは素材感と色のバランスを考える</p> <p>⑭期末試験・《ブランディングコンセプトの作り方》：徳山担当7/18（通常授業） 体型や似合う色を含めた自己分析&コーディネート手法①</p> <p>⑮《ブランディングコンセプトの作り方》五十嵐担当7/25 体型や似合う色を含めた自己分析&コーディネート手法②</p> | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | <p>授業前準備学習：プレゼンテーションの訓練とスタイリングコンセプト作りの一貫で、毎回1人ずつスタイリングのコンセプトと時事に関する情報を1分半程度で発表する為、考えてくること。<2時間></p> <p>授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。<2時間></p> | | | | | | |
| 授業方法 | <p>①講義とグループワーク</p> <p>②実技（カウンセリングやコーディネート、話し方等）による演習</p> | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | <p>試験60%：パーソナルスタイリストの理解度を評価する。到達目標①および⑤に関する到達度の確認。</p> <p>各回の積極的な授業参加40%：スタイリングのコンセプトと時事に関する情報を発表し、各回設定のテーマの課題を評価する。到達目標①および⑤に関する到達度の確認。</p> | | | | | | |

| | |
|--------|--|
| 履修上の注意 | ①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②遅刻は欠席扱いとする。 ③教科書は、必ず購入する。 |
| 教科書 | ●書名：『パーソナルスタイリスト検定R3級・2級筆記試験問題集』第3版（ISBNなし） 著者：五十嵐かほる 編集者：（社）パーソナルスタイリストR協会 出版（制作）：（株）スタイルファクトリー ●書名：『パーソナルスタイリスト検定R資格取得テキスト』（ISBNなし） 監修：（社）パーソナルスタイリストR協会 編集/出版（制作）：（株）スタイルファクトリー |
| 参考書 | 授業内にて紹介する。 |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | スタイリング演習 | | | | | | |
| 担当教員 | 徳山 孝子・五十嵐 かほる | | | | | 科目ナンバ- | F11010 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 月曜4 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | ワンランク上のコミュニケーションと上質な感性の磨き方 | | | | | | |
| 授業の概要 | 接客のための言語心理をはじめ、表現力も含めたコミュニケーション&プレゼンテーションスキルとコーディネート力の向上を図るプログラム。実践的なテキストを用い、論理的にコーディネートのメソッドを学ぶと共にファッションを通して教養を取得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <p>①お客様との信頼関係を築くためのマナーを身につけ、使いこなすことができる【態度・志向】</p> <p>②説得力を増すための知識や表現力を身につけ、使いこなすことができる【知識・理解】</p> <p>③お客様の骨格や肌の色などの個性を把握し、魅力を引き立てるアイテムの提案ができる【汎用的技能】</p> <p>④お客様のニーズを引き出し、立場や社会情勢を捉えることができる【態度・志向】</p> <p>⑤お客様の心を掴むための言語心理を用いたカウンセリング手法、パーソナルブランディング手法の知識を学ぶことで、ファッションの映える魅力的な人間力を磨くことができる【知識・理解】</p> | | | | | | |
| 授業計画 | <p>①オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）：五十嵐担当4/11 年間の授業内容について・ファッションのコンセプト発表の仕方・自己紹介など</p> <p>②顔型・骨格の分析：徳山担当4/18 デコルテラインの分類・体型の分類と分析</p> <p>③リベラルアーツ（色にまつわる知識と色彩心理）Ⅰ 問題集&テキストを使って…：徳山担当4/25 素材と輝度・カラー分析とカラーマネジメント</p> <p>④リベラルアーツ（教養・文化・ファッション）Ⅱ 問題集&テキストを使って…：徳山担当5/9 シルエット・スタイリングの判断基準</p> <p>⑤お客様・先輩や同僚と信頼関係を気付くための言語心理・心理テクニック：五十嵐担当5/16 褒め上手・褒められ上手のコツ・クッション言葉 気を付けたい表現・好感度を上げる一言・音声心理・敬語</p> <p>⑥リベラルアーツ（教養・文化・ファッション）Ⅲ 問題集を使って…：徳山担当5/23 色のバランスと素材の組み合わせ方・ファッションマナー</p> <p>⑦表現力の鍛え方①：五十嵐担当5/30 良い声の出し方・ハキハキ話すための滑舌練習・わかりやすい話し方のコツ・文章の書き方 心を掴むプレゼンテーション方法 《行動心理》ファッションを生かすための立ち居振る舞い 姿勢・歩き方・おじぎ・しゃがみ方・座り方・物の受け渡し</p> <p>⑧《ホスピタリティ・おもてなしの心の育て方》：徳山担当6/6 接客の基本 席次と上座…他</p> <p>⑨リベラルアーツ（教養・文化・ファッション）Ⅲ 問題集を使って…：徳山担当6/13 「美容・心理・ファッションビジネス」問題集より</p> <p>⑩表現力の鍛え方②：五十嵐担当6/20 表現力トレーニング・インタビュー技能、プレゼンテーション、キャプション訓練・伝える力、聴く力（伝えたい気持ちを正確に伝える・言葉にならない思いを聞き出す）</p> <p>⑪《スタイリング訓練》基本①コーディネートは全体のバランスを考える：徳山担当6/27 アイテム同士のバランス・シルエットの作り方</p> <p>⑫表現力の鍛え方③：徳山担当7/4 表現力トレーニング・インタビュー技能、プレゼンテーション、キャプション訓練・伝える力、聴く力（伝えたい気持ちを正確に伝える・言葉にならない思いを聞き出す）・報告書の書き方</p> <p>⑬《スタイリング訓練》基本②：徳山担当7/11 コーディネートは素材感と色のバランスを考える</p> <p>⑭期末試験・《ブランディングコンセプトの作り方》：徳山担当7/18（通常授業） 体型や似合う色を含めた自己分析&コーディネート手法①</p> <p>⑮《ブランディングコンセプトの作り方》五十嵐担当7/25 体型や似合う色を含めた自己分析&コーディネート手法②</p> | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | <p>授業前準備学習：プレゼンテーションの訓練とスタイリングコンセプト作りの一貫で、毎回1人ずつスタイリングのコンセプトと時事に関する情報を1分半程度で発表する為、考えてくること。<2時間></p> <p>授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。<2時間></p> | | | | | | |
| 授業方法 | <p>①講義とグループワーク</p> <p>②実技（カウンセリングやコーディネート、話し方等）による演習</p> | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | <p>試験60%：パーソナルスタイリストの理解度を評価する。到達目標①および⑤に関する到達度の確認。</p> <p>各回の積極的な授業参加40%：スタイリングのコンセプトと時事に関する情報を発表し、各回設定のテーマの課題を評価する。到達目標①および⑤に関する到達度の確認。</p> | | | | | | |

| | |
|--------|--|
| 履修上の注意 | ①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②遅刻は欠席扱いとする。 ③教科書は、必ず購入する。 |
| 教科書 | ●書名：『パーソナルスタイリスト検定R3級・2級筆記試験問題集』第3版（ISBNなし） 著者：五十嵐かほる 編集者：（社）パーソナルスタイリストR協会 出版（制作）：（株）スタイルファクトリー ●書名：『パーソナルスタイリスト検定R資格取得テキスト』（ISBNなし） 監修：（社）パーソナルスタイリストR協会 編集/出版（制作）：（株）スタイルファクトリー |
| 参考書 | 授業内にて紹介する。 |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | スタイリング実習 | | | | | | |
| 担当教員 | 徳山 孝子・五十嵐 かほる | | | | | 科目ナンバ- | F11020 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 月曜3~4 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | ワンランク上のコミュニケーションと上質な感性の磨き方 | | | | | | |
| 授業の概要 | 独りよがりのスタイリングや好みのコーディネート提案ばかりではなく、ファッションは誰のために存在するのか？を基準に捉えた「アパレル人として即戦力の人材」を目指す。現場でのリアルな事例をふんだんに取り入れながら自ら考えて答えを導き出し、前期で学んだ知識を実際にスタイリングの面でも接客の面からもアウトプット出来るようになること。また、自分自身を磨くためのコンセプト作りや見せ方などの基本を学ぶと同時に人の魅力の引き出し方と演出の仕方を学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①接客をはじめ、提案力も含めたコミュニケーションスキルとコーディネート力の向上を図ることができる【態度・志向】 ②グループワークや実技を中心に、即戦力の人材になるためにコーチングやカウンセリングの基礎ができる【知識・理解】 ③また、自ら考えて行動できるためのメソッドを身に付けることができる【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | ①オリエンテーション（課題テーマ・方針・進め方の説明）発表の仕方など：徳山担当9/26 《ブランディングコンセプトの作り方》体型や似合う色を含めた自己分析&コーディネート手法① イメージボード制作準備/グループ分けや留意点など ②《ブランディングコンセプトの作り方》体型や似合う色を含めた自己分析&コーディネート手法②：五十嵐担当10/3 イメージボード制作準備表現力の鍛え方 ③プレゼンテーション技法：徳山担当10/17 イメージボード制作準備と人前で話すスキル（発表準備） ④《ブランディングコンセプトの作り方》体型や似合う色を含めた自己分析&コーディネート手法③：五十嵐担当10/24 イメージボード製作発表/講評 ⑤《スタイリング訓練》実践①ショッピングツアー（ショッピング同行実践【神戸】）：徳山担当10/31 ⑥《スタイリング訓練》実践②ショッピングツアー（ショッピング同行実践【大阪】）：徳山担当11/7 ⑦《スタイリング訓練》発表③ショッピングツアー（ショッピング同行実践）発表：五十嵐担当11/14 表現力の鍛え方Ⅰ 《カウンセリング技法》顧客の要望を聞き出す技術を身に付けるためにカウンセリング能力を学ぶ① ⑧表現力の鍛え方Ⅱ：徳山担当11/21 文章での表現力 題材の探し方と感性&トレンドの磨き方 ⑨表現力の鍛え方Ⅲ：徳山担当11/28 《カウンセリング技法》顧客の要望を聞き出す技術を身に付けるためにカウンセリング能力を学ぶ② 《行動心理》ファッションを生かすための立ち居振る舞いⅠ 姿勢・歩き方・おじぎ・しゃがみ方・座り方・物の受け渡し・コートの脱着・荷物の持ち方・手の表情（ファイルの持ち方・指さし） ⑩《スタイリング訓練》応用①：徳山担当12/5 ワードローブコーディネート（コーディネート撮影） 魅力を引き立てるタイプ別コーディネート法（いかにその人らしいコーディネートを見つけるか） ⑪《スタイリング訓練》応用②五十嵐担当12/12 ワードローブコーディネート（コーディネート撮影） 魅力を引き立てるタイプ別コーディネート法（いかにその人らしいコーディネートを見つけるか） 発表 ⑫パーソナルスタイリスト検定受験対策講座：徳山担当12/19 ⑬表現力の鍛え方《まとめ》：徳山担当1/16 この一年間で学んだことのプレゼンテーションカウンセリング ⑭期末試験・表現力の鍛え方《まとめ》：徳山担当1/23 この一年間で学んだことのプレゼンテーション発表準備のためのワーク ⑮表現力の鍛え方《まとめ》：五十嵐担当1/30 この一年間で学んだことのプレゼンテーション発表 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前準備学習：プレゼンテーションの訓練とスタイリングコンセプト作りの一貫で、毎回1人ずつスタイリングのコンセプトと時事に関する情報を1分半程度で発表する為、考えてくること。<1.5時間> 授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中内にできなかった課題は完成させる。<1.5時間> | | | | | | |
| 授業方法 | ①講義とグループワーク ②実技（カウンセリングやコーディネート、話し方等）による演習 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 試験60%：パーソナルスタイリストの理解度を評価する。到達目標①および③に関する到達度の確認。 各回の積極的な授業参加40%：スタイリングのコンセプトと時事に関する情報を発表し、各回設定のテーマの課題を評価する。到達目標①および③に関する到達度の確認。 | | | | | | |

| | |
|--------|--|
| 履修上の注意 | ①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②遅刻は欠席扱いとする。 ③教科書は、必ず購入する。 ④「ショッピング同行実践」への交通費は自己負担。 ⑤「ショッピング同行実践」は、土曜日の補講日とする。 |
| 教科書 | ●書名：『パーソナルスタイリスト検定R3級・2級筆記試験問題集』第3版 著者：五十嵐かほる 編集者：(社) パーソナルスタイリストR協会 出版(制作)：(株) スタイルファクトリー ●書名：『パーソナルスタイリスト検定R資格取得テキスト』 監修：(社) パーソナルスタイリストR協会 編集/出版(制作)：(株) スタイルファクトリー |
| 参考書 | 授業内にて紹介する。 |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | スタイリング実習 | | | | | | |
| 担当教員 | 徳山 孝子・五十嵐 かほる | | | | | 科目ナンバ- | F11020 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 月曜4~5 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | ワンランク上のコミュニケーションと上質な感性の磨き方 | | | | | | |
| 授業の概要 | 独りよがりのスタイリングや好みのコーディネート提案ばかりではなく、ファッションは誰のために存在するのか？を基準に捉えた「アパレル人として即戦力の人材」を目指す。現場でのリアルな事例をふんだんに取り入れながら自ら考えて答えを導き出し、前期で学んだ知識を実際にスタイリングの面でも接客の面からもアウトプット出来るようになること。また、自分自身を磨くためのコンセプト作りや見せ方などの基本を学ぶと同時に人の魅力の引き出し方と演出の仕方を学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①接客をはじめ、提案力も含めたコミュニケーションスキルとコーディネート力の向上を図ることができる【態度・志向】 ②グループワークや実技を中心に、即戦力の人材になるためにコーチングやカウンセリングの基礎ができる【知識・理解】 ③また、自ら考えて行動できるためのメソッドを身に付けることができる【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | ①オリエンテーション（課題テーマ・方針・進め方の説明）発表の仕方など：徳山担当9/26 《ブランディングコンセプトの作り方》体型や似合う色を含めた自己分析&コーディネート手法① イメージボード制作準備/グループ分けや留意点など ②《ブランディングコンセプトの作り方》体型や似合う色を含めた自己分析&コーディネート手法②：五十嵐担当10/3 イメージボード制作準備表現力の鍛え方 ③プレゼンテーション技法：徳山担当10/17 イメージボード制作準備と人前で話すスキル（発表準備） ④《ブランディングコンセプトの作り方》体型や似合う色を含めた自己分析&コーディネート手法③：五十嵐担当10/24 イメージボード製作発表/講評 ⑤《スタイリング訓練》実践①ショッピングツアー（ショッピング同行実践【神戸】）：徳山担当10/31 ⑥《スタイリング訓練》実践②ショッピングツアー（ショッピング同行実践【大阪】）：徳山担当11/7 ⑦《スタイリング訓練》発表③ショッピングツアー（ショッピング同行実践）発表：五十嵐担当11/14 表現力の鍛え方Ⅰ 《カウンセリング技法》顧客の要望を聞き出す技術を身に付けるためにカウンセリング能力を学ぶ① ⑧表現力の鍛え方Ⅱ：徳山担当11/21 文章での表現力 題材の探し方と感性&トレンドの磨き方 ⑨表現力の鍛え方Ⅲ：徳山担当11/28 《カウンセリング技法》顧客の要望を聞き出す技術を身に付けるためにカウンセリング能力を学ぶ② 《行動心理》ファッションを生かすための立ち居振る舞いⅠ 姿勢・歩き方・おじぎ・しゃがみ方・座り方・物の受け渡し・コートの脱着・荷物の持ち方・手の表情（ファールの持ち方・指さし） ⑩《スタイリング訓練》応用①：徳山担当12/5 ワードローブコーディネート（コーディネート撮影） 魅力を引き立てるタイプ別コーディネート法（いかにその人らしいコーディネートを見つけるか） ⑪《スタイリング訓練》応用②五十嵐担当12/12 ワードローブコーディネート（コーディネート撮影） 魅力を引き立てるタイプ別コーディネート法（いかにその人らしいコーディネートを見つけるか） 発表 ⑫パーソナルスタイリスト検定受験対策講座：徳山担当12/19 ⑬表現力の鍛え方《まとめ》：徳山担当1/16 この一年間で学んだことのプレゼンテーションカウンセリング ⑭期末試験・表現力の鍛え方《まとめ》：徳山担当1/23 この一年間で学んだことのプレゼンテーション発表準備のためのワーク ⑮表現力の鍛え方《まとめ》：五十嵐担当1/30 この一年間で学んだことのプレゼンテーション発表 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前準備学習：プレゼンテーションの訓練とスタイリングコンセプト作りの一貫で、毎回1人ずつスタイリングのコンセプトと時事に関する情報を1分半程度で発表する為、考えてくること。<1.5時間> 授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中内にできなかった課題は完成させる。<1.5時間> | | | | | | |
| 授業方法 | ①講義とグループワーク ②実技（カウンセリングやコーディネート、話し方等）による演習 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 試験60%：パーソナルスタイリストの理解度を評価する。到達目標①および③に関する到達度の確認。 各回の積極的な授業参加40%：スタイリングのコンセプトと時事に関する情報を発表し、各回設定のテーマの課題を評価する。到達目標①および③に関する到達度の確認。 | | | | | | |

| | |
|--------|--|
| 履修上の注意 | ①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②遅刻は欠席扱いとする。 ③教科書は、必ず購入する。 ④「ショッピング同行実践」への交通費は自己負担。 ⑤「ショッピング同行実践」は、土曜日の補講日とする。 |
| 教科書 | ●書名：『パーソナルスタイリスト検定R3級・2級筆記試験問題集』第3版 著者：五十嵐かほる 編集者：(社)パーソナルスタイリストR協会 出版(制作)：(株)スタイルファクトリー ●書名：『パーソナルスタイリスト検定R資格取得テキスト』 監修：(社)パーソナルスタイリストR協会 編集/出版(制作)：(株)スタイルファクトリー |
| 参考書 | 授業内にて紹介する。 |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 生活エコロジー論 | | | | | | |
| 担当教員 | 永村 悦子 | | | | | 科目ナンバ- | F72020 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 月曜1 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 快適な生活とエコロジー | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>快適な暮らしを求めてきた結果、現在の地球環境にはさまざまなひずみが生じてきた。そこで、次の世代へより良い地球環境を残すために、生活の中で何ができるか、また生活とかわる産業で何が行われているかを考える。</p> <p>具体的には、地球環境の現状や、生活の基本である衣服や住まいにかかわるエネルギー消費、廃棄物など環境負荷について講義する。また、快適性を犠牲にすることなく環境負荷の少ない生活を目指すための環境技術を紹介する。</p> <p>生態系の一部である私たちの生活が、環境とどのようにかかわっているかを知ること、つまりエコロジー的観点で暮らしを見つめることが授業の目的である。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <p>(1)地球環境が直面している問題について基本知識を身につけ、他者に説明することができる。【知識・理解】</p> <p>(2)エコロジーかつ快適な暮らしを実践するための手法について、具体的に述べるができる。【汎用的技能】</p> | | | | | | |
| 授業計画 | <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：環境共生・エコロジー</p> <p>第3回：地球環境問題(1)地球温暖化</p> <p>第4回：地球環境問題(2)オゾン層破壊ほか</p> <p>第5回：生活と環境負荷(1)エネルギー消費</p> <p>第6回：生活と環境負荷(2)廃棄物</p> <p>第7回：快適な衣環境</p> <p>第8回：快適な住環境</p> <p>第9回：環境負荷低減(1)省エネルギー</p> <p>第10回：環境負荷低減(2)衣服の材料とリサイクル</p> <p>第11回：環境負荷低減(3)住まいの材料とリサイクル</p> <p>第12回：環境負荷低減(4)ライフスタイル</p> <p>第13回：エコハウスの事例</p> <p>第14回：エコプロダクツの事例</p> <p>第15回：まとめと試験</p> | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | <p>授業前準備学習：授業計画にある各回のテーマに関連することから生活の中から見だし、書籍、インターネット等にて下調べをする。(学習時間2時間)</p> <p>授業後学習：授業で扱った内容について確認し、自らの暮らしや他の専門科目の学びに積極的に反映させる。(学習時間2時間)</p> | | | | | | |
| 授業方法 | <p>講義</p> <p>毎回の授業で、講義内容の重要箇所について小テストを行い、次回授業時にその確認をおこなう。</p> | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | <p>小テスト40%、レポート30%、期末テスト30%</p> <p>小テスト：講義内容の重要箇所について理解度を評価する。到達目標(1)に関する到達度の確認。</p> <p>レポート：講義によって得た知識を身近な生活に反映できる応用力を評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。</p> <p>期末テスト：講義内容の重要箇所について理解度を評価する。到達目標(1)に関する到達度の確認。</p> <p>なお、小テストの解答、解説は次回授業にておこない、レポート、期末テストについては最終授業中に講評する。</p> | | | | | | |
| 履修上の注意 | <p>評価では授業への取り組みを重視する。やむをえない理由がない限り欠席しない、私語をしないなどの基本姿勢を自覚すること。</p> | | | | | | |
| 教科書 | プリント配布 | | | | | | |
| 参考書 | 授業内に紹介する | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 生活美学 | | | | | | |
| 担当教員 | 森 治子 | | | | | 科目ナンバ- | F73070 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 木曜4 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 近代から現代にいたるまでの生活文化史を追いながら、日常生活のなかにみられる美意識や文化、流行をとりあげ、みじかな生活事象の本質について理解を深める。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 日常生活を豊かにすすための知恵や美意識について、衣食住に関する事象を中心に検討する。また、近代以降の社会にあらわれた生活文化や流行をひもとき、日本の文化的な特徴や特質について考察する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1. 日常的に接している生活文化や生活道具について歴史的な背景を知り、それらがもつ価値について考えることができる。【知識・理解】 2. 生活のなかにみられる美的な存在を理解し、文化的な特徴や特質について考えることができる。【知識・理解】 文化や民族、時代によって美的なものに対する意識は異なるため、文化や美意識のもつ多様性について理解することができる。【態度・指向性】 | | | | | | |
| 授業計画 | 1. 生活美学とはなにかー生活美学と考現学ー 2. 衣生活にみられる美意識 (1) からだと衣服 3. 衣生活にみられる美意識 (2) 化粧と髪型 4. 衣生活にみられる美意識 (3) 洋装と和装 5. 衣生活にみられる美意識 (4) 戦時下の暮らしにみられる美意識 6. 住まいにおける美意識 (1) 郊外住宅地の形成と新しいライフスタイル 7. 住まいにおける美意識 (2) 理想の住まい 8. 住まいにおける美意識 (3) インテリア 9. 住まいにおける美意識 (4) 生活道具 10. 食生活にみられる美意識 (1) 和食と洋食 11. 食生活にみられる美意識 (2) 菓子 12. 食生活にみられる美意識 (3) ファッションフード 13. 生活と芸術 (1) 伝統工芸とジャポニスム 14. 生活と芸術 (2) 民藝の美 15. まとめ | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 【授業前準備学習】授業内で次回授業の準備学習について説明する<2時間>。 【授業後学習】学習内容を確認し、わからない語句等は調べてノートを整理する<2時間>。 日常生活のなかで美的なものを見つけることができるように、文化的なものに対するアンテナをはりめぐらせ、観察眼を養う習慣を身につけて下さい。 | | | | | | |
| 授業方法 | レジュメと映像資料を使用し、講義形式でおこなう。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 平常点：50% レポート：50% 平常点のうち、コメントカードが20%、小レポートが30%とする。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 授業では参考映像を観ることが多いので、私語は控えること、また、やむを得ない場合をのぞき、教室の入退室は控えること。 授業に関連する展覧会や映画などについて授業時に紹介するので、美術や伝統文化に触れる機会を積極的にもっていただきたいと思います。 | | | | | | |
| 教科書 | 使用しない。 | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて授業内で紹介する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 生活文化論／生活文化概論 | | | | | | |
| 担当教員 | 徳山 孝子 | | | | | 科目ナンバ- | F03040 |
| 学期 | 前期／1st semester | 曜日・時限 | 月曜2 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 日本文化を基礎として身近な生活文化を学ぶ。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 本講は、生活の基礎を文化的側面から解明するものである。その学問的内容は、衣食住の生活をはじめ生活経営、生活経済、生活管理、自然環境など多様な専門分野から構成されている。これらは、人と人、人とモノ、モノとモノの関わりが強く、ライフデザインを形成している。時代とともに変わり行く生活を快適かつ円滑に運営するための知識を学び、これらを通じて日常生活のなかで「自分の身近な様子」「身近なモノや空間への興味」が持てるよう、日本文化を踏まえながら解説する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1) 日本人の国民性が説明できる【知識・理解】 2) 日本独自の衣住文化の特徴を述べるもことができる【知識・理解】 3) 靴を脱ぐ習慣について、考えられることを列挙することができる【知識・理解】 4) 日本独自の間の文化を一つ例に挙げ、図像を使って説明することができる【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明） 2. 日本人と生活文化①：日本人とは、どのような国民性なのか？ 3. 日本人と生活文化②：春夏秋冬と日本人の秩序感覚 4. 日本人と生活文化③：時代の移り変わりとともに変化してきた日本の色 5. 日本人と食①：箸や茶碗の高級道具 6. 日本人と食②：日本独自の食文化 7. 日本人と食③：日本と欧米の違い—食の文化— 8. インテリアの文化①：日本と欧米の違い 9. インテリアの文化②：畳と絨毯の違い 10. インテリアの文化③：靴の文化と裸足の文化 11. 日本人の「間」①：「間」の文化とは 12. 日本人の「間」②：「間」の文化—結界と気持ちのけじめ— 13. 日本人の「間」③：「礼」の文化 14. 日本人の「間」④：「着る」の文化 15. 今までのレジュメのまとめ、試験 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前準備学習：授業内で説明する。＜2時間＞ 授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。＜2時間＞ | | | | | | |
| 授業方法 | ①各回設定のテーマでレジュメを配布する。レジュメに沿って講義するため、授業前準備学習と授業後学習に使用する。 ②資料はプリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。 ③テーマの導入を図る練習問題について、グループまたペアによるディスカッションを行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 試験70%：日本文化の理解度を評価する。到達目標（1）～（4）に関する到達度の確認。 提出物30%：レジュメを評価する。レジュメは、授業内容の確認と授業後学習を評価する。到達目標（1）～（4）に関する到達度の確認。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | ①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②遅刻は、欠席扱いとする。 ③指定する課題を締切までに必ず提出する。 | | | | | | |
| 教科書 | 教科書としては、特に用いないが、レジュメ、プリントを配布する。 | | | | | | |
| 参考書 | 授業中に紹介する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 卒業研究 | | | | | | |
| 担当教員 | 井上 裕之 | | | | | 科目ナンバ- | F04070 |
| 学期 | 通年/Full Year | 曜日・時限 | 水曜3 | 配当学年 | 4 | 単位数 | 8.0 |
| 授業のテーマ | 設定したテーマに沿って衣服制作をおこなう。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 卒業研究では、デザイン特別演習A、Bで考案したデザイン画を基に、パターン制作、本布制作を行なっていく。制作した衣服は、ファッションショー等のプレゼンテーションを行うことで、総合的な表現力を修得し、4年間の学びを総括する。 また研究内容はファイル、パネルとしてまとめ、作品について論理的な説明を行う方法を学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1) デザイン画を基に、衣服のパターン制作、縫製の計画を立てることができる。(知識・理解) (2) 卒業研究の一連の流れ、制作した作品について、ファイル、パネルとしてまとめることができる。(汎用的技能) (3) ファッションショー等のプレゼンテーションを、意欲的に計画・実行できる。(態度・志向性) | | | | | | |
| 授業計画 | <p>○前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (卒業制作の進め方、テーマ・進捗状況の確認、計画表作成) 2. 提出物について (作品、ファイル、パネル) 3. 作品制作 1 4. 作品制作 2 5. 作品制作 3 6. 作品制作 4 7. 作品制作 5 8. 作品制作 6 9. 作品制作 7 10. 作品制作 8 11. 作品制作 9 12. 作品制作 10 13. 発表準備①: スライド作成 14. 発表準備②: 原稿作成 15. 発表準備③: リハーサル <p>○後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 16. オリエンテーション (進捗状況の確認) 17. 作品制作 11 18. 作品制作 12 19. 作品制作 13 20. 作品制作 14 21. 作品制作 15 22. 作品制作 16 23. ファイル・パネル作成① 24. ファイル・パネル作成② 25. ファイル・パネル作成③ 26. ファイル・パネル作成④ 27. ファイル・パネル作成⑤ 28. 発表準備①: スライド作成 29. 発表準備②: 原稿作成 30. 発表準備③: リハーサル | | | | | | |
| 授業外における学習 (準備学習の内容・時間) | 授業前事前学習: 研究計画にそって、資料収集や作品制作を行う。(学習時間2時間) 授業後学習: 授業内でディスカッションした内容について要点を整理、確認し、次の授業の事前学習に繋げる。(学習時間2時間) | | | | | | |
| 授業方法 | 演習形式: 研究テーマに沿って、各自作品制作を進める。 授業内では各自作業した内容を報告し、その内容について教員、受講生でディスカッションをおこなう。 期末には学科内で進捗状況についてプレゼンテーションをおこない、教員による口頭試問を実施する。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 制作作品 (50%)、ファイル・パネル (30%)、発表 (20%) 制作作品、それを用いたファッションショーへの参加等を総合的に評価。到達目標 (1)、(3) に関する到達度の確認。 制作作品についてのプレゼンテーション等を総合的に評価。到達目標 (2) に関する到達度の確認。 各項目の評価はルーブリックを用いておこなう。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 材料費 (布、副資材、ファイル、ボード等)、調査や資料収集にかかる費用は自己負担とする。 | | | | | | |

| | |
|-----|----|
| 教科書 | なし |
| 参考書 | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 卒業研究 | | | | | | |
| 担当教員 | 徳山 孝子 | | | | | 科目ナンバ- | F04070 |
| 学期 | 通年／Full Year | 曜日・時限 | 火曜2 | 配当学年 | 4 | 単位数 | 8.0 |
| 授業のテーマ | ファッションに関わるテーマを一つ決め研究し、論文もしくは制作でまとめる方法を学ぶ。 | | | | | | |
| 授業の概要 | デザイン特別演習A/Bで学んだ知識をもとに、自らの研究を進めるための指導を行う。具体的には、研究計画、先行研究、資料・文献収集、実験する学生は実験方法、調査する学生は調査方法などを説明し、各自が研究を進める。進行状況に応じて個別指導をする。最後に論文もしくは制作（作品・ポートフォリオ）に仕上げ、パネルに要約したものを合わせて提出する。さらに、パネルの展示、発表プレゼンテーションする。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 研究テーマに基づき論理的に説明できる【知識・理解】 2) 研究方法や製作方法を列挙できる【汎用的技能】 3) 研究論文および作品を仕上げる【汎用的技能】 4) 研究論文および製作をパネルに要約できる【知識・理解】 5) 研究内容もしくは製作内容を口頭発表できる【態度・指向性】 | | | | | | |
| 授業計画 | <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション（研究方針・進め方の説明） 2) テーマと研究方法の説明 3) 各自の研究について発表Ⅰ 4) 各自の研究について発表Ⅱ 5) 各自の研究について発表Ⅲ 6) 各自の研究および制作の方法について指導Ⅰ 7) 各自の研究および制作の方法について指導Ⅱ 8) 各自の研究および制作の方法について指導Ⅲ 9) 各自の研究および制作の方法について指導Ⅳ 10) 各自の中間発表について指導Ⅰ 11) 各自の中間発表について指導Ⅱ 12) 各自の中間発表について指導Ⅲ 13) 各自の中間発表について指導Ⅳ 14) 中間発表のプレゼンテーションⅠ 15) 中間発表のプレゼンテーションⅡ <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 16) オリエンテーション（研究方針・進め方の説明） 17) 研究成果と卒論構成Ⅰ（制作の場合はレポートやポートフォリオⅠ） 18) 研究成果と卒論構成Ⅱ（制作の場合はレポートやポートフォリオⅡ） 19) 研究成果と考察・結論Ⅰ（制作の場合はレポートやポートフォリオⅠ） 20) 研究成果と考察・結論Ⅱ（制作の場合はレポートやポートフォリオⅡ） 21) 研究成果と考察・結論Ⅲ（制作の場合はレポートやポートフォリオⅢ） 22) 卒業論文や作品の最終チェック 23) 中間発表会のプレゼンテーションⅠ 24) 中間発表会のプレゼンテーションⅡ 25) 卒業研究および作品の表題集の書き方 26) 研究成果のパネル作成について指導Ⅰ 27) 研究成果のパネル作成について指導Ⅱ 28) 卒業研究発表について指導Ⅰ 29) 卒業研究発表について指導Ⅱ 30) 卒業研究発表（プレゼンテーション） | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | <p>授業前準備学習：授業内で説明する。＜2時間＞</p> <p>授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中内にできなかった課題は完成させる。＜2時間＞</p> | | | | | | |
| 授業方法 | <ol style="list-style-type: none"> ①研究した内容を発表し、グループ討議への参加を求める。 ②研究内容によっては、個人指導する。 ③順番にプレゼンテーションをする。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 提出物100%：プレゼンテーション、授業における貢献度、卒業論文作成過程における中間評価、卒業論文の内容など総合的に評価する。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | <p>授業の参加が重要のため出席を重視する。</p> <p>卒業研究は8単位のため、木曜2限も使って研究する。</p> <p>調査、文献資料などにかかる文献料や入場料、交通費などの実費負担がある。</p> <p>制作の場合は、材料費などは自己負担である。</p> | | | | | | |

| | |
|-----|----------------------------|
| 教科書 | 教科書としては、特に用いないが、プリントを配布する。 |
| 参考書 | そのつど紹介する。 |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 卒業研究 | | | | | | |
| 担当教員 | 戸田 賀志子 | | | | | 科目ナンバ- | F04070 |
| 学期 | 通年／Full Year | 曜日・時限 | 火曜2 | 配当学年 | 4 | 単位数 | 8.0 |
| 授業のテーマ | ファッションに関する各自のテーマに沿って研究し、論文執筆あるいは作品制作を行う方法を学ぶ。 | | | | | | |
| 授業の概要 | デザイン特別演習での学びを基に、各自が研究・制作活動を行う。研究計画、先行研究、資料および文献収集、調査方法、テーマに沿った作品製作の指導を個別に行い、最終的には論文または作品（冊子・衣装）を完成させ、研究成果をボードに要約し提出、4年間の学びをかたちあるものとして総括する。各自の進行状況に応じた個人指導を行う。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1) 研究方法や製作方法を論理的に説明できる【知識・理解】 (2) 研究論文または作品を完成させることができる【汎用的技能】 (3) 研究論文または作品をボードに要約することができる【知識・理解】 (4) 研究内容または作品内容を口頭で発表することができる【態度・指向性】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ul style="list-style-type: none"> ・前期 1. オリエンテーション（研究または製作方針・進め方、進捗状況の確認） 2. テーマの再検討と確立 3. 各自の研究内容を発表1 4. 各自の研究内容を発表2 5. 研究または作品制作指導1 6. 研究または作品制作指導2 7. 研究または作品制作指導3 8. 研究または制作指導4 9. 研究または作品制作 11. 中間発表に関する指導2 12. 中間発表に関する指導3 13. 中間発表に関する指導4 14. 中間発表のプレゼンテーション1 15. 中間発表のプレゼンテーション2 ・後期 16. オリエンテーション（研究または制作方針・進め方、進捗状況の確認） 17. 研究または制作成果とポートフォリオ作成指導 18. 研究成果と論文構成1（制作：レポートや冊子作成1） 19. 研究成果と論文構成2（制作：レポートや冊子作成2） 20. 研究成果と考察・結論1（制作：レポートや冊子作成3） 21. 研究成果と考察・結論2（制作：レポートや冊子作成4） 22. 研究成果と考察・結論3（制作：レポートや冊子作成5） 23. 研究成果と考察・結論4（制作成果のボード作成指導2） 28. 卒業研究発表指導1 29. 卒業研究発表指導2 30. 卒業研究発表指導3 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前学習：研究計画にしたがって、資料集や制作準備を行う（詳細は授業内で指示）（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容を整理、要点をまとめ次回までに課題に取り組む（学習時間：2時間） | | | | | | |
| 授業方法 | 演習形式（個人指導を含む） 研究内容およびその成果についての発表を行い、互いに講評を行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 提出物（論文または制作物の内容、完成度）90%、授業への参加度（積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるか）10% | | | | | | |
| 履修上の注意 | <ul style="list-style-type: none"> ・出席を重視する。授業回数の2/3以上の出席を必要とする。 ・調査、見学（交通費、入場料など）、文献収集や制作に要する費用は自己負担とする。 ・研究・制作活動のスケジュールは、責任をもって管理すること。 ・提出物（論文、作品、ポートフォリオ、レポート・ボードなど）は、期限内に必ず提出（発表会で発表）すること。 | | | | | | |

| | |
|-----|-------------|
| 教科書 | とくに定めない。 |
| 参考書 | 必要に応じて紹介する。 |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 卒業研究 | | | | | | |
| 担当教員 | 西川 良子 | | | | | 科目ナンバ- | F04070 |
| 学期 | 通年／Full Year | 曜日・時限 | 金曜3 | 配当学年 | 4 | 単位数 | 8.0 |
| 授業のテーマ | テーマを一つ決め研究し、論文もしくは制作にまとめる方法を学ぶ。 | | | | | | |
| 授業の概要 | デザイン特別演習A/Bで学んだ知識をもとに、自らの研究を進める。 研究計画、先行研究、資料・文献収集、調査方法などを説明し、各自が研究を進める。 論文もしくは制作（作品・ポートフォリオ）に仕上げ、規定のパネルに要約したものを合わせて提出する。 さらに、パネルの展示、発表プレゼンテーションする。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに基づき論理的に説明できる【知識・理解】 ・研究方法や製作方法を列挙できる【汎用的技能】 ・研究論文および作品を仕上げる【汎用的技能】 ・研究論文および製作をパネルに要約できる【知識・理解】 ・研究内容もしくは製作内容を口頭発表できる【態度・指向性】 | | | | | | |
| 授業計画 | <p>【前期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（研究方針・進め方の説明） 2. テーマと研究方法の説明 3. 各自の研究について発表① 4. 各自の研究について発表② 5. 各自の研究について発表③ 6. 各自の研究および制作の方法について指導① 7. 各自の研究および制作の方法について指導② 8. 各自の研究および制作の方法について指導③ 9. 各自の研究および制作の方法について指導④ 10. 各自の中間発表について指導① 11. 各自の中間発表について指導② 12. 各自の中間発表について指導③ 13. 各自の中間発表について指導④ 14. 中間発表のプレゼンテーション① 15. 中間発表のプレゼンテーション② <p>【後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 16. オリエンテーション（研究方針・進め方の説明） 17. 研究成果と卒論構成①（制作の場合はレポートやポートフォリオ①） 18. 研究成果と卒論構成②（制作の場合はレポートやポートフォリオ②） 19. 研究成果と考察・結論①（制作の場合はレポートやポートフォリオ①） 20. 研究成果と考察・結論②（制作の場合はレポートやポートフォリオ②） 21. 研究成果と考察・結論③（制作の場合はレポートやポートフォリオ③） 22. 卒業論文や作品の最終チェック 23. 中間発表会のプレゼンテーション① 24. 中間発表会のプレゼンテーション② 25. 卒業研究および作品の表題集の書き方 26. 研究成果のパネル作成について指導① 27. 研究成果のパネル作成について指導② 28. 卒業研究発表について指導① 29. 卒業研究発表について指導② 30. 卒業研究発表（プレゼンテーション） | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | <p>授業前準備学習：授業内で説明する。（学習時間2時間）</p> <p>授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。 理解できなかった内容は、次の授業で質問する。 授業中内のできなかった課題は完成させる。（学習時間2時間）</p> | | | | | | |
| 授業方法 | 研究した内容を発表し、グループ討議への参加を求める。 研究内容によっては、個別指導する。 順番にプレゼンテーションをする。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 提出物90%：卒業制作、論文など成果物の内容、完成度 過程10%：プレゼンテーション、授業における貢献度、卒業研究における中間評価 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 授業の参加が重要なため出席を重視する。 調査、文献資料などにかかる文献料や入場料、交通費などの実費負担がある。 制作の場合は、材料費などは自己負担である。 | | | | | | |

| | |
|-----|-----------|
| 教科書 | 特になし。 |
| 参考書 | 授業中に紹介する。 |

| | | | | | | | |
|------------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 卒業研究 | | | | | | |
| 担当教員 | 藤井 裕貴子 | | | | | 科目ナンバ- | F04070 |
| 学期 | 通年/Full Year | 曜日・時限 | 金曜3 | 配当学年 | 4 | 単位数 | 8.0 |
| 授業のテーマ | 設定したテーマに沿って衣服制作をおこなう。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 卒業研究では、デザイン特別演習A、Bで考案したデザイン画を基に、パターン制作、本布制作を行なっていく。制作した衣服は、ファッションショー等のプレゼンテーションを行うことで、総合的な表現力を修得し、4年間の学びを総括する。 また研究内容はファイル、パネルとしてまとめ、作品について論理的な説明を行う方法を学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1) デザイン画を基に、衣服のパターン制作、縫製の計画を立てることができる。(知識・理解) (2) 卒業研究の一連の流れ、制作した作品について、ファイル、パネルとしてまとめることができる。(汎用的技能) (3) ファッションショー等のプレゼンテーションを、意欲的に計画・実行できる。(態度・志向性) | | | | | | |
| 授業計画 | <p>○前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (卒業制作の進め方、テーマ・進捗状況の確認、計画表作成) 2. 提出物について(作品、ファイル、パネル) 3. 作品制作 1 4. 作品制作 2 5. 作品制作 3 6. 作品制作 4 7. 作品制作 5 8. 作品制作 6 9. 作品制作 7 10. 作品制作 8 11. 作品制作 9 12. 作品制作 10 13. 発表準備①: スライド作成 14. 発表準備②: 原稿作成 15. 発表準備③: リハーサル <p>○後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 16. オリエンテーション (進捗状況の確認) 17. 作品制作 11 18. 作品制作 12 19. 作品制作 13 20. 作品制作 14 21. 作品制作 15 22. 作品制作 16 23. ファイル・パネル作成① 24. ファイル・パネル作成② 25. ファイル・パネル作成③ 26. ファイル・パネル作成④ 27. ファイル・パネル作成⑤ 28. 発表準備①: スライド作成 29. 発表準備②: 原稿作成 30. 発表準備③: リハーサル | | | | | | |
| 授業外における学習 (準備学習の内容・時間) | 授業前事前学習: 研究計画にそって、資料収集や作品制作を行う。(学習時間2時間) 授業後学習: 授業内でディスカッションした内容について要点を整理、確認し、次の授業の事前学習に繋げる。(学習時間2時間) | | | | | | |
| 授業方法 | 演習形式: 研究テーマに沿って、各自作品制作を進める。 授業内では各自作業した内容を報告し、その内容について教員、受講生でディスカッションをおこなう。 期末には学科内で進捗状況についてプレゼンテーションをおこない、教員による口頭試問を実施する。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 制作作品 (50%)、ファイル・パネル (30%)、発表 (20%) 制作作品、それを用いたファッションショーへの参加等を総合的に評価。到達目標 (1)、(3) に関する到達度の確認。 制作作品についてのプレゼンテーション等を総合的に評価。到達目標 (2) に関する到達度の確認。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 材料費 (布、副資材、ファイル、ボード等)、調査や資料収集にかかる費用は自己負担とする。 | | | | | | |

| | |
|-----|----|
| 教科書 | なし |
| 参考書 | なし |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|--|---|-----|---|-----|-----------------------|--------|---------------|-----|-------------------------|-----|----------------------|-----|-------------------|-----|-------------------|-----|-----------------------|------|-----------------------|------|-----------------------|------|-----------------------|------|--------------------------|------|----------------------|------|-----------------------|------|-------------------------|------|----------------------------|------|----------------------|------|----------------------|------|-------------------------------|------|------------------------|------|----------------|------|----------------------|------|----------------------|------|------------------------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目名 | 卒業研究 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | 米原 慶子 | | | | | 科目ナンバ- | F04070 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学期 | 通年／Full Year | 曜日・時限 | 水曜2 | 配当学年 | 4 | 単位数 | 8.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業のテーマ | 身近な生活空間のよりよいあり方を考え、提案する (空間デザイン・インテリアエレメント関連の卒業作品制作) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 「デザイン特別演習A・B」を通して、各自またはグループで設定した研究テーマについて、より具体的な調査研究を進め、提案的な空間デザインやインテリアエレメント作品としてまとめる制作に取り組んでいく。 随時議論や試行錯誤しながら制作をすすめ、図面、パース、模型、文章などを冊子やスライドにまとめ、トータルなプレゼンテーションを行なう。 キーワード：インテリア、卒業制作、プレゼンテーション | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1)自立した人間としての自己の確立と、身につけた知識を地域・社会に還元し他者と調和して生きる姿勢を、各自興味のあるテーマについての理解、問題意識を深め、独自の有意義な提案にまとめることを通して習得する。(知識・理解+態度・志向性) (2)情報を主体的・批判的に受容し、論理的に判断する能力、自分の考えを的確に表現する高度なコミュニケーション能力を習得する。 (3)空間デザインの表現力を高めながら、まとまった作品に仕上げ、トータルなプレゼンテーションを行う能力を習得する。(汎用的技能) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | 第1回 | ガイダンス、第1段階 「卒業制作のテーマに関する基礎研究」 敷地設定、参考作品など資料の収集と前提条件の整理 | 第2回 | 第1段階 敷地図、既存図の作成、 参考作品研究(図面トレース、スタディ模型制作等)、ヒアリング等 | 第3回 | 第1段階 参考作品、ヒアリング結果等の分析 | 第4回 | 第1段階 基礎研究のまとめ | 第5回 | 第1段階 基礎研究の発表用パワーポイントの作成 | 第6回 | 第1段階 基礎研究の発表、第2段階の準備 | 第7回 | 第2段階 「基本計画」 エスキース | 第8回 | 第2段階 エスキースチェック、修正 | 第9回 | 第2段階 基本計画図、スタディ模型など作成 | 第10回 | 第2段階 基本計画図、スタディ模型など作成 | 第11回 | 第2段階 基本計画図、スタディ模型など作成 | 第12回 | 第2段階 基本計画図、スタディ模型など作成 | 第13回 | 第2段階 まとめ、中間発表用パワーポイントの制作 | 第14回 | 第2段階 パワーポイントのチェック、修正 | 第15回 | 第2段階 中間発表と講評、夏休みの宿題計画 | 第16回 | 第3段階 夏休みの宿題のまとめ、第3段階の計画 | 第17回 | 第3段階 夏休みの宿題発表、第3段階「詳細設計」準備 | 第18回 | 第3段階 詳細図、パース、模型などの制作 | 第19回 | 第3段階 詳細図、パース、模型などの制作 | 第20回 | 第3段階のまとめ、中間発表用プレゼンテーションボードの制作 | 第21回 | 第3段階 中間発表、講評。追加修正事項の指導 | 第22回 | 最終段階 追加修正図面の作成 | 第23回 | 最終段階 プレゼンテーションボードの制作 | 第24回 | 最終段階 プレゼンテーションボードの制作 | 第25回 | 最終段階 プレゼンテーションボードのチェック |

| | |
|-----------------------|---|
| 授業計画 | <p>第26回 最終段階 制作ノートの整理、まとめ</p> <p>第27回 最終段階 プレゼンテーションボード、制作ノートのプリントアウト、学科提出</p> <p>第28回 最終段階 プレゼンテーションボード、制作ノートのチェック、修正</p> <p>第29回 最終段階 プレゼンテーションボード、制作ノートの完成、最終提出。概要集用原稿の作成</p> <p>第30回 最終段階 発表用パワーポイント、原稿の作成</p> |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | <p>興味のあるテーマについて、各自で文献検索、資料収集につとめ、学習を深めること。 テーマ関連のインテリアや展覧会等の見学を積極的に行うのが望ましい。</p> |
| 授業方法 | <p>インテリア分野の卒業作品制作を中心としたゼミナール。 中間発表は、学科全体で3回行い、その他にゼミ内で1回行う予定。 後期末の提出後には、学科として卒業研究発表会と卒業研究展示会を行う。 また研究の概要を各自A4サイズ1ページ分にまとめ、表題集の（冊子）を作成する。</p> |
| 評価基準と評価方法 | <p>平常点 30% : 毎回のミニレポートにより、テーマへの取り組み方を評価する。 到達目標(1)の到達度の確認。</p> <p>中間提出物 20% : テーマについての中間段階での理解、問題意識、独自の有意義な提案内容を評価する。 到達目標(1), (2)の到達度の確認。</p> <p>最終作品 50% : テーマについての最終段階での理解、問題意識、独自の有意義な提案内容を評価する。 トータルな空間デザイン提案としての作品を評価する。 到達目標(1), (2)の到達度の確認。</p> |
| 履修上の注意 | <p>卒業作品の制作には、多大な時間とエネルギーが必要である。 自己責任でしっかりとスケジュール管理を行ない、十分な制作時間を確保すること。 各自のテーマ関連で、リサーチのための見学を指示する。 見学及び制作に要する費用は自己負担とする（各ゼミ共通）。</p> |
| 教科書 | <p>資料を配付する。</p> |
| 参考書 | <p>各自のテーマに応じて紹介する。</p> |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 地域貢献デザイン演習A/地域貢献デザイン演習 | | | | | | |
| 担当教員 | 石田原 弘 | | | | | 科目ナンバ- | F0202A |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 月曜4 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 神戸という地域を題材に、現在のデザインにおいて必要とされる地域社会に対する視点を養う。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 神戸タータンを通して産学官連携の地域貢献を肌で感じたうえで、ファッション・ライフスタイルと地域社会の関係性を調査し、大学生や女性の目から見た神戸タータンの買い回りマップを制作する。さらには、リサーチの結果を踏まえて、ビジネスを通じた地域貢献を行うべく、オリジナル商品の開発も提案する。また、今年度の松蔭女子学院創立130周年を迎え、神戸松蔭タータンのグッズの展開も進める。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1) 地域社会に目を向け、取り組むべき問題点を発見することができる。(態度・指向性) (2) フィールドワークを中心とした情報収集を通して、リサーチ、分析、編集の基礎的なスキルを習得する。(汎用的技能) (3) 調査内容を他者に伝達するために、視覚的にわかりやすい形で成果物としてまとめ、プレゼンテーションが行える。(汎用的技能) | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション(本学) 神戸タータンの基礎知識 神戸タータンの地域貢献における役割 マーケットリサーチ準備(本学)(ゲストスピーカー招聘予定) 神戸タータン会員企業でのマーケットリサーチ(神戸市内) 1回目学外研修のリサーチデータのまとめ(本学) 市内の神戸タータンの販売地点の調査(神戸市内) 2回目学外研修のリサーチデータまとめ(本学) 学外研修の結果を踏まえて、神戸松蔭タータングッズの研究(本学) 神戸松蔭タータングッズのデザインのグループ討議(本学) 神戸松蔭タータングッズのデザインのプレゼンテーション(本学) 神戸タータン買い回りマップ制作のグループ分け(本学) 神戸タータン買い回りマップのグループ別事前調査(本学) 神戸タータン買い回りマップ対象店舗の調査(神戸市内) 発表(本学) | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 授業前準備学習: 各回で行う授業内容を確認し、必要となる情報を収集しておく。<2時間> 授業後学習: 授業で取り上げた内容を確認整理する。<2時間> 原則として現地調査、課題制作等は授業内で行うが、授業内で指定の進捗まで完成しなかった場合は次の授業までに完成させておくこと。 | | | | | | |
| 授業方法 | 演習、実地調査を行い、そこで得た情報をもとに、課題制作を行う。制作した課題について、プレゼンテーションを行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 授業態度(課題への取り組み)30%、課題制作40%、プレゼンテーション30% 授業態度は実地調査等への取り組み、グループでの課題制作への参加度などを総合的に評価。また、到達目標(1)に関する到達度の確認。 課題制作は指定された課題への評価。到達目標(2)、(3)に関する到達度の確認。 プレゼンテーションは制作した課題についてのプレゼンテーションを評価。また、到達目標(3)に関する到達度の確認。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 数回の学外見学、市場調査を行う。場所は原則、神戸市内となり、入場料が発生する場合や往復の交通費は実費負担となる。 | | | | | | |
| 教科書 | 特になし | | | | | | |
| 参考書 | 「文化立国論ー日本のソフトパワーの底力」 筑摩書房 青柳正規著 ISBN 978-4-480-06851-4 「タータン伝統と革新のデザイン」 青幻舎 ISBN 978-4-86152-692-3 「手織りのタータンチェック」 誠文堂新光社 明石恵子著 ISBN 978-4-416-62102-8 「タータンチェックの文化史」 白水社 奥田実紀著 ISBN 978-4-560-02799-8 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 地域貢献デザイン演習A/地域貢献デザイン演習 | | | | | | |
| 担当教員 | 井上 裕之 | | | | | 科目ナンバ- | F0202A |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 火曜4 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 神戸という地域を題材に、現在のデザインにおいて必要とされる地域社会に対する視点を養う。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 授業は神戸ファッション美術館と連携しておこなう。演習Aでは神戸ファッション美術館の広報として使用できるフリーペーパーを制作する。実地調査、収蔵品見学、学芸員へのインタビュー等を通じて、社会人として必要なコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、ビジュアル資料を作成する能力を養う。神戸ファッション美術館を題材に、学びの場である神戸という地域へ目を向け、地域社会に対する視点を養うとともに、続く演習Bで取り組むべき課題の発見へと繋げていく。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1) 地域社会に目を向け、取り組むべき問題点を発見できる。(態度・志向性) (2) フィールドワークを中心とした情報収集を通して、リサーチ、分析、編集の基礎的なスキルを習得し、使用できる。(汎用的技能) (3) 調査内容を他者に伝達するために、視覚的にわかりやすい形で成果物としてまとめ、プレゼンテーションができる。(汎用的技能) | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(本学)：授業内容について、グループ分け 2. 調査準備(本学)：神戸ファッション美術館について、テーマ設定 3. 実地調査(神戸ファッション美術館、学外授業)：施設の見学、調査 4. 調査まとめ(本学)：冊子内容考案 5. 課題制作(本学)：冊子内容考案、ページ分担 6. 実地調査(神戸ファッション美術館、学外授業)：コレクション展見学、調査 7. 課題制作①(本学)：掲載内容まとめ 8. 課題制作②(本学)：レイアウト考案 9. 中間チェック(本学)：ゲストスピーカー神戸ファッション美術館学芸員、冊子の概要説明、提案 10. 課題制作③(本学)：冊子内容修正、ページ作成 11. 課題制作④(本学)：各ページを冊子に集約 12. 課題制作⑤(本学)：表紙等作成 13. 発表準備①(本学)：活動内容のまとめ 14. 発表準備②(本学)：プレゼンテーション資料作成 15. 発表(本学)：ゲストスピーカー神戸ファッション美術館学芸員、発表 <p>※新型コロナウイルス感染拡大状況により、学外授業、ゲストスピーカーの予定変更あり。</p> | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | <p>授業前準備学習：各回でおこなう授業内容を確認し、必要となる情報を収集しておく。<学習時間2時間></p> <p>授業後学習：授業で扱った内容について、要点の確認と整理をおこない、疑問点を抽出する。<学習時間2時間></p> <p>原則として現地調査、課題制作等は授業内でおこなうが、授業内で指定の進捗まで完成しなかった場合は、次の授業までに完成させておくこと。</p> | | | | | | |
| 授業方法 | 演習、実地調査をおこない、そこで得た情報を基に、課題制作をおこなう。制作した課題について、プレゼンテーションをおこなう。 調査、課題制作においてはグループ内でディスカッションをおこなう。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | <ol style="list-style-type: none"> ① 授業態度(課題への取り組み)30%、② 課題制作40%、③ プレゼンテーション30% ① 授業態度、実地調査等への取り組みグループでの課題制作への参加度などを総合的に評価。到達目標(1)に関する到達度の確認。 ② 課題制作、指定された課題への評価。到達目標(2)、(3)に関する到達度の確認。 ③ プレゼンテーション、制作した課題についてのプレゼンテーションを評価。到達目標(3)に関する到達度の確認。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 実地調査等にかかる交通費、入場料などは自己負担とする。 | | | | | | |
| 教科書 | なし | | | | | | |
| 参考書 | なし | | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 地域貢献デザイン演習A/地域貢献デザイン演習 | | | | | | |
| 担当教員 | 戸田 賀志子 | | | | | 科目ナンバー | F0202A |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 水曜4 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 神戸という地域を題材に、現在のデザインにおいて必要とされる地域社会に対する視点を培う。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 演習Aでは、「真珠の街神戸」の歴史的背景や真珠の基礎的な事柄を中心に学びを深めたうえで、大学生の視点から、さまざまな種類や特徴をもつ真珠のハンドブックを制作する。実地調査および見学、関係者へのインタビュー等を通じて真珠加工産業の現状を把握、課題を検討するとともに、社会人に必要とされるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を培う。調査結果を踏まえて、オリジナル製品の開発も提案も着手し演習Bへとつなげる。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1) 地域社会に目を向け、取り組むべき問題点を発見することができる。(態度・志向性) (2) フィールドワークを中心とした情報収集を通して、リサーチ、分析、編集の基礎的なスキルを習得する。(汎用的技能) (3) 調査内容を他者に伝達するために、視覚的にわかりやすい形で成果物としてまとめ、プレゼンテーションを行うことができる。(汎用的技能) | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (本学) 2. 施設見学 (パールミュージアム) : 講演 3. 講演内容のまとめ、調査準備 (本学) 4. グループ分け、取材項目など決定 (本学) 5. 調査見学: 真珠関連企業 (神戸市内) 6. 調査まとめ (本学) 7. 調査見学: 真珠関連企業 (神戸市内) 8. 調査まとめ (本学) 9. 調査見学: 真珠関連企業 (神戸市内) 10. 調査まとめ (本学) 11. 課題検討、制作 (本学) (ゲストスピーカー招聘予定) 12. 課題制作 (本学) 13. 発表準備 (本学) 資料収集 14. 発表準備 (本学) 資料作成 15. 発表 (本学) (ゲストスピーカー招聘予定) | | | | | | |
| 授業外における学習 (準備学習の内容・時間) | 授業前準備学習: 各回で行う授業内容を確認し、必要となる情報を収集しておく。<2時間> 授業後学習: 授業で取り上げた内容を確認整理する。<2時間>原則として現地調査、課題制作等は授業内で行うが、授業内で指定の進度にまで完成しなかった場合は次の授業までに完成させておくこと。 | | | | | | |
| 授業方法 | 演習、実地調査を行い、そこで得た情報をもとに課題制作を行う。制作した課題についてプレゼンテーションを行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 授業態度 (積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるか) 30%、課題制作40%、プレゼンテーション30% 授業態度: 実地調査等への取り組み、グループでの課題制作への参加度などを総合的に評価。また、到達目標 (1) に関する到達度の確認。 課題制作: 指定された課題への評価。到達目標 (2)、(3) に関する到達度の確認。 プレゼンテーション: 制作した課題についてのプレゼンテーションを評価。また、到達目標 (3) に関する到達度の確認。 なお、課題制作およびプレゼンテーションは授業で講評を行い各自にフィードバックする。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 演習授業であるため出席を重視する。授業回数の2/3以上の出席を必要とする。 数回の学外見学、市場調査を行う。場所は原則、神戸市内となり、入場料が発生する場合や往復の交通費は実費負担となる。 | | | | | | |
| 教科書 | 特に定めない。 | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて授業内で紹介する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 地域貢献デザイン演習A/地域貢献デザイン演習 | | | | | | |
| 担当教員 | 西川 良子 | | | | | 科目ナンバ- | F0202A |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 木曜1 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 神戸という地域を題材に、神戸発祥の産業とのコラボレーションにより、ブランド発信のためのコンテンツ制作を目指して、必要なスキルアップと取材・リサーチを行う。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 地域貢献デザイン演習Aでは、ライフスタイルと地域社会の関係性という枠組みの中で、設定されたテーマに基づき、課題制作をおこなう。成果物はテーマに応じて異なるが、課題制作のためインタビューや実地調査を用いたリサーチをおこなう。学びの場である神戸という地域へ目を向け、現在のデザインにおいて必要とされる地域社会に対する視点を養っていくことで、続く演習Bで取り組むべき課題の発見へと繋げていく。また、インタビュー等学外の人々との交流を通じて、社会人として必要なコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養う。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・神戸の地場産業やイベントについて基本的な理解がある。【知識・理解】 ・地域社会に目を向け、取り組むべき問題点を発見することができる。【汎用的技能】 ・フィールドワークを中心とした情報収集を通して、リサーチ、分析、編集の基礎的なスキルを習得する。【汎用的技能】 ・調査内容を他者に伝達するために、成果物としてまとめ、プレゼンテーションができる。【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：本学 神戸の歴史 2. 調査準備：本学 3. 神戸の地場産業やブランドについて：本学 4. ブランディングとイメージ：本学 5. チーム編成&神戸に関する取材項目など決定・作成：本学 6. 地場産業実地調査(見学・インタビュー・取材)：学外研修/関連企業 1 7. 地場産業実地調査(見学・インタビュー・取材)：学外研修/関連企業 2 8. PCグラフィックススキル：本学 9. 取材情報編集：本学 10. ページレイアウト(写真・文字配置)：本学 11. コンテンツ制作1(Webページ用ファイル作成)：本学 12. コンテンツ制作2(Webページ用ファイル作成)：本学 13. 制作物チェック：本学 14. 発表準備：本学 15. 発表：本学 <p style="text-align: right;">※ゲストスピーカー/担当者来学予定：2、10、15</p> | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | <p>授業前準備学習：各回で行う授業内容を確認し、必要となる情報を収集しておく。神戸の産業に関する新聞、雑誌、TV、ネットなどの記事に注目し、授業との関連について考える。(2時間)</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容を確認整理する。PCスキル、特にプレゼンテーションに関する練習を積極的におこなう。(2時間)</p> <p>原則として現地調査、課題制作等は授業内でおこなうが、授業内で指定の進捗まで完成しなかった場合は次の授業までに完成させておくこと。</p> | | | | | | |
| 授業方法 | 演習、実地調査を行い、そこで得た情報をもとに、課題制作を行う。制作した課題についてプレゼンテーションを行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | <p>授業態度(課題への取り組み)30%、課題制作40%、プレゼンテーション30%</p> <p>授業態度は実地調査等への取り組み、グループでの課題制作への参加度などを総合的に評価。</p> <p>課題制作は指定された課題への評価。</p> <p>プレゼンテーションは制作した課題についてのプレゼンテーションを評価。</p> | | | | | | |
| 履修上の注意 | <p>数回の学外見学、市場調査を行う。</p> <p>場所は原則、神戸市内となり、入場料が発生する場合や往復の交通費は実費負担。</p> | | | | | | |
| 教科書 | 特になし。 | | | | | | |
| 参考書 | 授業中に紹介します。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 地域貢献デザイン演習B | | | | | | |
| 担当教員 | 石田原 弘 | | | | | 科目ナンバ- | F0202B |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 月曜4 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 演習Aでの学びを発展させ、地域の要望、問題点などに対する解決方法を提案する。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 神戸タータンを通して神戸の地域貢献を考察する。前期の演習Aの学びを発展させ、神戸タータンの調査を深めることにより、地域貢献活動を成功に導く要素を導き出し、大学生や女性から見たオリジナルグッズの制作を進める。また、神戸タータンと言う地域貢献における「コーディネーター」の理解をさらに深め、今年度の松蔭女子学院創立130周年を迎え、「神戸松蔭タータン」の取り組みも同時に進める。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1) 地域社会に目を向け、取り組むべき問題点を発見することができる。【態度・指向性】 (2) 問題に対して、デザインを用いた創造的な解決方法を提案できる。【汎用的技能】 (3) アイデアの具体化に必要な、PC操作やスケッチ等の基礎的なスキルを習得する。【汎用的技能】 (4) 提案内容を他者に伝達するために、視覚的にわかりやすい形で成果物としてまとめ、プレゼンテーションが行える。【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 神戸タータン買い回りマップの調査データのまとめ (本学) 2. 神戸タータン買い回りマップの地域グループ別のまとめ (本学) 3. 神戸タータン買い回りマップの制作 (ラフレイアウト) (本学) 4. 神戸タータン買い回りマップの制作 (詳細データのインプット) (本学) 5. 神戸タータン買い回りマップの完成、プレゼンテーション (本学) 6. 神戸タータン買い回りマップの修正 (本学) 7. 本学オリジナルグッズの大学祭での販売準備 (本学) 8. 本学オリジナルグッズの販売結果の考察 (本学) 9. 神戸松蔭タータンの展開の考察のためのマーケティング調査 (神戸市内) 10. 産学連携のための「神戸松蔭タータン」デザインの確認 (本学) (ゲストスピーカー招聘予定) 11. 神戸松蔭タータンの展開の考察 (本学) 12. 神戸松蔭タータンの展開アイテムの考察 (本学) 13. 神戸松蔭タータンの展開の総合的考察 (本学) 14. 神戸松蔭タータンの展開のグループ討議 (本学) 15. 発表 (本学) | | | | | | |
| 授業外における学習 (準備学習の内容・時間) | 授業前準備学習：各回で行う授業内容を確認し、必要となる情報を収集しておく。<2時間> 授業後学習：授業で取り上げた内容を確認整理する。<2時間> 原則として現地調査、課題制作等は授業内で行うが、授業内で指定の進捗まで完成しなかった場合は次の授業までに完成させておくこと。 | | | | | | |
| 授業方法 | 演習、実地調査を行い、そこで得た情報をもとに、課題制作を行う。制作した課題についてプレゼンテーションを行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 授業態度 (課題への取り組み) 30%、課題制作40%、プレゼンテーション30% 授業態度は実地調査等への取り組み、グループでの課題制作への参加度などを総合的に評価。また、到達目標 (1) に関する到達度の確認。 課題制作は指定された課題への評価。到達目標 (2)、(3)、(4) に関する到達度の確認。 プレゼンテーションは制作した課題についてのプレゼンテーションを評価。また、到達目標 (4) に関する到達度の確認。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 数回の学外見学、市場調査を行う。場所は原則、神戸市内となり、入場料が発生する場合や往復の交通費は実費負担となる。 | | | | | | |
| 教科書 | 特になし | | | | | | |
| 参考書 | 「タータン伝統と革新のデザイン」青幻舎 ISBN 978-4-86152-692-3 「手織りのタータンチェック」誠文堂新光社 明石恵子著 ISBN 978-4-416-62102-8 「タータンチェックの文化史」白水社 奥田実紀著 ISBN 978-4-560-02799-8 「文化立国論—日本のソフトパワーの底力」筑摩書房 青柳正規著 ISBN 978-4-480-06851-4 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 地域貢献デザイン演習B | | | | | | |
| 担当教員 | 井上 裕之 | | | | | 科目ナンバ- | F0202B |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 火曜4 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 演習Aでの学びを発展させ、地域の要望、問題点などに対する解決方法を提案する。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 授業は神戸ファッション美術館と連携しておこなう。演習Bでは、Aに引き続き神戸ファッション美術館の広報をテーマにする。演習Aで気づいた視点や、改めておこなう実地調査を基に課題を設定し、取り組んでいく。例としてはSNSを用いた情報発信の方法や、神戸ファッション美術館内で販売するグッズの提案をおこなう。より対外的な活動をおこなっていく中で、スケジュールの管理や他者との協同、デザイン、アイデアの構想など、様々なプロジェクトに対応できる実践的な能力を身につけていき、それらを他者にプレゼンテーションするための手法を習得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1) 地域社会に目を向け、取り組むべき問題点を発見できる。【態度・志向性】 (2) 問題に対して、デザインを用いた創造的な解決方法を提案できる。【汎用的技能】 (3) アイデアの具体化に必要な、PC操作やスケッチ等の基礎的なスキルを習得し、使用できる。【汎用的技能】 (4) 提案内容を他者に伝達するために、視覚的にわかりやすい形で成果物としてまとめ、プレゼンテーションができる。【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション(本学)：授業内容について 調査準備(本学)：テーマ設定 実地調査(神戸ファッション美術館、学外授業)：施設の見学、調査 調査まとめ(本学)：課題の発見、整理 課題制作①(本学)：提案内容考案 課題制作②(本学)：リサーチ 課題制作③(本学)：提案内容まとめ 中間チェック(本学)：ゲストスピーカー神戸ファッション美術館学芸員、提案内容のプレゼンテーション 課題制作④(本学)：提案内容修正、決定 実地調査(神戸ファッション美術館、学外授業)：提案内容に沿ったリサーチ 課題制作⑤(本学)：デザイン等ビジュアル資料作成 課題制作⑥(本学)：デザイン等ビジュアル資料まとめ 発表準備①(本学)：活動内容のまとめ 発表準備②(本学)：プレゼンテーション資料作成 発表(本学)：ゲストスピーカー神戸ファッション美術館学芸員、発表 <p>※新型コロナウイルス感染拡大状況により、学外授業、ゲストスピーカーの予定変更あり。</p> | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | <p>授業前準備学習：各回でおこなう授業内容を確認し、必要となる情報を収集しておく。<学習時間2時間></p> <p>授業後学習：授業で扱った内容について、要点の確認と整理をおこない、疑問点を抽出する。<学習時間2時間></p> <p>原則として現地調査、課題制作等は授業内でおこなうが、授業内で指定の進捗まで完成しなかった場合は次の授業までに完成させておくこと。</p> | | | | | | |
| 授業方法 | 演習、実地調査をおこない、そこで得た情報を基に、課題制作をおこなう。制作した課題について、プレゼンテーションをおこなう。 調査、課題制作においてはグループ内でディスカッションをおこなう。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | <p>①授業態度(課題への取り組み)30%、②課題制作40%、③プレゼンテーション30%</p> <p>①授業態度、実地調査等への取り組みグループでの課題制作への参加度などを総合的に評価。到達目標(1)に関する到達度の確認。 ②課題制作、指定された課題への評価。到達目標(2)、(3)、(4)に関する到達度の確認。 ③プレゼンテーション、制作した課題についてのプレゼンテーションを評価。到達目標(4)に関する到達度の確認。</p> | | | | | | |
| 履修上の注意 | 実地調査等にかかる交通費、入場料などは自己負担とする。 | | | | | | |
| 教科書 | なし | | | | | | |
| 参考書 | なし | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 地域貢献デザイン演習B | | | | | | |
| 担当教員 | 戸田 賀志子 | | | | | 科目ナンバ- | F0202B |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 水曜4 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 地域貢献デザイン演習Aでの学びを発展させ、地域の要望、問題点などに対する解決方法を提案する。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 地域貢献デザイン演習Bでは演習Aでの学びを発展させ、検討課題に基づいた調査を深化させる。授業では地場産業のひとつパール（真珠加工）を取り上げ、学びの成果として「真珠パスポート」やオリジナルグッズの提案をおこなう。より対外的な活動を通じて、スケジュール管理や他者との協同、デザイン、アイデアの構想など、様々なプロジェクトに対応できる実践的な能力を育み、それらを他者にプレゼンテーションするための手法を習得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1) 地域社会に目を向け、取り組むべき問題点を発見することができる。【態度・志向性】 (2) 問題に対して、デザインを用いた創造的な解決方法を提案できる。【汎用的技能】 (3) アイデアの具体化に必要な、PC操作やスケッチ等の基礎的なスキルを習得する。【汎用的技能】 (4) 提案内容を他者に伝達するために、視覚的にわかりやすい形で成果物としてまとめ、プレゼンテーションがおこなえる。【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | 1. オリエンテーション（本学） 2. 前期でリサーチした情報の整理：（本学）（ゲストスピーカー招聘予定） 3. 実地調査：真珠関連企業（神戸市内） 4. 調査まとめ（本学） 5. 実地調査：真珠関連企業（神戸市内） 6. 調査まとめ（本学） 7. 実地調査：真珠関連企業（神戸市内） 8. 調査まとめ（本学） 9. 「真珠パスポート」オリジナルグッズの検討（本学）内容の検討（ゲストスピーカー招聘予定） 10. 「真珠パスポート」オリジナルグッズの検討（本学）内容の考察 11. 「真珠パスポート」オリジナルグッズの具体的落とし込み（本学） 12. 課題制作 資料作成 13. 課題制作 資料まとめ 14. 発表準備 15. 発表（本学）（ゲストスピーカー招聘予定） | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前準備学習：各回で行う授業内容を確認し、必要となる情報を収集しておく。＜2時間＞ 授業後学習：授業で取り上げた内容を確認整理する。＜2時間＞ 原則として現地調査、課題制作等は授業内でおこなうが、授業内で指定の進捗まで完成しなかった場合は次の授業までに完成させておくこと。 | | | | | | |
| 授業方法 | 演習、実地調査を行い、そこで得た情報をもとに、課題制作を行う。制作した課題についてプレゼンテーションを行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 授業態度（積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるか）30%、課題制作40%、プレゼンテーション30% 授業態度：実地調査等への取り組み、グループでの課題制作への参加度などを総合的に評価。また、到達目標（1）に関する到達度の確認。 課題制作：指定された課題への評価。到達目標（2）、（3）、（4）に関する到達度の確認。 プレゼンテーション：制作した課題についてのプレゼンテーションを評価。また、到達目標（4）に関する到達度の確認。 なお、課題制作およびプレゼンテーションは授業で講評を行い各自にフィードバックする。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 演習授業であるため、出席を重視する。授業回数の2/3以上の出席を必要とする。数回の学外見学、市場調査を行う。場所は原則、神戸市内となり、入場料が発生する場合や往復の交通費は実費負担となる。 | | | | | | |
| 教科書 | 特に定めない。 | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて授業内で紹介する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 地域貢献デザイン演習B | | | | | | |
| 担当教員 | 西川 良子 | | | | | 科目ナンバ- | F0202B |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 木曜1 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 演習Aでの学びを発展させ、地域の要望、問題点などに対する解決方法を提案する。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 地域貢献デザイン演習Bでは、演習Aでの学びを発展させ、課題制作時に学生が関心を抱いた事柄について調査を深め、成果物としてまとめていく。より対外的な活動をおこなっていく中で、スケジュールの管理や他者との協同、デザイン、アイデアの構想など、様々なプロジェクトに対応できる実践的な能力を身につけていき、それらを他者にプレゼンテーションするための手法を修得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県の地場産業やイベントについて基本的な理解がある。【知識・理解】 ・地域社会に目を向け、取り組むべき問題点を発見することができる。【汎用的技能】 ・フィールドワークを中心とした情報収集を通して、リサーチ、分析、編集の基礎的なスキルを習得する。【汎用的技能】 ・調査内容を他者に伝達するために、成果物としてまとめ、プレゼンテーションができる。【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：本学 ブランド発信のためのコンテンツ制作 2. 制作準備1：本学 発信メディアの現状・概要 3. 制作準備2：本学 ファッション雑誌、SNS 4. 制作準備3：写真撮影のプロセス 5. 神戸アパレルに関する取材項目など決定・作成：本学 6. 対象ブランド取材：学外研修/神戸企業 7. 取材まとめ：本学 8. 構成割付：本学 9. 取材情報編集：本学 10. ページレイアウト：本学 11. コンテンツ制作1（写真編集）：本学 12. コンテンツ制作2（原稿整理）：本学 13. コンテンツ制作3（レイアウト）：本学 14. 制作物チェック：本学 15. 発表：本学 <p>※ゲストスピーカー/担当者来学：2、9、15</p> | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | <p>授業前準備学習：各回で行う授業内容を確認し、必要となる情報を収集しておく。ブランドのコンセプトとメディアコンテンツの関係や特徴などについて雑誌やネットでの実例を比較・分析する。<2時間></p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容を確認整理する。コンテンツ制作を行うグループ内での分担作業について相互に意見交換を進める。<2時間></p> <p>原則として現地調査、課題制作等は授業内で行うが、授業内で指定の進捗まで完成しなかった場合は次の授業までに完成させておくこと。</p> | | | | | | |
| 授業方法 | 演習、実地調査を行い、そこで得た情報をもとに、課題制作を行う。制作した課題についてプレゼンテーションを行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | <p>授業態度（課題への取り組み）30%、課題制作40%、プレゼンテーション30%</p> <p>授業態度は実地調査等への取り組み、グループでの課題制作への参加度などを総合的に評価。</p> <p>課題制作は指定された成果物を評価。</p> <p>プレゼンテーションは表現力や説得力、マナーや所作などを評価。</p> | | | | | | |
| 履修上の注意 | 学外見学、個別の実地調査調査を行う。場所は原則、神戸市内となり、入場料が発生する場合や往復の交通費は実費負担となる。 | | | | | | |
| 教科書 | 特になし。 | | | | | | |
| 参考書 | 授業中に紹介します。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 地域プロデュース演習A | | | | | | |
| 担当教員 | 石田原 弘 | | | | | 科目ナンバ- | F2307A |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 月曜3 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 神戸という地域を題材に、ファッションやデザインの観点から地域社会の問題に対する視点を養う。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 2年時の地域貢献デザイン演習で養ったリサーチ、分析、プレゼンテーション力を発揮し、ファッションやデザインの観点から地域の問題点を調査し、解決策を議論する。 また、松蔭女子学院創立130周年を迎え、神戸松蔭タータンを利用したグッズ制作やCI（コーポレートアイデンティティ）を検討する。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1) 地域社会に目を向け、取り組むべき問題点を発見することができる。(態度・指向性) (2) フィールドワークを中心とした情報収集を通して、リサーチ、分析、編集のスキルを習得する。(汎用的技能) (3) 問題点を整理し、自分の意見を示し他者と議論を深め、解決策を導くことができる。(汎用的技能) | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (本学) 2. 松蔭女子学院の歴史、風土、伝統を調査 (本学) 3. 神戸松蔭タータンの成り立ちの調査 (本学) 4. 神戸松蔭タータンのグッズ制作における基本デザインの作成 (本学) 5. グッズ制作のマーケットリサーチ (神戸市内) 6. 神戸松蔭タータングッズのデザインのグループ討議 (本学) 7. グッズ制作のためのマーケット再調査 (神戸市内) 8. 神戸松蔭タータングッズのデザインのグループでのまとめ (本学) 9. 神戸松蔭タータングッズのプレゼンテーション (ゲストスピーカー招聘予定) (本学) 10. 神戸松蔭タータングッズの最終決定 (本学) 11. 大学のCI (コーポレートアイデンティティ) の調査 (本学) 12. 神戸松蔭タータンを用いたCIの検討 (本学) 13. 神戸松蔭タータンを用いたCIのグループ討議 (本学) 14. 神戸松蔭タータンを用いたCIの全体討議 (本学) 15. プレゼンテーション (本学) | | | | | | |
| 授業外における学習 (準備学習の内容・時間) | 授業前準備学習：各回で行う授業内容を確認し、必要となる情報を収集しておく。(2時間) 授業後学習：授業で取り上げた内容を確認整理する。(2時間) 原則として現地調査、課題制作等は授業内で行うが、授業内で指定の進度まで完成しなかった場合は次の授業までに完成させておくこと。 | | | | | | |
| 授業方法 | 演習、実地調査を行い、そこで得た情報をもとに、課題制作を行う。制作した課題について、プレゼンテーションを行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 授業態度 (課題への取り組み) 30%、課題制作40%、プレゼンテーション30% 授業態度は実地調査等への取り組み、グループでの課題制作への参加度などを総合的に評価。また、到達目標 (1) に関する到達度の確認。 課題制作は指定された課題への評価。到達目標 (2)、(3) に関する到達度の確認。 プレゼンテーションは制作した課題についてのプレゼンテーションを評価。また、到達目標 (3) に関する到達度の確認。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 数回の学外見学、市場調査を行う。場所は原則、神戸市内となり、入場料が発生する場合や往復の交通費は実費負担となる。 | | | | | | |
| 教科書 | 特になし | | | | | | |
| 参考書 | 特になし | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 地域プロデュース演習B | | | | | | |
| 担当教員 | 石田原 弘 | | | | | 科目ナンバー | F2307B |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 月曜3 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 演習Aでの学びを発展させ、地域社会の問題点に対して、具体的な提案を行う。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 前期の演習Aにおける地域のテーマをさらに発展させ、具体的な解決策を提案する。また、松蔭女子学院創立130周年を迎え、コーポレートアイデンティティ(CI)の検討をさらに深め、より具体的な展開案を提案する。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1) 地域社会に目を向け、取り組むべき問題点を発見することができる。(態度・指向性) (2) フィールドワークを中心とした情報収集を通して、リサーチ、分析、編集のスキルを習得する。(汎用的技能) (3) 問題に対して、デザインやファッションの知識を用いた創造的な解決策を提案することができる。(汎用的技能) (4) 問題点を整理し、自分の意見を示し他者と議論を深め、解決策を導くことができる。(汎用的技能) | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 神戸松蔭タータンの認知度向上策検討の概略(本学) 神戸松蔭タータンの運用のグループ討議(本学) 神戸松蔭タータンの運用のプレゼンテーション(本学) 神戸松蔭タータンの運用の全体討議(本学) 神戸松蔭タータンの運用の最終提案(本学) 実際の運用の模索(本学) 運用実施に向けてグループ討議(本学) マーケットリサーチ(神戸市内) 運用実施に向けてグループ提案(本学) プレゼンテーション(本学) プレゼンテーションの結果を踏まえ議論(本学) 最終的な提案に対する議論(本学) 最終的な提案の骨子作成(本学) 最終的な提案のまとめ(本学) | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 授業前準備学習:各回で行う授業内容を確認し、必要となる情報を収集しておく。(2時間) 授業後学習:授業で取り上げた内容を確認整理する。(2時間) 原則として現地調査、課題制作等は授業内で行うが、授業内で指定の進捗まで完成しなかった場合は次の授業までに完成させておくこと。 | | | | | | |
| 授業方法 | 演習、実地調査を行い、そこで得た情報をもとに、課題制作を行う。制作した課題について、プレゼンテーションを行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 授業態度(課題への取り組み)30%、課題制作40%、プレゼンテーション30% 授業態度は実地調査等への取り組み、グループでの課題制作への参加度などを総合的に評価。また、到達目標(1)に関する到達度の確認。 課題制作は指定された課題への評価。到達目標(2)、(3)に関する到達度の確認。 プレゼンテーションは制作した課題についてのプレゼンテーションを評価。また、到達目標(3)に関する到達度の確認。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 数回の学外見学、市場調査を行う。場所は原則、神戸市内となり、入場料が発生する場合や往復の交通費は実費負担となる。 | | | | | | |
| 教科書 | 特になし | | | | | | |
| 参考書 | 特になし | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | テキスタイルCAD演習／テキスタイルデザイン演習II (CAD) | | | | | | |
| 担当教員 | 戸田 賀志子 | | | | | 科目ナンバー | F73290 |
| 学期 | 前期／1st semester | 曜日・時限 | 水曜2 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | テキスタイル専門デザインソフトを用いてテキスタイルデザインに挑戦する。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 衣服の素材としてのテキスタイルの基礎知識（組織、構造、性質、生産、染色、加工技法など）を学ぶ。この知識に基づき、テキスタイル専門CADソフトを用いて受講生各自がオリジナルのプリント柄や織物のデザイン作品を制作する。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1) デザインソフト4Dboxを用いてテキスタイルデザインを行うことができる。【汎用的技術】 (2) テキスタイルに対する興味をより具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 使ってみようテキスタイルCAD (4DBox) 3. テキスタイルCAD (4DBox) の基礎 4. 先染めデザイン1 ドット 5. 先染めデザイン2 ストライプ、ボーダー 6. 先染めデザイン3 チェック 7. 糸のデザイン 8. プリンティング 花柄 9. 刺繍のデザイン 10. ニットデザイン1 編み 11. ニットデザイン2 透かし 12. テキスタイル柄の3Dマッピング 13. 作品制作1 デザイン 14. 作品制作2 配色 15. 作品発表 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | <p>授業前学習：専門性の高いソフトを用いる演習科目であるため、原則として授業時間内に行う。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容の操作方法を復習する。完成に至らなかった作品は次回までに完成させておくこと。（学習時間：2時間）</p> | | | | | | |
| 授業方法 | 演習：毎回、授業テーマについての解説・講義を受けた後、作品制作を行う。完成した作品は、授業時間内に発表し講評を行う。学びの成果物として冊子を制作する。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | <p>作品70%、発表・提出物20%、授業への参加度（積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるか）10%</p> <p>作品：学習内容を把握し、自分の興味や関心に基づいた創造を作品への確に反映できているか。制作物の完成度を評価する。到達目標(1)(2)の到達度の確認</p> <p>発表：作品の特徴を捉え自分の言葉で発表できているかを評価する。到達目標(1)(2)の到達度の確認。</p> <p>授業への参加度：積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるかを総合的に評価する。</p> <p>なお、提出物は授業で講評を行い各自にフィードバックする。</p> | | | | | | |
| 履修上の注意 | 演習授業のため、原則として欠席や遅刻は認めない（やむを得ない場合は、10回以上の出席とする）。課題は提出期限までに提出することが必須である。 | | | | | | |
| 教科書 | プリントを配布する。 | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて授業中に紹介する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | デザイン特別演習A | | | | | | |
| 担当教員 | 井上 裕之 | | | | | 科目ナンバ- | F0306A |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 火曜3 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | コンセプト・文献調査に基づいた衣服デザインのテーマ設定を行う。 | | | | | | |
| 授業の概要 | ファッション分野の基礎科目、ファッションデザイン実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで習得した知識や技術を総合し、卒業研究のテーマ設定を行う。 テーマ設定はそれぞれの興味のある事柄から出発し、資料、文献を主としたリサーチを重ねることで衣服デザインに繋がるキーワードを抽出し、設定する。期末のプレゼンテーションに向けて、自分の考えを論理的に伝えるための資料作成を行う。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1) テーマにそった文献・ヴィジュアル資料を収集し、衣装デザインに繋がるキーワードを設定することができる。【知識・理解】 (2) 調査・分析内容を論理的に伝える資料作成ができる。【汎用的技能】 (3) 図書館や美術館等に積極的に出向き、情報を集めることができる。【態度・志向性】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：衣服デザインにおけるテーマ設定とは 2. リサーチ①：テーマの設定 3. リサーチ②：文献収集の方法について 4. リサーチ③：文献以外の資料について 5. リサーチ④：収集した文献の報告 6. リサーチ⑤：文献読解の方法について 7. リサーチ⑥：レポート作成 8. リサーチ⑦：ヴィジュアル資料の収集 9. リサーチ⑧：ヴィジュアル資料の整理・分析 10. リサーチ⑨：キーワード抽出 11. 発表準備①：研究目的の設定 12. 発表準備②：研究方法の設定 13. 発表準備③：発表資料の作成 14. 発表準備④：発表原稿の作成 15. 発表準備⑤：発表リハーサル | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前事前学習：各回において必要となる情報を事前に収集・整理しておく。＜学習時間2時間＞ 授業後学習：授業内でディスカッションした内容の要点をまとめ、整理し、次の回に向けた事前学習に備える。 ＜学習時間2時間＞ | | | | | | |
| 授業方法 | 演習形式：設定したテーマに沿って、各自テーマに沿った調査・分析をおこなう。 授業内では各自調査内容を報告し、その内容について教員、受講生でディスカッションをおこなう。 期末には学科内で進捗状況についてプレゼンテーションをおこない、教員による口頭試問を実施する。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 発表(50%)、レポート(50%)で評価する。 調査・分析内容についてのレポートを総合的に評価する。到達目標(1)、(3)に関する到達度の確認。 調査・分析内容についての発表を評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 授業内のディスカッションで出た疑問点等については、次の授業で回答することでフィードバックをおこなう。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 調査や資料収集にかかる費用は自己負担とする。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | デザイン特別演習A | | | | | | |
| 担当教員 | 徳山 孝子 | | | | | 科目ナンバ- | F0306A |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 火曜3 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 「着る・装う・飾る」という行為を様々な方法から学び、プレゼンテーションを演習する。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 2年次までに学んだ生活文化概論、ライフスタイル論、ボディーファッション論、カラーデザイン論等の広範囲な知識を基礎に、時代、社会、地域等の背景を踏まえながら、「着る・装う」という行為に対する人間の心の動きまでを読み解ける力を養う。 「着る・装う・飾る」ことは、ヒトとモノの複合的な関係性から成り立ち、どのような側面を扱うかによって文化的にも科学的にもアプローチが可能になる。そのため複数ある実験や調査方法、官能検査、統計解析、資料・文献収集、図像学的分析等の方法から目的にあった手法を選択できるように演習を通して学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1) 研究テーマを決めることができる【知識・理解】 2) 文献を収集し、説明することができる【知識・理解】 3) インタビューの内容をまとめることができる【汎用的技能】 4) 研究内容を具体的なものとして表現することができる【態度・指向性】 | | | | | | |
| 授業計画 | 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明） 2. 研究テーマの決め方①：「着る・装う・飾る」をキーワードにして、疑問に思うことを抽出する。 3. 研究テーマの決め方②：疑問に思ったことを図式化して、テーマを決定 4. 【学外研修】当館収蔵品の魅力をレクチャー（神戸ファッション美術館）土曜に振替 5. 研究の進め方①：図書館の利用の仕方と文献収集 6. 研究の進め方②：文献収集のまとめと発表（プレゼンテーション） 7. 研究の進め方③：論文の書き方の説明、練習 8. 研究の進め方④：発表、添削 9. 研究方法①：実験方法と文献調査の違いを説明する 10. 研究方法②：テーマに沿って研究方法を実施する 11. 研究方法③：研究を発表（プレゼンテーション）およびインタビューの練習 12. 研究方法④：インタビュー調査の発表（プレゼンテーション） 13. まとめ①：論文のロジックを作る 14. まとめ②：論文をまとめる 15. まとめ③：論文を発表する（プレゼンテーション） | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前準備学習：授業内で説明する。＜2時間＞ 授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中内にできなかった課題は完成させる。＜2時間＞ | | | | | | |
| 授業方法 | ①プリントを配布する。そのプリントに添って演習する中で、画像を使って確認をしながら進める。 ②研究した内容を発表し、グループ討議への参加を求める。 ③研究内容によっては、個人指導する。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 発表70%：研究した内容を発表する。到達目標（1）～（4）に関する到達度の確認。 提出物30%：レポートは、研究内容を論文形式でまとめているかどうかを評価する。到達目標（1）～（4）に関する到達度の確認。 レポートは、添削して返却する。その時に個人指導する。卒業論文に繋げる。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | ①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②指定する課題は締切までに必ず提出する。 ③調査、文献資料などにかかる文献料や入場料、交通費などの実費負担がある。 ④制作の場合は、材料費などは自己負担がある。 ⑤神戸ファッション美術館へ行く交通費および入館料は自己負担である。 | | | | | | |
| 教科書 | 教科書としては、特に用いないが、プリントなどを使用する。 | | | | | | |
| 参考書 | 授業中に紹介する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | デザイン特別演習A | | | | | | |
| 担当教員 | 戸田 賀志子 | | | | | 科目ナンバ- | F0306A |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 金曜2 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 卒業研究・制作に向けて興味あるテーマを見つける。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 3年次までのファッションやデザインに関連する基礎科目や実習での学習に基づいて、興味のある事柄に注目し、自分がそのどこに魅力を感じ、何をより深く知りたいのか、何を表現したいのかについて考えをまとめ、卒業研究・制作につながるテーマを見つける。また、計画性を伴う研究・制作課題への取り組み方を身につける。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1)自分の興味あるテーマを見つけ、他者にわかりやすく説明することができる。【知識・理解】 (2)自分の興味あるテーマを具体的にわかりやすい文章で述べる【知識・理解】 (3)自分の興味あるテーマについて討議、発表することができる。【態度・志向性】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. テーマの設定 1 学習内容と興味ある事柄の検討 3. テーマの設定 2 キーワードの抽出 4. テーマの設定 3 イメージマップ作成 5. テーマの設定 4 研究目的、対象の検討 6. 研究方法 1 図書館の利用と文献収集 7. 研究方法 2 調査資料の収集と方法 8. 研究方法 3 研究計画 9. テーマの発表、テーマに沿った研究の実施 10. 研究資料の調査 11. 研究資料の分析 12. 研究資料の整理 13. 調査結果のまとめ 14. パワーポイント制作 15. 成果の発表 | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | <p>授業前学習：各自のテーマに基づいた資料を収集し、下調べを行う。(詳細は授業内で指示)(学習時間：2時間)</p> <p>授業後学習：各自が学んだ内容を確認、整理し、要点をまとめる。(学習時間：2時間)</p> | | | | | | |
| 授業方法 | <p>演習：毎回、授業テーマについての解説・講義を受けた後、各自、研究テーマに向き合う。配布プリントや視聴覚教材(DVD、パワーポイント)を用いて、内容を確認しながら進める。</p> <p>受講生の学習到達度に応じて、研究の進捗状況を発表・報告し情報交換を行う。</p> | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | <p>提出物50%、発表50%、 提出物：学習内容を理解できているか。リアクションペーパー(研究についてのレポート・質問)の内容、自らの興味の明確性・具体性を評価する。到達目標(1)(2)の到達度の確認 発表：報告すべき内容を把握し、自分の言葉で発表できているかを評価する。到達目標(1)(3)の到達度の確認。 なお、提出物やレポートの評価後は、添削した提出物およびレポートを返却して各自にフィードバックする。</p> | | | | | | |
| 履修上の注意 | 演習授業のため、原則として欠席や遅刻は認めない(やむを得ない場合は、10回以上の出席とする)。 | | | | | | |
| 教科書 | 特に定めない。 | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて授業中に紹介する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | デザイン特別演習A | | | | | | |
| 担当教員 | 西川 良子 | | | | | 科目ナンバ- | F0306A |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 水曜3 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 卒業研究につながる基礎研究と制作 | | | | | | |
| 授業の概要 | 3年次までのデザインに関連する基礎科目や実習での学習に基づいて、興味のある事柄に注目し自分がそれのどこに魅力を感じ、何をより深く知りたいのか、何を表現したいのかについて考えをまとめ、卒業研究・制作につながるテーマをみつける。また、計画性を伴う研究・制作課題への取り組み方を身につける。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味あるテーマをみつけ、他者にわかりやすく説明することができる。【知識・理解】 ・自分の興味あるテーマに沿った作品を制作、必要な技能を修得できる【知識・理解・表現・創造】 ・自分の興味あるテーマについて討議、発表することができる。【態度・志向性】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、ポートフォリオ作成ガイダンス 2. テーマの設定 1 学習内容と興味ある事柄の検討 3. テーマの設定 2 第1回発表 4. 先行研究調査 1 分野、キーワード検索 5. 先行研究調査 2 レポート 6. 研究方法 1 図書館の利用と文献収集 7. 研究方法 2 調査資料の収集と方法 【学外研修】 8. 研究方法 3 研究計画 9. テーマの決定 第2回発表 10. 研究課題制作 11. 研究課題制作 12. 研究課題制作 13. 研究課題制作・パワーポイント制作 14. 研究発表・講評・修正 15. 作品提出 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | <p>授業前学習：各自のテーマに基づいた資料を収集し、下調べを行う。（詳細は授業内で指示）（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：各自が学んだ内容を確認、整理し、要点をまとめる。（学習時間：2時間）</p> | | | | | | |
| 授業方法 | <p>演習：毎回、授業テーマについての解説・講義を受けた後、各自、研究テーマに向き合う。配布プリントや視聴覚教材（DVD、パワーポイント）を用いて、内容を確認しながら進める。</p> <p>受講生の学習到達度に応じて、研究の進捗状況を発表・報告し情報交換を行う。</p> | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | <p>提出物50%、発表50%、</p> <p>提出物：テーマに合った的確な作品が完成しているかを評価する。</p> <p>発表：報告すべき内容を把握し、自分の言葉で発表できているかを評価する。</p> <p>提出物やレポートの評価後は、添削した提出物およびレポートを返却して各自にフィードバックする。</p> | | | | | | |
| 履修上の注意 | <p>履修者は、「PCグラフィック基礎実習・応用実習」を履修済の人に限る。</p> <p>演習授業のため、原則として欠席や遅刻は認めない（やむを得ない場合は、10回以上の出席とする）。</p> | | | | | | |
| 教科書 | 特になし。 | | | | | | |
| 参考書 | 授業中に紹介する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | デザイン特別演習A | | | | | | |
| 担当教員 | 山本 浩司 | | | | | 科目ナンバ- | F0306A |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 水曜3 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 卒業研究につながる基礎研究と制作 | | | | | | |
| 授業の概要 | 3年次までのデザインに関連する基礎科目や実習での学習に基づいて、興味のある事柄に注目し自分がそのどこに魅力を感じ、何をより深く知りたいのか、何を表現したいのかについて考えをまとめ、卒業研究・制作につながるテーマをみつける。また、計画性を伴う研究・制作課題への取り組み方を身につける。 | | | | | | |
| 到達目標 | ① 自分の興味あるテーマを見つけ、他者にわかりやすく説明することができる。【知識・理解】 ② 自分の興味あるテーマに沿った作品を制作、必要な技能を修得できる【知識・理解・表現・創造】 ③ 自分の興味あるテーマについて討議、発表することができる。【態度・志向性】 | | | | | | |
| 授業計画 | 第01回 オリエンテーション、ポートフォリオ作成ガイダンス 第02回 テーマの設定 1 学習内容と興味ある事柄の検討 第03回 テーマの設定 2 第1回発表 第04回 先行研究調査 1 キーワードの抽出 第05回 先行研究調査 2 レポート 第06回 研究方法 1 図書館の利用と文献収集 第07回 研究方法 2 調査資料の収集と方法 第08回 研究方法 3 研究計画 第09回 テーマの決定 第2回発表 第10回 研究課題制作 第11回 研究課題制作 第12回 研究課題制作 第13回 研究課題制作・パワーポイント制作 第14回 研究発表・講評・修正 第15回 作品提出 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前学習：各自のテーマに基づいた資料を収集し、下調べを行う。（詳細は授業内で指示）（学習時間：2時間） 授業後学習：各自が学んだ内容を確認、整理し、要点をまとめる。（学習時間：2時間） | | | | | | |
| 授業方法 | 演習：毎回、授業テーマについての解説・講義を受けた後、各自、研究テーマに向き合う。配布プリントや視聴覚教材（DVD、パワーポイント）を用いて、内容を確認しながら進める。 受講生の学習到達度に応じて、研究の進捗状況を発表・報告し情報交換を行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 提出物50%、発表50%、 提出物：テーマに合った的確な作品が完成しているかを評価する。 発表：報告すべき内容を把握し、自分の言葉で発表できているかを評価する。 提出物やレポートの評価後は、添削した提出物およびレポートを返却して各自にフィードバックする。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 履修者は、「PCグラフィック基礎実習・応用実習」を履修済の人に限る。 演習授業のため、原則として欠席や遅刻は認めない（やむを得ない場合は、10回以上の出席とする）。 | | | | | | |
| 教科書 | 特になし。 | | | | | | |
| 参考書 | 授業中に紹介する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | デザイン特別演習A | | | | | | |
| 担当教員 | 米原 慶子 | | | | | 科目ナンバ- | F0306A |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 火曜4 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 身近な生活空間のよりよいあり方を考える (卒業研究につながるインテリア関連のリサーチと作品制作) | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>身近な生活空間のよりよいあり方について、これまでの学びをより深め、より視野を広げるように、様々な取り組みをしながら考える。そしてよりよくするための提案をインテリア関連作品として制作することを目標に、デザイン力を高めながら、「卒業研究」のテーマ設定を考えていく。グループワークや発表などを通して、互いに学び合い、協力しあう力も養う。</p> <p>具体的には、主に下記の3つの課題に取り組み、後期の「デザイン特別演習B」につなげていく。</p> <p>①ポートフォリオの作成 ・各自のこれまでに取り組んだ実習作品などの完成度を高め、冊子にまとめる。 ・表現力を高め、就活でも活用する。</p> <p>②プロジェクト課題・資格対策 ・学外の実践的な課題やコンペ、資格検定等に取り組む。</p> <p>③テーマ設定にむけたリサーチ、まとめ ・各自の関心事や問題意識に沿って個人またはグループで行動し、研究を進める</p> <p>キーワード：インテリア、問題意識、デザイン表現</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <p>(1)ポートフォリオ制作、プロジェクト課題の制作等を通して、デザイン力、表現力を高め、より適切な図面表現ができるようになる。(汎用的技能)</p> <p>(2)各自興味のあるテーマについて、理解や問題意識を深め、卒業研究/制作のテーマについて方向性を考えることができる。(知識・理解+態度・志向性)</p> <p>(3)他の人と協力し合い、学び合うことができる。(態度・志向性)</p> | | | | | | |
| 授業計画 | <p>第1回 ガイダンス、第1課題 ポートフォリオの作り方解説</p> <p>第2回 第1課題 ポートフォリオ制作 これまでの作品の見直し</p> <p>第3回 第1課題 ポートフォリオ制作 作品の手直し</p> <p>第4回 第1課題 ポートフォリオ制作 ページ構成、レイアウト</p> <p>第5回 第1課題 ポートフォリオの仕上げ、提出 チェック、追加修正の指示</p> <p>第6回 第2課題 テーマ研究 課題説明</p> <p>第7回 第2課題 参考資料検索、まとめ</p> <p>第8回 第2課題 中間発表とディスカッション、第3課題(小課題)について説明</p> <p>第9回 第3課題 課題設定</p> <p>第10回 第3課題 プロジェクト課題の制作</p> <p>第11回 第3課題 プロジェクト課題の制作</p> <p>第12回 第3課題 プロジェクト課題の制作</p> <p>第13回 第3課題 プロジェクト課題の制作</p> <p>第14回 各課題のまとめ、発表講評、追加修正の指示</p> <p>第15回 各課題の修正後、提出</p> | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | <p>授業前準備学習：進行中の課題について、報告・連絡・相談ができるよう、毎回授業前に資料をまとめておくこと。(学習時間：2時間)</p> <p>授業後学習：課題制作を進めるための文献・WEBによるリサーチ、テーマ関連のインテリアや展覧会等の見学など自主的に進めておくこと(学習時間：2時間)。</p> | | | | | | |
| 授業方法 | 演習および実習(CADも使用) | | | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価基準と評価方法 | 第1課題 20% : ポートフォリオの構成や表現的確性を評価する。到達目標(1)の到達度の確認。 第2課題 20% : テーマに関する文献研究、資料収集の取り組み方や関心度を評価する。 到達目標(2)の到達度の確認。 第3課題 30% : 設定したプロジェクト課題の的確性や意義、空間デザインとして総合的に作品を評価する。 到達目標(1)(2)の到達度の確認。 平常点 30% : 毎回のミニレポート(コメントや質問等)により、各課題の取り組みに対する関心度や工夫を評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 |
| 履修上の注意 | 履修者は「インテリアデザイン実習I」および「インテリアCAD実習I」を履修済の人に限る。 その他のインテリア系列科目も、あわせて履修することがのぞましい。 課題および各自のテーマに関する見学を適宜指示する。(交通費自己負担) 3つの課題の順番は、コロナ禍の状況やプロジェクト課題の都合等により入れ替わったり、同時並行で進めたりすることを前提とする。 |
| 教科書 | 資料を配布する。 |
| 参考書 | 授業中に紹介する。 |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | デザイン特別演習B/デザイン特別演習 | | | | | | |
| 担当教員 | 井上 裕之 | | | | | 科目ナンバ- | F0306B |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 金曜3 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | コンセプト・文献調査に基づいた衣服デザインを行う。 | | | | | | |
| 授業の概要 | ファッション分野の基礎科目、ファッションデザイン実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで習得した知識やスキルを総合し、卒業研究のデザイン画作成を行う。 デザイン特別演習Bでは、デザイン特別演習Aで設定したテーマ、調査・分析を行なった内容を基にデザイン画を作成する。 期末のプレゼンテーションに向けて、作成したデザイン画を論理的に伝えるための資料作成を行う。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1)調査・分析を基に、デザインを考案することができる。【知識・理解】 (2)考案したデザインについて、論理的に伝える資料作成ができる。【汎用的技能】 (3)図書館や美術館等に積極的に出向き、情報を集めることができる。【態度・志向性】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：テーマ調査の進捗状況確認 2. リサーチ①：キーワードに応じたヴィジュアル資料の収集 3. リサーチ②：ヴィジュアル資料の整理 4. リサーチ③：ヴィジュアル資料のマッピング 5. リサーチ④：マップを基に各デザインのコンセプトを設定 6. 制作①：デザイン画作成 7. 制作②：デザイン画修正 8. 制作③：デザイン画の決定 9. 制作④：ハンガーイラスト化 10. 制作⑤：パターン化の計画 11. 発表準備①：リサーチ内容の整理 12. 発表準備②：発表内容の構成 13. 発表準備③：発表資料の作成 14. 発表準備④：発表原稿の作成 15. 発表準備⑤：発表リハーサル | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前事前学習：各回において必要となる情報、素材を収集しておく。＜学習時間2時間＞ 授業後学習：授業内でディスカッションした内容について、要点の整理、確認をおこない、次の授業の事前学習に繋げる。＜学習時間2時間＞ | | | | | | |
| 授業方法 | 演習形式：研究テーマに沿って、各自ヴィジュアルマップの作成、衣服デザインを進める。 授業毎に進捗状況について報告をおこない、教員、受講生によるディスカッションをおこなう。 期末には学科内で進捗状況についてプレゼンテーションをおこない、教員による口頭試問をおこなう。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 発表（50%）、ヴィジュアルマップ（20%）、デザイン画（30%）で評価する。 ヴィジュアルマップ、デザイン画の課題を総合的に評価する。到達目標（1）、（3）に関する到達度の確認。 作成したデザイン画についての発表を評価する。到達目標（2）に関する到達度の確認。 授業内のディスカッションで出た疑問点等については、次の授業で回答することでフィードバックをおこなう。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | デザイン画作成の材料費、調査や資料収集にかかる費用は自己負担とする。 | | | | | | |
| 教科書 | なし | | | | | | |
| 参考書 | なし | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | デザイン特別演習B/デザイン特別演習 | | | | | | |
| 担当教員 | 徳山 孝子 | | | | | 科目ナンバ- | F0306B |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 月曜2 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 卒業研究の先行研究をまとめる。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 3年前期までに学んだ知識を基礎に、研究テーマを考え、論文の読み解く力を養う。文化的なアプローチとしては、生活文化領域を中心に生活に身近なモノのデザインをテーマに、人間の精神的あるいは知的行為がどのように介在しているかを資料・文献収集、図像学的分析によって明らかにする。また、科学的なアプローチとしては、感性デザイン領域を中心に色や形をテーマとして、それらに対する心の動きを官能検査や統計解析によって科学的に解明する。さらに、学んだ知識をもとに、これらの卒業研究から、ヒトの心がどのようにモノのデザインに作用しているかを理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1) 先行研究を説明することができる【知識・理解】 2) 研究方法を列挙することができる【知識・理解】 3) 研究テーマに基づき目次を作ることができる【汎用的技能】 4) 研究内容を発表することができる【態度・志向性】 | | | | | | |
| 授業計画 | 1. オリエンテーション(課題テーマ、方針・進め方の説明) 2. テーマと研究方法の説明 3. 各自の先行研究について発表Ⅰ 4. 各自の先行研究について発表Ⅱ 5. 各自の先行研究について発表Ⅲ 6. 各自の研究方法について指導Ⅰ 7. 各自の研究方法について指導Ⅱ 8. 各自の研究方法について指導Ⅲ 9. 各自の研究方法について指導Ⅳ 10. 各自の発表について指導Ⅰ 11. 各自の発表について指導Ⅱ 12. 各自の発表について指導Ⅲ 13. 各自の発表について指導Ⅳ 14. 発表のプレゼンテーションⅠ 15. 発表のプレゼンテーションⅡ | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 授業前準備学習: 授業内で説明する。<2時間> 授業後学習: 学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。<2時間> | | | | | | |
| 授業方法 | ①プリントを配布する。そのプリントに添って演習する中で、画像を使って確認をしながら進める。 ②研究した内容を発表し、グループ討議への参加を求める。 ③研究内容によっては、個人指導する。 ④調査、文献資料などにかかる文献料や入場料、交通費などの実費負担がある。 ⑤制作の場合は、材料費などは自己負担がある。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 発表70%: 研究した内容を発表する。到達目標(1)~(4)に関する到達度の確認。 提出物30%: レポートは、研究内容を論文形式でまとめているかどうかを評価する。到達目標(1)~(4)に関する到達度の確認。 レポートは、添削して返却する。その時に個人指導する。卒業論文に繋げる。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | ①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②指定する課題は締切までに必ず提出する。 | | | | | | |
| 教科書 | 教科書としては、特に用いないが、プリントなどを使用する。 | | | | | | |
| 参考書 | 演習中に紹介する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | デザイン特別演習B/デザイン特別演習 | | | | | | |
| 担当教員 | 戸田 賀志子 | | | | | 科目ナンバ- | F0306B |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 木曜3 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 卒業・制作研究に向けて興味あるテーマを絞り込み、これにかかわる事柄をまとめる。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 3年次前期までに学んだ事柄に基づき、研究・制作テーマを考える。各自のテーマを実践するうえで必要となる方法論を学び、先行研究や作例を分析、考察する。論文作成においては、その結果を論理的にまとめる。作品制作においては、カタチとして表現するための基盤づくりを行う。計画性を伴う研究・制作課題への取り組み方を身につける。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1)自分の興味あるテーマに適切な研究論文や作例を検索し、研究・制作内容を他者にわかりやすく説明することができる。【知識・理解】 (2)自分の興味あるテーマを具体的にわかりやすい文章で述べるができる【知識・理解】 (3)自分の興味あるテーマについて討議、発表することができる。【態度・志向性】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. テーマの設定 3. テーマに基づいた先行研究・作例の発表 1 4. テーマに基づいた先行研究・作例の発表 2 5. テーマに基づいた先行研究・作例の発表 3 6. 方法の検討 1 各自の研究・制作に対する指導 7. 方法の検討 2 各自の研究・制作に対する指導 8. 方法の検討 3 各自の研究・制作に対する指導 9. 方法の検討 4 各自の発表に対する指導 10. 方法の検討 5 各自の発表に対する指導 11. 方法の検討 6 各自の発表に対する指導 12. 方法の検討 7 各自の発表に対する指導 13. 発表に向けてのまとめ 1 原稿作成 14. 発表に向けてのまとめ 2 パワーポイント作成 15. 発表 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | <p>授業前学習：各自のテーマに基づいた資料を収集し、下調べする。（詳細は授業内で指示）＜学習時間：2時間＞</p> <p>授業後学習：各自が学んだ内容を確認、整理し、要点をまとめる。課題は次の授業までに完成させること。＜学習時間：2時間＞</p> | | | | | | |
| 授業方法 | 演習：毎回、授業テーマについての解説・講義を受けた後、各自、研究テーマに向き合う。内容を確認しながら進める。研究内容およびその成果についての発表を行い、互いに講評を行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | <p>提出物50%、発表50%、</p> <p>提出物：学習内容を理解できているか。リアクションペーパー（研究についてのレポート・質問）の内容、自らの興味の明確性・具体性を評価する。到達目標(1)(2)の到達度の確認</p> <p>発表：報告すべき内容を把握し、自分の言葉で発表できているかを評価する。到達目標(1)(3)の到達度の確認。</p> <p>なお、提出物やレポートの評価後は、添削した提出物およびレポートを返却して各自にフィードバックする。</p> | | | | | | |
| 履修上の注意 | 演習授業のため、原則として欠席や遅刻は認めない（やむを得ない場合は、10回以上の出席とする）。 | | | | | | |
| 教科書 | 特に定めない。 | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて授業中に紹介する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | デザイン特別演習B/デザイン特別演習 | | | | | | |
| 担当教員 | 西川 良子 | | | | | 科目ナンバ- | F0306B |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 木曜3 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 卒業研究の先行研究をまとめる。 制作スキルを高める | | | | | | |
| 授業の概要 | 3年次前期までに学んだ知識を基礎に、研究テーマを選択し、シミュレーションを行う力を養う。研究テーマの位置づけを明らかにすることによって、問題点や将来性を探り新たな手法や改善点について研究する。それらの結果を基に、4年次の卒業研究に向けてさらに分析力を高める。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・先行研究を説明することができる。【知識・理解】 ・研究方法を列挙することができる。【知識・理解】 ・研究テーマに基づき、情報収集方法を列挙することができる。【汎用的技能】 ・研究内容を発表することができる。【態度・志向性】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針、進め方の説明） 2. 研究テーマと研究方法の説明 3. 各自の先行研究について発表① 4. 各自の先行研究について発表②、意見交換 5. 各自の先行研究について意見交換 6. 各自の研究方法について指導①：学外研修 7. 各自の研究方法について指導② 8. 各自の研究方法について指導③ 9. 各自の研究方法について指導④ 10. 各自の発表について指導① 11. 各自の発表について指導② 12. 各自の発表について指導③ 13. 各自の発表について指導④ 14. 発表 15. 意見交換 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | <p>授業前準備学習：授業内で説明する。（学習時間1時間）メディアによる各自のテーマの情報収集（学習時間2時間）</p> <p>授業後学習：学んだ内容を整理し要点をまとめる。授業内でできなかった課題は完成させる（学習時間2時間）</p> | | | | | | |
| 授業方法 | <p>テーマに沿った情報を配布する。</p> <p>研究した内容を発表し、グループ討議への参加を求める。</p> <p>研究内容によって個別指導する。</p> | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | <p>発表70%：研究した内容を発表する。到達目標①～④に関する到達度を確認。</p> <p>提出物30%</p> | | | | | | |
| 履修上の注意 | <p>10回以上の出席がないと、受講資格を失う。</p> <p>指定する課題は締め切りまでに必ず提出する。</p> | | | | | | |
| 教科書 | 特になし。 | | | | | | |
| 参考書 | 各自のテーマに沿ったメディアや参考資料は随時紹介する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | デザイン特別演習B/デザイン特別演習 | | | | | | |
| 担当教員 | 山本 浩司 | | | | | 科目ナンバ- | F0306B |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 木曜3 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 卒業研究の先行研究をまとめる。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 3年次前期までに学んだ知識を基礎に、研究テーマを選択し、シミュレーションを行う力を養う。研究テーマの位置づけを明らかにすることによって、問題点や将来性を探り新たな手法や改善点について研究する。それらの結果を基に、4年次の卒業研究に向けてさらに分析力を高める。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ① 先行研究を説明することができる。(知識・理解) ② 研究方法を列挙することができる。(知識・理解) ③ 研究テーマに基づき、情報収集方法を列挙することができる。(汎用的技能) ④ 研究内容を発表することができる。(態度・志向性) | | | | | | |
| 授業計画 | 第01回 オリエンテーション(課題テーマ、方針、進め方の説明) 第02回 研究テーマと研究方法の説明 第03回 各自の先行研究について発表① 第04回 各自の先行研究について発表②、意見交換 第05回 各自の先行研究について意見交換 第06回 各自の研究方法について指導① 第07回 各自の研究方法について指導② 第08回 各自の研究方法について指導③ 第09回 各自の研究方法について指導④ 第10回 各自の発表について指導① 第11回 各自の発表について指導② 第12回 各自の発表について指導③ 第13回 各自の発表について指導④ 第14回 発表 第15回 意見交換 | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 授業前準備学習: 授業内で説明する。(学習時間1時間) メディアによる各自のテーマの情報収集(学習時間1時間) 授業後学習: 学んだ内容を整理し要点をまとめる。授業内でできなかった課題は完成させる(学習時間2時間) | | | | | | |
| 授業方法 | <ul style="list-style-type: none"> ① テーマに沿った情報を配布する。 ② 研究した内容を発表し、グループ討議への参加を求める。 ③ 研究内容によって個人指導する。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 発表70%: 研究した内容を発表する。到達目標①~④に関する到達度を確認。 提出物30% | | | | | | |
| 履修上の注意 | <ul style="list-style-type: none"> ① 10回以上の出席がないと、受講資格を失う。 ② 指定する課題は締め切りまでに必ず提出する。 | | | | | | |
| 教科書 | 特になし。 | | | | | | |
| 参考書 | 各自のテーマに沿ったメディアや参考資料は随時紹介する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | デザイン特別演習B/デザイン特別演習 | | | | | | |
| 担当教員 | 米原 慶子 | | | | | 科目ナンバ- | F0306B |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 水曜4 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 身近な生活空間のよりよいあり方を考える (卒業研究につながるインテリア関連の researched と作品制作) | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>「デザイン特別演習A」に引き続き、身近な生活空間のよりよいあり方について、空間デザインやインテリアエレメントの作品制作を通じた提案ができるよう、テーマ設定を行い、必要ならサーチを進めたり、デザイン力・表現力を高めていく。グループワークや発表などを通して、互いに学び合い、協力しあう力も養う。</p> <p>具体的には、主に下記の3つの課題に取り組み、「卒業研究」につなげていく。</p> <p>①ポートフォリオの追加、再構成 ・デザイン特別演習Aでまとめたものを見直し、さらに完成度を高める。</p> <p>②プロジェクト課題・資格対策 ・学外の実践的な課題やコンペ、資格検定等に取り組む。</p> <p>③テーマ研究 ・各自の設定したテーマに沿って、個人またはグループで行動し、研究を進める</p> <p>キーワード：インテリア、問題意識、デザイン表現</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <p>(1)ポートフォリオ制作、プロジェクト課題の制作等を通して、デザイン力、表現力を高め、より適切な図面表現ができるようになる。(汎用的技能)</p> <p>(2)各自興味のあるテーマについて、理解や問題意識を深め、卒業研究/制作のテーマについて方向性を考えることができる。(知識・理解+態度・志向性)</p> <p>(3)他の人と協力し合い、学び合うことができる。(態度・志向性)</p> | | | | | | |
| 授業計画 | <p>第1回 ガイダンス、卒業制作のテーマ研究について(前期の取り組みを振り返って)</p> <p>第2回 第1課題 ポートフォリオの追加、再構成</p> <p>第3回 第1課題 ポートフォリオ(再構成)のチェック、追加修正の指示 第2課題 プロジェクト課題(後期)の計画</p> <p>第4回 第1課題 ポートフォリオ(再構成)の仕上げ、提出 第2課題 プロジェクト課題の制作1</p> <p>第5回 第2課題 プロジェクト課題の制作2</p> <p>第6回 第2課題 プロジェクト課題の制作3</p> <p>第7回 第2課題 プロジェクト課題の制作4</p> <p>第8回 第2課題 プロジェクト課題の完成、ミニレポート</p> <p>第9回 第3課題 テーマ研究 中間発表と討論</p> <p>第10回 第3課題 テーマ研究に関する文献研究、資料収集</p> <p>第11回 第3課題 テーマ研究に関する資料のまとめ1(スライド作成)</p> <p>第12回 第3課題 テーマ研究に関する資料のまとめ2(スライド作成)</p> <p>第13回 第3課題 テーマ研究 発表用パワーポイントの制作</p> <p>第14回 第3課題 パワーポイントによる発表(ゼミ内)、講評</p> <p>第15回 第3課題 パワーポイントの追加、修正</p> | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | <p>授業前準備学習：進行中の課題について、報告・連絡・相談ができるよう、毎回授業前に資料をまとめておくこと。(学習時間：2時間)</p> <p>授業後学習：課題制作を進めるための文献・WEBによるリサーチ、テーマ関連のインテリアや展覧会等の見学など自主的に進めておくこと(学習時間：2時間)。</p> | | | | | | |
| 授業方法 | 演習および実習(CADも使用) | | | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価基準と評価方法 | 第1課題 20% : ポートフォリオの追加、全体構成や表現の的確性を評価する。到達目標(1)の到達度の確認。 第2課題 30% : 設定したプロジェクト課題の的確性や意義、空間デザインとして総合的に作品を評価する。 到達目標(1)(2)の到達度の確認。 第3課題 20% : テーマに関する文献研究、資料収集の取り組み方や関心度を評価する。 到達目標(2)の到達度の確認。 平常点 30% : 毎回のミニレポート(コメントや質問等)により、各課題の取り組みに対する関心度や工夫を評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 |
| 履修上の注意 | 課題および各自のテーマに関する見学を適宜指示する。(交通費自己負担) 3つの課題の順番は、コロナ禍の状況やプロジェクト課題の都合等により入れ替わったり、同時並行で進めたりすることを前提としている。 |
| 教科書 | 資料を配布する。 |
| 参考書 | 授業中に紹介する。 |

| | | | | | | | |
|------------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | デザインの仕事 | | | | | | |
| 担当教員 | 戸田 賀志子 | | | | | 科目ナンバ- | F22040 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 火曜3 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | ファッション・ハウジングデザイン領域におけるキャリア形成への動機付け | | | | | | |
| 授業の概要 | 近年キャリア教育の必要性が高まり、本学でも授業科目のなかにキャリア・ビジネス系列として組み込まれている。ただ、これらは全学的な共通科目である。本授業は専門教育分野での基礎的キャリア科目として設定し、企業の第一線で働く先輩たちの専門的な仕事の実態を、ゲストスピーカーとしてオムニバス形式で話をしてもらう。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1)多様なジャンルで活躍するゲストスピーカーの講義を受講することによって、各仕事の現状についての知識を習得する。(知識・理解) (2)卒業後の進路について、展望を持つことができる。(態度・志向性) (3)様々な職種について理解し、レポートとして文章にまとめることができる。(汎用的技能) | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (戸田賀志子・FHD教員) 2. ファッションの仕事 (古川 佳奈・(株)アダストリア) 3. VMDの仕事 (長谷川 咲子・(株)ジャヴァホールディングス) 4. インテリアコーディネーターの仕事 (三宅 美映 エムダムール) 5. イベントプロデュース・ブレスの仕事 (岸本 慈子・(株)ぜんまい) 6. 広告デザイン・WEBデザインの仕事 (神戸デザイン協会理事・網本 雅生) 7. 住宅リノベーションの仕事 (山崎 奈津子・(株)LIXILリフォームショープKIMURA-GRIT) 8. ウェディングプランナーの仕事 (萩原 宏・ケント株式会社) 9. インテリアの仕事 (7アブリックを中心に) (石川 りさ・(株)リサブレア) 10. インナーウェアの仕事 (杉野 木綿子・(株)ワコール) 11. ネイルの仕事 (田淵 まゆ・new.ed/-coconailosaka-・ReDec) 12. インテリアデザイナーの仕事 (酒井 コージ・S.I.A. 一級建築士事務所、(公社)日本インテリアデザイナー協会理事) 13. 百貨店の仕事 (野口 愛・神戸阪急) 14. アイウェアの仕事 (岡田 雄・(株)グローブスペックス) 15. アパレル業界のSNS対策 (菊地 恵美・(株)アパレルウェブ) | | | | | | |
| 授業外における学習 (準備学習の内容・時間) | <p>授業前学習：各回の授業担当者の仕事について事前にリサーチし、講義内容の理解が深まるように予習する。(学習時間：2時間)</p> <p>授業後学習：授業で取り上げられた仕事の内容を確認、整理し、要点をまとめる。(学習時間：2時間)</p> | | | | | | |
| 授業方法 | <p>講義：事前に予習を済ませた各回ゲストスピーカーの仕事内容の解説・講義。授業担当者の講義内容に基づいて各自でレポートを完成させる。(授業終了時に回収)</p> <p>なお、提出物やレポートの評価後は、添削した提出物およびレポートを返却して各自にフィードバックする。</p> | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | <p>レポート (授業終了時に回収) (70%)、授業への参加度 (30%)</p> <p>各授業ごとに提出するレポートを評価する。到達目標(1)、(2)、(3)に関する到達度の確認。</p> <p>授業に取り組む姿勢を総合的に評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。</p> | | | | | | |
| 履修上の注意 | <p>講師の都合により、講師や講義順序の入れ替わりがある。</p> <p>授業回数の2/3以上の出席を必要とする。</p> <p>レポート課題は提出期限までに提出することが必須である。</p> | | | | | | |
| 教科書 | 特に定めない。 | | | | | | |
| 参考書 | 特に定めない。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | デジタルデザイン実習 | | | | | | |
| 担当教員 | 山本 浩司 | | | | | 科目ナンバ- | F73300 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 火曜4~5 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | webページを制作する技術を身につける | | | | | | |
| 授業の概要 | 普段、当たり前のように利用しているwebサイトの仕組みを理解し、webサイトがどのように作られているのか、それを構成する技術（HTML、CSS）を専用ソフトの操作を通じて習得します。また、自身で企画・デザインしたwebページを実際にコーディングすることで、単純にwebサイトを眺めているだけでは得られない、情報の分析力、構成力、表現力を身につけます。 | | | | | | |
| 到達目標 | HTMLとCSSを理解し、活用することができる。【汎用的技能】 自身が企画・デザインしたwebページを、HTMLとCSSを駆使し、制作することができる。【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | 第01回 ガイダンス 第02回 HTMLの基本01：HTMLタグと文書構成 第03回 HTMLの基本02：CSSを用いたデザイン 第04回 専用ソフトを使用したweb制作 第05回 シンプルなサイトの作成01 第06回 シンプルなサイトの作成02 第07回 webサイトのレスポンス化 第08回 画像素材制作01：Photoshopを使用した画像の加工 第09回 画像素材制作02：Illustratorを使用したロゴデザイン 第10回 サーバーへのファイル転送 第11回 課題制作01：サイトマップとワイヤーフレームの作成 第12回 課題制作02：webデザインカンプの作成 第13回 課題制作03：コーディング作業01 第14回 課題制作04：コーディング作業02 第15回 講評会 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前：webサイトにかかわらず、普段から様々なメディアを「漠然と」見るのではなく、どのような工夫がされているかを意識して「観察」してください。（学習時間90分） 授業後：授業で学んだ内容を復習し、課題が出された場合は次回授業時まで提出してください。（学習時間90分） | | | | | | |
| 授業方法 | 実習：学内のパソコンを使用します。専用ソフトのDreamweaverを用いてwebページのコーディング方法を学びます。 前半ではソフトの操作とHTML、CSSの基本を学び、後半は自身が企画・デザインしたwebページの制作を行います。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 平常点（習熟度の確認）50% 提出物（課題）50% | | | | | | |
| 履修上の注意 | USBメモリを準備しておいてください（詳しくは授業内で説明します）。 | | | | | | |
| 教科書 | 毎回、レジュメを配付します。 | | | | | | |
| 参考書 | 授業中に紹介します。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | デジタルデザイン論 | | | | | | |
| 担当教員 | 山本 浩司 | | | | | 科目ナンバー | F72280 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 水曜2 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | デジタル技術とwebデザインについて | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>“前半：普段無意識に接している『デジタル』。それがどういう仕組みで動いているのか、対義である『アナログ』との比較を通して、それらの違いと特徴を学びます。また、デジタル時代の問題点やその対策についても考察します。</p> <p>後半：普段目にするwebサイトやブログ、SNSなどの画面はどのように作られているのかを学び、空間デザインやアクション、グラフィックといった他の分野のデザインとはどう違うのか、また、どのような点が共通しているについて考察します。”</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <p>デジタル技術およびwebデザインの仕組みを理解できる。【知識・理解】</p> <p>デジタルでのデザイン制作をするために必要な発想・思考ができる。【汎用的技能】</p> | | | | | | |
| 授業計画 | <p>第01回 ガイダンス～デザインの定義と領域</p> <p>第02回 身の回りのアナログとデジタル</p> <p>第03回 アナログからデジタルへ～メディア技術の歴史について学ぶ</p> <p>第04回 デジタル技術のメリットとデメリット</p> <p>第05回 デジタル技術と著作権の問題について考察する</p> <p>第06回 コンピュータの仕組みを学び、これからのデジタル社会を考察する</p> <p>第07回 デジタルデータのフォーマットと管理方法</p> <p>第08回 前半のまとめと試験</p> <p>第09回 webサイトの成り立ちとその仕組み</p> <p>第10回 webデザインについて学ぶ (1) webのトレンドの変化</p> <p>第11回 webデザインについて学ぶ (2) 文字のデザイン</p> <p>第12回 webデザインについて学ぶ (3) 色の持つ意味</p> <p>第13回 webデザインについて学ぶ (4) 美しいページレイアウト</p> <p>第14回 webデザインについて学ぶ (5) ユーザビリティとアクセシビリティ</p> <p>第15回 後半のまとめと試験</p> | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | <p>授業前準備学習：前回までの学習内容をよく理解し、復習に努めてください。<2時間></p> <p>授業後学習：普段から目に留まるwebサイトを注意深く観察し、どのような表現上の工夫が見られるかを読み取るように努めてください。<2時間></p> | | | | | | |
| 授業方法 | <p>講義：スクリーンに画像を投影しながら進めます。前半（1-7回目）と後半（8-15回目）に分けて行い、前半ではアナログとデジタルの特徴について、後半では、webデザインを中心にデジタルデザインを行う上で必要な知識について学びます。前後半のまとめとしてレポートの作成と試験を行います。</p> | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | <p>平常点（前半（1-7回目）と後半（8-15回目）それぞれのまとめとしての考察・記述）40%</p> <p>試験40%</p> <p>授業内で出される課題・宿題（不定期）20%</p> | | | | | | |
| 履修上の注意 | 前半と後半に1回ずつ試験を実施しますので、復習に努めてください。 | | | | | | |
| 教科書 | 毎回、資料を配付します。 | | | | | | |
| 参考書 | 授業中に紹介します。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------------------|---|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ネイルコーディネート実習 | | | | | | |
| 担当教員 | 恩田 美智子 | | | | | 科目ナンバ- | F73130 |
| 学期 | 前期隔週A | 曜日・時限 | 木曜3~5 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | ネイルテクニックの基礎知識や技術を身につける。 (ネイリスト技能検定受験対応) | | | | | | |
| 授業の概要 | ネイル技術を習得するために必要な技術理論や基礎知識を身につけ、ネイル技術の基本であるネイルケアを中心に、カラーリングやネイルアート、ハンドトリートメント技術を習得する。ネイリスト技能検定資格取得を目標にする。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1) ネイルに関する正しい基礎知識や技術学び、ネイリスト技能検定資格取得レベルの技術及び基礎知識を身につけることができる。【知識・理解】 (2) ネイルケアやカラーリングの基礎的な技術や、ネイルアートを適正な手順で他者にも施術することができる。【汎用的技能】 (3) 専門用語を用いてコミュニケーションをとることができる。【汎用的技能】 (4) 一人ひとりの個性やファッション、イメージに、そしていろいろなライフスタイルに合ったネイルカラーデザインやネイルアートをコーディネートすることができる。【態度・志向性】 | | | | | | |
| 授業計画 | 1. オリエンテーション、実習教材の説明、検定受験について ネイルケア (テーブルセッティング/手指消毒) <ネイルの歴史> 2. ネイルケア (カウンセリング/ファイリング/クリーンナップ) <ネイル技術体系・爪の構造と働き> 3. ネイルケア (ファイリング/クリーンナップ/バッフィング) <ネイルのための皮膚科学> 4. ネイルケア (テーブルセッティング/ファイリング/クリーンナップ) <ネイルのための生理解剖学> 5. カラーリング (ポリッシュの取り方・塗り方)/ポリッシュオフ <爪や皮膚の病気とトラブル> 6. カラーリング/ポリッシュオフ/ネイルアート (フラットアート) <消毒法> 7. ネイルアート (フラットアート (ストーン・ペイント・ポリッシュ))/ハンドトリートメント<トリートメント理論> 8. ネイルアート (テーマにそったネイルアート制作 検定アート) <化粧品学(ネイル用化粧品)・色彩理論> 9. ネイルケア(クリーンナップ)/カラーリング/ネイルアート <プロフェッショナルリズム・ネイルカウンセリング・ネイルサロン環境・衛生基準と関連法規> 10. 基礎知識 まとめ 11. ネイルケア (テーブルセッティング~ネイルアートまで) タイムトライアル① 前半Gr 12. ネイルケア (テーブルセッティング~ネイルアートまで) タイムトライアル② 後半Gr 13. 検定対策 実技・タイムチェック① まとめ、復習 前半Gr 14. 検定対策 実技・タイムチェック② まとめ、復習 後半Gr 15. ネイルアート① (テーマ設定) 16. ネイルアート② (ネイルアート作品制作) | | | | | | |
| 授業外における学習 (準備学習の内容・時間) | 授業前学習：授業で使用するテキストをよく読み、ネイル技術について理解しておく。<学習時間2時間> 授業後学習：実技の習得は反復練習が必要である為、授業以外でも各自で練習を行う。 授業内で学んだ技術や知識は必ず復習し、次の授業内容についてテキストで確認してください。 <学習時間2時間> | | | | | | |
| 授業方法 | ネイルチップや自分の爪に施術、また学生同士相モデルでの実習。 細かなネイル技術のため技術工程のデモンストレーションや、ネイル技術工程のDVD等も見て技術習得する。 ネイリスト技能検定3級受験に向け、実技・筆記対策を行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 授業態度40% 技術習得度30%(授業時間内に実施する実技チェック) 知識理解度30%(授業時間内に配布する資料含む) | | | | | | |
| 履修上の注意 | 実習のため、毎回出席することが原則。5回以上の欠席で単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 自分の爪や学生同士相モデルで施術を行う場合があるため、開講期間中はカラーリング、人工爪などはつけず、ナチュラルネイル(地爪)の状態を受講してください。 実習費として2,000円徴収します。 | | | | | | |
| 教科書 | 『JNAテクニカルシステム ベーシック』NPO法人日本ネイリスト協会(JNA) 編 教科書についてはファッション・ハウジングデザイン学科準備室で購入手続きをすること。 | | | | | | |
| 参考書 | 適宜資料配布や書籍を紹介します。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 阪神デザイン論 | | | | | | |
| 担当教員 | 徳山 孝子 | | | | | 科目ナンバ- | F72010 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 水曜2 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 郊外住宅地の形成、阪神間の建築、ライフスタイル、美術、文学、娯楽などあらゆる角度から「阪神間モダニズム」をとらえる。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 江戸時代に商都として栄えた大阪、明治以降に西洋文化の玄関口となった神戸に挟まれた阪神間は歴史的にも特有の文化が形成された地域であり、「具体」に見られるように近代美術の歴史にも深い影響を与えている。こうした阪神地域から輩出したファッション、ハウジング領域を中心とするデザイナー達の活躍を紹介し、地域に固有な文化的・経済的背景を基礎とするデザインの特徴を理解することで、地域に根差した生活文化・ライフスタイルを形成するデザインの可能性を探る。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1) 大阪から神戸の特徴を地図に描くことができる【汎用的技能】 2) 阪神間の衣、食、住、芸術の一つを取り上げ、述べる【知識・理解】 3) 神戸のファッション文化を説明することができる【知識・理解】 4) 阪神間および神戸のライフスタイルの特徴をコミュニケーションでききる。【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明） 2. 阪神間とは 3. 阪神間を築いた交通と郊外住宅地 4. 阪神および神戸のライフスタイル 5. 阪神間に生きた建築家とその作品 6. 阪神間の食文化 7. 雑誌「ファッション」から阪神間ファッションの紹介 8. 阪神間のファッションデザイナーやグラフィックデザイナーたち 9. 阪神間の芸術家たち（美術家、音楽家、写真家） 10. 神戸の環境とは 11. ホテル文化のさきがけ 12. 神戸の飲料水 13. 神戸のファッション 14. 神戸と化粧品 15. 宝塚歌劇と神戸・阪神間の関係性について | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前準備学習：授業内で説明する。＜2時間＞ 授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。＜2時間＞ | | | | | | |
| 授業方法 | ①各回設定のテーマでレジュメを配布する。レジュメに沿って講義するため、授業前準備学習と授業後学習に使用する。 ②資料はプリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。 ③テーマの導入を図る練習問題について、グループまたペアによるディスカッションを行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | レポート70%：阪神間の衣、食、住、芸術の一つを取り上げ、授業で学習した方法で研究しまとめる。到達目標（1）～（4）に関する到達度の確認。 課題30%：阪神間の地図を描く課題とレジュメを評価する。レジュメは、授業内容の確認と授業後学習を評価する。到達目標（1）～（4）に関する到達度の確認。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | ①10回以上の出席がないと、受講資格を失う。 ②遅刻は、欠席扱いとする。 ③指定する課題は締切までに必ず提出する。 | | | | | | |
| 教科書 | 教科書としては、特に用いないが、プリントを配布する。 | | | | | | |
| 参考書 | 授業中に紹介する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 美容・健康演習 | | | | | | |
| 担当教員 | 森元 亜希子 | | | | | 科目ナンバー | F72090 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 金曜2 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 皮膚の構造やしくみを学び、化粧品の知識を身につけ、選び方を理解する | | | | | | |
| 授業の概要 | 私たちは、お肌を健やかに保つための補助として化粧品を使用します。しかし世の中には化粧品がありふれています。それは皆が同じ肌質ではなく、使用する化粧品も違うからです。ここでは皮膚の構造やしくみ、働きなどを学び、さまざまな肌質を理解し、化粧品選びが出来るようになる事、そして、メイクアップのテクニックを習得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①皮膚の構造やしくみ、働きを知り、肌のタイプ別も化粧品を知る。【知識・理解】 ②肌の手入れのしかた、基本のメイクアップができる。【汎用的技能】 ③メイクに対する興味をより具体的なものとして意識することができる。【態度・思考性】 | | | | | | |
| 授業計画 | 第1回 道具の説明、美と健康について 第2回 皮膚の構造、しくみと働き 顔のバランス 第3回 肌タイプと見分け方 紫外線対策について 第4回 スキンケア クレンジング、マッサージ 第5回 ベースメイク メイクアップベース、ファンデーション 第6回 ベースメイク コンシーラー、フェイスパウダー 第7回 ポイントメイク アイブロー 第8回 ポイントメイク アイメイク 第9回 ポイントメイク リップ 第10回 ポイントメイク チーク、ハイライト&ローライト 第11回 修正メイク 第12回 パーソナルカラーについて 第13回 化粧品リサーチ 第14回 トレンドメイク課題作成 第15回 復習、まとめ、筆記テスト | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前学習：各回授業の事前に指定するキーワードについて、指定された参考図書などで下調べをする。（学習時間2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容と重点箇所を確認、整理をする。（学習時間2時間） | | | | | | |
| 授業方法 | セルフで実習を行い、仕上がりについてディスカッションをみんなで行う。セルフメイクの仕上がりをふまえて、各回設定のテーマについて解説を行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 授業態度 40%：授業への姿勢、実技をしっかりと行なっているかで評価します。 課題提出 30%：トレンドメイクを調べるレポート1枚あります。 筆記テスト30%：30点満点のテストが1回あります。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 実習にはしっかり取り組む事。理由なく放棄した場合は欠席とみなします。 欠席が5回以上で、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 | | | | | | |
| 教科書 | 適宜資料配布します。 | | | | | | |
| 参考書 | 『日本化粧品検定2級・2級対策テキスト』主婦の友社 ISBN978-4-07-400426-3 適宜書籍を紹介します。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | 美容・健康演習 | | | | | | |
| 担当教員 | 森元 亜希子 | | | | | 科目ナンバ- | F72090 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 金曜3 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 皮膚の構造やしくみを学び、化粧品の知識を身につけ、選び方を理解する | | | | | | |
| 授業の概要 | 私たちは、お肌を健やかに保つための補助として化粧品を使用します。しかし世の中には化粧品がありふれています。それは皆が同じ肌質ではなく、使用する化粧品も違うからです。ここでは皮膚の構造やしくみ、働きなどを学び、さまざまな肌質を理解し、化粧品選びが出来るようになる事、そして、メイクアップのテクニックを習得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①皮膚の構造やしくみ、働きを知り、肌のタイプ別も化粧品を知る。【知識・理解】 ②肌の手入れのしかた、基本のメイクアップができる。【汎用的技能】 ③メイクに対する興味をより具体的なものとして意識することができる。【態度・思考性】 | | | | | | |
| 授業計画 | 第1回 道具の説明、美と健康について 第2回 皮膚の構造、しくみと働き 顔のバランス 第3回 肌タイプと見分け方 紫外線対策について 第4回 スキンケア クレンジング、マッサージ 第5回 ベースメイク メイクアップベース、ファンデーション 第6回 ベースメイク コンシーラー、フェイスパウダー 第7回 ポイントメイク アイブロウ 第8回 ポイントメイク アイメイク 第9回 ポイントメイク リップ 第10回 ポイントメイク チーク、ハイライト&ローライト 第11回 修正メイク 第12回 パーソナルカラーについて 第13回 化粧品リサーチ 第14回 トレンドメイク課題作成 第15回 復習、まとめ、筆記テスト | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前学習：各回授業の事前に指定するキーワードについて、指定された参考図書などで下調べをする。（学習時間2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容と重点箇所を確認、整理をする。（学習時間2時間） | | | | | | |
| 授業方法 | セルフで実習を行い、仕上がりについてディスカッションをみんなで行う。セルフメイクの仕上がりをふまえて、各回設定のテーマについて解説を行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 授業態度 40%：授業への姿勢、実技をしっかりと行なっているかで評価します。 課題提出 30%：トレンドメイクを調べるレポート1枚あります。 筆記テスト30%：30点満点のテストが1回あります。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 実習にはしっかり取り組む事。理由なく放棄した場合は欠席とみなします。 欠席が5回以上で、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 | | | | | | |
| 教科書 | 適宜資料配布します。 | | | | | | |
| 参考書 | 『日本化粧品検定2級・2級対策テキスト』主婦の友社 ISBN978-4-07-400426-3 適宜書籍を紹介します。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ファッションCAD実習 | | | | | | |
| 担当教員 | 足立 ともみ | | | | | 科目ナンバ- | F72260 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 木曜4~5 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | アパレルCADの活用 | | | | | | |
| 授業の概要 | ファッション業界の中でも、流行の変化が著しく多様なデザインが要求されるアパレル業界では生産の効率化を図るためアパレルCADシステムが広く利用されています。実習では衣服の型紙を作成するパターンメイキングを中心に、実際にアパレルCADソフトを使用しながら、衣服生産のためのCAD技術の習得と活用の有効性を考えます。 | | | | | | |
| 到達目標 | 衣服が形作られるパーツを理解しCADを操作できる。【態度・志向性】自由作品では囲み製図、トレース、原型展開の3種類の製図方法から2種類選択してCADで製図し工業用パターン化できる。【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション ファッション産業でのCADの活用、Pattern Magicの操作 第2回 原型、ポケット作成、実寸出力 第3回 スカート原型のデザイン展開 第4回 スカート工業用パターン作成 第5回 ブラウスパターン実寸トレース 第6回 ブラウス工業用パターン作成 第7回 パンツ原型作成 第8回 パンツ原型デザイン展開 第9回 ワンピース囲み製図 第10回 ワンピース工業用パターン作成 第11回 原型のデザイン展開 第12回 自由作品レポートの説明、作品選び 第13回 自由作品>Pattern Magicで製図 第14回 自由作品>Pattern Magicで工業用パターン作成 第15回 自由作品まとめ、提出 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前学習：日頃より身の回りの衣服構成や縫製部位を観察しパターン作成のための視野を広げてください。 授業後学習：CAD操作で不明な所は質問し、他授業やファッションショー等でCADを活用しましょう。 | | | | | | |
| 授業方法 | コンピューターを使用しての演習形式 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 平常点(50点) 配点内訳:課題と授業への積極的参加度 自由作品・レポート(50点) | | | | | | |
| 履修上の注意 | 10回以上の出席がないと受講資格を失います(遅刻厳禁) データ保存のため、各自でUSBメモリを購入し毎回持参してください。 (他教科との兼用可) | | | | | | |
| 教科書 | プリントを配布します。 | | | | | | |
| 参考書 | 授業内で紹介します。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ファッションCG演習／ファッションCGスタイル画演習 | | | | | | |
| 担当教員 | 山本 浩司 | | | | | 科目ナンバー | F72270 |
| 学期 | 前期／1st semester | 曜日・時限 | 木曜3 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | コンピューターデザインソフトを使ってファッションデザイン画を描く。 | | | | | | |
| 授業の概要 | IllustratorやPhotoshopを用いてファッションデザイン画を描くための機能や操作方法について学びます。また、制作した作品をポートフォリオとしてレイアウトする方法についても学び、最終回ではそれらを使った講評会を行います。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1)コンピューターデザインソフトを用いてファッションデザイン画を描くことができる。【汎用的技術】 (2)デザインアイデアを展開させ、自分の関心に基づいたポートフォリオを制作することができる。【汎用的技術】 (3)IllustratorやPhotoshopの操作方法を理解し、ファッションCGへの興味をより具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】 | | | | | | |
| 授業計画 | 第01回 オリエンテーション 第02回 Illustrator01：基本操作 第03回 Illustrator02：思い通りの線を描く 第04回 Illustrator03：ハンガーイラストの作成01（シャツ） 第05回 Illustrator04：ハンガーイラストの作成02（シャツ） 第06回 Illustrator05：パターンの作成 第07回 Illustrator06：作品制作 第08回 Photoshop01：基本操作 第09回 Photoshop02：選択範囲の作成 第10回 Photoshop03：パターンの作成 第11回 Photoshop04：画像の合成 第12回 Photoshop05：作品制作 第13回 ポートフォリオ制作01 第14回 ポートフォリオ制作02 第15回 講評会 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前学習：授業時に次回授業で使用する素材の準備を指示します。（学習時間：1時間） 授業後学習：授業で学んだソフトの操作方法を復習する。完成に至らなかった作品は次回までに完成させておくこと。（学習時間：2時間） | | | | | | |
| 授業方法 | パソコンを使用した演習：毎回、授業テーマについての解説・講義を受けた後、作品制作を行う。完成した作品は、授業時間内に発表し講評を行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 作品60%、発表20%、授業への参加度20% 作品：学習内容を把握し、自分の興味や関心に基づいた創造を作品への確に反映できているか。制作物の完成度を評価する。到達目標(1)(2)の到達度の確認。 発表：作品の特徴を捉え自分の言葉で発表できているかを評価する。到達目標(2)(3)の到達度の確認。 授業への参加度：積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるかを総合的に評価する。 なお、提出物は次回の授業で講評して各自にフィードバックする。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 演習授業のため、原則として欠席や遅刻は認めない（やむを得ない場合は、10回以上の出席とする）。課題は提出期限までに提出することが必須である。 | | | | | | |
| 教科書 | プリントを配布する。 | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて授業中に紹介する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ファッション・ライティング演習 | | | | | | |
| 担当教員 | 坪井 兵輔 | | | | | 科目ナンバ- | F22060 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 月曜3 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 様々な視点からファッションを捉え、文章で表現する。 | | | | | | |
| 授業の概要 | ファッションをテーマにした記事やエッセイ、脚本などの作成を通して論理的な思考を鍛え、感受性を養い、文章表現能力の向上を図る。本授業では放送局で実務経験のある教員がファッションに関わる業界や広告・PR現場での20年以上の取材を踏まえてファッションの「使用価値」はもとより、より豊かな生活に資する「付加価値」を創造するライティングについて解説する。受講者はファッション関係を進路とする人に限らず、文章によるコミュニケーション能力の向上を目指す人も対象に、ファッション・ライティングの実践により言語表現の可能性を考察する。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1) ファッションに関する明晰で、説得力のある文章表現技能を身につける【汎用性技能】 (2) MEDIAとしてのファッションに込められたメッセージを読み解き、言語化できる【汎用性技能】 (3) ファッションに関する多面的な理解に基づいたライティングにより価値を創造できる【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | 第1回 ファッションとは何か～MEDIAとしてのファッション概論 第2回 価値とは何か～価値創造のための言語表現 第3回 コミュニケーション手段としてのファッション・ライティング～物語性の考察 第4回 省略と強調～表現対象の言語的解析と文章表現技法 第5回 ファッションを「感じる」～五感を駆使した文章表現 第6回 MEDIAリテラシーとしてのファッション・ライティング～メッセージ抽出 第7回 時代を映し出すファッション～ファッションの歴史的系譜分析 第8回 社会を変えたファッション考察～価値の転換と言語表現 第9回 記事①～記事の書き方 第10回 記事②～ファッションショー 第11回 脚本①～脚本（物語）の書き方 第12回 脚本②～「豊かさ」を創造するファッションについて 第13回 エッセイ①～エッセイの書き方 第14回 エッセイ②～神戸、大学、ローカルを掘り下げ、グローバルに問う 第15回 プレス・リリース～企画書・メディア向けPR文章の書き方 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 本講座は授業外の予復習が必須である。 演習科目のため、原則として授業時間内で文章作成に関する学習を行うが、作成する文章は事前に参考文献を参照して準備し、下書きとして完成させる。ただし授業時間内での指導を経て完成できなかった場合は講義中に紹介した資料や文献を読み、関連記事を調べて引用した上で次回までに完成させておくこと。 授業前学習：毎回、次回授業テーマに関する参考文献を指定する。受講者は精読し次回に向けた下調べ、下書きを行う（2時間） 授業後学習：各回授業で取り組んだワークの要点整理とキーワード抽出を行い、文章作成に関するレポートを作成する（2時間） | | | | | | |
| 授業方法 | 講義とライティング：授業テーマに対し、教員が概要、背景、文章表現上の要点を講義し、受講者はペア、またはグループでディスカッションを行った上で文章を執筆・報告する。教員は報告を講評し、文章を完成させる。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 受講態度50%、授業での提出文章50% （授業態度）は積極的なディスカッションへの参加、文章作成への準備により総合的に評価。 （提出文章）到達目標（1）（2）（3）への目標達成度合いで評価。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | ファッションは社会情勢を色濃く反映するため、日々、ニュースに触れること。 また、文章表現の向上において読書は欠かせない。 多くの書物を読み、語彙を増やすよう意識すること。 出席回数が開講日程の2/3に満たない場合、原則単位認定を行わない。 特別な事情が認められない場合、10分以上の遅刻は欠席とする。 | | | | | | |
| 教科書 | 近藤康太郎『三行で撃つ』CCCメディアハウス、2020 ISBN:978-4-48-420229-7 | | | | | | |
| 参考書 | 日本経済新聞 神戸新聞など | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ファッション・ライティング演習 | | | | | | |
| 担当教員 | 坪井 兵輔 | | | | | 科目ナンバ- | F22060 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 月曜4 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 様々な視点からファッションを捉え、文章で表現する。 | | | | | | |
| 授業の概要 | ファッションをテーマにした記事やエッセイ、脚本などの作成を通して論理的な思考を鍛え、感受性を養い、文章表現能力の向上を図る。本授業では放送局で実務経験のある教員がファッションに関わる業界や広告・PR現場での20年以上の取材を踏まえてファッションの「使用価値」はもとより、より豊かな生活に資する「付加価値」を創造するライティングについて解説する。受講者はファッション関係を進路とする人に限らず、文章によるコミュニケーション能力の向上を目指す人も対象に、ファッション・ライティングの実践により言語表現の可能性を考察する。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1) ファッションに関する明晰で、説得力のある文章表現技能を身につける【汎用性技能】 (2) MEDIAとしてのファッションに込められたメッセージを読み解き、言語化できる【汎用性技能】 (3) ファッションに関する多面的な理解に基づいたライティングにより価値を創造できる【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | 第1回 ファッションとは何か～MEDIAとしてのファッション概論 第2回 価値とは何か～価値創造のための言語表現 第3回 コミュニケーション手段としてのファッション・ライティング～物語性の考察 第4回 省略と強調～表現対象の言語的解析と文章表現技法 第5回 ファッションを「感じる」～五感を駆使した文章表現 第6回 MEDIAリテラシーとしてのファッション・ライティング～メッセージ抽出 第7回 時代を映し出すファッション～ファッションの歴史的系譜分析 第8回 社会を変えたファッション考察～価値の転換と言語表現 第9回 記事①～記事の書き方 第10回 記事②～ファッションショー 第11回 脚本①～脚本（物語）の書き方 第12回 脚本②～「豊かさ」を創造するファッションについて 第13回 エッセイ①～エッセイの書き方 第14回 エッセイ②～神戸、大学、ローカルを掘り下げ、グローバルに問う 第15回 プレス・リリース～企画書・メディア向けPR文章の書き方 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 本講座は授業外の予復習が必須である。 演習科目のため、原則として授業時間内で文章作成に関する学習を行うが、作成する文章は事前に参考文献を参照して準備し、下書きとして完成させる。ただし授業時間内での指導を経て完成できなかった場合は講義中に紹介した資料や文献を読み、関連記事を調べて引用した上で次回までに完成させておくこと。 授業前学習：毎回、次回授業テーマに関する参考文献を指定する。受講者は精読し次回に向けた下調べ、下書きを行う（2時間） 授業後学習：各回授業で取り組んだワークの要点整理とキーワード抽出を行い、文章作成に関するレポートを作成する（2時間） | | | | | | |
| 授業方法 | 講義とライティング：授業テーマに対し、教員が概要、背景、文章表現上の要点を講義し、受講者はペア、またはグループでディスカッションを行った上で文章を執筆・報告する。教員は報告を講評し、文章を完成させる。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 受講態度50%、授業での提出文章50% （授業態度）は積極的なディスカッションへの参加、文章作成への準備により総合的に評価。 （提出文章）到達目標（1）（2）（3）への目標達成度合いで評価。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | ファッションは社会情勢を色濃く反映するため、日々、ニュースに触れること。 また、文章表現の向上において読書は欠かせない。 多くの書物を読み、語彙を増やすよう意識すること。 出席回数が開講日程の2/3に満たない場合、原則単位認定を行わない。 特別な事情が認められない場合、10分以上の遅刻は欠席とする。 | | | | | | |
| 教科書 | 近藤康太郎『三行で撃つ』CCCメディアハウス、2020 ISBN:978-4-48-420229-7 | | | | | | |
| 参考書 | 日本経済新聞 神戸新聞など | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ファッション・ライフスタイル論 | | | | | | |
| 担当教員 | 高田 敏代 | | | | | 科目ナンバ- | F73050 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 月曜3 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 日本のファッションとその背景にあるライフスタイルとの関係性 | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>ファッションおよびインテリアは、ライフスタイル（個人や家族の生活様式）と密接な関係にある。戦後の経済発展とライフスタイルの多様化・個性化が進み、モノからコトへと価値観が移行、生き方や暮らし方も大きく変化した。現在は、衣・食・住（生活必需品）に加えて、遊、休、美、知（生活の質や心の豊かさ）の欲求を満たすライフスタイルが志向される一方でファッションにも変化が起きている。現在、我々がおかれている社会環境である少子化・高齢化時代のライフスタイル、健康福祉とライフスタイル、サステイナブル（環境に配慮した持続可能）なライフスタイルなどの多方面の観点からファッションを学ぶとともに、新しい時代のファッション・ライフスタイルを考察する。</p> <p>この授業は、「知識・理解」「汎用的技能」を習得する授業です。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <p>(1) ファッションとその背景にあるライフスタイルとの関係性を説明できる (2) 日本のファッションとライフスタイル関係を時代の流れを追って説明できる (3) 今後のファッションとライフスタイルについて自分なりの考えを述べるができる</p> | | | | | | |
| 授業計画 | <p>1回 授業の概要と進め方、評価の方法についての説明をする。 【日本のファッションとその背景にあるライフスタイルの変遷】 戦後の経済発展から現在までのライフスタイルとファッション 45年戦後のライフスタイルとファッション 1945年から1959年 2回 1960年代のライフスタイルとファッション 1960年から1959年 3回 1970年代のライフスタイルとファッション 1970年から1979年 4回 1980年代のライフスタイルとファッション 1980年から1989年 5回 1990年代のライフスタイルとファッション 1990年から1999年 6回 2000年代のライフスタイルとファッション 2000年から2009年 7回 2010年代のライフスタイルとファッション 2010年から2019年 【現代の社会環境を背景にしたライフスタイルとファッション】 8回 少子高齢化時代のライフスタイルとファッション 9回 健康福祉が課題のライフスタイルとファッション 10回 サステイナブルなライフスタイルとファッション 11回 2020年代のライフスタイルとファッションについてグループで討論する 【市場及び商品開発のためのライフスタイルマーケティング】 12回 日本の世代分析とファッション（実例の解説） アメリカのと比較など 13回 ライフスタイル・マーケティング（調査分析）の手法（実例）の解説 14回 ニュージェネレーション（新世代）「ミレニアル世代」について 15回 各自研究レポートの発表と講評</p> | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | <p>「少子高齢化」「健康福祉」「サステイナブル（環境配慮）」「ニュージェネレーション（新世代）」上記のいずれかのテーマでライフスタイルとファッションについての情報を収集する6時間 収集した情報と自信が考察した内容をレポートにまとめるA4サイズ5～6枚1000時程度（写真や図形を含む）を作成する4時間</p> | | | | | | |
| 授業方法 | オリジナルテキスト及びプロジェクター（画像）を使って解説・講義を行う。 重要課題については、グループまたはペアによるディスカッションを行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 授業内の提出物30% 課題レポート（授業外課題）50% 授業内でのグループワークへの取り組み、積極性20% | | | | | | |
| 履修上の注意 | <p>①5回を超える欠席すると受講資格を失う ②遅刻や早引きは欠席扱いとする ③指定する課題を必ず提出する ④グループワークに積極的に参加する ⑤必要でない私語やメールなどはしない</p> | | | | | | |
| 教科書 | オリジナルテキスト（プリント）配布 | | | | | | |

| | |
|-----|---|
| 参考書 | 「ファッションコミュニケーション」第1版 高田敏代著 東方出版 2016年8月25日 ISBN978-4-86249-267-8 織研新聞 ファッション雑誌 その他 必要に応じて授業内で書籍や資料を紹介する |
|-----|---|

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ファッションイメージと写真 | | | | | | |
| 担当教員 | 吉川 直哉 | | | | | 科目ナンバ- | F22050 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 月曜3 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 光をイメージとして捉えるメディア、写真とは何かについて学び、ポートレートやファッションデザインなどを記録・撮影することへの理解を深める。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 光の原理から学び、写真を「撮る」から「写る」までのプロセスの意味を講義と実習の両面から進める。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1) メディアとしての写真への関心を持つことができる。 (2) 光の性質と写真の機能を活用してプロデュースしたものを他者に説明することができる。(知識・理解) (3) 光の特徴を使い、写真撮影の基本的な技術を使うことができる。(汎用性技能) | | | | | | |
| 授業計画 | 第1回 授業ガイダンス(講師紹介と授業の課題、受講などについての諸注意)+写真とは何か 第2回 光の採取:とにかく撮る 第3回 「光の採取」成果物批評~光の採取:考えて撮る 第4回 写真の読み方:広告写真や報道写真などから学ぶ 第5回 セルフポートレートとセルフの撮影 第6回 ポートレートの撮影 第7回 セルフポートレートとセルフ:成果物の研究と再撮影 第8回 複数の写真の組み合わせ~作業説明~撮影 第9回 複数の写真の組み合わせ:撮影実習 第10回 写真作品鑑賞と研究:国内の写真家の作品から 第11回 理想のプロファイルの制作への挑戦 第12回 写真作品鑑賞と研究:海外の写真家の作品から 第13回 理想のプロファイルの制作と完成 第14回 理想のプロファイル構成と制作 第15回 制作発表と合評 | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 授業前準備:シラバスに記載されている、また前週の授業で事前告知する項目、キーワード、技術などについて、授業開始までに十分な時間をとって、図書館やインターネット等を活用し、下調べをして、その疑問を含めてノートに記載すること。授業後学習:授業で得た知識や技術について、授業で記録したノートをもとに、授業後に要点をまとめ、授業前学習と同様の方法で復習して問題点を解決する。またそれを次週授業で質問として受け付ける。 | | | | | | |
| 授業方法 | 原則として、授業内で全ての制作を行う。ただし、授業内で完成できなかった者は、次週までに完成させて置くこと。15週のうち、開講時間に代えて展覧会での作品鑑賞のために学外授業を行う場合がある。その前週までに内容を伝え、それについて授業前学習(予習)を授業内で告知するので、図書館などを利用して下調べをして学外授業に臨むこと。また、その授業後学習(復習)として作品についての所感をまとめたレポートの提出を求める。なお、学外授業の場合は、交通費、入館料は各自負担とする。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 授業態度(授業への取り組み)30%、授業内の成果物評価70%。成果物は授業で説明した知識の理解、授業で取り組んだ汎用性技術が習得できているか評価する。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 15週のうち10週以上の出席がないと、原則として単位認定は行わない。遅刻は欠席扱いとする。 | | | | | | |
| 教科書 | プリントなどを授業内で配布する。 | | | | | | |
| 参考書 | 写真のなかの「わたし」 鳥原 学 ちくまプリマー新書251 筑摩書房 ISBN978-4-480-6855-9 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ファッションイメージと写真 | | | | | | |
| 担当教員 | 吉川 直哉 | | | | | 科目ナンバ- | F22050 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 月曜4 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 光をイメージとして捉えるメディア、写真とは何かについて学び、ポートレートやファッションデザインなどを記録・撮影することへの理解を深める。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 光の原理から学び、写真を「撮る」から「写る」までのプロセスの意味を講義と実習の両面から進める。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1) メディアとしての写真への関心を持つことができる。 (2) 光の性質と写真の機能を活用してプロデュースしたものを他者に説明することができる。(知識・理解) (3) 光の特徴を使い、写真撮影の基本的な技術を使うことができる。(汎用性技能) | | | | | | |
| 授業計画 | 第1回 授業ガイダンス(講師紹介と授業の課題、受講などについての諸注意)+写真とは何か 第2回 光の採取:とにかく撮る 第3回 「光の採取」成果物批評~光の採取:考えて撮る 第4回 写真の読み方:広告写真や報道写真などから学ぶ 第5回 セルフポートレートとセルフの撮影 第6回 ポートレートの撮影 第7回 セルフポートレートとセルフ:成果物の研究と再撮影 第8回 複数の写真の組み合わせ~作業説明~撮影 第9回 複数の写真の組み合わせ:撮影実習 第10回 写真作品鑑賞と研究:国内の写真家の作品から 第11回 理想のプロファイルの制作への挑戦 第12回 写真作品鑑賞と研究:海外の写真家の作品から 第13回 理想のプロファイルの制作と完成 第14回 理想のプロファイル構成と制作 第15回 制作発表と合評 | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 授業前準備:シラバスに記載されている、また前週の授業で事前告知する項目、キーワード、技術などについて、授業開始までに十分な時間をとって、図書館やインターネット等を活用し、下調べをして、その疑問を含めてノートに記載すること。授業後学習:授業で得た知識や技術について、授業で記録したノートをもとに、授業後に要点をまとめ、授業前学習と同様の方法で復習して問題点を解決する。またそれを次週授業で質問として受け付ける。 | | | | | | |
| 授業方法 | 原則として、授業内で全ての制作を行う。ただし、授業内で完成できなかった者は、次週までに完成させて置くこと。15週のうち、開講時間に代えて展覧会での作品鑑賞のために学外授業を行う場合がある。その前週までに内容を伝え、それについて授業前学習(予習)を授業内で告知するので、図書館などを利用して下調べをして学外授業に臨むこと。また、その授業後学習(復習)として作品についての所感をまとめたレポートの提出を求める。なお、学外授業の場合は、交通費、入館料は各自負担とする。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 授業態度(授業への取り組み)30%、授業内の成果物評価70%。成果物は授業で説明した知識の理解、授業で取り組んだ汎用性技術が習得できているか評価する。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 15週のうち10週以上の出席がないと、原則として単位認定は行わない。遅刻は欠席扱いとする。 | | | | | | |
| 教科書 | プリントなどを授業内で配布する。 | | | | | | |
| 参考書 | 写真のなかの「わたし」 鳥原 学 ちくまプリマー新書251 筑摩書房 ISBN978-4-480-6855-9 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ファッションカルチャー論 | | | | | | |
| 担当教員 | 森 治子 | | | | | 科目ナンバ- | F24110 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 水曜4 | 配当学年 | 4 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | ファッションの歴史と文化をさまざまな視点から学ぶ。 | | | | | | |
| 授業の概要 | ファッションはその時代を生きる人びとの生活や美意識をあらわすものである。この授業ではファッションの歴史を追いながら、ファッションをめぐるさまざまな表現をとりあげ、検討する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 文化としての服飾表現について、時代ごとの特徴を理解し、説明することができるようになる。【知識・理解】 2. デザインやファッションブランドがもつ意味や力を理解し、自分のことばで表現できるようになる。【知識・理解】 3. 多様な文化を理解できる視点を修得する。【態度・指向性】 4. ファッション用語を理解し、適切に使用することができる。【知識・理解】【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションーファッションカルチャーを学ぶためにー 2. ファッションの歴史とファッションアイコン (1) 男性 3. ファッションの歴史とファッションアイコン (2) 女性 4. 子供の文化と子供服 5. スポーツとファッション 6. 芸術とファッション (1) 19世紀末 7. 芸術とファッション (2) 20世紀初頭 8. 芸術とファッション (3) 20世紀後半 9. 芸術とファッション (4) 舞台芸術とファッション 10. ファッションとメディア (1) 映画とファッション①西洋 11. ファッションとメディア (2) 映画とファッション②日本 12. ファッションとメディア (3) ストリートファッション①1950年代～1970年代 13. ファッションとメディア (4) ストリートファッション②1980年代～2000年代 14. ジェンダーとファッション 15. まとめ | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | <p>【事前準備学習】授業時に翌週の準備学習について説明する<2時間>。 【授業後学習】授業内容をふりかえり、わからない語句等は調べてノートを整理する<2時間>。授業では授業内容に関連する小説や絵画、映画、美術展などを紹介するので、文化や芸術に触れる機会を積極的にもつようにしてください。</p> | | | | | | |
| 授業方法 | 講義 必要に応じて映画や絵画などの視覚資料を用いる。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 平常点：50% 期末レポート：50% 平常点のうち、授業中に提出するコメントカードが20%、小レポートが30% | | | | | | |
| 履修上の注意 | 途中退出や途中入室は講義の進行上の妨げとなるので控えること。やむを得ない場合は、教員に事前に知らせること。映像資料を観ることが多いので私語は控えること。 | | | | | | |
| 教科書 | なし | | | | | | |
| 参考書 | 授業時に適宜紹介する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ファッション企画演習I/ファッションビジネス演習I | | | | | | |
| 担当教員 | 高田 敏代 | | | | | 科目ナンバ- | F22010 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 火曜1 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | ファッション市場の調査分析（マーケティング）を行う方法を学び、課題に取り組む | | | | | | |
| 授業の概要 | ファッション企画演習I、II、IIIでは、ファッション産業における商品の企画・生産・販売の流れについて学び、具体的な職種や実務を想定した演習を通じて技能を修得し役割についての理解を深める 演習Iではファッション商品の企画・生産・販売のプロセスを理解する 消費者や市場の動向を的確に捉えるための「マーケティング」手法について学び、市場調査や情報収集の具体的な課題に取り組む またそれらの情報や調査結果を分析した結果を基にした商品企画の仕方を学び、具体的な課題に取り組む | | | | | | |
| 到達目標 | 【知識・理解】身近な生活におけるデザインの役割に関する幅広い知識を身につけている。 【汎用的技能】①からだを取り巻く衣服のデザイン事例について情報収集し、特徴やイメージを読み取り、分析することができる。②ファッションを専門の言葉で表現し、コミュニケーションする能力をもつ。 【態度・志向性】ユーザー、生活者である女性として、地域に根差した生活文化の形成、新たなデザインやライフスタイル提案により、社会貢献にできる。 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ファッション業界の構造 生産から流通小売りまでの仕組みや構造とそこに関わる職種（専門職）についての解説 2. アパレル業界の最新市場① 2019年春夏小売市場全般の動向とレディス・メンズ・キッズウエアのトレンドの解説 3. アパレル業界の最新市場② 2019年春夏のファッション雑貨全般・インナーウエア・テキスタイルのトレンドの解説 4. ファッション市場の顧客世代分析 ファッション業界で使われている世代分析資料を基にファッションと消費志向を解説 5. 百貨店のブランド分析I 百貨店の売り場をリサーチしブランドが狙う顧客世代と商品テイストの違いを調査する 6. 百貨店のブランド分析II 調査した内容をマトリックスに分析しブランドのポジショニングマップを作成する 7. 百貨店のブランド分析III IIの分析結果を分かりやすくレポートに仕上げ、グループごとにその内容を発表する 8. ファッション着装調査I グループごとに着装調査のテーマ（カラー、スタイル、デザイン）と手順を考える 9. ファッション着装調査II あらかじめ用意された街頭写真をグループのテーマに基づき分析する 10. ファッション着装調査III IIの着想調査の分析結果をグループで考察し、レポートに仕上げる 11. ファッション着装調査IV IIIで作成したレポートを基に、着装調査の結果をグループごとに発表する 12. 生活及びファッション調査I 生活及びファッションを調査する方法を学び、調査シートを作成する 13. 生活及びファッション調査II グループごとに調査を実施し、調査した結果を項目ごとに分析する 14. 生活及びファッション調査III IIの分析結果を基にグループで考察し、レポートを作成する レポートの結果を基に各自で新しい商品の企画書を作成する 15. 生活及びファッション調査IV グループごとにIIIのレポート分析内容と各自の商品企画書を発表する | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 百貨店またはファッションビルのブランド構成と顧客構成を調査する<4時間> 生活及びファッション（インナー）に関するアンケート調査を実施する10人<3時間> アンケート結果から得た情報をもとに新商品の提案レポートを作成する<3時間> | | | | | | |
| 授業方法 | ファッション商品開発のベースになるファッション市場及び生活者の調査分析の仕方を学ぶ グループに分かれて課題に沿った調査や分析をし、考察した内容をレポートにまとめる その結果をグループごとにクラス内で発表する | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 市場調査の分析レポート80% 分析レポートを基にした商品企画書20% で評価 | | | | | | |

| | |
|--------|---|
| 履修上の注意 | ①5回を超える欠席すると受講資格失う ②遅刻や早引きは、欠席扱いとする ③指定する課題を必ず提出する ④グループワークに積極的に参画する |
| 教科書 | オリジナルテキスト |
| 参考書 | 織研新聞、様々なファッション雑誌 |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ファッション企画演習I/ファッションビジネス演習I | | | | | | |
| 担当教員 | 高田 敏代 | | | | | 科目ナンバ- | F22010 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 火曜2 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | ファッション市場の調査分析（マーケティング）を行う方法を学び、課題に取り組む | | | | | | |
| 授業の概要 | ファッション企画演習I、II、IIIでは、ファッション産業における商品の企画・生産・販売の流れについて学び、具体的な職種や実務を想定した演習を通じて技能を修得し役割についての理解を深める 演習Iではファッション商品の企画・生産・販売のプロセスを理解する 消費者や市場の動向を的確に捉えるための「マーケティング」手法について学び、市場調査や情報収集の具体的な課題に取り組む またそれらの情報や調査結果を分析した結果を基にした商品企画の仕方を学び、具体的な課題に取り組む | | | | | | |
| 到達目標 | 【知識・理解】身近な生活におけるデザインの役割に関する幅広い知識を身につけている。 【汎用的技能】①からだを取り巻く衣服のデザイン事例について情報収集し、特徴やイメージを読み取り、分析することができる。②ファッションを専門の言葉で表現し、コミュニケーションする能力をもつ。 【態度・志向性】ユーザー、生活者である女性として、地域に根差した生活文化の形成、新たなデザインやライフスタイル提案により、社会貢献にできる。 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ファッション業界の構造 生産から流通小売りまでの仕組みや構造とそこに関わる職種（専門職）についての解説 2. アパレル業界の最新市場① 2019年春夏小売市場全般の動向とレディス・メンズ・キッズウエアのトレンドの解説 3. アパレル業界の最新市場② 2019年春夏のファッション雑貨全般・インナーウエア・テキスタイルのトレンドの解説 4. ファッション市場の顧客世代分析 ファッション業界で使われている世代分析資料を基にファッションと消費志向を解説 5. 百貨店のブランド分析I 百貨店の売り場をリサーチしブランドが狙う顧客世代と商品テイストの違いを調査する 6. 百貨店のブランド分析II 調査した内容をマトリックスに分析しブランドのポジショニングマップを作成する 7. 百貨店のブランド分析III IIの分析結果を分かりやすくレポートに仕上げ、グループごとにその内容を発表する 8. ファッション着装調査I グループごとに着装調査のテーマ（カラー、スタイル、デザイン）と手順を考える 9. ファッション着装調査II あらかじめ用意された街頭写真をグループのテーマに基づき分析する 10. ファッション着装調査III IIの着想調査の分析結果をグループで考察し、レポートに仕上げる 11. ファッション着装調査IV IIIで作成したレポートを基に、着装調査の結果をグループごとに発表する 12. 生活及びファッション調査I 生活及びファッションを調査する方法を学び、調査シートを作成する 13. 生活及びファッション調査II グループごとに調査を実施し、調査した結果を項目ごとに分析する 14. 生活及びファッション調査III IIの分析結果を基にグループで考察し、レポートを作成する レポートの結果を基に各自で新しい商品の企画書を作成する 15. 生活及びファッション調査IV グループごとにIIIのレポート分析内容と各自の商品企画書を発表する | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 百貨店または専門店のブランド構成と顧客構成を調査する<4時間> 生活及びファッション（インナー）に関するアンケート調査を実施する<3時間> アンケート結果から得た情報をもとに新商品の提案レポートを作成する<3時間> | | | | | | |
| 授業方法 | ファッション商品開発のベースになるファッション市場及び生活者の調査分析の仕方を学ぶ グループに分かれて課題に沿った調査や分析をし、考察した内容をレポートにまとめる その結果をグループごとにクラス内で発表する | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 市場調査の分析レポート80% 分析レポートを基にした商品企画書20% で評価 | | | | | | |

| | |
|--------|--|
| 履修上の注意 | ①5回超える欠席すると受講資格失う ②遅刻や早引きは、欠席扱いとする ③指定する課題を必ず提出する ④グループワークに積極的に参画する |
| 教科書 | オリジナルテキスト |
| 参考書 | 織研新聞、様々なファッション雑誌 |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ファッション企画演習II/ファッションビジネス演習II | | | | | | |
| 担当教員 | 高田 敏代 | | | | | 科目ナンバ- | F22020 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 火曜1 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | ファッション商品開発及び商品販売の為のコンセプト立案の演習。 | | | | | | |
| 授業の概要 | ファッション商品の製品開発や仕入販売の基本となるコンセプト作りを演習する授業。具体的には、対象となる消費者イメージ(ターゲット)を設定し、そのライフスタイルやファッションの特性を分析する。そしてその分析をもとにした商品(製品)や売り場(品揃え)に落とし込んだ企画書を作成し提案する手法と技術を理解し学ぶ。 ファッション業界において消費者向けの的確に訴求できる商品を企画、販売する基本となる「ファッションマーチャライジング」の一連の過程を修得することを目的とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | <p>「知識・理解」身近な生活におけるデザインの役割に関する幅広い知識を身につけている。</p> <p>「汎用的技能」①からだを取り巻く衣服のデザイン事例について情報収集し、特徴やイメージを読み取り、分析することができる。②ファッションを専門の言葉で表現し、コミュニケーションする能力をもつ。</p> <p>「態度・志向性」ユーザー、生活者である女性として、地域に根差した生活文化の形成、新たなデザインやライフスタイル提案により、社会貢献にできる。</p> | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ファッション企画「マーチャライジング」とは ファッション企画「マーチャライジング」の具体的な手法や活用法の解説。 2. ファッション企画Ⅰ ターゲットの設定 「マーチャライジング」の対象となる消費者イメージの設定をする 3. ファッション企画Ⅱ ライフスタイル分析1 ターゲットの生活スタイルを言葉(マインドマップ使用)で分析する 4. ファッション企画Ⅲ ライフスタイル分析2 ターゲットのライフスタイルイメージを雑誌(切り取る)で分析する 5. ファッション企画Ⅳ スタイリング分析 生活シーン別に洋服の着こなしの特徴を雑誌(切り取る)で分析する 6. ファッション企画Ⅴ 商品イメージの分析 スタイリング分析をもとに具体的に企画したい商品の特徴を分析する 7. ファッション企画Ⅵ ターゲットイメージマップ PCを使ってターゲットの設定マップを作成する 8. ファッション企画Ⅶ ライフスタイル分析マップ PCを使ってライフスタイル(言葉)分析マップを作成する 9. ファッション企画Ⅷ ライフスタイルイメージマップ PCを使ってライフスタイル(写真)分析マップを作成する 10. ファッション企画Ⅸ スタイリングイメージマップ PCを使ってスタイリングのイメージマップを作成する 11. ファッション企画Ⅹ 5 2週のマーチャライジング 5 2周(1年間)のライフスタイルとファッションの特性を分析する 12. ファッション企画Ⅺ コンセプトマップ ⅠからⅩの内容をもとにファッション企画のコンセプトをまとめる 13. ファッション企画Ⅻ 商品企画マップ 展開したい商品または売り場イメージをマップに作成をする 14. ファッション企画まとめ これまでに作成した企画書を確認しプレゼンテーションの準備をする 15. プレゼンテーション プレゼンテーションと講評 各自、作成した商品企画書(マップ)を使ってプレゼンテーションする(成果物提出) | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 授業内で各自が設定するターゲットの生活特性やファッションの特性を知るための情報収集をする。具体的には、インターネットや書店で雑誌などで情報収集する。(2~3時間) | | | | | | |
| 授業方法 | ファッション商品企画マップを各自作成する。 各自の進行状況に合わせて個別指導する。 ※PCを使用、基本的な操作法は授業内で解説する。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 課題を進める技能(30%)及び成果物(70%)で評価する。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | <ol style="list-style-type: none"> ①5回を超える欠席すると受講資格失う。 ②遅刻、早引きは欠席扱いとする。 ③課題を提出する。 ④ファッション雑誌やカタログを2~3冊用意する。 | | | | | | |

| | |
|--------|--------------------|
| 履修上の注意 | |
| 教科書 | 教員のオリジナルテキスト及び教材使用 |
| 参考書 | 織研新聞、ファッション雑誌 |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ファッション企画演習II/ファッションビジネス演習II | | | | | | |
| 担当教員 | 高田 敏代 | | | | | 科目ナンバ- | F22020 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 火曜2 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | ファッション商品開発及び商品販売の為のコンセプト立案の演習。 | | | | | | |
| 授業の概要 | ファッション商品の製品開発や仕入販売の基本となるコンセプト作りを演習する授業。具体的には、対象となる消費者イメージ(ターゲット)を設定し、そのライフスタイルやファッションの特性を分析する。そしてその分析をもとにした商品(製品)や売り場(品揃え)に落とし込んだ企画書を作成し提案する手法と技術を理解し学ぶ。 ファッション業界において消費者向けの的確に訴求できる商品を企画、販売する基本となる「ファッションマーチャライジング」の一連の過程を修得することを目的とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | <p>「知識・理解」身近な生活におけるデザインの役割に関する幅広い知識を身につけている。</p> <p>「汎用的技能」①からだを取り巻く衣服のデザイン事例について情報収集し、特徴やイメージを読み取り、分析することができる。②ファッションを専門の言葉で表現し、コミュニケーションする能力をもつ。</p> <p>「態度・志向性」ユーザー、生活者である女性として、地域に根差した生活文化の形成、新たなデザインやライフスタイル提案により、社会貢献にできる。</p> | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ファッション企画「マーチャライジング」とは ファッション企画「マーチャライジング」の具体的な手法や活用法の解説。 2. ファッション企画Ⅰ ターゲットの設定 「マーチャライジング」の対象となる消費者イメージの設定をする 3. ファッション企画Ⅱ ライフスタイル分析1 ターゲットの生活スタイルを言葉(マインドマップ使用)で分析する 4. ファッション企画Ⅲ ライフスタイル分析2 ターゲットのライフスタイルイメージを雑誌(切り取る)で分析する 5. ファッション企画Ⅳ スタイリング分析 生活シーン別に洋服の着こなしの特徴を雑誌(切り取る)で分析する 6. ファッション企画Ⅴ 商品イメージの分析 スタイリング分析をもとに具体的に企画したい商品の特徴を分析する 7. ファッション企画Ⅵ ターゲットイメージマップ PCを使ってターゲットの設定マップを作成する 8. ファッション企画Ⅶ ライフスタイル分析マップ PCを使ってライフスタイル(言葉)分析マップを作成する 9. ファッション企画Ⅷ ライフスタイルイメージマップ PCを使ってライフスタイル(写真)分析マップを作成する 10. ファッション企画Ⅸ スタイリングイメージマップ PCを使ってスタイリングのイメージマップを作成する 11. ファッション企画Ⅹ 5 2週のマーチャライジング 5 2周(1年間)のライフスタイルとファッションの特性を分析する 12. ファッション企画Ⅺ コンセプトマップ ⅠからⅩの内容をもとにファッション企画のコンセプトをまとめる 13. ファッション企画Ⅻ 商品企画マップ 展開したい商品または売り場イメージをマップに作成をする 14. ファッション企画まとめ これまでに作成した企画書を確認しプレゼンテーションの準備をする 15. プレゼンテーション プレゼンテーションと講評 各自、作成した商品企画書(マップ)を使ってプレゼンテーションする(成果物提出) | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 各自が設定したターゲットについて、生活特性やファッションの特性知るための情報収集をする。 具体的には、インターネットや書店の雑誌などで情報を集める(2~3時間) | | | | | | |
| 授業方法 | ファッション商品企画マップを各自作成する。 各自の進行状況に合わせて個別指導する。 ※PCを使用、基本的な操作法は授業内で解説する。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 課題を進める技能(30%)及び成果物(70%)で評価する。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | <ol style="list-style-type: none"> ①5回を超える欠席すると受講資格失う。 ②遅刻、早引きは欠席扱いとする。 ③課題を提出する。 ④ファッション雑誌やカタログを2~3冊用意する。 | | | | | | |

| | |
|--------|--------------------|
| 履修上の注意 | |
| 教科書 | 教員のオリジナルテキスト及び教材使用 |
| 参考書 | 織研新聞、ファッション雑誌 |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ファッション構想実習A/ファッション構想実習 | | | | | | |
| 担当教員 | 井上 裕之 | | | | | 科目ナンバ- | F7117A |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 水曜4~5 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | ファッションデザインに必要なリサーチ、デザイン画作成の手法を学ぶ | | | | | | |
| 授業の概要 | 本科目ではA・Bを通して、ファッションデザインにおけるデザイン構想の方法からその表現方法までを実習形式で修得していく。Aでは、インスピレーションを探す所から開始し、インスピレーションを具体化するために必要なリサーチ、リサーチブック作成をおこない、デザイン画として表現する。その中で、アイデアをファッションデザインとして表現するために必要となる形態、素材、色彩に関する知識や、それをデザイン画として表現する技術を養っていく。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1)多様な視点からファッションデザインのインスピレーションを収集できる。(汎用的技能) (2)収集したインスピレーションについてリサーチし、リサーチブックとしてまとめることができる。(知識・理解) (3)アイデアをファッション画として表現できる。(汎用的技能) | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション ファッションをデザインすること 2. ファッションデザインの手順 3. デザイン画の基礎① 人体の描き方 4. デザイン画の基礎② 衣服の描き方 5. ファッションデザインリサーチ 目的、手順、手法 6. 線によるデザイン① テーマ設定、リサーチ 7. 線によるデザイン② リサーチブックの作成 8. 線によるデザイン③ デザイン画作成 9. 自然からのデザイン① テーマ設定、リサーチ、リサーチブック作成 10. 自然からのデザイン② デザイン画作成 11. テクスチャーのデザイン① テーマ設定、リサーチ、リサーチブック作成 12. テクスチャーのデザイン② デザイン画作成 13. オリジナルデザイン① テーマ設定、リサーチ 14. オリジナルデザイン② リサーチブック作成 15. オリジナルデザイン③ デザイン画作成 | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 身の周りのものをよく観察し、ファッションデザインのインスピレーションとして捉えるよう努める。 | | | | | | |
| 授業方法 | 実習 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 作品提出(最終課題50%、その他50%) 制作した作品についての発表を評価する。到達目標(1)、(2)、(3)に関する到達度の確認。 ・課題に対するフィードバックの方法 各テーマ毎にリサーチが終了した段階でリサーチブックを確認し、方向性についてディスカッションをおこなう。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 材料費等は自己負担とする。(クロッキー帳、鉛筆は必ず準備する。詳細は初回に説明。) | | | | | | |
| 教科書 | 必要に応じて資料を配布 | | | | | | |
| 参考書 | なし | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ファッション構想実習A/ファッション構想実習 | | | | | | |
| 担当教員 | 井上 裕之 | | | | | 科目ナンバ- | F7117A |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 金曜4~5 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | ファッションデザインに必要なリサーチ、デザイン画作成の手法を学ぶ | | | | | | |
| 授業の概要 | 本科目ではA・Bを通して、ファッションデザインにおけるデザイン構想の方法からその表現方法までを実習形式で修得していく。Aでは、インスピレーションを探す所から開始し、インスピレーションを具体化するために必要なリサーチ、リサーチブック作成をおこない、デザイン画として表現する。その中で、アイデアをファッションデザインとして表現するために必要となる形態、素材、色彩に関する知識や、それをデザイン画として表現する技術を養っていく。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1)多様な視点からファッションデザインのインスピレーションを収集できる。(汎用的技能) (2)収集したインスピレーションについてリサーチし、リサーチブックとしてまとめることができる。(知識・理解) (3)アイデアをファッション画として表現できる。(汎用的技能) | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション ファッションをデザインすること 2. ファッションデザインの手順 3. デザイン画の基礎① 人体の描き方 4. デザイン画の基礎② 衣服の描き方 5. ファッションデザインリサーチ 目的、手順、手法 6. 線によるデザイン① テーマ設定、リサーチ 7. 線によるデザイン② リサーチブックの作成 8. 線によるデザイン③ デザイン画作成 9. 自然からのデザイン① テーマ設定、リサーチ、リサーチブック作成 10. 自然からのデザイン② デザイン画作成 11. テクスチャーのデザイン① テーマ設定、リサーチ、リサーチブック作成 12. テクスチャーのデザイン② デザイン画作成 13. オリジナルデザイン① テーマ設定、リサーチ 14. オリジナルデザイン② リサーチブック作成 15. オリジナルデザイン③ デザイン画作成 | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 身の周りのものをよく観察し、ファッションデザインのインスピレーションとして捉えるよう努める。 | | | | | | |
| 授業方法 | 実習 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | <p>作品提出(最終課題50%、その他50%) 制作した作品についての発表を評価する。到達目標(1)、(2)、(3)に関する到達度の確認。 ・課題に対するフィードバックの方法 各テーマ毎にリサーチが終了した段階でリサーチブックを確認し、方向性についてディスカッションをおこなう。</p> | | | | | | |
| 履修上の注意 | 材料費等は自己負担とする。(クロッキー帳、鉛筆は必ず準備する。詳細は初回に説明。) | | | | | | |
| 教科書 | 必要に応じて資料を配布 | | | | | | |
| 参考書 | なし | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ファッション構想実習B/デザイン基礎実習F | | | | | | |
| 担当教員 | 井上 裕之 | | | | | 科目ナンバー | F7117B |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 水曜4~5 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | 人体と素材の関係を理解し、立体的なファッションデザインとして表現する手法を学ぶ。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 本科目では、形態と素材という点に着目し立体での表現をおこなうことで、ファッション構想実習Aとは違った視点からの構想方法を学ぶ。具体的にはAで修得したリサーチ、リサーチブック作成の手法を用い、衣服デザインとしてデザインを考案し、1/2ボディ等を用いた制作までをおこなう。ファッションデザインにおける様々な素材や形態に関する知識を習得し、ファッションを、身体を中心とした空間デザインとして表現する自由な発想を学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1)ファッションデザインにおける素材と形態の関係性が理解できる。(知識・理解) (2)与えられる課題に対して、適切なリサーチ、リサーチブック作成を経てデザインを考案できる。(汎用的技能) (3)考案したデザインを、立体物として制作できる。(汎用的技能) | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 布と人体① ダーツの役割：人体に布を沿わす 3. 布と人体② 様々なボリュームで人体を包む 4. 分割線のデザイン① 人体と分割線 5. 分割線のデザイン② 分割線のデザインと平面化 6. 図形によるデザイン① 人体と平面図形 7. 図形によるデザイン② リサーチブック作成、デザイン考案 8. 図形によるデザイン③ 1/2サイズで作品制作 9. 異素材のデザイン① ファッションデザインにおける異素材 10. 異素材のデザイン② プチプチ衣服制作 11. オリジナルデザイン① テーマ設定、リサーチブック作成 12. オリジナルデザイン② デザイン考案、作品制作 13. オリジナルデザイン③ 作品制作 14. オリジナルデザイン④ 作品制作、写真撮影計画 15. オリジナルデザイン⑤ 写真撮影 | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 身の周りにあるものをよく観察し、ファッションデザインのインスピレーションとして捉えるよう努める。 | | | | | | |
| 授業方法 | 実習 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | <p>作品提出(最終作品50%、その他50%) 授業内で制作する課題について総合的に評価する。到達目標(1)、(2)、(3)に関する到達度の確認。 ・課題に対するフィードバックの方法 各テーマ毎にリサーチが終了した段階でリサーチブックを確認し、方向性についてディスカッションをおこなう。</p> | | | | | | |
| 履修上の注意 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習のため、欠席・遅刻に気をつける。 2. 材料費等は自己負担とする。 | | | | | | |
| 教科書 | 必要に応じて資料を配布 | | | | | | |
| 参考書 | なし | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ファッション構想実習B/デザイン基礎実習F | | | | | | |
| 担当教員 | 井上 裕之 | | | | | 科目ナンバ- | F7117B |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 金曜4~5 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | 人体と素材の関係を理解し、立体的なファッションデザインとして表現する手法を学ぶ。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 本科目では、形態と素材という点に着目し立体での表現をおこなうことで、ファッション構想実習Aとは違った視点からの構想方法を学ぶ。具体的にはAで修得したリサーチ、リサーチブック作成の手法を用い、衣服デザインとしてデザインを考案し、1/2ボディ等を用いた制作までをおこなう。ファッションデザインにおける様々な素材や形態に関する知識を習得し、ファッションを、身体を中心とした空間デザインとして表現する自由な発想を学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1)ファッションデザインにおける素材と形態の関係性が理解できる。(知識・理解) (2)与えられる課題に対して、適切なリサーチ、リサーチブック作成を経てデザインを考案できる。(汎用的技能) (3)考案したデザインを、立体物として制作できる。(汎用的技能) | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 布と人体① ダーツの役割：人体に布を沿わす 3. 布と人体② 様々なボリュームで人体を包む 4. 分割線のデザイン① 人体と分割線 5. 分割線のデザイン② 分割線のデザインと平面化 6. 図形によるデザイン① 人体と平面図形 7. 図形によるデザイン② リサーチブック作成、デザイン考案 8. 図形によるデザイン③ 1/2サイズで作品制作 9. 異素材のデザイン① ファッションデザインにおける異素材 10. 異素材のデザイン② プチプチ衣服制作 11. オリジナルデザイン① テーマ設定、リサーチブック作成 12. オリジナルデザイン② デザイン考案、作品制作 13. オリジナルデザイン③ 作品制作 14. オリジナルデザイン④ 作品制作、写真撮影計画 15. オリジナルデザイン⑤ 写真撮影 | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 身の周りにあるものをよく観察し、ファッションデザインのインスピレーションとして捉えるよう努める。 | | | | | | |
| 授業方法 | 実習 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 作品提出(最終作品50%、その他50%) 授業内で制作する課題について総合的に評価する。到達目標(1)、(2)、(3)に関する到達度の確認。 ・課題に対するフィードバックの方法 各テーマ毎にリサーチが終了した段階でリサーチブックを確認し、方向性についてディスカッションをおこなう。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習のため、欠席・遅刻に気をつける。 2. 材料費等は自己負担とする。 | | | | | | |
| 教科書 | 必要に応じて資料を配布 | | | | | | |
| 参考書 | なし | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ファッション史 | | | | | | |
| 担当教員 | 井上 裕之 | | | | | 科目ナンバ- | F11060 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 火曜3 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 古代から現在にいたるまでの服装の流れを社会的・心理的な面も踏まえながら学ぶ。 | | | | | | |
| 授業の概要 | ファッション史では、これまで孤立して捉えられてきた服飾の歴史を、美術や芸術、デザインなどの他分野、その時代の社会との関係性の中で学んでいく。また服飾の歴史は現在のファッションデザイナーにとっても重要なインスピレーション源となっており、それらがデザインとしてどのように表現されているのか事例を紹介し、過去と現在を繋げて考えていく。特に、現代衣服の基礎が確立した20世紀前半のモードに焦点をあて、服飾の歴史の流れ、変遷要因、美意識について読み解く。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1)各時代、地域における服装の変遷と生活文化の関わりを理解し、自分の言葉で文章にまとめることができる。【知識・理解】 (2)各時代、地域における服装について、その特徴を理解し、当時の流行を分析することができる。【汎用的技術】 (3)各時代・地域における服装を、デザイン等に活かせるインスピレーション源として捉えることができる。【態度・志向性】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、人はなぜ服を着るのか：15回の授業について。人はなぜ服を着るのか考える。 2. 古代・中世の服飾：壁画、彫刻、挿絵を手がかりに古代・中世の服飾形態を読み取る。 3. 16世紀から18世紀の服飾：絵画などを用い、16世紀から18世紀の衣服形態と装飾にふれる。同時に各世紀におけるバロックやロココなどの美意識について。 4. 19世紀の服飾：ペチコートで膨らませた、クリノリン・スタイル、バスル・スタイルへと形態変化していく女性の服飾について。また、改良服への取り組み、アール・ヌーヴォー等の芸術運動との関係性を知る。 5. 20世紀前半の服飾①：ファッション分野におけるコルセットをつけない衣服の取り組みについて。ポール・ポワレ、マリアノ・フォルチュニー、マドレーヌ・ヴィオネをはじめとする新たな衣服デザインについて。 6. 20世紀前半の服飾②：ガブリエル・シャネルを中心に、女性の社会進出と現代服、世界大戦とファッションについて。 7. 1950年代：クリスチャン・ディオールを中心に、戦後の新しい衣服デザイン、オートクチュール黄金期について。 8. 1960・70年代①：プレタポルテの台頭について、イヴ・サンローランやKENZOなどを例に見ていく。また、アメリカを中心としたポップ・アートとの関係について。 9. 1960・70年代②：ロンドンでのストリートファッションの隆盛について、マリー・クワントやヴィヴィアン・ウエストウッドを例に見ていく。 10. 1980年代①：1980年代における三宅一生、山本耀司、川久保玲をはじめとする日本人デザイナーによる新しい価値観とパリ・モードについて。 11. 1980年代②：日本人デザイナーにより提案された新たな価値観を、映像資料をもとに読み解く。 12. 1990年代①：ベルギー出身のデザイナー、マルタン・マルジェラ、アントワープ6を中心に、各国のモード学校の活動について。 13. 1990年代②：90年代以降顕著となる、アートとファッションの関係性について読み取る。 14. 2000年代：東京コレクションを中心に、他国からも注目を集める日本の様々なスタイルの独自性について考え、自分たちの身近に存在するファッションに目を向けてみる。 15. これからのファッション：エコ、ユニバーサルファッション、毛皮の問題など、現在ファッションが取り組むことを求められる問題について考える。 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前事前学習：授業計画を参考に、キーワード、デザイナー名などについて調べる。〈学習時間2時間〉 授業後学習：授業で学んだ内容について、時代背景を踏まえながら、要点をまとめる。〈学習時間2時間〉 | | | | | | |
| 授業方法 | 講義 授業の要所では、テーマについてグループで調査し、プレゼンテーションをおこなう。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | ①レポート(70%)、②小レポート(30%) ①到達目標(1)、(3)に関する到達度の確認。 ②到達目標(2)に関する到達度の確認。 小レポートに書かれた疑問点等については、次の授業で解説をおこない、フィードバックをおこなう。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 提出物の締め切りは、厳守すること。 | | | | | | |
| 教科書 | 毎回資料を配布する。 | | | | | | |

| | |
|-----|---|
| 参考書 | 深井晃子著 『ファッションの世紀 共振する20世紀のファッションとアート』 平凡社 ISBN:978-4582620344 深井晃子編著 『世界服飾史』 美術出版社 ISBN:978-4568400779 |
|-----|---|

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ファッション心理学／デザイン心理学 | | | | | | |
| 担当教員 | 高田 敏代 | | | | | 科目ナンバー | F13100 |
| 学期 | 前期／1st semester | 曜日・時限 | 月曜4 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | ファッションと心理（コミュニケーション・伝達）の関連性について学ぶ | | | | | | |
| 授業の概要 | ファッションは、時代を映し出す社会の鏡であり、その時代を生きる人々の心を映し出す鏡である。この授業では、社会を映し出すファッションと個人の心理を映し出すファッションについて学ぶ。日常生活の中にある具体的な事例の解説をもとに、ファッションと社会の心理、ファッションと人間の心理についての理解を深める。 | | | | | | |
| 到達目標 | 「社会とファッション」、「人間とファッション」の心理的な関わりについての知識を身につけ、理解したことを日常生活やデザイン活動に応用できる。（知識・理解）（汎用的技能） | | | | | | |
| 授業計画 | 1回 授業の概要と進め方、評価の方法について説明する。 教科書第1章「ファッションて何」日本の歴史とファッション心理の関わりを解説 2回 教科書第2章「滑らかなコミュニケーションのために」対話する服についての解説 3回 教科書第3章「成功に導くファッション」生活とファッション心理についての解説 4回 教科書第4章「五感とプラスワンを駆使する」五感を駆使した情報伝達とファッションの解説 5回 教科書第5章「美人を諦めていませんか」社会背景ごとによって美人の定義が違ふことの解説 6回 教科書第6章「着る勉強をしてみましたか」ファッションでわかる人間の心理についての解説 7回 教科書第7章「色で変わるコミュニケーション」パーソナルカラーとマインドカラーについての解説 8回 教科書第8章「人は見た目が9割」コンプレックスとファッションコーディネーションについての解説 9回 教科書第9章「ミニマルに生きると全てが身軽になる」身の回り品の断捨離心の断捨離についての解説 10回 教科書第10章「ファッションコミュニケーション」ファッションとコミュニケーションについての解説 11回 色彩と心理 色彩の基本から色彩心理を解説 日常生活の中の色彩心理効果を応用した事例あげて解説 12回 デザインと心理 錯視デザインとは 錯視がファッションに応用されている事例の解説 13回 ブランドと心理 ブランドとは何か 有名ブランドビジネスと心理戦略についての解説 14回 ファッション心理応用 学んできたことを応用したデザインや事例を探しレポートにまとめる 15回 各自の研究レポートの発表会と講評 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | ファッション心理学の授業内で学んだことをもとにした課題（レポート）の作成（4時間程度） 具体的には、テキストの項目の中で関心をもったテーマについて、日常生活の中にある具体的な事例の解説しレポートにまとめる。 | | | | | | |
| 授業方法 | 毎回授業の前半は、教科書及びオリジナルテキストを使用しファッション心理について学ぶ 授業後半は、A4サイズのスケッチブックを使用し前半の講義内容に関連する課題に取り組む グループに分かれて取り組む課題についてのディスカッション それぞれが取り組んだ成果物のプレゼンテーションなどにも取り組む。 教科書とオリジナルテキスト、A4サイズのスケッチブック、色鉛筆やカラーペンを使用する | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 課題（スケッチブック）50%、提出レポート50%で評価する | | | | | | |
| 履修上の注意 | 授業と通して知り得た個人情報について授業外で他者に他言してはいけません。 ①5回超える欠席で受講資格失う。 ②遅刻や早引きは欠席扱いとする。 ③指定する課題やレポートを必ず提出する。 ④1日目から教科書とスケッチブック、色鉛筆またはカラーペンを用意する。 色彩学などで使用した配色カード（持っていない学生は無くても良い） | | | | | | |
| 教科書 | 「ファッションコミュニケーション」第1版 高田敏代著（講師の著書） 東方出版 2016年8月25日 ISBN978-4-86249-267-8 オリジナルテキスト | | | | | | |
| 参考書 | 授業を進める中で紹介する | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ファッションデザイン概論/デザイン概論F | | | | | | |
| 担当教員 | 井上 裕之 | | | | | 科目ナンバ- | F01050 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 木曜1 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 形・色・素材などの組み合わせによる、ファッションデザインの基礎を学ぶ。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 他のデザイン分野とは異なる独自性をもって発展してきたファッションデザインの近代以降の歴史的意义を振り返り、現代ファッションの範囲、他分野への拡がりや融合について理解する。また、新しさへの欲求、国境を越えた流行、スタイルと風俗などのファッションの性質、および生活文化としてのファッションを踏まえ、ファッションデザインの意味、形態、色彩、質感と美的性質、発想と表現、ファッション産業の仕組みなどについての基礎的知識を習得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1) ファッションデザインを分析することができる【汎用的技能】 2) デザイン美を列挙することができる【知識・理解】 3) フォーム、カラー、素材の専門用語が説明できる【知識・理解】 4) ファッションイメージを説明することができる【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | 1. オリエンテーション(課題テーマ、方針・進め方の説明) 服飾デザイン: ファッションとは何か 2. ファッションデザインと形態(形態の基礎理論) 3. ファッションデザインと造形要素①: 点・線・形など 4. ファッションデザインと造形要素②: 面と立体など 5. カラー①: 色彩の基礎 6. カラー②: イメージによる色の表現 7. カラー③: 配色とカラーバランス 8. 【学外研修】特別展の見学(神戸ファッション美術館内) 土曜の補講日に振替 9. デザイン美①: 秩序の理論(統一と変化)、アクセントとポイント、ハーモニーとコントラスト、バランスとシンメトリー、リズムとプロポーションなど 10. デザイン美②: ファッションの美的統一とは(プロポーション) 11. マテリアル①: 材質の表情、材質とデザイン 12. マテリアル②: イメージによる素材の表現 13. フォーム①: ディテールとバリエーション 14. フォーム②: イメージによる形態の表現 15. 体型とファッションイメージの関係性、試験 | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 授業前準備学習: 授業内で説明する。<2時間> 授業後学習: 学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。 授業中できなかった課題は次回までに完成させて提出する。<2時間> | | | | | | |
| 授業方法 | 講義: ①松蔭manabaに添付している資料を基に講義する。 ②各回授業のテーマに課題に沿った練習問題を行う。 ③テーマの導入を図る練習問題について、グループまたはペアによるディスカッションを行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 試験50%: ファッションデザインの理解度を評価する。到達目標(1)および(4)に関する到達度の確認。 提出物50%: 各回設定のテーマの課題を評価する。到達目標(1)および(4)に関する到達度の確認。 課題(練習問題)に対するフィードバックの方法: 採点して返却する。あるいは、授業中に解説や回答を説明する。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | ①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②遅刻は、欠席扱いとする。 ③毎時間、ネットを使って課題をするため、パソコンを持参する。 ④指定する課題を締切までに必ず提出する。 ⑤神戸ファッション美術館への交通費および入館料は自己負担。 | | | | | | |
| 教科書 | 『新配色カード199b』(日本色研事業株式会社)(ISBNなし) 資料を配布する。 尚、『新配色カード199b』は、授業科目「カラーデザイン論」「ライフカラーコーディネート演習」に使用する | | | | | | |
| 参考書 | なし | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ファッションデザイン実習I/デザイン実習IF | | | | | | |
| 担当教員 | 井上 裕之 | | | | | 科目ナンバ- | F72230 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 金曜1~2 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | 衣服構成の理解、制作技法の習得 | | | | | | |
| 授業の概要 | ファッションデザイン実習I・II・IIIでは、テーマ設定、デザイン、設計、製図、縫製というファッションデザインの一連のプロセスを習得することを目的とする。ファッションデザイン実習Iでは、まず衣服制作に必要な用具の名称や使用方法、素材の扱い方、アイロンやミシンの使い方などの基礎知識を学ぶ。並行して平面製図法でタイトスカートの製図、トワルでの縫製をおこなう。その後各自でデザインしたスカートの製図、縫製をおこなう。それにより衣服制作における基本的な技法を習得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1)衣服制作に必要な用具の名称を理解し、それらを正しく使うことができる。【知識・理解】 (2)衣服制作における一連の工程を理解し、タイトスカートとデザインしたスカートを設計、制作できる。【汎用的技術】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、スカート原型の理解：授業内容、用具の使い方についての説明。スカート原型の仕組み、扱い方について 2. タイトスカート「製図」：スカート原型を用い、平面製図で前後スカート、ベルトを作図 3. タイトスカート「裁断・印付け・縫製①」：トワルを裁断し、印をつける。トワルで右側のみ、しつけ糸で制作。 4. タイトスカート「縫製②」：ベルトの縫製、コンシールファスナーの部分縫い 5. オリジナルスカート「製図①」：製図方法、順序の確認。 6. オリジナルスカート「製図②」：前後スカートの製図 7. オリジナルスカート「製図③」：装飾、ベルト等製図 8. オリジナルスカート「トワル縫製」：右側のみ、しつけ糸で制作 9. オリジナルスカート「裁断・印付け」：本布裁断、印付け 10. オリジナルスカート「縫製①」：ダーツ、脇線縫製 11. オリジナルスカート「縫製②」：ファスナー、ウエストの縫製 12. オリジナルスカート「縫製③」：装飾等の縫製 13. オリジナルスカート「縫製④」：裾上げ 14. オリジナルスカート「縫製⑤」：仕上げ 15. 写真撮影、作品提出 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前事前学習：授業計画を参考に、用語や必要となる技法について調べる。 授業後学習：各回でおこなう課題制作について復習をおこなう。また授業内で遅れが出た場合は、次の授業までに進めておく。 | | | | | | |
| 授業方法 | 実習 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 作品提出（セミタイトスカート10%、部分縫い20%、オリジナルスカート70%） 授業内において制作する課題について総合的に評価する。到達目標(1)、(2)に関する到達度の確認。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 材料費(布、副資材、ファイル等)は自己負担とする。 卒業研究で衣服制作を希望する学生は、履修することが望ましい。 | | | | | | |
| 教科書 | 『誌上・パターン塾 vol.2スカート編』文化出版局 ISBN:978-4-579-07345-0 | | | | | | |
| 参考書 | なし | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ファッションデザイン実習I/デザイン実習IF | | | | | | |
| 担当教員 | 藤井 裕貴子 | | | | | 科目ナンバ- | F72230 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 木曜4~5 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | 衣服構成の理解、制作技法の習得 | | | | | | |
| 授業の概要 | ファッションデザイン実習I・II・IIIでは、テーマ設定、デザイン、設計、製図、縫製というファッションデザインの一連のプロセスを習得することを目的とする。 ファッションデザイン実習Iでは、まず衣服制作に必要な用具の名称や使用方法、素材の扱い方、アイロンやミシンの使い方などの基礎知識を学ぶ。並行して平面製図法でタイトスカートの製図、トワルでの縫製をおこなう。その後各自でデザインしたスカートの製図、縫製をおこなう。それにより衣服制作における基本的な技法を習得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1)衣服製作に必要な用具の名称を理解し、それらを正しく使うことができる。【知識・理解】 (2)衣服制作における一連の工程を理解し、タイトスカートとデザインしたスカートを設計、制作できる。【汎用的技術】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、スカート原型の理解：授業内容、用具の使い方、スカート原型の仕組み、扱い方について 2. タイトスカート「製図」：スカート原型を用い、平面製図で前後スカート、ベルトを作図 3. タイトスカート「裁断・印付け・縫製①」：トワルの裁断、印付け。トワルで右側のみ、しつけ糸で制作。 4. タイトスカート「縫製②」：ベルトの縫製、コンシールファスナーの部分縫い 5. オリジナルスカート「製図①」：製図方法、順序の確認。 6. オリジナルスカート「製図②」：前後スカートの製図 7. オリジナルスカート「製図③」：装飾、ベルト等製図 8. オリジナルスカート「トワル縫製」：右側のみ、しつけ糸で制作 9. オリジナルスカート「裁断・印付け」：本布裁断、印付け 10. オリジナルスカート「縫製①」：ダーツ、脇線縫製 11. オリジナルスカート「縫製②」：ファスナー、ウエストの縫製 12. オリジナルスカート「縫製③」：装飾等の縫製 13. オリジナルスカート「縫製④」：裾上げ 14. オリジナルスカート「縫製⑤」：仕上げ 15. 写真撮影、作品提出 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前事前学習：授業計画を参考に、用語や必要となる技法について調べる。 授業後学習：各回でおこなう課題制作について復習をおこなう。また授業内で遅れが出た場合は、次の授業までに進めておく。 | | | | | | |
| 授業方法 | 実習 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 作品提出（セミタイトスカート10%、部分縫い20%、オリジナルスカート70%） 授業内において制作する課題について総合的に評価する。到達目標(1)、(2)に関する到達度の確認。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 材料費(布、副資材、ファイル等)は自己負担とする。 卒業研究で衣服制作を希望する学生は、履修することが望ましい。 | | | | | | |
| 教科書 | 『誌上・パターン塾 vol.2スカート編』文化出版局 ISBN:978-4-579-07345-0 | | | | | | |
| 参考書 | なし | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ファッションデザイン実習I/デザイン実習IF | | | | | | |
| 担当教員 | 藤井 裕貴子 | | | | | 科目ナンバ- | F72230 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 金曜4~5 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | 衣服構成の理解、制作技法の習得 | | | | | | |
| 授業の概要 | ファッションデザイン実習I・II・IIIでは、テーマ設定、デザイン、設計、製図、縫製というファッションデザインの一連のプロセスを習得することを目的とする。 ファッションデザイン実習Iでは、まず衣服制作に必要な用具の名称や使用方法、素材の扱い方、アイロンやミシンの使い方などの基礎知識を学ぶ。並行して平面製図法でタイトスカートの製図、トワルでの縫製をおこなう。その後各自でデザインしたスカートの製図、縫製をおこなう。それにより衣服制作における基本的な技法を習得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1)衣服製作に必要な用具の名称を理解し、それらを正しく使うことができる。【知識・理解】 (2)衣服制作における一連の工程を理解し、タイトスカートとデザインしたスカートを設計、制作できる。【汎用的技術】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、スカート原型の理解：授業内容、用具の使い方、スカート原型の仕組み、扱い方について 2. タイトスカート「製図」：スカート原型を用い、平面製図で前後スカート、ベルトを作図 3. タイトスカート「裁断・印付け・縫製①」：トワルの裁断、印付け。トワルで右側のみ、しつけ糸で制作。 4. タイトスカート「縫製②」：ベルトの縫製、コンシールファスナーの部分縫い 5. オリジナルスカート「製図①」：製図方法、順序の確認。 6. オリジナルスカート「製図②」：前後スカートの製図 7. オリジナルスカート「製図③」：装飾、ベルト等製図 8. オリジナルスカート「トワル縫製」：右側のみ、しつけ糸で制作 9. オリジナルスカート「裁断・印付け」：本布裁断、印付け 10. オリジナルスカート「縫製①」：ダーツ、脇線縫製 11. オリジナルスカート「縫製②」：ファスナー、ウエストの縫製 12. オリジナルスカート「縫製③」：装飾等の縫製 13. オリジナルスカート「縫製④」：裾上げ 14. オリジナルスカート「縫製⑤」：仕上げ 15. 写真撮影、作品提出 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前事前学習：授業計画を参考に、用語や必要となる技法について調べる。 授業後学習：各回でおこなう課題制作について復習をおこなう。また授業内で遅れが出た場合は、次の授業までに進めておく。 | | | | | | |
| 授業方法 | 実習 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 作品提出（セミタイトスカート10%、部分縫い20%、オリジナルスカート70%） 授業内において制作する課題について総合的に評価する。到達目標(1)、(2)に関する到達度の確認。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 材料費(布、副資材、ファイル等)は自己負担とする。 卒業研究で衣服制作を希望する学生は、履修することが望ましい。 | | | | | | |
| 教科書 | 『誌上・パターン塾 vol.2スカート編』文化出版局 ISBN:978-4-579-07345-0 | | | | | | |
| 参考書 | なし | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ファッションデザイン実習II/デザイン実習IIF | | | | | | |
| 担当教員 | 井上 裕之 | | | | | 科目ナンバ- | F72240 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 金曜1~2 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | 衣服構成の理解、制作技法の習得 | | | | | | |
| 授業の概要 | ファッションデザイン実習IIでは、実習Iでの学びを発展させ、平面製図を用いたワンピースの製図法と縫製方法について学ぶ。 パターンメイキングの基礎とデザインに応じたパターンの展開法を学び、ファッションデザイン実習IIIで学ぶ内容に繋げる。 設定されたテーマに応じ、各自でデザインをおこない、裏地無しのオリジナルデザインのワンピースの制作をおこなう。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1) デザインに応じたワンピースの設計、パターン作成、裁断、縫製、仕上げの一連の工程を理解し、制作できる。【汎用的技術】 (2) 制作したワンピースのコンセプト、デザインについて、写真、文章を用いて説明できる。【知識・理解】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、上半身原型の理解、ワンピースのデザインについて：スカート原型の仕組み、扱い方について。ワンピースデザインのテーマ設定、コレクションでのデザインの傾向など 2. 「デザイン」：ワンピースのデザイン決定。 3. 「製図①」：製図方法、製図順序の確認。 4. 「製図②」：身頃の製図。 5. 「製図③」：付属物等の製図、製図仕上げ。 6. 「トワル①」：右側のみ制作。トワルの裁断、印つけ。 7. 「トワル②」：トワル縫製。 8. 「トワル③」：トワル縫製仕上げ。試着。 9. 「裁断、印つけ」：本布の裁断、印つけ。 10. 「縫製①」：本布、前後身頃縫製。 11. 「縫製②」：本布、ファスナーの縫製。 12. 「縫製③」：本布、装飾等の縫製。 13. 「縫製④」：本布、袖、襟等付属物の縫製 14. 「縫製⑤」：本布、裾上げ。仕上げ。 15. 写真撮影、提出シート作成、作品提出 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 各回でおこなう課題制作において遅れが出た場合は、次の授業までに進めておく。 | | | | | | |
| 授業方法 | 実習 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 作品提出（ワンピース）80%、提出シート20% 授業内において制作する課題について総合的に評価する。到達目標(1)に関する到達度の確認。 制作した作品について写真、文章での説明を評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 材料費(布、副資材、ファイル等)は自己負担とする。 卒業研究で衣服製作を希望する学生は、履修することが望ましい。 履修者は「ファッションデザイン実習I」の単位取得者に限る。 | | | | | | |
| 教科書 | 文化出版局、「誌上・パターン塾 vol.4ワンピース編」ISBN978-4-579-07348-1 | | | | | | |
| 参考書 | 文化出版局、「誌上・パターン塾 vol.1トップス編」ISBN978-4-579-07342-9 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ファッションデザイン実習II/デザイン実習IIF | | | | | | |
| 担当教員 | 藤井 裕貴子 | | | | | 科目ナンバ- | F72240 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 木曜4~5 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | 衣服構成の理解、制作技法の習得 | | | | | | |
| 授業の概要 | ファッションデザイン実習IIでは、実習Iでの学びを発展させ、平面製図を用いたワンピースの製図法と縫製方法について学ぶ。パターンメイキングの基礎とデザインに応じたパターンの展開法を学び、ファッションデザイン実習IIIで学ぶ内容に繋げる。設定されたテーマに応じ、各自でデザインをおこない、裏地無しオリジナルデザインのワンピースの制作をおこなう。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1) デザインに応じたワンピースの設計、パターン作成、裁断、縫製、仕上げの一連の工程を理解し、制作できる。(汎用的技術) (2) 制作したワンピースのコンセプト、デザインについて、写真、文章を用いて説明できる。(知識・理解) | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、上半身原型の理解、ワンピースのデザインについて：スカート原型の仕組み、扱い方について。ワンピースデザインのテーマ設定、コレクションでのデザインの傾向など 2. 「デザイン」：ワンピースのデザイン決定。 3. 「製図①」：製図方法、製図順序の確認。 4. 「製図②」：身頃の製図。 5. 「製図③」：付属物等の製図、製図仕上げ。 6. 「トワル①」：右側のみ制作。トワルの裁断、印つけ。 7. 「トワル②」：トワル縫製。 8. 「トワル③」：トワル縫製仕上げ。試着。 9. 「裁断、印つけ」：本布の裁断、印つけ。 10. 「縫製①」：本布、前後身頃縫製。 11. 「縫製②」：本布、ファスナーの縫製。 12. 「縫製③」：本布、装飾等の縫製。 13. 「縫製④」：本布、袖、襟等付属物の縫製 14. 「縫製⑤」：本布、裾上げ。仕上げ。 15. 写真撮影、提出シート作成、作品提出 | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 各回でおこなう課題制作において遅れが出た場合は、次の授業までに進めておく。 | | | | | | |
| 授業方法 | 実習 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 作品提出(ワンピース)80%、提出シート20% 授業内において制作する課題について総合的に評価する。到達目標(1)に関する到達度の確認。 制作した作品について写真、文章での説明を評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 材料費(布、副資材、ファイル等)は自己負担とする。 卒業研究で衣服製作を希望する学生は、履修することが望ましい。 受講希望者は「ファッションデザイン実習I」を履修していることが望ましい。 | | | | | | |
| 教科書 | 文化出版局、「誌上・パターン塾 vol.4ワンピース編」ISBN978-4-579-07348-1 | | | | | | |
| 参考書 | 文化出版局、「誌上・パターン塾 vol.1トップス編」ISBN978-4-579-07342-9 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ファッションデザイン実習II/デザイン実習IIF | | | | | | |
| 担当教員 | 藤井 裕貴子 | | | | | 科目ナンバ- | F72240 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 金曜4~5 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | 衣服構成の理解、制作技法の習得 | | | | | | |
| 授業の概要 | ファッションデザイン実習IIでは、実習Iでの学びを発展させ、平面製図を用いたワンピースの製図法と縫製方法について学ぶ。パターンメイキングの基礎とデザインに応じたパターンの展開法を学び、ファッションデザイン実習IIIで学ぶ内容に繋げる。設定されたテーマに応じ、各自でデザインをおこない、裏地無しオリジナルデザインのワンピースの制作をおこなう。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1) デザインに応じたワンピースの設計、パターン作成、裁断、縫製、仕上げの一連の工程を理解し、制作できる。(汎用的技術) (2) 制作したワンピースのコンセプト、デザインについて、写真、文章を用いて説明できる。(知識・理解) | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、上半身原型の理解、ワンピースのデザインについて：スカート原型の仕組み、扱い方について。ワンピースデザインのテーマ設定、コレクションでのデザインの傾向など 2. 「デザイン」：ワンピースのデザイン決定。 3. 「製図①」：製図方法、製図順序の確認。 4. 「製図②」：身頃の製図。 5. 「製図③」：付属物等の製図、製図仕上げ。 6. 「トワル①」：右側のみ制作。トワルの裁断、印つけ。 7. 「トワル②」：トワル縫製。 8. 「トワル③」：トワル縫製仕上げ。試着。 9. 「裁断、印つけ」：本布の裁断、印つけ。 10. 「縫製①」：本布、前後身頃縫製。 11. 「縫製②」：本布、ファスナーの縫製。 12. 「縫製③」：本布、装飾等の縫製。 13. 「縫製④」：本布、袖、襟等付属物の縫製 14. 「縫製⑤」：本布、裾上げ。仕上げ。 15. 写真撮影、提出シート作成、作品提出 | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 各回でおこなう課題制作において遅れが出た場合は、次の授業までに進めておく。 | | | | | | |
| 授業方法 | 実習 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 作品提出(ワンピース)80%、提出シート20% 授業内において制作する課題について総合的に評価する。到達目標(1)に関する到達度の確認。 制作した作品について写真、文章での説明を評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 材料費(布、副資材、ファイル等)は自己負担とする。 卒業研究で衣服製作を希望する学生は、履修することが望ましい。 受講希望者は「ファッションデザイン実習I」を履修していることが望ましい。 | | | | | | |
| 教科書 | 文化出版局、「誌上・パターン塾 vol.4ワンピース編」ISBN978-4-579-07348-1 | | | | | | |
| 参考書 | 文化出版局、「誌上・パターン塾 vol.1トップス編」ISBN978-4-579-07342-9 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-------|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ファッションデザイン実習III/デザイン実習IIIF | | | | | | |
| 担当教員 | 井上 裕之 | | | | | 科目ナンバ- | F73250 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 火曜1~2 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 1.0 |
| 授業のテーマ | デザインから衣服設計、縫製までの衣服制作工程の理解と制作技術の修得 | | | | | | |
| 授業の概要 | ファッションデザイン実習IIIでは、実習I・IIでの学びを発展させ、より高度なパターン制作、縫製の技術を修得する。 デザインコピーでは写真からパターンを読み解く技術を学ぶ。襟付き・袖付きの衣服では、縫製における細かなテクニックを学ぶ。立体裁断は基本的な手法を学ぶことで、これまで平面製図でおこなってきたパターン制作への理解を深める。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1)各テーマで設定するアイテムのパターン構成を理解できる。【知識・理解】 (2)衣服の写真から構成を理解し、パターンにおこなうことができる。【汎用的技術】 (3)立体裁断で指定されたアイテムを制作することができる。【汎用的技術】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. デザインコピー①：スカート、ブラウス 3. デザインコピー②：ワンピース 4. デザインコピー③：パターン制作 5. 縫製①：身頃 6. 縫製②：袖 7. 縫製③：襟 8. 縫製④：仕上げ 9. 立体裁断：スカート 10. 立体裁断⑥：ブラウス(身頃) 11. 立体裁断⑦：ブラウス(袖) 12. 立体裁断⑧：ビスチェ 13. 立体裁断⑨：ワンピース(身頃) 14. 立体裁断⑩：ワンピース(袖) 15. 授業内容まとめ | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 授業前事前学習：授業計画を参考に、用語や必要となる技法について調べる。 授業後学習：各回でおこなう課題制作について復習をおこなう。また授業内で遅れが出た場合は、次の授業までに進めておく。 | | | | | | |
| 授業方法 | 実習 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 作品提出(立体裁断40%、デザインコピー40%、縫製課題20%) 授業内において制作する課題について総合的に評価する。到達目標(1)、(2)、(3)に関する到達度の確認。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | 材料費(布、副資材、ファイル等)は自己負担とする。 卒業研究で衣服制作を希望する学生は、履修することが望ましい。 | | | | | | |
| 教科書 | なし | | | | | | |
| 参考書 | なし | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ファッションビジネス論/ファッションビジネス論I | | | | | | |
| 担当教員 | 石田原 弘 | | | | | 科目ナンバ- | F22030 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 月曜1 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | ファッション産業、アパレル産業の研究 | | | | | | |
| 授業の概要 | アパレル産業を中心とするファッション産業をハウジングやレジャー産業などまで視野に入れた広い意味での生活産業と位置づけ、その現状を、繊維素材、流通販売、企画広告宣伝などの関連業界の動向を含め、広い角度から概観する。 また、ブランド、マーケティング、マーチャンダイジングなどの基本概念から、企画・生産・流通・消費のプロセスまでを理解し、消費生活における流行、ファッション性の意味を位置づける。 本論を理解することにより、財団法人日本ファッション教育振興協会主催の「ファッションビジネス能力検定3級」を受験するための基本的な知識を身につけることができる。 | | | | | | |
| 到達目標 | <p>(1) ファッションという市場を消費者の立場ではなく、生産者・販売者の立場から見ることによりデザインの役割に関する幅広い知識を身につけることができる。【知識・理解】</p> <p>(2) ビジネスを通して、ファッションの空間的な広がりを感じ、分析することができる。【汎用的技能】</p> <p>(3) ファッションビジネス業界で使用される専門用語で表現、コミュニケーションをとることができ、毎年11月ごろに実施されるファッションビジネス検定3級を受験できるだけの知識を得ることができる。【汎用的技能】</p> <p>(4) 地域に根差した生活文化をビジネスとして発信することができる。【態度・志向性】</p> | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ファッションビジネスとは (対面) 2. ファッションビジネスのマーケティング① 「3C4P」 (対面) 3. ファッションビジネスのマーケティング② 「AIDMAの法則」 (遠隔) 4. アパレル産業、繊維産業、ファッション産業の構造① 「繊維とは」「アパレルとは」 (遠隔) 5. アパレル産業、繊維産業、ファッション産業の構造② 「ファッションとは」 (遠隔) 6. アパレル産業の流通 (遠隔) 7. アパレルメーカーの変遷 (遠隔) 8. アパレルメーカーの現状 (遠隔) 9. SPAの特徴と現状 (遠隔) 10. ファストファッションの特徴と現状 (遠隔) 11. ファッション小売産業の変遷と現状 (遠隔) 12. 百貨店の変遷と現状 (遠隔) 13. 消費の価値観① 「マーケットイン、プロダクトアウト」 (遠隔) 14. 消費の価値観② 「トップ オブ ザ ピラミッド」 (対面) 15. 専門店、アウトレットの変遷と現状 (対面) | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | <p>授業前準備学習：シラバスの内容に従ってファッションビジネス能力検定のガイドブック等で下調べをすること。<学習時間：2時間></p> <p>授業後学習：授業後には、学習した内容を実際の市場で検証してみること<学習時間：2時間></p> | | | | | | |
| 授業方法 | <p>主として講義。</p> <p>1回目、2回目、14回目、15回目は本学での対面授業、それ以外は遠隔授業の予定であるが、状況によっては変更の可能性があり、変更のある場合は事前にmanabaで周知する。</p> <p><遠隔指定授業></p> | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | <p>課題レポートの提出(60%)：授業で扱ったマーケティングに関する理解度および、実際のマーケティング調査の内容について評価する。</p> <p>授業内の提出物(40%)：ファッションビジネス能力検定の問題に沿った内容の理解度を評価する。</p> | | | | | | |
| 履修上の注意 | <p>ファッションビジネスは座学ではないので、日々の消費行動において、売り手側の販売促進や販売方法をよく観察することが、本科目の理解を深めることになる。</p> | | | | | | |
| 教科書 | <p>特になし。</p> <p>必要であればプリント配布あるいは、ウェブ上でアクセスできるようにする。</p> | | | | | | |
| 参考書 | <p>「ファッションビジネス能力検定試験3級 項目別試験問題・解答集 改訂版」 一般財団法人日本ファッション教育振興協会 ISBN 4931378331</p> <p>「ファッションビジネス[I] 改訂版」 一般財団法人日本ファッション教育振興協会 ISBN 4931378285</p> | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ファッションプレス演習 | | | | | | |
| 担当教員 | 西川 良子 | | | | | 科目ナンバ- | F23090 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 火曜3 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 「ファッションプレスのための基本的スキルの養成」 | | | | | | |
| 授業の概要 | ファッション企業は様々なメディアを通じてコミュニケーションを行っているがその中心的役割を果たしているのが「プレス」と呼ばれる職種の担当者である。プレス（PR）とは広報・宣伝担当としてブランドや商品のイメージアップや認知拡大を目指す業務であり、この演習ではプレスに必要な様々なコミュニケーション・スキルの中から、取材のためのノウハウから事務処理、基本的なエディトリアル・デザインなどのスキルを習得する。また、グラフィックソフトを利用し、PC上で基本的なレイアウト・デザインの技法を基に、各自がセンスを活かしてブランドイメージを伝えられることを目標とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・「プレス」の位置付け、業務内容について理解できる。【知識・理解】 ・ブランドイメージを伝えるメディア・デザインの必要性と特徴が理解できる。【知識・理解】 ・バランスのとれたページレイアウト、読みやすいタイポグラフィなどのエディトリアル・デザインのルールを踏まえたデザインができる。【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション — 「ファッションプレス」という仕事— 2. ファッションプレスの現場 3. ブランドプロモーションツールの種類（カタログ、DM、ショップカードなど）とデザイン 4. エディトリアル・デザインの基礎 — ページレイアウトとタイポグラフィ— 5. 雑誌スタイルの見開きページレイアウトパターン 6. ブランド取材に必要なスキル1：コンタクト方法、取材内容 7. ブランド取材に必要なスキル2：写真撮影、記録とフィードバック 8. ファッションイベントの取材 9. 取材内容の編集 10. エディトリアル・デザインとレイアウト 11. コレクション・レビューページのデザイン 12. 個人別テーマ設定とメディア企画 13. ブランドプロモーションツール制作 (1) 対象ブランド選択・情報収集 14. " (2) リーフレット構成プラン 15. " (3) レイアウト詳細デザイン <p style="text-align: right;">ゲストスピーカー来学：第2講</p> | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | <p>ファッション雑誌、カタログなどの媒体における魅力的なブランドイメージのデザインを収集し、特徴や傾向を分析する。1時間程度。</p> <p>SNSを通じたブランド発信情報を収集し、内容について分析する。1時間程度。</p> <p>新聞やTVなどにおけるファッション関連の報道を普段から注意深く観察する。1時間程度。</p> <p>上記報道内容のテキストを参考にして文章作成の練習をおこなう。1時間程度。</p> | | | | | | |
| 授業方法 | 演習・調査・実技 個人または少人数で企業を取材する。PCとグラフィックソフトを活用しエディトリアル・デザインの実例として、プロモーションツールやパンフレット制作を行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 平常点（段階的なスキル習得には毎回の課題提出が必要）30%、成果物70% | | | | | | |
| 履修上の注意 | 学外研修としてアパレルブランドへの実地調査、及び個別に取材を行う。場所は原則、神戸市内。入場料が発生する場合や往復の交通費は実費負担となる。 | | | | | | |
| 教科書 | 特になし。 | | | | | | |
| 参考書 | 授業時に紹介する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ファッションプレス演習 | | | | | | |
| 担当教員 | 西川 良子 | | | | | 科目ナンバ- | F23090 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 金曜2 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 「ファッションプレスのための基本的スキルの養成」 | | | | | | |
| 授業の概要 | ファッション企業は様々なメディアを通じてコミュニケーションを行っているがその中心的役割を果たしているのが「プレス」と呼ばれる職種の担当者である。プレス（PR）とは広報・宣伝担当としてブランドや商品のイメージアップや認知拡大を目指す業務であり、この演習ではプレスに必要な様々なコミュニケーション・スキルの中から、取材のためのノウハウから事務処理、基本的なエディトリアル・デザインなどのスキルを習得する。また、グラフィックソフトを利用し、PC上で基本的なレイアウト・デザインの技法を基に、各自がセンスを活かしてブランドイメージを伝えられることを目標とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・「プレス」の位置付け、業務内容について理解できる。【知識・理解】 ・ブランドイメージを伝えるメディア・デザインの必要性と特徴が理解できる。【知識・理解】 ・バランスのとれたページレイアウト、読みやすいタイポグラフィなどのエディトリアル・デザインのルールを踏まえたデザインができる。【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション — 「ファッションプレス」という仕事— 2. ファッションプレスの現場 3. ブランドプロモーションツールの種類（カタログ、DM、ショップカードなど）とデザイン 4. エディトリアル・デザインの基礎 — ページレイアウトとタイポグラフィ— 5. 雑誌スタイルの見開きページレイアウトパターン 6. ブランド取材に必要なスキル1：コンタクト方法、取材内容 7. ブランド取材に必要なスキル2：写真撮影、記録とフィードバック 8. ファッションイベントの取材 9. 取材内容の編集 10. エディトリアル・デザインとレイアウト 11. コレクション・レビューページのデザイン 12. 個人別テーマ設定とメディア企画 13. ブランドプロモーションツール制作 (1) 対象ブランド選択・情報収集 14. " (2) リーフレット構成プラン 15. " (3) レイアウト詳細デザイン <p style="text-align: right;">ゲストスピーカー来学：第2講</p> | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | <p>ファッション雑誌、カタログなどの媒体における魅力的なブランドイメージのデザインを収集し、特徴や傾向を分析する。1時間程度。</p> <p>SNSを通じたブランド発信情報を収集し、内容について分析する。1時間程度。</p> <p>新聞やTVなどにおけるファッション関連の報道を普段から注意深く観察する。1時間程度。</p> <p>上記報道内容のテキストを参考にして文章作成の練習をおこなう。1時間程度。</p> | | | | | | |
| 授業方法 | 演習・調査・実技 個人または少人数で企業を取材する。PCとグラフィックソフトを活用しエディトリアル・デザインの実例として、プロモーションツールやパンフレット制作を行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 平常点（段階的なスキル習得には毎回の課題提出が必要）30%、成果物70% | | | | | | |
| 履修上の注意 | 学外研修としてアパレルブランドへの実地調査、及び個別に取材を行う。場所は原則、神戸市内。入場料が発生する場合や往復の交通費は実費負担となる。 | | | | | | |
| 教科書 | 特になし。 | | | | | | |
| 参考書 | 授業時に紹介する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ファッションプロデュース論 | | | | | | |
| 担当教員 | 高田 敏代 | | | | | 科目ナンバ- | F23100 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 火曜3 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | ファッションブランドやショップブランドのプロデュースする（ブランディング）知識と具体的な手法を学ぶ | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>ファッション産業における商品企画から生産、販売までのひと通りの流れを把握し、アパレル、小売業界の最新の取り組みについての知識を深める。授業内の解説や実習を通してアパレルやショップブランドをトータルにプロデュースできる人材を育成する。</p> <p>この授業は、「汎用的技能」「態度思考」を習得する内容となります。</p> <p>授業内で①から⑥について、事例をあげて解説をする</p> <p>①ファッション産業の仕組みとその最新の動向及び企業の取り組み ②ブランディング（ブランド構築）ターゲットイメージを設定し商品ラインを構成する ③マーケティング（リサーチ調査分析）ライフスタイルやファッショントレンドを分析する ④マーチャライジング（商品企画）ブランドやショップコンセプトに合った商品構成する ⑤ビジュアルプレゼンテーション（商品販売）売り場作りと商品演出や陳列、管理業務をする ⑥プロモーション（広告宣伝）基本的な知識とSNSなどを活用した最新のプロモーション手法</p> <p>課題「ブランドプロデュース」 ターゲットを設定しコンセプトマップ及び企画書を作成する</p> <p>授業内の解説と課題の取り組みでファッションプロデュースの仕事についての理解を深め、ファッションプロデューサーに必要な知識とスキルを修得させる。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | ①ファッション産業の最新動向（企業の取り組み）を学び、新しい時代の流れを説明できる ②ファッション産業における商品企画から生産、販売にまでの流れと仕組みが説明できる ③アパレルやショップブランドをトータルにプロデュースする仕事について説明できる | | | | | | |
| 授業計画 | 1回 オリエンテーリング 授業の概要と進め方、評価の方法についての説明をする ファッションプロデュースとは・新しいブランドを立ち上げ統括する仕事 ファッションプロデューサーとディレクター、デザイナー、バイヤーなどの違いについて 2回 ファッション産業の仕組み 商品企画から生産、販売までの流れと仕組みについての解説 ファッション産業の最新動向の解説 小売市場（ショッピングセンター、百貨店、専門店） 3回 ファッション産業の最新動向の解説 アパレル動向（レディース、メンズ、キッズ関連など） 4回 ファッション産業の最新動向の解説 その他の動向（ファッショングッズ、インナーなど） 5回 ファッションプロデュース ブランドプロデュースの基礎知識についてテキストを使って解説 6回 ファッションプロデュース ブランドプロデュースの重要性についてテキストを使って解説 7回 ファッションプロデュース ブランディングの基礎知識についてテキストを使って解説 8回 ファッションプロデュース ブランド要素とブランド体験についてテキストを使って解説 9回 ファッションプロデュース マーケティングの基礎知識についてテキストを使って解説 10回 ファッションプロデュース ブランディングの手法についてテキストを使って解説 12回 ファッションプロデュース ビジュアルプレゼンテーション 売場作りとVMD（商品演出・陳列）の解説 11回 ファッションプロデュース プロモーション・PR（広告宣伝）基本的な知識とSNSの活用した手法の解説 13回 ファッションブランドプロデュース 課題①ブランディング ターゲット及びコンセプトを設定する 14回 ファッションブランドプロデュース 課題②ブランディング PCを使用し企画書やマップを作成する 15回 ファッションブランドプロデュース 各自企画書の発表と講評 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業内で紹介されたブランドを実際に店頭やHP（ホームページ）などでブランドのコンセプトや商品構成を確認する 4時間 | | | | | | |
| 授業方法 | オリジナルテキスト及びプロジェクター（画像）を使った解説 ファッションブランドの企画書やマップを作成し発表する実習 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 授業内の提出物20% 課題企画書60% 授業内でのグループワークへの取り組み態度と積極性20% | | | | | | |
| 履修上の注意 | ①5回を超える欠席すると受講資格を失う ②遅刻や早引きは欠席扱いとする ③指定する課題を必ず提出する ④グループワークに積極的に参加する ⑤必要でない私語やメールなどはしない | | | | | | |

| | |
|-----|---|
| 教科書 | ブランド・マネージャー資格試験公式テキスト第1版（一般財団法人 ブランドマネージャー認定協会著）中央経済社 発行年2019年9月10日 ISBN978-4-502-3168-4 その他教員オリジナルテキスト（プリント資料） |
| 参考書 | ①「ブランディング」（山口義広）株式会社翔泳社 ②「マーケティング」（逸見光治郎）株式会社翔泳社 ③「リサーチ」（石渡佑矢）株式会社翔泳社 ④「商品企画」（富永朋信）株式会社翔泳社 ⑤「PR思考」（伊澤佑美、根本陽平）株式会社翔泳社 ⑥「SNSマーケティング」（山口義広）株式会社翔泳社 ⑦ブランディングの基本（安原智樹）日本実業出版社 ⑧ブランド論（デービッドアーカー）ダイヤモンド社 ⑧織研新聞 その他、最新のファッション雑誌など |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ブライダル演習 | | | | | | |
| 担当教員 | 西川 良子 | | | | | 科目ナンバ- | F23080 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 火曜2 | 配当学年 | 3 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | ビジネスとしてのブライダルを題材に文化やプランナーの役割等について学び、現在のブライダル業界において必要とされる知見を深める。 | | | | | | |
| 授業の概要 | ブライダルをビジネスのひとつと捉え、文化、マーケティング、プランニング、プロモーション、ホスピタリティ等、ブライダルに関連する事柄を多角的に学ぶ。ウエディングドレス・婚礼衣装およびブライダルファッション全般や日本をはじめとする世界のブライダルの風習や歴史など文化面を理解する。演習を通じてブライダル業界の実態やトレンド、プランナーの役割、マーケティングなどの知識を修得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・「ブライダル産業」の位置付け、業務内容について理解できる。【知識・理解】 ・ブランドイメージを伝えるメディア・デザインの必要性と特徴が理解できる。【知識・理解】 ・ニューノーマルに向けた結婚式の提案ができる。【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ブライダルの歴史と風習 3. ブライダルファッションと婚礼衣装 4. ブライダルファッションと婚礼衣装の提案 5. プレゼンテーション 6. 結婚式の式次第について（神前式・キリスト教式・人前式など） 7. 婚礼料理について 8. 結婚披露宴について 9. ビジネスとしてのウエディング 10. ブライダルの現場【学外研修】 11. 結婚式プランニング（調査） 12. 結婚式プランニング（考案） 13. プレゼンテーション 14. プランナーに必要なスキル【ブライダルコーディネーター模擬テスト】 15. ブライダル業界の展望 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | <p>授業前準備学習：各回で行う授業内容を確認し、必要となる情報を収集しておく。（2時間）</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容を確認整理する。 模擬テストにむけて学んだことを復習する。（2時間）</p> | | | | | | |
| 授業方法 | <p>演習形式。</p> <p>講義で得た学びや情報をもとに課題に取り組む。取り組んだ課題についてプレゼンテーションを行う。</p> | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | <p>試験50%、授業態度（積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるか）20%、プレゼンテーション30%</p> <p>試験：授業で取り上げたブライダルについての理解度について評価する。</p> <p>また、到達目標に関する到達度の確認。</p> <p>授業態度：授業への参加度、課題制作への取り組みなどを総合的に評価。</p> <p>課題制作：指定された課題への評価。</p> <p>プレゼンテーション：制作した課題についてのプレゼンテーションを評価。</p> <p>なお、課題制作およびプレゼンテーションは授業で講評を行い各自にフィードバックする。</p> | | | | | | |
| 履修上の注意 | <p>演習授業であるため出席を重視する。授業回数の2/3以上の出席を必要とする。</p> <p>学外見学の際に入場料が発生する場合や往復の交通費は実費負担。</p> | | | | | | |
| 教科書 | <p>「ブライダルコーディネーターテキストスタンダード」公益社団法人 日本ブライダル振興協会</p> <p>※教科書についてはファッション・ハウジングデザイン学科準備室で購入手続きをすること</p> | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて授業内で紹介する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ボディファッション論 | | | | | | |
| 担当教員 | 徳山 孝子 | | | | | 科目ナンバ- | F12090 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 水曜3 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 身体装飾、身体変形の領域を社会現象とともに学び、現代ファッションの意味を考える。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 現代のファッションは、衣服やアクセサリーを含む服飾という範囲を超え、スポーツウエアや下着などはもちろん、より身体に密着した領域であるヘアスタイル、化粧などの美容、ピアス、タトゥーなどの身体装飾・身体変形の領域にまで拡張し、様々な社会現象として注目を集めている。身体そのものを基盤とするようなこうした現象をボディファッションと捉え、その歴史を多様な民俗的な習慣にまでさかのぼり、その精神的・文化的な背景とともに現代ファッションに及ぼす意味について考える。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1) 人間はなぜ衣服を着るのかについて説明できる【知識・理解】 2) 身体加工の意味を述べる【知識・理解】 3) 身体装飾の意味を説明することができる【知識・理解】 4) 衣服の社会性を列挙することができる【汎用的技能】 | | | | | | |
| 授業計画 | 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明） 2. 人間はなぜ衣服を着るのか？ 3. 「ファッションドリーム①」のビデオを見て、衣服の意味を考える。 4. 衣服の始まりと役割 5. 身体加工①なぜピアスをつけるのか、現象を考える。 6. 身体加工②「ファッションドリーム②」のビデオを見て、身体加工の現象を読み解く。 7. 身体加工③頭、体の部位の加工についてコルセットを例に説明する。 8. 身体加工④神戸ファッション美術館にて実物を見ながら解説する。土曜の補講日に実施。【学外研修】 9. 身体加工⑤「ブランド・フェラガモ」のビデオを見て、足の加工を纏足などの例に解説する。 10. 身体装飾①化粧をする意味を説明する。 11. 身体装飾②ボディペインティング、TATOOをする意味を説明する。 12. 身体装飾③身体を飾る現象を読み解く 13. 衣服の社会性①制服の意味を考える 14. 衣服の社会性②モード化する社会を流行から読み解く 15. ジャポニズムを例に洋服と着物の違いから体型を説明する 究極の身体美とは何かをまとめる | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前準備学習：授業内で説明する。＜2時間＞ 授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。＜2時間＞ | | | | | | |
| 授業方法 | ①各回設定のテーマでレジュメを配布する。レジュメに沿って講義するため、授業前準備学習と授業後学習に使用する。 ②資料はプリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。 ③テーマの導入を図る練習問題について、グループまたペアによるディスカッションを行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | レポート80%：身体加工および身体装飾の歴史的背景に沿って分析し、解説する。授業で学習した方法で研究しまとめる。到達目標（1）～（4）に関する到達度の確認。 課題20%：レジュメを評価する。レジュメは、授業内容の確認と授業後学習を評価する。到達目標（1）～（4）に関する到達度の確認。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | ①10回以上の出席がないと、受講資格を失う。 ②遅刻は、欠席扱いとする。 ③指定する課題は締切までに必ず提出する。 ④学外研修の交通費および入場料は自己負担とする。 | | | | | | |
| 教科書 | 教科書としては、特に用いないが、プリントなどを使用する。 | | | | | | |
| 参考書 | 授業内で紹介する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ユニバーサルファッション演習 | | | | | | |
| 担当教員 | 井上 裕之 | | | | | 科目ナンバ- | F74080 |
| 学期 | 前期/1st semester | 曜日・時限 | 水曜2 | 配当学年 | 4 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 多様な意味合いを持つユニバーサルファッションという言葉をもとに定義し、ユーザーに主眼を置いたデザイン、仕組みづくりの観点を養う。 | | | | | | |
| 授業の概要 | ユニバーサルファッションの基本的な考え方は、体型、年齢、性別、障害などの要素に関係なく、誰もがファッションを楽しめることである。それを実現するには、人の多様性を理解し、ユーザーに主眼を置いたファッションを考える必要がある。本科目では、講義、グループディスカッション、ワークショップ等の形式を用いて、自分のファッションに対する考え方を見つめ直し、ユニバーサルファッションの観点からデザイン、仕組みづくり等の提案を行うことを目指す。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1)ユニバーサルファッションを自分の言葉で定義し、説明することができる。【知識・理解】 (2)ユニバーサルファッションを理解し、専門用語を用いてディスカッションができる。【汎用的技能】 (3)ユーザーに主眼を置いたデザイン、仕組みづくり等の提案ができる。【態度・志向性】 | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：ユーザーフレンドリーなデザイン 2. ユニバーサルデザインとは 3. 身の周りのユニバーサルデザインを探してみる 4. ユニバーサルファッションとは 5. 私たちは何を美しいとしてきたか 6. 身の周りのユニバーサルファッションを探してみる 7. ファッションデザイナーの作品からユニバーサルファッションを考える 8. デザインワークショップ①：インクルーシブデザインとは 8. デザインワークショップ②：グループディスカッション 9. デザインワークショップ③：提案内容の整理 10. ダイバーシティとユニバーサルファッション 11. サステナブルとユニバーサルファッション 12. ファッション販売とユニバーサルファッション 13. 最終課題①：ターゲットの設定・リサーチ 14. 最終課題②：リサーチ内容の整理 15. 最終課題③：提案内容の資料作成 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前事前学習：授業内で伝えるキーワードをもとに、各回において必要となる情報を事前に収集・整理しておく。＜学習時間2時間＞ 授業後学習：授業内で説明、ディスカッションした内容の要点をまとめ、整理し、次の回に向けた事前学習に備える。＜学習時間2時間＞ | | | | | | |
| 授業方法 | 演習形式： 授業内では各回のテーマに基づき、教員、受講生でディスカッションをおこなう。 ワークショップ形式の授業では、グループでリサーチ、提案内容の資料作成をおこなう。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 最終課題(50%)、デザインワークショップ(50%)で評価する。 最終課題では、提案内容、その説明を総合的に評価する。到達目標(1)、(3)に関する到達度の確認。 デザインワークショップでは主となるグループディスカッションの内容を総合的に評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 授業内のディスカッションで出た疑問点等については、次の授業で回答することでフィードバックをおこなう。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | リサーチや課題作成にかかる費用は自己負担とする。 | | | | | | |
| 教科書 | 必要に応じて資料を配布 | | | | | | |
| 参考書 | なし | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ライフカラーコーディネート演習/イメージリテラシーⅣ(カラーコーディネート演習) | | | | | | |
| 担当教員 | 徳山 孝子 | | | | | 科目ナンバ- | F72030 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 水曜2 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 生活に使われている配色を色彩の知識から演習を通じて幅広く理解する。 | | | | | | |
| 授業の概要 | カラーデザイン論の応用演習科目として位置付ける。カラーを通じてウェブデザインを表現し、ウェブサイト制作のカラー配色法を学ぶ。カラーの応用力を養うために常識的な内容から順序を踏み、体系的に学ぶ。ファッション・コーディネート、インテリア・コーディネート、テーブル・コーディネートのそれぞれを色の表し方や色の調和、色の知覚的效果、色の感情効果、色の美的効果を中心に理解する。次に、色の基礎的知識を得た上で応用編としてウェブサイトの配色計画を、演習を通して習得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1) 配色が分類できる【知識・理解】 2) ファッションカラーコーディネートの配色がつかれる【汎用的技能】 3) 好きな色を活かしながら快適な空間を演出するインテリアやテーブルカラーコーディネートがつかれる【汎用的技能】 4) パソコンを使ってファッションカラーコーディネートができる【汎用的技能】 5) ファッションやインテリアについてのカラーコーディネートを議論できる【態度・志向性】 | | | | | | |
| 授業計画 | 1. オリエンテーション(課題テーマ、方針・進め方の説明)：色の本質を説明 2. 配色①：色相、トーンをもとにした配色を演習 3. 配色②：ナチュラルハーモニー・コンプレックスハーモニーの配色を演習 4. 配色③：ドミナント、トーンオントーン、トーンイントーンの配色を演習 5. 配色④：トータル、カマイユ、フォカマイユの配色を演習 6. 配色⑤：トリコロール、ピコロール、マルチカラーの配色を演習 7. 配色⑥：セパレーション、グラデーションの配色を演習 8. Work paperで復習しよう 9. テーブル・カラーコーディネート1：色とテーブルコーディネートの関係の配色を演習 10. テーブル・カラーコーディネート2：テーマに合わせたテーブルコーディネートに挑戦 11. インテリア1：個人や家族の空間と快適な色の関係の配色を演習 12. インテリア2：好きな色が主役の理想の部屋づくりに挑戦 13. 色の見やすさを重視したウェブサイトのコーディネート 14. パソコンを使ってファッション・カラーコーディネート 15. パソコンを使ってテーブル・コーディネートとインテリア・コーディネート | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 授業前準備学習：授業内で説明する。<2時間> 授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中内にてできなかった課題は完成させる。<2時間> | | | | | | |
| 授業方法 | 演習： ①毎回、配色を演習する。 ②教科書を中心に進める。 ③テーマの導入を図る練習問題について、グループまたペアによるディスカッションを行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 課題(練習問題も含む)100%：各回設定のテーマの課題を評価する。課題はその日に提出する。提出やり直しが遅れるごとに減点していく。到達目標(1)～(5)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法：採点して返却する。満点になるまでやり直し提出する。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | ①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②遅刻は欠席扱いとする。 ③指定する課題を締切までに必ず提出する。 ④毎時間、配色カード、のり、はさみを持参する。 ⑤教科書は、必ず購入する。 | | | | | | |
| 教科書 | 財団法人日本色彩研究所監修『fashion color co-ordinate work paper 配色実習台紙』(日本色研事業株式会社) 財団法人日本色彩研究所監修『カラーコーディネートの基本』(日本色研事業株式会社) 財団法人日本色彩研究所監修『新配色カード199b』(日本色研事業株式会社) 尚、『新配色カード199b』を1年で購入した学生は、購入しなくてよい。 | | | | | | |
| 参考書 | 授業内にて紹介する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ライフカラーコーディネート演習/イメージリテラシーⅣ(カラーコーディネート演習) | | | | | | |
| 担当教員 | 徳山 孝子 | | | | | 科目ナンバ- | F72030 |
| 学期 | 後期/2nd semester | 曜日・時限 | 水曜4 | 配当学年 | 2 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 生活に使われている配色を色彩の知識から演習を通じて幅広く理解する。 | | | | | | |
| 授業の概要 | カラーデザイン論の応用演習科目として位置付ける。カラーを通じてウェブデザインを表現し、ウェブサイト制作のカラー配色法を学ぶ。カラーの応用力を養うために常識的な内容から順序を踏み、体系的に学ぶ。ファッションコーディネート、インテリアコーディネート、テーブルコーディネートのそれぞれを色の表し方や色の調和、色の知覚の効果、色の感情効果、色の美的効果を中心に理解する。次に、色の基礎的知識を得た上で応用編としてウェブサイトの配色計画を、演習を通して習得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1) 配色が分類できる【知識・理解】 2) ファッションカラーコーディネートの配色がつかれる【汎用的技能】 3) 好きな色を活かしながら快適な空間を演出するインテリアやテーブルカラーコーディネートがつかれる【汎用的技能】 4) パソコンを使ってファッションカラーコーディネートができる【汎用的技能】 5) ファッションやインテリアについてのカラーコーディネートを議論できる【態度・志向性】 | | | | | | |
| 授業計画 | 1. オリエンテーション(課題テーマ、方針・進め方の説明)：色の本質を説明 2. 配色①：色相、トーンをもとにした配色を演習 3. 配色②：ナチュラルハーモニー・コンプレックスハーモニーの配色を演習 4. 配色③：ドミナント、トーンオントーン、トーンイントーンの配色を演習 5. 配色④：トータル、カマイユ、フォカマイユの配色を演習 6. 配色⑤：トリコロール、ビコロール、マルチカラーの配色を演習 7. 配色⑥：セパレーション、グラデーションの配色を演習 8. Work paperで復習しよう 9. テーブル・カラーコーディネート1：色とテーブルコーディネートの関係の配色を演習 10. テーブル・カラーコーディネート2：テーマに合わせたテーブルコーディネートに挑戦 11. インテリア1：個人や家族の空間と快適な色の関係の配色を演習 12. インテリア2：好きな色が主役の理想の部屋づくりに挑戦 13. 色の見やすさを重視したウェブサイトのコーディネート 14. パソコンを使ってファッション・カラーコーディネート 15. パソコンを使ってテーブル・コーディネートとインテリア・コーディネート | | | | | | |
| 授業外における学習(準備学習の内容・時間) | 授業前準備学習：授業内で説明する。<2時間> 授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。<2時間> | | | | | | |
| 授業方法 | 演習： ①毎回、配色を演習する。 ②教科書を中心に進める。 ③テーマの導入を図る練習問題について、グループまたペアによるディスカッションを行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 課題(練習問題も含む)100%：各回設定のテーマの課題を評価する。課題はその日に提出する。提出やり直しが遅れるごとに減点していく。到達目標(1)～(5)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法：採点して返却する。満点になるまでやり直し提出する。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | ①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②遅刻は欠席扱いとする。 ③指定する課題を締切までに必ず提出する。 ④毎時間、配色カード、のり、はさみを持参する。 ⑤教科書は、必ず購入する。 | | | | | | |
| 教科書 | 財団法人日本色彩研究所監修『fashion color co-ordinate work paper 配色実習台紙』(日本色研事業株式会社) 財団法人日本色彩研究所監修『カラーコーディネートの基本』(日本色研事業株式会社) 財団法人日本色彩研究所監修『新配色カード199b』(日本色研事業株式会社) 尚、『新配色カード199b』を1年で購入した学生は、購入しなくてよい。 | | | | | | |
| 参考書 | 授業内にて紹介する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------|-----|------|---|--------|--------|
| 科目区分 | ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目 | | | | | | |
| 科目名 | ライフスタイル入門／ライフスタイル論 | | | | | | |
| 担当教員 | 徳山 孝子 | | | | | 科目ナンバ- | F01030 |
| 学期 | 後期／2nd semester | 曜日・時限 | 木曜3 | 配当学年 | 1 | 単位数 | 2.0 |
| 授業のテーマ | 生活文化を軸としてライフスタイルを考える。 | | | | | | |
| 授業の概要 | ファッションおよびハウジングデザインは個人や家族の生活様式、ライフスタイルと密接な関係にある。戦後、経済発展するとともにライフスタイルの多様化・個性化、モノからこころへの価値観の変化などが見られる。そこで、自分のライフスタイルを分析し、ファミリーライフサイクルを理解する。社会背景から少子化・高齢化時代のライフスタイル、健康福祉とライフスタイルの観点からライフスタイルについて考える。最後にライフスタイルに合わせたファッションコーディネート提案する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1) 私のライフスタイルが説明できる【知識・理解】 2) 図表を読み取り、ファミリーライフサイクルに使用できる【汎用的技能】 3) ライフスタイルのファッション計画が作れる【汎用的技能】 4) ライフスタイルに合わせたコーディネートができ、ファッション企画が表現できる【態度・志向】 | | | | | | |
| 授業計画 | 1. オリエンテーション 課題テーマ、方針・進め方の説明、ライフスタイルとは何か？ 2. ライフスタイル①：TPOと購買行動 3. ライフスタイル②：パーソナルカラー 4. ライフスタイル③：ワードローブチェック 5. 家族周期と私のライフスタイル 6. 家庭生活と家族Ⅰ ー家庭と家族のあり方の変化ー 7. 家庭生活と家族Ⅱ ー女性のライフスタイルの変化ー 8. 世代によって異なるライフデザイン（生活設計）とその考え方 9. 生活時間の管理・労働・余暇 10. 世代別ライフスタイル分析 11. 雑誌から読み取るライフスタイル 12. 神戸ファッション美術館の展示からライフスタイルを読み取る（神戸ファッション美術館）土曜の補講日に振替 13. ライフスタイルとファッション計画 14. ライフスタイルとファッションイメージ 15. ライフスタイルに合わせたコーディネート、最後に試験 | | | | | | |
| 授業外における学習（準備学習の内容・時間） | 授業前準備学習：授業内で説明する。＜2時間＞ 授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中内にならなかった課題は完成させる。＜2時間＞ | | | | | | |
| 授業方法 | 講義・演習： ①資料はプリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。 ②各回授業の内容に沿った課題をする。 ③テーマの導入を図る練習問題について、グループまたペアによるディスカッションを行う。 | | | | | | |
| 評価基準と評価方法 | 試験50%：ライフスタイルの理解度を評価する。到達目標（1）～（4）に関する到達度の確認。 提出物50%：各回設定のテーマの課題を評価する。到達目標（1）～（4）に関する到達度の確認。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | ①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②遅刻は、欠席扱いとなる。 ③指定する課題は締切までに必ず提出する。 ④神戸ファッション美術館までの交通費は自己負担。 | | | | | | |
| 教科書 | 財団法人日本色彩研究所監修『新配色カード199b』（日本色研事業株式会社） 尚、『新配色カード199b』を購入した学生は、購入しなくてよい。 プリントを配布する。 | | | | | | |
| 参考書 | 授業中に紹介する。 | | | | | | |